



徳島大学
Tokushima University



第28回学生生活実態調査報告書

キャンパスライフ



ま え が き

キャンパスライフ「第28回学生生活実態調査報告書」を皆様にご報告申し上げます。この調査は、本学学部生の生活の実態や要望を把握し、今後の修学支援並びに福利厚生施設等の改善に資する基礎資料を得る目的で、平成29年11月に、全学部の学生全員にアンケートを実施しました。本報告書には、①基本事項、②住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤食事、⑥学生生活上の問題点、⑦修学状況、⑧課外活動、⑨進路・就職などについて、全部で80問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。

本学は、「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけた人材の育成に努める」を教育理念・目標としており、この目標に向かって学生、教職員共に協働しながら努力しているところです。しかし残念ながら、入学後に将来の夢を持たず、目的意識・学習意欲を失い、留年や退学、また精神的に不安定に陥る学生が増加しているのも事実です。

社会から求められる人材が高度化・多様化する中、教育の目的が豊かで健全な未来社会の実現に貢献できる人づくりであることを考えると、高度で多様な人材の育成のためには、日頃の授業は勿論のこと、学生目線を重視したきめ細かい正課及び正課外の教育支援や学生生活支援が不可欠であり、一人一人の学生に合った適切な指導を行い、学生と共に考えることがわれわれ教職員の責務であります。本報告書が、学生の立場に立った教育改革に活用されることを強く望みます。

最後になりましたが、徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の先生方、協力いただいた先生方および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきましたことに対し、上岡義典支援室長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学部生の皆さんにもこの場を借りて感謝致します。

平成30年3月

徳島大学理事・副学長(教育担当)
総合教育センター長

高 石 喜 久

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「平成29年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	7
第1章 住居・通学について	15
1-1 住居区分	15
1-2 1か月の家賃	15
1-3 住居満足度	16
1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者	17
1-5 通学方法	18
1-6 通学時間	18
1-7 通学中の交通事故	19
第2章 収入・支出について	21
2-1 家庭の年収	21
2-2 授業料の免除について（年収が500万円未満の家庭）	21
2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】	22
2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】	23
2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】	24
2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】	24
2-7 経済状況	25
2-8 奨学金	26
2-9 1週間のアルバイト従事日数	26
2-10 1週間のアルバイト従事時間数	27
2-11 アルバイトと勉強	27
2-12 アルバイトの目的	28
2-13 アルバイトの種類	28
2-14 アルバイト収入	29
2-15 アルバイトの紹介者	30
2-16 アルバイトのトラブル内容	30
第3章 健康状態について	32
3-1 睡眠時間	32
3-2 気になる症状	33
3-3 喫煙について	34
3-4 飲酒について	35
第4章 食事について	38
4-1 朝食	38
4-2 昼食	39
4-3 夕食	39

4-4	昼食の利用場所	40
4-5	弁当を食べる場所	40
4-6	学生食堂について感じる事	41
第5章	学生生活上の問題点	43
5-1	大学生活の意義	43
5-2	悩みと相談	44
5-3	迷惑行為	47
5-4	教職員・友人との交流	53
5-5	大学事務室の対応への満足度	56
5-6	盗難等犯罪被害	57
第6章	修学状況について	60
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	60
6-2	単位取得状況と授業出席状況	61
6-3	授業の満足度	62
6-4	授業予習復習時間とカンニング経験	63
6-5	オフィスアワーの利用状況	65
6-6	図書館の利用状況	66
第7章	課外活動について	68
7-1	サークル加入状況	68
7-2	活動状況	69
7-3	加入の動機	70
7-4	サークルに加入していない理由	71
7-5	学生行事	73
7-6	大学祭への参加状況	75
7-7	ボランティア活動	76
	まとめと今後の課題	77
第8章	進路・就職について	79
8-1	進路情報入手手段	79
8-2	就職・進学相談相手	79
8-3	就職・進学希望について	80
8-4	就職先選択で重視するもの	81
8-5	就職情報の入手方法	81
8-6	希望する職種	82
8-7	就職セミナーへの参加	83
8-8	キャリア支援室の利用状況	83
第9章	学部の現状と課題	85
9-1	総合科学部	85
9-2	医学部	87
9-3	歯学部	88
9-4	薬学部	92
9-5	工学部	94
9-6	理工学部	95
9-7	生物資源産業学部	97
第10章	総括と提言	99
	あとがき	102

序章 学生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員及び協力者が中心となり、調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	上岡 義典	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	鶴尾 吉宏	大学院医歯薬学研究部（医学）	教授
委員	松山 美和	大学院医歯薬学研究部（歯学）	教授
委員	滝口 祥令	大学院医歯薬学研究部（薬学）	教授
委員	杉山 茂	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	辻 明彦	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	井崎 ゆみ子	保健管理・総合相談センター 保健管理部門	准教授
委員	金 成海	国際センター	教授
委員	住谷 さつき	特別修学支援室	教授
協力者	山本 真由美	保健管理・総合相談センター 総合相談部門	教授
協力者	赤坂 和哉	保健管理・総合相談センター 総合相談部門	講師
協力者	井ノ崎 敦子	保健管理・総合相談センター 総合相談部門	講師
協力者	大淵 朗	総合教育センター キャリア支援部門	教授

3 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,902 人（平成 29 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務(教務)係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配付し、回答用紙(マークシート)を回収した。

4 調査の時期

この調査は、平成 29 年 11 月 1 日から 11 月 10 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を 11 月 13 日までとした。

5 調査の内容

調査項目については、調査の継続性を考慮しながら必要な見直しを行い、進路・就職については、信頼できる相談相手に関する設問を新たに追加する等の変更を加え、80 項目とした。

6 略語等の表示等

本報告書中、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端数処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数としてそれに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

総合科学部改組前 → 総合科学部（旧）
 総合科学部改組後 → 総合科学部（新）
 工学部昼間コース → 工学部昼間
 工学部夜間主コース → 工学部夜間
 理工学部昼間コース → 理工学部昼間
 理工学部夜間主コース → 理工学部夜間

平成 25 年度学生生活実態調査（学部学生） → 前々回調査
 平成 27 年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

7 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者5,902人のうち回答数は3,779人で、回収率は64%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

平成 29 年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学 部	学 科	対象者数	回 収 数	回収率(%)
総 合 科 学 部	人 間 文 化 学 科	231	88	38.1
	社 会 創 生 学 科	213	77	36.2
	総 合 理 数 学 科	142	97	68.3
	社 会 総 合 科 学 科	355	230	64.8
	計	941	492	52.3
医 学 部	医 学 科	689	329	47.8
	栄養学科・医科栄養学科	198	156	78.8
	保 健 学 科	521	310	59.5
	計	1,408	795	56.5
歯 学 部	歯 学 科	253	196	77.5
	口 腔 保 健 学 科	59	59	100.0
	計	312	255	81.7
薬 学 部	薬 学 部 共 通 学 科	180	162	90.0
	薬 学 科	167	157	94.0
	創 製 薬 科 学 科	75	70	93.3
	計	422	389	92.2

工 学 部	建 設 工 学 科	207	137	66.2
	機 械 工 学 科	293	219	74.7
	化 学 応 用 工 学 科	173	139	80.3
	生 物 工 学 科	134	110	82.1
	電 気 電 子 工 学 科	269	180	66.9
	知 能 情 報 工 学 科	214	163	76.2
	光 応 用 工 学 科	120	40	33.3
	計	1,410	988	70.1
理 工 学 部	理 工 学 科	1,208	769	63.7
生物資源産業学部	生 物 資 源 産 業 学 科	201	91	45.3
合計		5,902	3,779	64.0

<学年別>

学 年	対象者数	回収数	回収率(%)
1 年	1,380	850	61.6
2 年	1,391	923	66.4
3 年	1,395	893	64.0
4 年	1,338	875	65.4
5 年	200	127	63.5
6 年	198	111	56.1
計	5,902	3,779	64.0

<男女別>

学 部	回 収 率(%)		
	男	女	計
総 合 科 学 部	53.6	51.3	52.3
医 学 部	49.2	62.1	56.5
歯 学 部	71.6	89.3	81.7
薬 学 部	89.0	95.3	92.2
工 学 部	67.8	84.8	70.1
理 工 学 部	63.3	66.4	63.7
生物資源産業学部	33.3	55.6	45.3
計	62.4	66.9	64.0

平成29年度 学生生活実態調査(学部学生対象)

平成29年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成29年11月1日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月1日～11月10日]

回答用紙（マークカード）の提出期限は、11月13日(月)です。

所属学部の学務（教務）係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成29年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、問30については気になる具体的な症状を、問42、問44、問45についてはその具体的内容を、また学生生活全般について気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。
- 5 *は、前回からの継続調査項目です。

学生生活実態調査票

A. 基本事項について

1 * 【全員】 性別はどれですか。	1. 男 2. 女
2 * 【全員】 所属学部はどこですか。	1. 総合科学部 2. 医学部 3. 歯学部 4. 薬学部 5. 工学部（昼間コース） 6. 工学部（夜間主コース） 7. 理工学部（昼間コース） 8. 理工学部（夜間主コース） 9. 生物資源産業学部
3 * 【全員】 学科・コースはどこですか。	総合科学部 〔 1. 人間文化学科 2. 社会創生学科 3. 総合理数学科 4. 社会総合科学科(1年生) 5. 社会総合科学科国際教養コース 6. 社会総合科学科心身健康コース 7. 社会総合科学科公共政策コース 8. 社会総合科学科地域創生コース 〕 医学部 〔 1. 医学科 2. 栄養学科 3. 医科栄養学科 4. 保健学科 〕 歯学部 〔 1. 歯学科 2. 口腔保健学科 〕 薬学部 〔 1. 薬学科 2. 創製薬科学科 〕 (薬学部1～2年生については、〔 1. 薬学科 2. 創製薬科学科 〕の選択は不要) 工学部 〔 1. 建設工学科 2. 機械工学科 3. 化学応用工学科 〕 4. 生物工学科 5. 電気電子工学科 6. 知能情報工学科 7. 光応用工学科 〕 理工学部 〔 1. 社会基盤デザインコース 2. 機械科学コース 3. 応用化学システムコース 4. 電気電子システムコース 5. 情報光システムコース 6. 応用理数コース 〕 生物資源産業学部 〔 1. 生物資源産業学科（1年生） 2. 生物資源産業学科応用生命コース 3. 生物資源産業学科食料科学コース 4. 生物資源産業学科生物生産システムコース 〕
4 * 【全員】 何年生ですか。	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

B. 住居, 通学について

5 * 【全員】 あなたの住居区分はどれですか。	1. 自宅（家族と同居） 2. アパート・マンション（家族と別居） 3. 学生寮 4. 間借り（下宿） 5. 親戚・知人宅 6. 国際交流会館・日亜会館 7. その他
6 * 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。	1. 3万円未満 2. 3万円～4万円未満 3. 4万円～5万円未満 4. 5万円～6万円未満 5. 6万円～7万円未満 6. 7万円～8万円未満 7. 8万円以上
7 * 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 現在の住居に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
8 * 【問7で「4」、「5」を選んだ方】 その理由はどれですか。 〈複数回答可〉	1. 狭い 2. 家賃が高い 3. 通学に不便 4. 日常生活に不便 5. 周りの環境が良くない 6. その他

9 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】住居（部屋）の紹介・斡旋者は誰ですか。	1. 徳大生協 3. 友人・先輩 5. 新聞・雑誌	2. 徳大教員 4. 不動産業者 6. その他
10 *	【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。	1. 徒歩 3. バイク（原付自転車・自動二輪） 5. バス・JR	2. 自転車 4. 自動車
11 *	【全員】通学時間はどのくらいですか。	1. 15分未満 3. 30分～1時間未満	2. 15分～30分未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間以上
12 *	【全員】通学中に交通事故をおこしたと、または交通事故の被害にあったことがありますか。	1. ある 2. ない	

C. 収入・支出について

13 *	【全員】あなたの家庭の年収（税込み）はどれくらいですか。	1. 250万円未満 3. 500～750万円未満 5. 1,000～1,500万円未満	2. 250～500万円未満 4. 750～1,000万円未満 6. 1,500万円以上
14 *	【問13で「1」又は「2」を選んだ方（年収500万円未満の家庭）】授業料免除についてお尋ねします。（直近のものでお答えください）	1. 授業料免除は知っているが申請していない 2. 全額免除を受けている 3. 半額免除を受けている 4. 申請したが不許可だった 5. 授業料免除制度を知らなかった	
15 *	【自宅外通学者】あなたの1か月の平均収入額（保護者等からの援助を含む）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
16 *	【自宅外通学者】保護者等からの援助はいくらありますか。	1. 全くない 3. 3～5万円未満 5. 7～10万円未満 7. 15～20万円未満	2. 3万円未満 4. 5～7万円未満 6. 10～15万円未満 8. 20万円以上
17 *	【自宅外通学者】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
18 *	【自宅外通学者】1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1. 2万円未満 3. 3～4万円未満 5. 5～7万円未満	2. 2～3万円未満 4. 4～5万円未満 6. 7万円以上
19 *	【全員】現在の経済状況について	1. ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ） 2. 普通（あまり不自由を感じない） 3. やや苦しい（奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる） 4. 大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）	
20 *	【全員】奨学金を受けていますか。	1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する 2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する 3. 現在受給中であるが、次は希望しない 4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する 5. 現在受給していないし、希望もしない	
21 *	【全員】現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1. いいえ 3. 2日 5. 4日	2. 1日 4. 3日 6. 5日以上

22	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * 1週間の従事時間は合計何時間ですか。(移動に要する時間も含む)	1. 5時間未満 3. 10～15時間未満 5. 20～25時間未満	2. 5～10時間未満 4. 15～20時間未満 6. 25時間以上
23	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1. 支障が生じている 2. 支障は生じていない	
24	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトは主にどのような目的でしていますか。 (複数回答可)	1. 生活費や学費のため 3. 日常の娯楽・嗜好品等のため 4. 高額商品(自動車・パソコン等)購入のため 5. 課外活動費のため	2. レジャー・旅行費のため 6. 社会体験のため 7. その他
25	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * どのようなアルバイトをしていますか。 (複数回答可)	1. 家庭教師・学習塾講師等 3. 受付・接客 5. 商品販売 7. 飲食店等手伝い 9. 引越しスタッフ	2. 会場設営・撤収, 搬入搬出 4. イベントスタッフ補助 6. 商品等整理・包装 8. 駐車場整理員 10. その他
26	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * あなたのアルバイトによる収入(1か月平均)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15万円以上
27	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * そのアルバイトはどこで(誰に)紹介してもらいましたか。 (複数回答可)	1. 徳大生協 3. アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ 5. 家族 7. その他	2. 友人・先輩 4. 教員 6. 自分で開拓
28	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 * アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。 (複数回答可)	1. ない 3. 給料が契約より低かった 5. 解雇 7. 事故・ケガ	2. 給料の不払い 4. 客とのトラブル 6. 雇用者との意見の不一致 8. その他

D. 健康状態について

29	【全員】 * 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。(休日を除く)	1. 4時間未満 3. 6～8時間未満 5. 10時間以上	2. 4～6時間未満 4. 8～10時間未満
30	【全員】 * 現在気になる症状は何ですか。 (複数回答可)	1. 特にな 3. アトピー・アレルギー 5. 動悸・不整脈 7. 咳・痰 9. その他(マークカードの裏面の自由記入欄に具体的な症状を書いてください)	2. 頭痛・めまい 4. 不眠 6. 下痢・便秘 8. 生理痛・生理不順
31	【全員】 * 喫煙について	1. 喫煙したことはない 3. 毎日喫煙している 5. その他	2. ときどき喫煙している 4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない
32	【全員】 * 飲酒について	1. 飲酒はしない 3. 1週間に1～2日飲酒している 5. 1週間に5日以上飲酒している	2. たまに飲酒する 4. 1週間に3～4日飲酒している
33	【問32で「4」～「5」を選んだ方】 * 1回に飲む量はどのくらいですか。 (日本酒ならコップ1杯(180ml), ビールなら中瓶1本(500ml)を1合としてお答えください)	1. 1合未満 2. 1合以上2合未満 3. 2合以上3合未満 4. 3合以上4合未満 5. 4合以上5合未満 6. 5合以上	

E. 食事について

34	【全員】 * 朝食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
35	【全員】 * 昼食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
36	【全員】 * 夕食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
37	【全員】 * 昼食は主にどこを利用していますか。	1. 常三島第1食堂（生協） 3. 蔵本会館食堂 5. 自宅（下宿）	2. 常三島第2食堂（工学部構内） 4. 弁当を購入 6. その他
38	【問37で「4」を選んだ方】 * どこで食べていますか。	1. 教室 3. 自宅（下宿）	2. 屋外 4. その他
39	【全員】 * 学生食堂について感じていることはどれですか。 <複数回答可>	1. メニューが少ない 3. 値段が高い 5. 場所が不便 7. その他	2. 昼食時の混雑がひどい 4. 開店時間が短い 6. 特にない

F. 学生生活上の問題点

40	【全員】 * あなたは、大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	1. 勉強や研究 3. 趣味・娯楽 5. 将来を考えた資格等の取得 7. 特に重点もなく程々に 9. その他	2. サークル活動 4. 豊かな人間関係を結ぶこと 6. アルバイト 8. ただ何となく
41	【全員】 * 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 <複数回答可>	1. ない 4. 交友・異性関係 7. 自分の性格 10. その他	2. 経済状態 5. 身体的不調 8. 就職や進路 9. 生き甲斐や目標 6. 家族関係
42	【全員】 * 悩み事は誰に相談しますか。 <複数回答可>	1. 友人 3. クラス担任・指導教員 5. 総合相談部門（学生相談室） 7. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的に書いてください） 8. 誰にもしない	2. 家族 4. 担任・指導教員以外の教員 6. 学務（教務）係
43	【全員】 * あなたは、クーリング・オフの制度について知っていますか。	1. はい 2. いいえ ※クーリング・オフとは 普通、一度成立した契約は一方的に解消できないが、分割払いの割賦販売、セールスマンによる訪問販売などで勧誘にのせられ、つい不要なものの購入契約をした消費者が、一定の期間（通常8日間）内なら違約金無しに契約の解除（契約申し込みの解除）ができるという制度。	
44	【全員】 * あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 <複数回答可>	1. 受けたことはない 3. いたずら電話を受けた 5. 大学内でセクハラを受けた 7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった 8. サークル内でいじめ（嫌がらせを含む）を受けた 9. カルトの勧誘を受けた 10. その他 (※「2」～「10」を選んだ方：マークカードの裏面の自由記入欄に具体的内容を書いてください) ※アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは 大学などで、指導教員等が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。	2. 悪徳商法に引っかかった 4. ストーカーにあった 6. 大学内でアカハラを受けた
45	【問44で「5」又は「6」を選んだ方】 * 誰に相談しましたか。	1. 友人 3. クラス担任・指導教員 5. 総合相談部門（学生相談室） 7. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的に書いてください） 8. 誰にもしない	2. 家族 4. 担任・指導教員以外の教員 6. 学務（教務）係

46	【全員】 * 総合相談部門（学生相談室）を利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. 総合相談部門（学生相談室）があるのは知っているが、利用したことはない 3. 総合相談部門（学生相談室）があるのを知らない
47	【全員】 * あなたは、今年度中に教員と話や質問をしたことがありますか。	1. 全くない 2. 1回はある 3. 2～3回程度したことがある 4. 4～6回程度したことがある 5. 7回以上したことがある
48	【全員】 * あなたには、親しい教職員や親しい友人はいますか。 〈複数回答可〉	1. クラス担任や指導教員と親しい 2. クラス担任や指導教員以外に親しい教員がいる 3. 親しい職員がいる 4. 親しい友人がいる 5. 親しい教職員も親しい友人もない
49	【全員】 * 大学事務室の対応に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
50	【全員】 * あなたは、入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。 〈複数回答可〉	1. 被害に遭ったことはない 2. 盗難（盗み） 3. 強盗 4. 傷害 5. 痴漢 6. その他
51	【問50で「2」～「6」を選んだ方】 * あなたは、どこで被害に遭いましたか。 〈複数回答可〉	1. 大学構内 2. 自宅、アパート 3. 路上 4. その他

G. 修学状況について

52	【全員】 * あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 地元の大学だから 2. 親や親戚に進められたから 3. 高校の進学指導による 4. 希望する学部・学科があったから 5. 就職等将来を考慮して 6. 国立大学だから 7. ただ何となく 8. 先輩や友人に勧められて 9. その他
53	【全員】 * あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
54	【全員】 * これまでの単位の取得状況はどうですか。	1. 全部取得できた 2. ほとんど取得できた 3. 半分程度取得できた 4. あまり取得できなかった 5. 全く取得できなかった
55	【全員】 * 授業によく出席していますか。	1. 全部出席している 2. ほとんど出席している 3. 出たり出なかつたりしている 4. ほとんど出席していない 5. 全く出席していない
56	【問55で「3」～「5」を選んだ方】 * 授業を欠席する理由はどれに当たりますか。 〈複数回答可〉	1. 勉学の意欲がわからない 2. 授業に魅力がない 3. 授業が理解できない 4. その他
57	【問56で「3」を選んだ方】 * あなたは、授業内容が理解できなかった場合、どのようにしていますか。 〈複数回答可〉	1. 教室で質問する 2. 教員に後で個人的に質問する 3. 先輩・友人と議論・相談する 4. 参考書等で調べる 5. 気になるけど何もしない 6. 気にしない 7. その他
58	【全員】 * あなたは、受講している授業に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である

59 *	【問58で「3」～「5」を選んだ方】 授業が満足できない理由は何ですか。 (複数回答可)	1. 授業内容が難し過ぎて理解できない 2. 授業内容がつまらない 3. 教員の教え方に工夫が足りない 4. 受講者が多すぎて精神集中できない 5. 休講が多すぎる 6. 試験・レポートが多すぎる 7. 単位認定が厳しすぎる 8. その他
60 *	【全員】 あなたは、1日平均何時間ぐらい授業の予習・復習をしていますか。ただし、試験期間中は除いてください。	1. 1時間未満 2. 1時間以上～2時間未満 3. 2時間以上～3時間未満 4. 3時間以上～4時間未満 5. 4時間以上～5時間未満 6. 5時間以上
61 *	【全員】 あなたは、カンニングをしたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
62 *	【全員】 オフィスアワーを利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない 3. オフィスアワーがない 4. オフィスアワーについて知らない
63 *	【問62で「2」を選んだ方】 オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4. 教員に相談するのが面倒である 5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない 6. その他
64 *	【全員】 図書館を利用していますか。	1. 毎日 2. 週2, 3回程度 3. 週1回程度 4. 月2, 3回程度 5. 月1回程度 6. 利用しない 7. その他
65 *	【問64で「6」以外を選択した方】 図書館を利用する主な目的は何ですか。 (複数回答可)	1. 図書等の貸し出し 2. 図書等の閲覧やコピー 3. 自習 4. グループ研究(学習) 5. パソコンの利用 6. 気分転換 7. 授業等の間の時間調整 8. その他

H. 課外活動について

66 *	【全員】 学内外のサークル(以下同好会を含む)に加入していますか。(文化系、体育系及びサポート系サークルで、2つ以上に加入している人は、主として活動している方に回答してください)	1. 学内の文化系サークルに加入している 2. 学内の体育系サークルに加入している 3. 学内のサポート系サークルに加入している 4. 学外の文化系サークルに加入している 5. 学外の体育系サークルに加入している 6. 学外のサポート系サークルに加入している 7. 以前加入していたが現在は加入していない 8. 加入したことがない
67 *	【問66で「1」～「6」を選んだ方】 サークルでの活動状況はどうですか。	1. かなり熱心に活動している 2. まあまあ熱心に活動している 3. どちらともいえない 4. あまり活動していない 5. ほとんど活動していない 6. その他
68 *	【問66で「1」～「6」を選んだ方】 サークルに加入した主な動機は何ですか。	1. サークルの活動内容に魅力があったから 2. 集団活動に魅力があったから 3. 友人を得るため 4. 先輩・友人に勧められたから 5. 学生生活を豊かにするため 6. 健康増進のため 7. 自分の特技を伸ばすため 8. 自分の短所を補うため 9. その他
69 *	【問66で「7」,「8」を選んだ方】 サークルに加入していない主な理由は何ですか。	1. 学業の妨げとなる 2. 練習がいやである 3. 活動するための体力・能力に自信がない 4. 個人の自由が束縛される恐れがある 5. 集団生活についていけない 6. アルバイトをしているので時間的余裕がない 7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない 8. 個人の金銭的負担が多すぎる 9. 魅力的なサークルがない 10. 特に理由はないが何となく

70	【全員】 * 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。	1. 必要だと考えており積極的に参加している 2. 必要だと思うがあまり参加していない 3. どちらでもいい 4. なくてもいい
71	【全員】 * あなたは今年の大学祭に参加しましたか（参加しますか）。	1. はい 2. いいえ
72	【全員】 * あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	1. 個人でしたことがある 2. 団体（組織）に入っていたことがある 3. ない

1. 進路・就職について

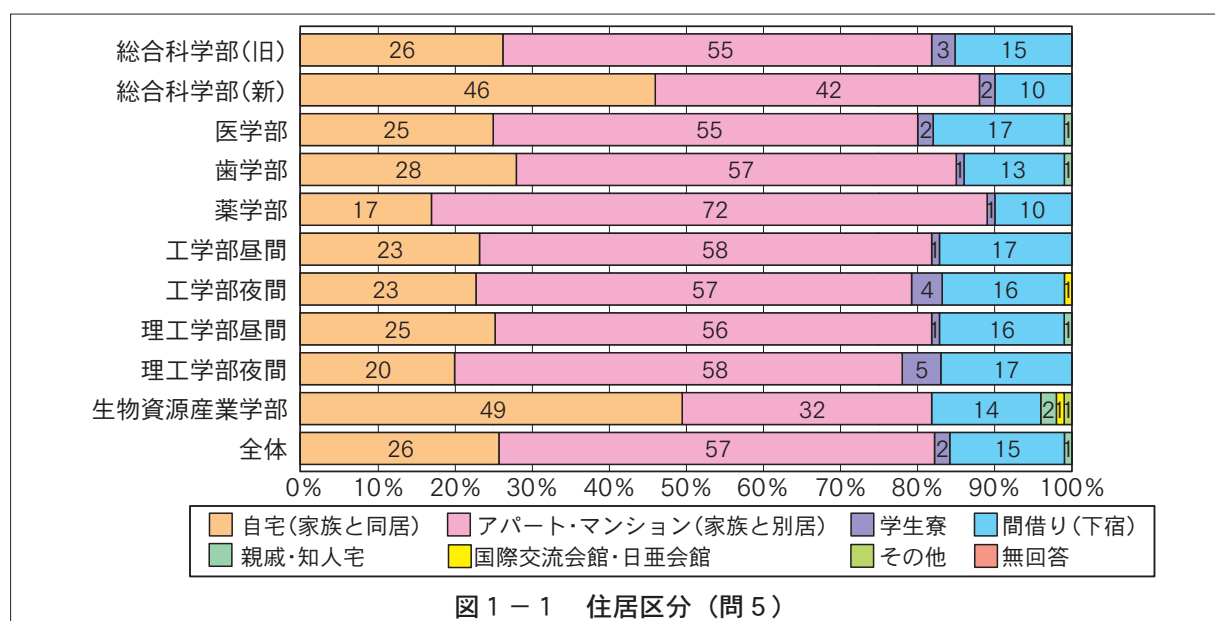
73	【全員】 * 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 指導教員 3. 先輩・知人 5. 就職情報誌・新聞・マスコミ 7. 大学内資料 9. キャリア支援室の情報	2. 就職担当教員 4. 直接会社に照会 6. 家族等 8. インターネット 10. その他
74	【全員】 進路、就職について信頼できる相談相手は誰ですか。 〈複数回答可〉	1. 家族等 3. 職員 5. その他	2. 教員 4. 知人・先輩 6. 相談相手はいない
75	【全員】 * 就職希望ですか。進学希望ですか。	1. 就職 2. 進学 3. その他	
76	【問75で「1」を選んだ方】 * 就職先選択で重視するものは何ですか。 〈複数回答可〉	1. 収入 3. 就職先の社会的評価 5. 勤務地の地理的条件 7. 先端技術を駆使しているところ 9. その他	2. 就職先の将来性・安定性 4. 能力を発揮できること 6. 研究評価をしてくれるところ 8. 人間関係の良いこと
77	【問75で「1」を選んだ方】 * 就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。 〈複数回答可〉	1. 就職担当教員 3. 新聞・就職情報誌 5. ダイレクトメール 7. 会社等説明会 9. 家族等	2. キャリア支援室の情報又は就職相談員 4. インターネット 6. 直接会社等に照会 8. 先輩・知人 10. その他
78	【問75で「1」を選んだ方】 * 希望職種は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 大学・官公庁の教育・研究職 3. 技術職 5. 総合職・営業職 7. 教育職 9. マスコミ関係	2. 1以外の公務員 4. 企業等の研究職 6. 事務職 8. 専門職（医師・看護師等） 10. その他
79	【全員】 * 大学が行う就職セミナーに参加しますか。	1. 参加する 2. 時間があれば参加する 3. 参加しない	
80	【全員】 * 本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。	1. 現在も利用している 2. 以前に利用したことがある 3. 利用したことがない	

ご協力ありがとうございました

第1章 住居・通学について

1-1 住居区分 (図1-1)

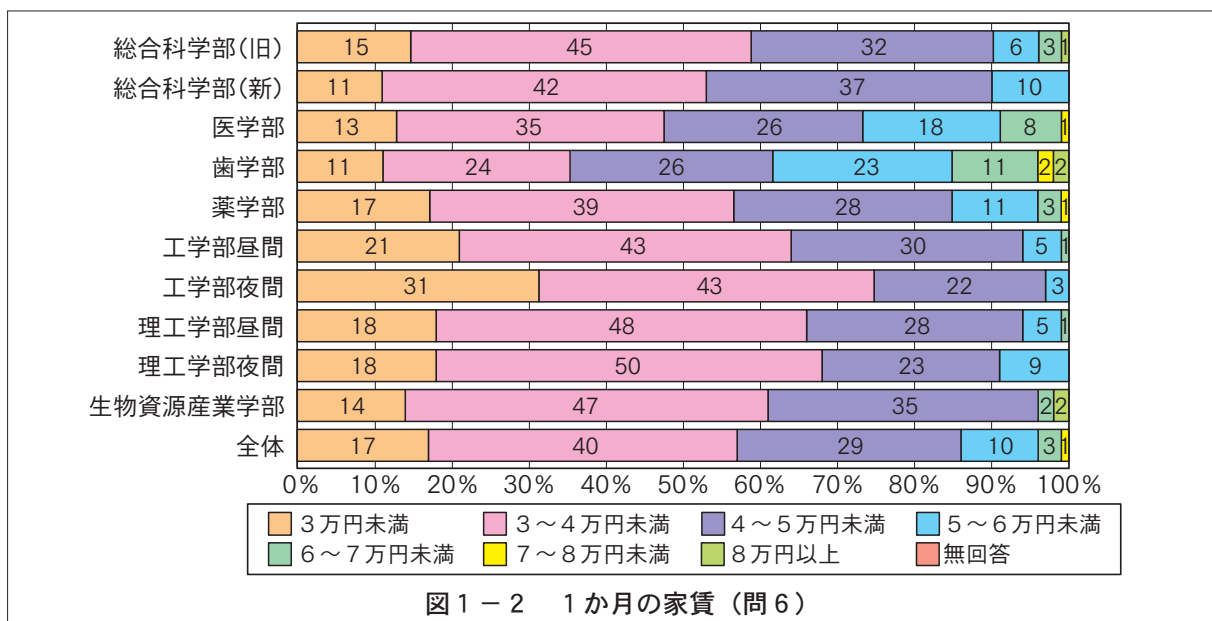
全体として最も多いのがアパートとマンション (57%)、次いで自宅 (26%) となっている。他に間借り (下宿) 15%, 学生寮 2%, 親戚・知人宅 1% となっている。全体としては前回調査と比べて変動はほとんどない。自宅の割合は, 学部別に見ると生物資源産業学部 (49%) と総合科学部 (新) (46%) が高く, 薬学部 (17%) が最も小さい。総合科学部 (旧), 医学部, 工学部 (昼間, 夜間), 理工学部 (昼間, 夜間) の割合は, 20~30% である。総合科学部 (新) と生物資源産業学部では, 自宅の割合が約 50% であることから, この 2 つの学部では徳島県出身者がほぼ半数を占めていると考えられる。



1-2 1か月の家賃 (図1-2)

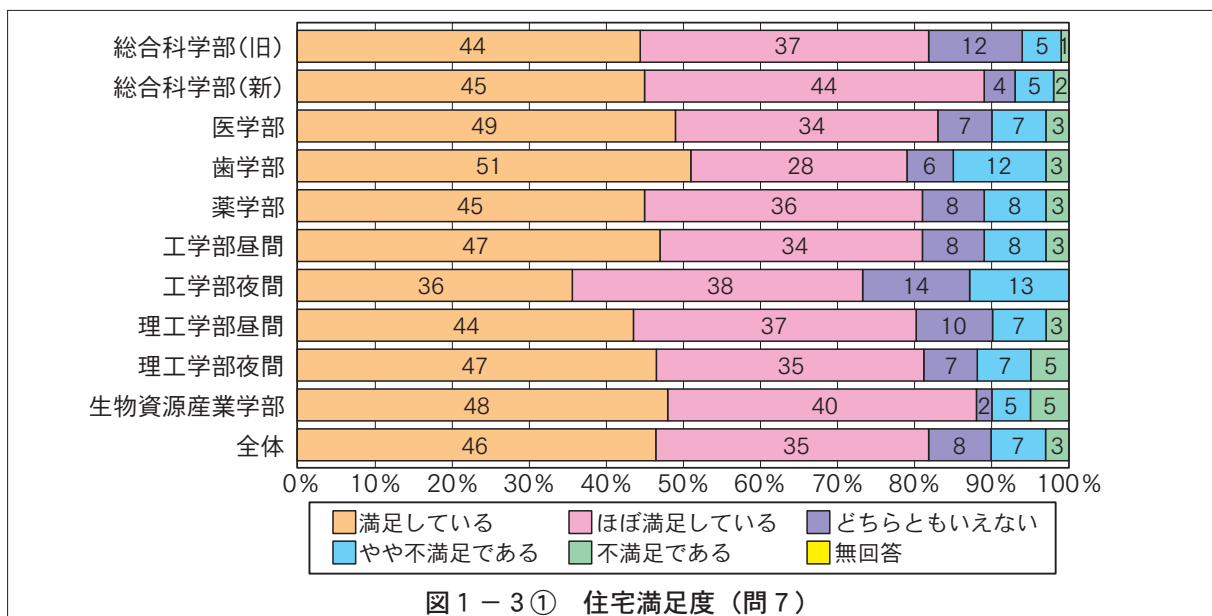
全体として 5 万円未満の割合が 86% であり, 前回調査から 3 ポイント減少しているが, 家賃に対する支出はここ数年ほぼ同じ割合を示している。

学部によって家賃支出の割合は異なり, 総合科学部 (旧, 新), 薬学部, 工学部 (昼間, 夜間), 理工学部 (昼間, 夜間), 生物資源産業学部では 4 万円未満の物件の割合が多いが, 医学部, 歯学部では 4 万円以上の物件が半数を超えるか, あるいは半数に近い。これは, 蔵本周辺の家賃相場や学生の家庭状況と関連しているかもしれない。医学部, 歯部の家賃支出は他の学部に比べて高い傾向にあるが, 主に 5 万円~7 万円未満の価格帯の割合が他の学部に比べて多い傾向にあることがその要因となっている。

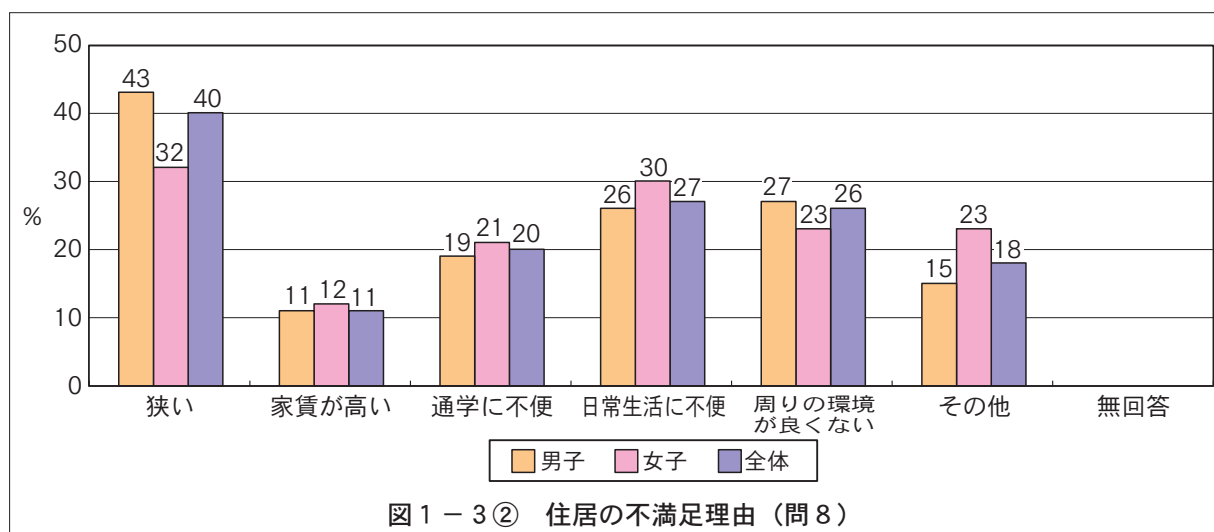


1-3 住居満足度 (図1-3①, 図1-3②)

自宅や学生寮等以外の、アパート等に住んでいる自宅外通学者における住宅満足度では、全体では「満足している」が46%あり「ほぼ満足している」が35%で、合計は81%となる。学部間で満足度の割合に差はあまりみられない。不満を感じている場合は、その半数近くが「狭い」ことを理由にあげているが、女子学生の「狭い」という不満が、前回調査(24%)と比べて増加している。これは女子学生の住宅選定において広さが重要視されていることが影響すると思われる。不満の原因に「周りの環境が良くない」という項目があり、男子(27%)、女子(23%)ともに前回調査(男子34%、女子33%)に比べて減少しているが、約1/4の学生が不満足の原因にあげている。周りの環境について不満の理由を詳しく聞き取る必要がある。「日常生活に不便」が、前回調査(全体23%、女子27%、男子22%)と比べて増えて(全体で27%)、特に女子では30%と、「狭い」に次ぐ理由となっている。また「通学に不便」も、女子で少し増加して21%となり、日常生活や通学に便利な住居で、周りの環境が良く、しかも広いことが求められていることがわかる。住宅を斡旋する業者、とりわけ徳大生協に対しては、物件情



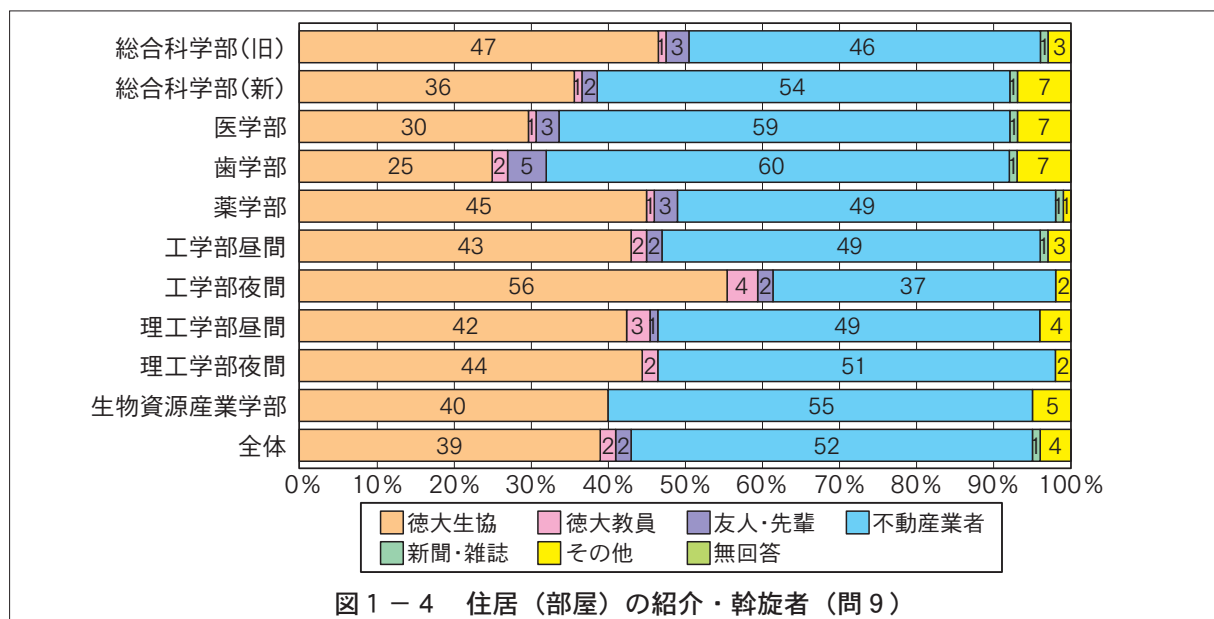
報の積極的な開示と、個別学生のニーズに耳をより傾けてもらい、学生が満足する住居を紹介してもらうことを期待する。



(※問8は複数回答のため合計は100%にはならない。)

1-4 住居(部屋)の紹介・斡旋者 (図1-4)

学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋は、全体では徳大生協が39%、不動産業者が52%となっており、徳大生協の果たす役割はかなり大きい。学部別にみると、医学部と歯学部については不動産業者の斡旋割合が高い。これはアンケート項目1-2で医学部、歯学部の学生の場合、家賃が比較的高額な物件の割合が高いことと関係していると考えられる。全体においては、住居の紹介・斡旋では徳大生協の割合が比較的高いことから、徳大生協に対して、前項の「住居の不満足理由」に関連する情報の提供などについて、より積極的な協力を期待したい。



1-5 通学方法 (図1-5①, 図1-5②)

全体としては自転車が72%で、前回調査と同様に自転車が主要な通学手段である。徒歩、バス・JR、バイク、自動車通学については、いずれも5～10%である。男女別にみると、自転車の次いで、男子では、徒歩、バイク、自動車、バス・JRと続き、女子では、自動車、バス・JR、徒歩、バイクの順である。学部別では、バス・JRの利用者が、県内出身者の多い生物資源産業学部(23%)、総合科学部(新)(17%)でやや多い。

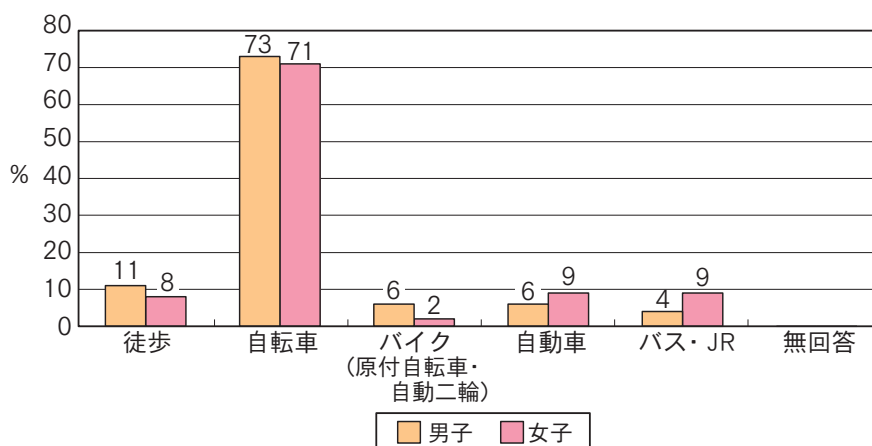


図1-5① 通学方法 (男女別) (問10)

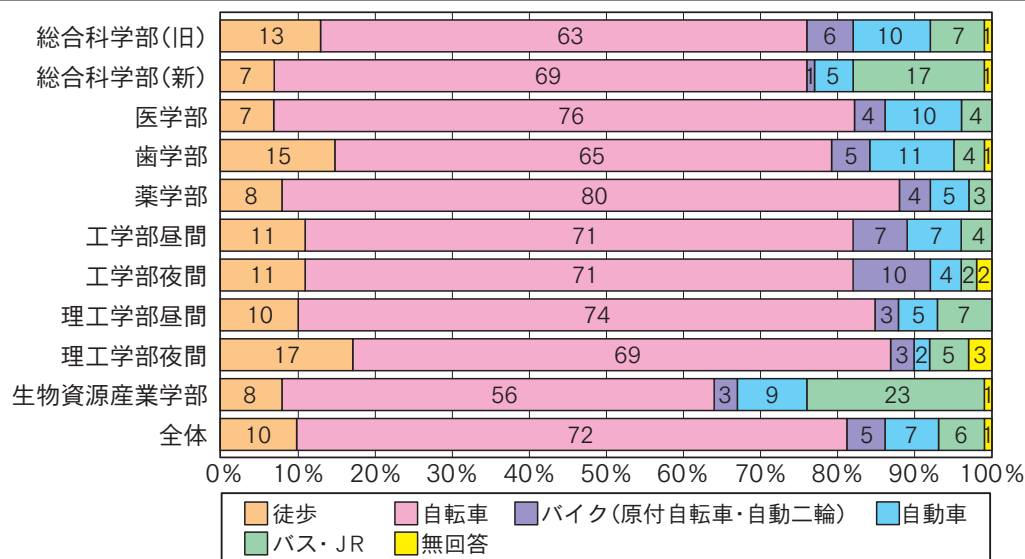


図1-5② 通学方法 (学部別) (問10)

1-6 通学時間 (図1-6①, 図1-6②)

全体として通学時間は、15分未満が69%と最も多く、15分～30分未満をあわせると84%となり、ほとんどの学生の通学時間は30分未満と短く、1時間未満を合わせると95%の学生が含まれる。学部別では、総合科学部(新)、生物資源産業学部で、通学時間が15分以上の割合が他学部よりも多かった。これは、アンケート項目1-1で、この2つの学部では自宅から通学する学生が多いことと関係すると考えられる。なお通学時間が15分を超えると回答では、女子の割合が男子より少し高い傾向が引き続き認められたが、自宅から通学する割合が女子学生に多いことが関係しているのかもしれない。

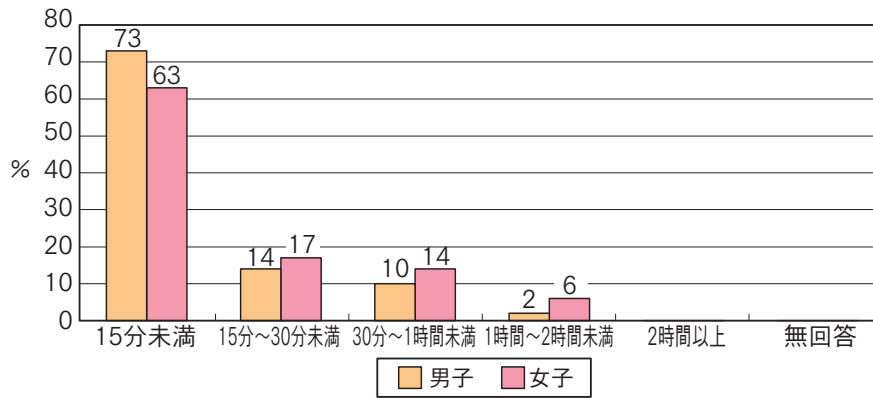


図1-6① 通勤時間（男女別）（問11）

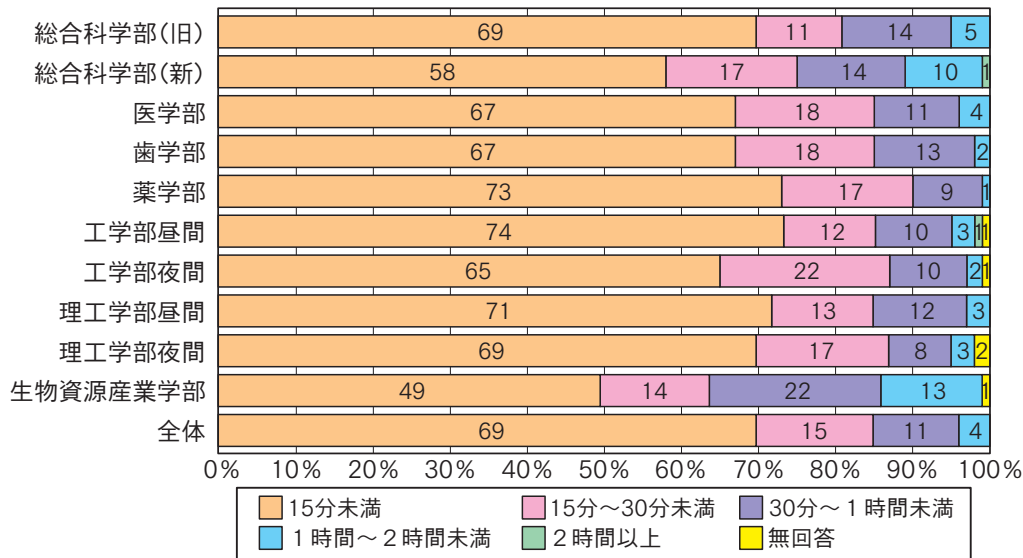


図1-6② 通勤時間（学部別）（問11）

1-7 通学中の交通事故（図1-7①, 図1-7②）

交通事故を起こしたかあるいは被害に遭った学生の割合が、全体として前回調査と同じく10%であり、決して少ないとはいえない。学部別では、歯学部、薬学部、工学部夜間で14～15%あり、他学部と比べるとやや割合が高い。平成27年6月に改正道路交通法が施行され、自転車に対する規制が厳格化されたこともあり、学生の約70%が自転車通学していることを考慮すると、自転車通学者を含めた交通安全の指導を今後さらに強化すべきであると考えられる。

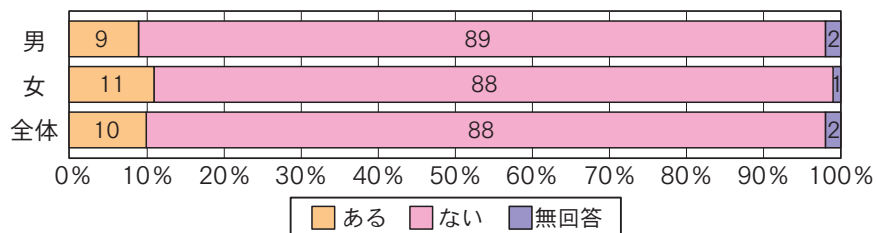
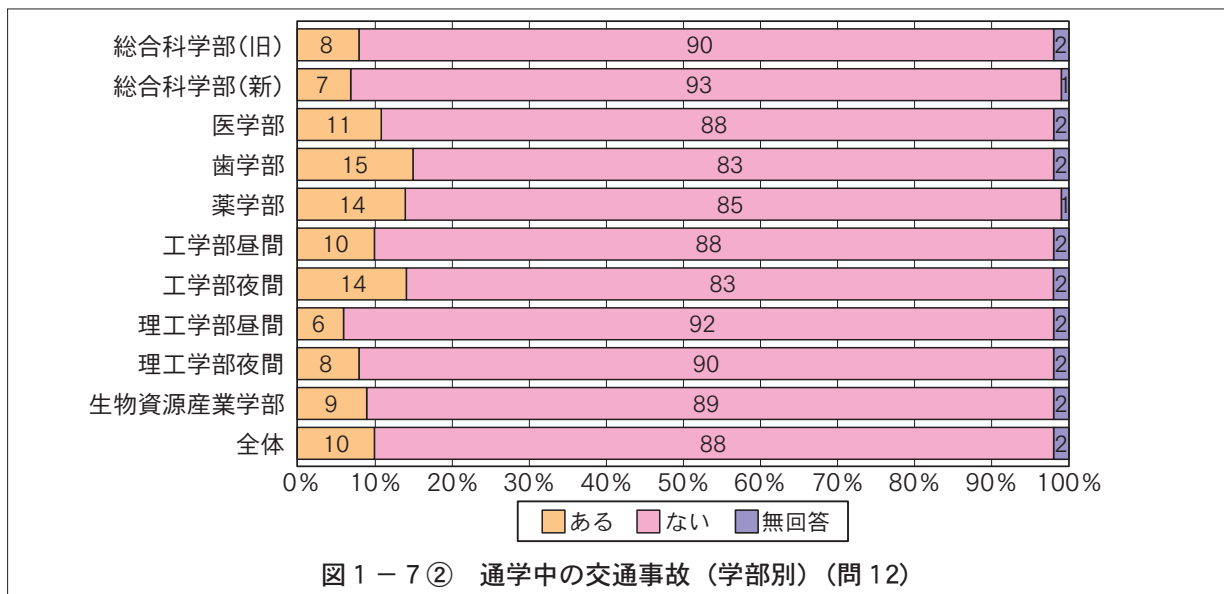


図1-7① 通学中の交通事故（男女別）（問12）



第2章 収入・支出について

2-1 家庭の年収 (図2-1)

家庭の年収について、大学全体では250万円未満(7%), 250~500万円(18%)と500~750万円(30%)までで55%を占め、ついで750~1,000万円(20%), 1,000~1,500万円(12%), 1,500万円以上(4%)である。前回の調査と比べて家庭の年収はやや上がっており、景気回復が影響していると考えられる。

学部別にみると前回の調査と同様、歯学部や医学部、薬学部学生の家庭は高収入である。一方、理工学部夜間は年収250~500万円の家庭の割合が最も多く(31%)、250万円未満の家庭も14%と他学部 に比べ多い。理工学部夜間、歯学部以外の学部では年収500~750万円の家庭の割合が最も多い。

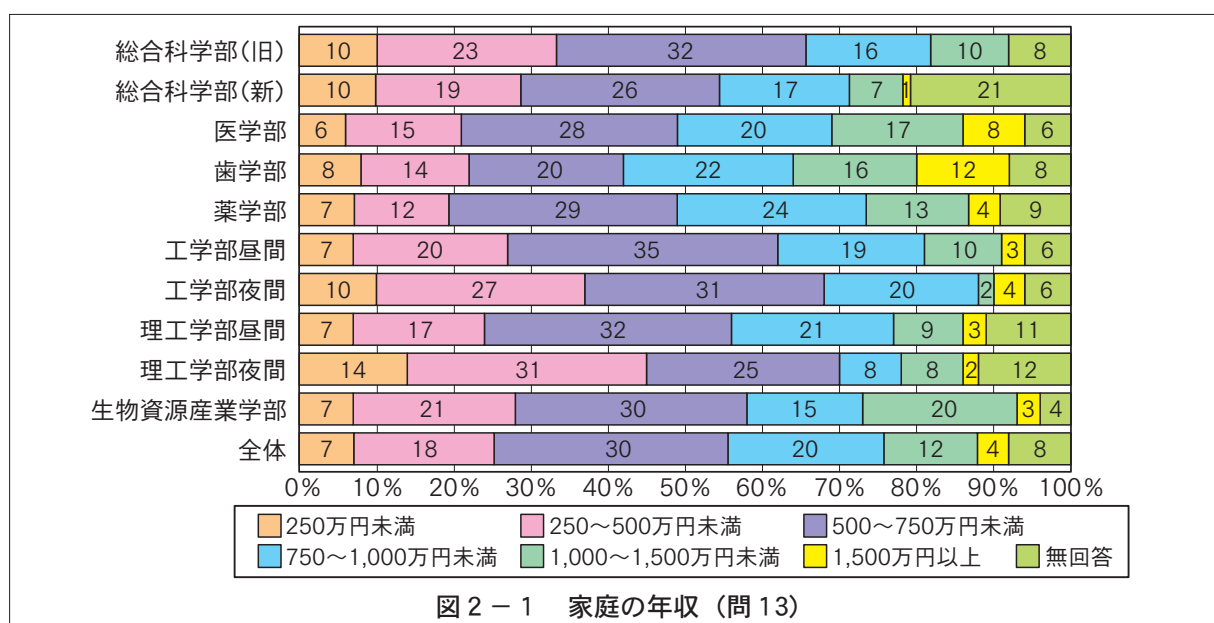


図2-1 家庭の年収 (問13)

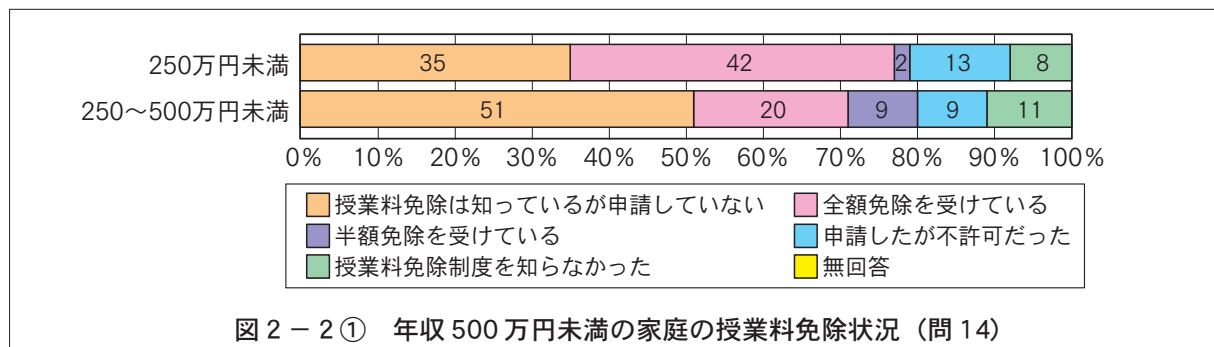
2-2 授業料の免除について (年収が500万円未満の家庭)

(図2-2①, 図2-2②)

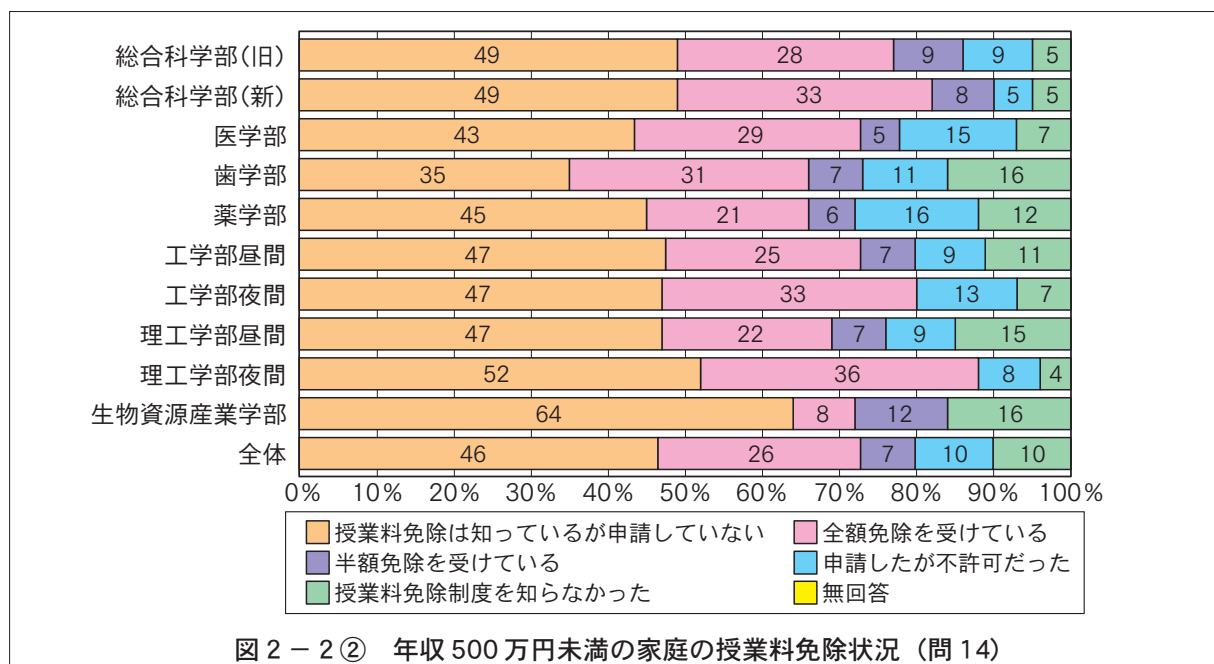
授業料の免除状況について、年収が250万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が35%で前回調査と前々回調査(ともに41%)よりも減少し、「授業料免除を受けている」割合は44%で、前回調査(41%)よりも3%増加している。また、「申請したが不許可だった」が13%であり、前回調査(8%)よりも増加している。「授業料免除制度を知らなかった」割合は8%で、前回調査(8%)、前々回調査(7%)とほぼ同じであり、学生に授業料免除制度が周知徹底されていないことが伺える。制度を知らないことは学生にとって不利益である。また、収入的には授業料免除対象であっても、成績が加味されて不許可になる場合がある。収入を得るためにアルバイト等に多くの時間を費やし、勉学に専念できず、結果、成績不振となり、免除不許可になるといった負のサイクルの可能性が考えられる。成績基準緩和も再検討すべきと考える。

年収が250~500万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が51%で前回調査(59%)よりも減り、「授業料免除を受けている」割合は29%と前回調査(20%)よりも増加し、「申請したが不許可だった」が9%で前回調査(8%)よりも微増した。「授業料免除制度を知らなかつ

た」割合は11%で、前回調査12%よりも減ったが、まだ学生に対する周知徹底が必要である。



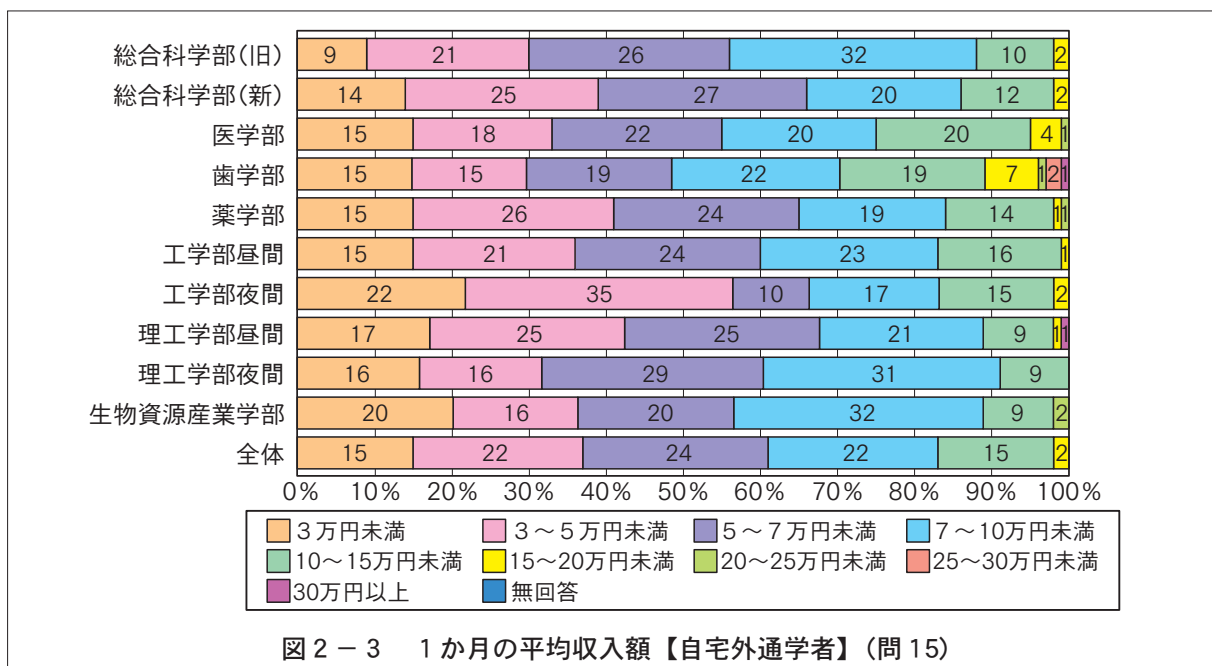
学部別にみると、「授業料免除は知っているが申請していない」が35～64%であり、前回調査（53～56%）にくらべ、ばらつきがある。「授業料免除を受けている」割合が最も多いのは総合科学部（新）の41%で、最も少ないのは生物資源産業学部の20%である。「申請したが不許可だった」割合は、薬学部（16%）、医学部（15%）と工学部夜間（13%）が多かった。「授業料免除制度を知らなかった」のは歯学部（16%）、生物資源産業学部（16%）と理工学部昼間（15%）が多く、制度の周知徹底が必要である。



2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(図 2-3)

この項目は自宅外通学者のみを対象にしている。全体では1か月の平均収入額（保護者等からの援助を含む）の最も多い区分は5～7万円未満の24%で、続いて3～5万円未満と7～10万円未満（ともに22%）、この3つの区分で（3～10万円未満）で3分の2を占める。3万円未満と10～15万円未満もともに15%である。前回調査とほぼ同様の傾向である。

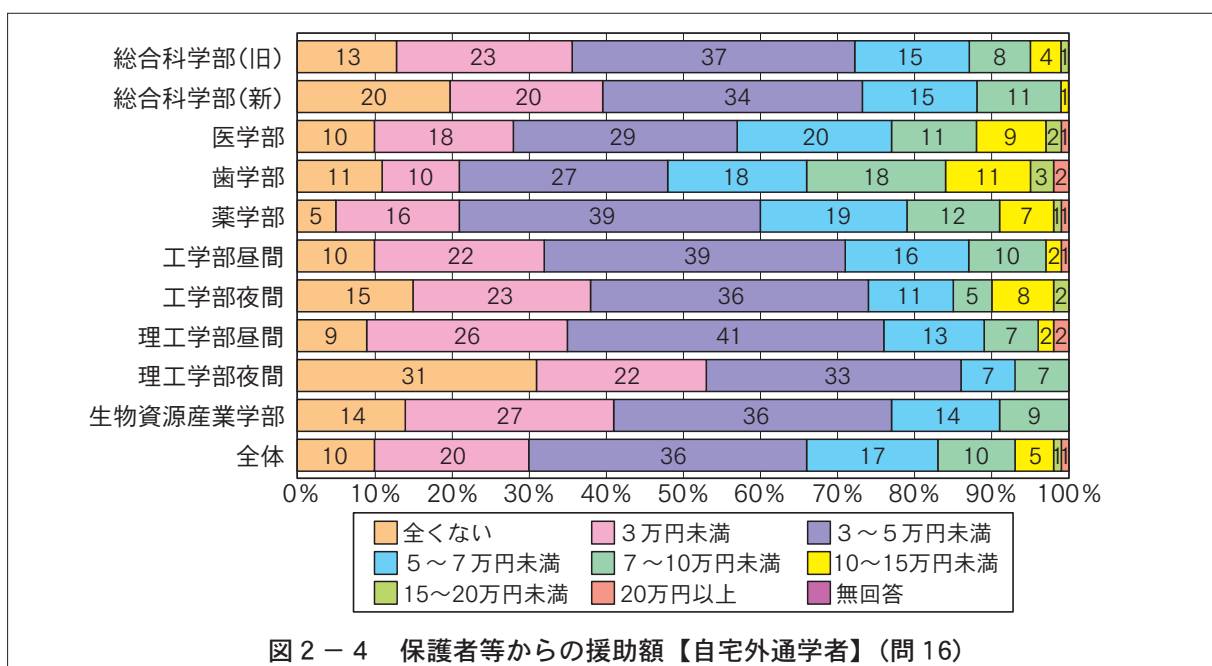
学部別では、歯学部、医学部と総合科学部（旧）で7～20万円未満の区分の割合が高く、それぞれ48%、44%、44%である。一方、3万円未満の区分の割合が高いのは、工学部夜間（22%）と生物資源産業学部（20%）である。



2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】(図 2-4)

自宅外通学者の保護者からの援助額は、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満(36%)であり、前回調査(35%)とほぼ同じ割合である。続いて3万円未満(20%)、5～7万円未満(17%)で前回調査と同じである。「援助が全くない」学生は10%であり、前回調査(12%)よりもわずかに減少した。一方、10万円以上の援助を受けている学生は7%で、前回調査(5%)よりも微増した。

学部別にみると、歯学部、医学部と薬学部で7万円以上保護者から援助を受けている学生の割合はそれぞれ34%、23%、21%であり、他学部に比べ多い。一方、理工学部夜間の31%は援助を全く受けておらず、3万円未満の援助の区分が多いのは生物資源産業学部(27%)と理工学部昼間(26%)である。



2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(図2-5)

自宅外通学者の1か月の平均支出額（授業料支出は除く）は、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満（34%）で、前回調査と同じ割合である。続いて5～7万円未満（26%）、3万円未満と7～10万円未満（ともに16%）であり、これらの区分の割合も前回調査と同じである。10万円以上の平均支出額も8%であり、前回調査（7%）とほぼ同じである。

学部別では、歯学部、医学部で1か月に7万円以上支出している学生は、それぞれ41%、34%であり、他学部よりも多い。総合科学部（新）と理工学部昼間は、5万円未満の平均支出額の区分がそれぞれ68%と67%で、他学部に比べ多い。とくに3万円未満の区分が多いのは、総合科学部（新）（27%）と生物資源産業学部（27%）、理工学部昼間（26%）であり、これらの学生は支出を切り詰めていると考えられ、何らかの援助や対策が必要と思われる。

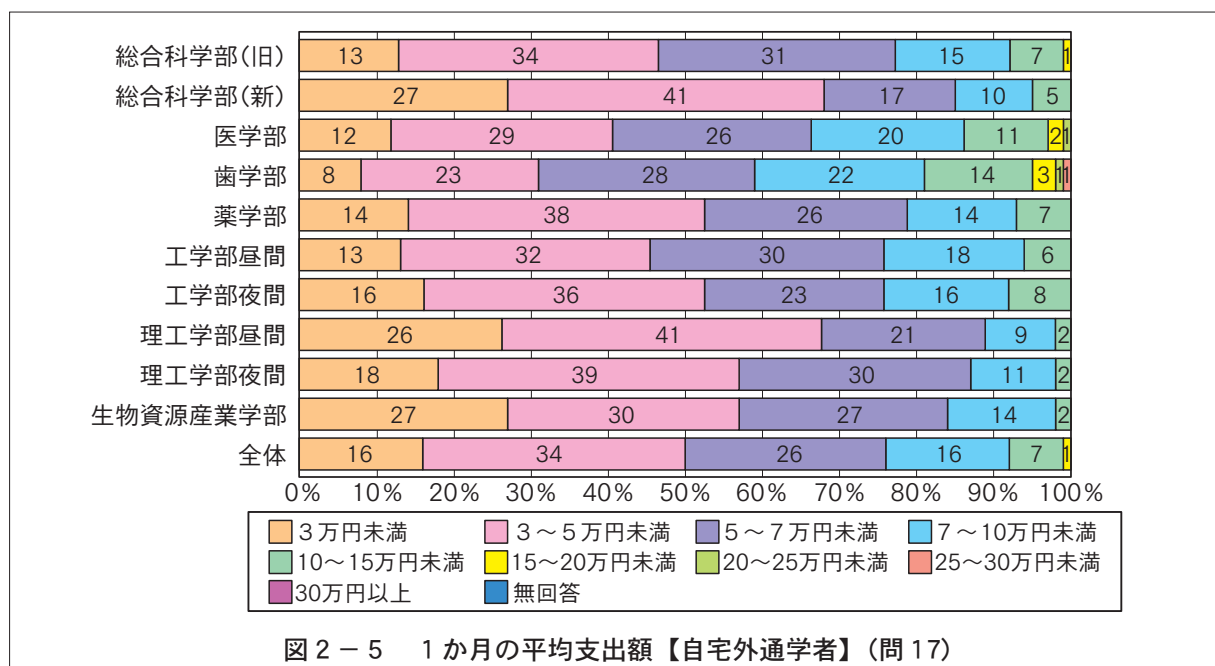
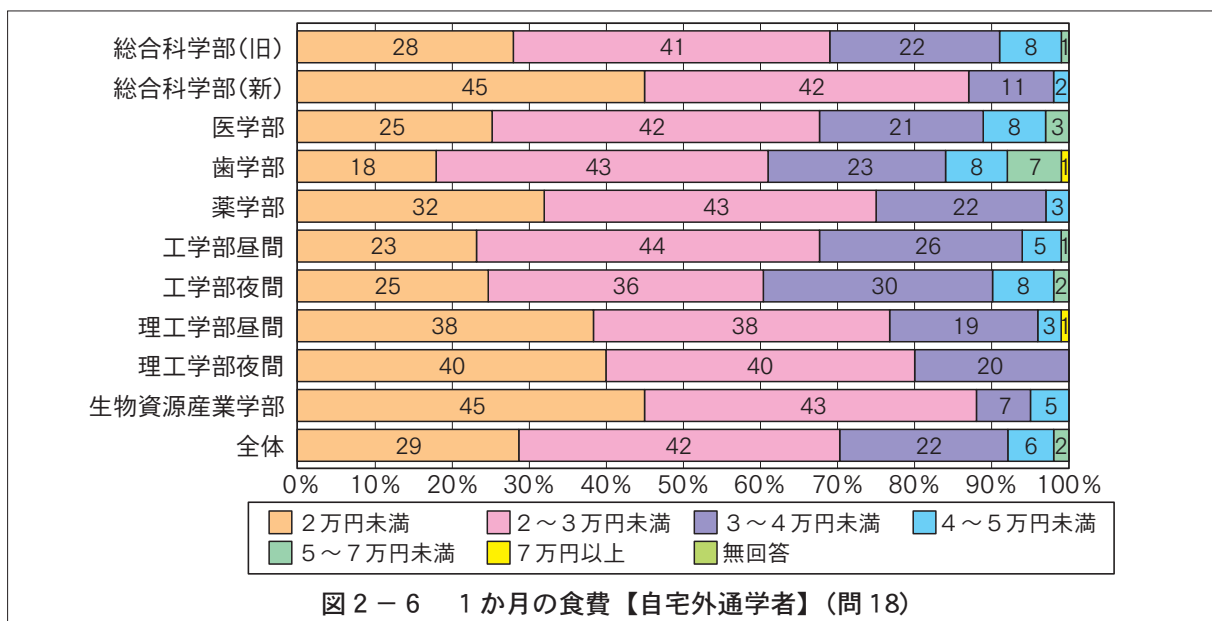


図2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(問17)

2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】(図2-6)

自宅外通学者対象の1か月の平均の食費は、大学全体として「2～3万円未満」の区分が42%で最も多く、「2万円未満」が29%、「3～4万円未満」が22%である。これは前回調査の結果（それぞれ43%、32%、19%）と傾向が似ていた。合わせると、93%は1か月の平均の食費が4万円未満である。

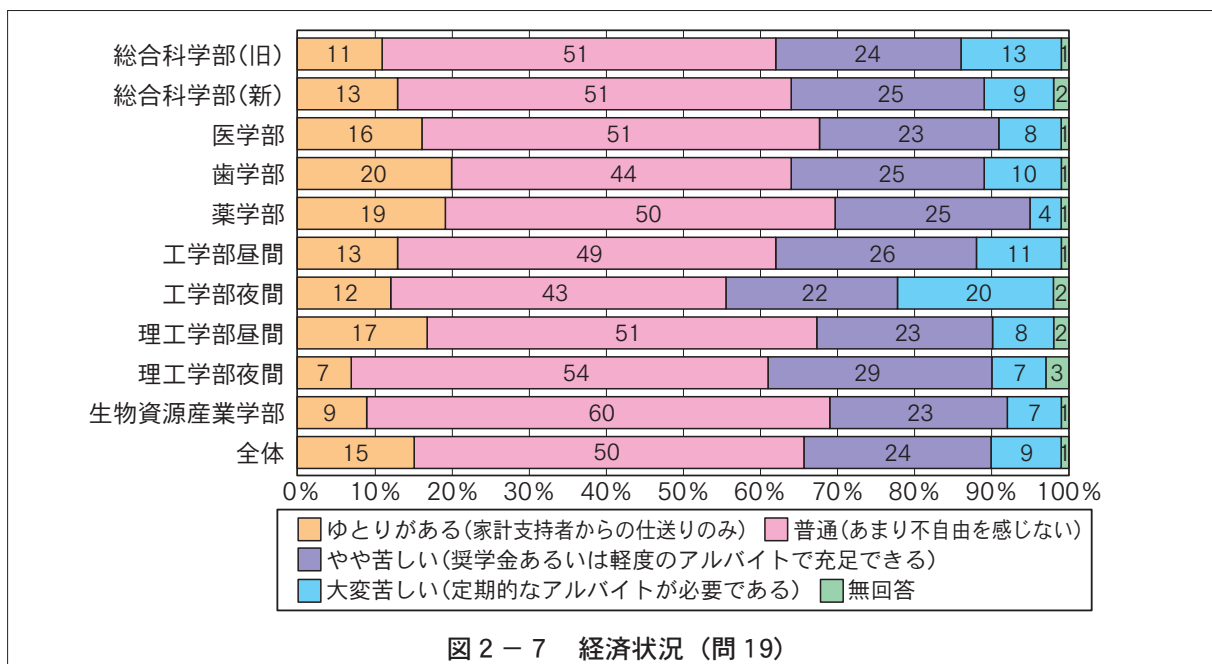
学部別にみると、総合科学部（新）と生物資源産業学部、理工学部夜間、理工学部昼間は食費2万円未満の割合がそれぞれ45%、45%、40%、38%であり、他学部と比べて割合が高く、食費を節約している様子である。近年は食費を削って他の支出へ回す学生も多いが、健康な学生生活を送るにはきちんと食事を摂ることが必要である。蔵本キャンパスも常三島キャンパスも食堂は整備され、提供する食事内容も充実しているの、大いに利用して欲しいと思う。



2-7 経済状況 (図 2-7)

この項目からは自宅通学者も含めた全員が対象である。大学全体として33%の学生が、経済状況が「苦しい」と感じている（「やや苦しい」24%、「大変苦しい」9%）。一方、半数は「普通（あまり不自由を感じない）」と、15%は「ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ）」と回答した。これらの割合は、前回調査の結果（それぞれ26%、8%、49%、15%）とほぼ同様であった。

学部別では、工学部夜間の20%が「大変苦しい」と回答し、前回調査（17%）よりもわずかに増加した。いずれの学部も「やや苦しい」は22~29%である。



2-8 奨学金 (図2-8)

大学全体としては、54%の学生は「現在受給していないし、希望もしない」。一方、34%は「現在受給中であり、受給の継続を希望する」と回答し、これに「現在受給中であるが、更に増額を希望する」2%と「現在受給中であるが、次に希望しない」4%と「現在受給していないが、新たに受給を希望する」5%を加えると、合計で41%になり、すなわち約4割の学生は奨学金の受給を今後も希望している。

学部別では、理工学部夜間の57%は奨学金を受給しており、他学部と比べて多い。歯学部や医学部では奨学金の受給を希望しない者は多い（それぞれ67%、61%）。

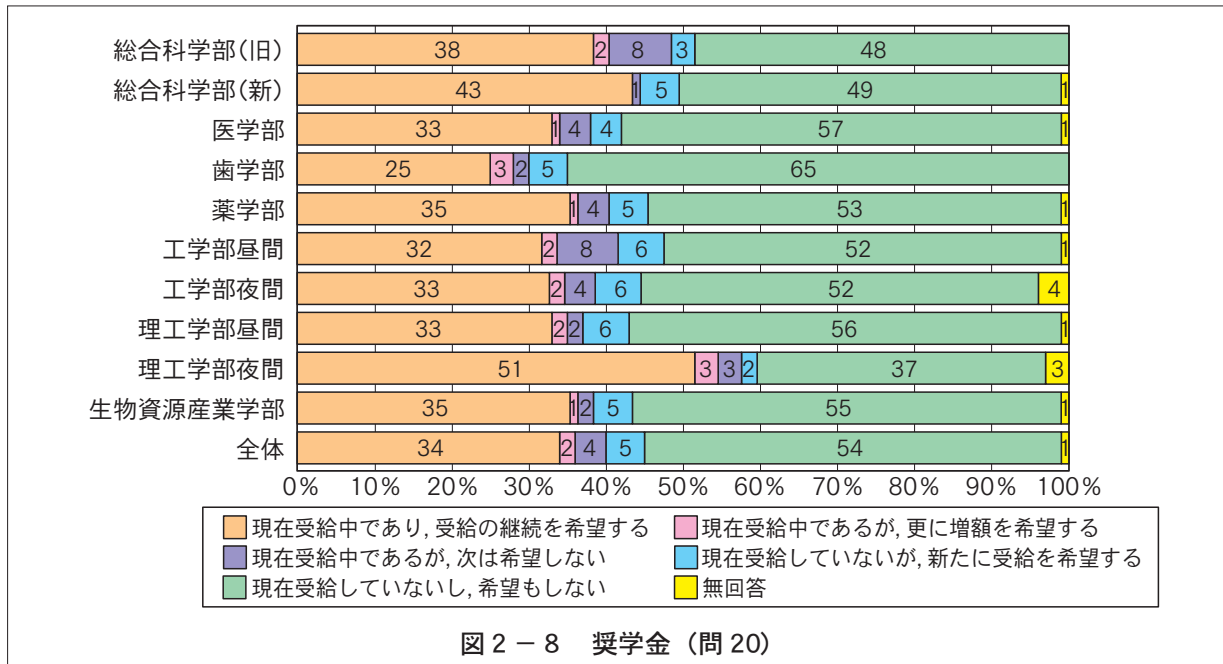


図2-8 奨学金 (問20)

2-9 1週間のアルバイト従事日数 (図2-9)

大学全体としては、3分の1の学生はアルバイトをしておらず、65%の学生はアルバイトをしている。従事日数別の学生の割合は、1週間に3日が21%、2日が19%、1日が11%であり、前回調査とほぼ同

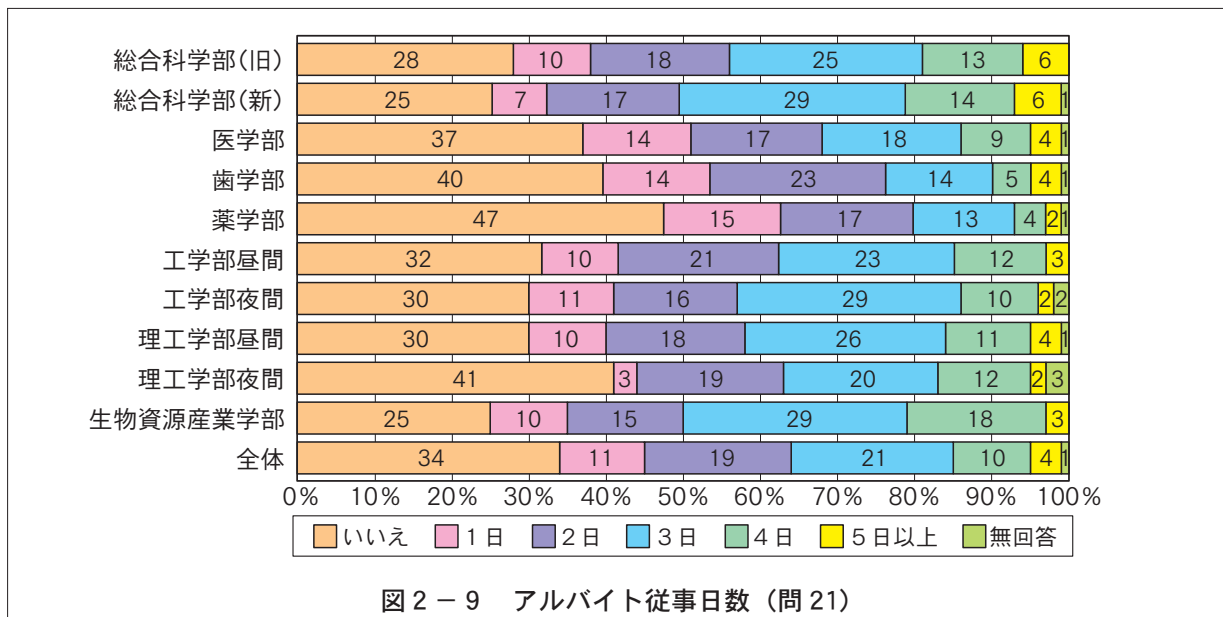


図2-9 アルバイト従事日数 (問21)

じ傾向である。一方、学生の14%は週4日以上アルバイトに就いている。

学部別には、アルバイトに就いていない学生の割合は薬学部（47%）、理工学部夜間（41%）と歯学部（40%）に多かった。

2-10 1週間のアルバイト従事時間数 (図2-10)

問21で、アルバイトをしていると回答した学生に1週間のアルバイトの平均従事時間（移動に要する時間も含む）について尋ねた。大学全体では、5～10時間未満の割合が27%で最も多く、次いで5時間未満22%、10～15時間未満22%、15～20時間未満16%、20～25時間未満8%、25時間以上4%であり、前回調査の結果（それぞれ30%、22%、21%、15%、8%、5%）とほぼ同様の傾向であった。また、アルバイト従事学生の4人に3人が週平均5時間以上のアルバイトをしていることが分かる。

学部別では、総合科学部（旧）、理工学部夜間、工学部夜間、総合科学部（新）と工学部昼間で週平均20時間以上のアルバイトに従事する割合は16%、16%、14%、14%、14%であり、他学部に比べ多い。医学部、歯学部と薬学部では5時間未満の割合は38%、30%、28%であり、他学部と比較してアルバイト従事時間はやや少ない。

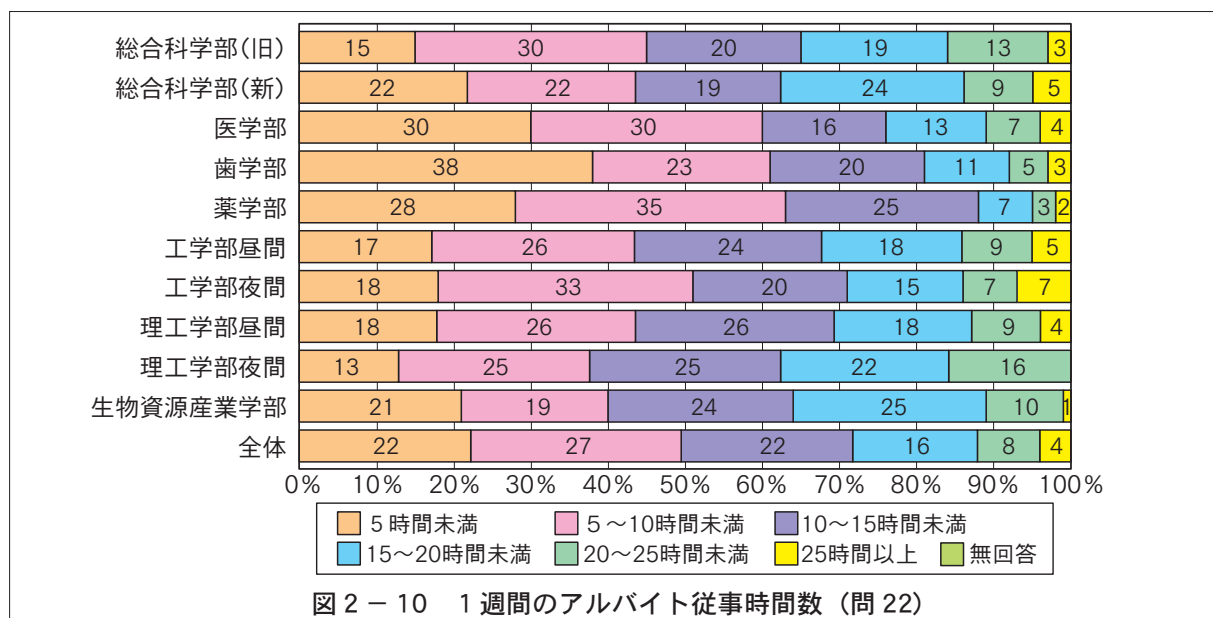
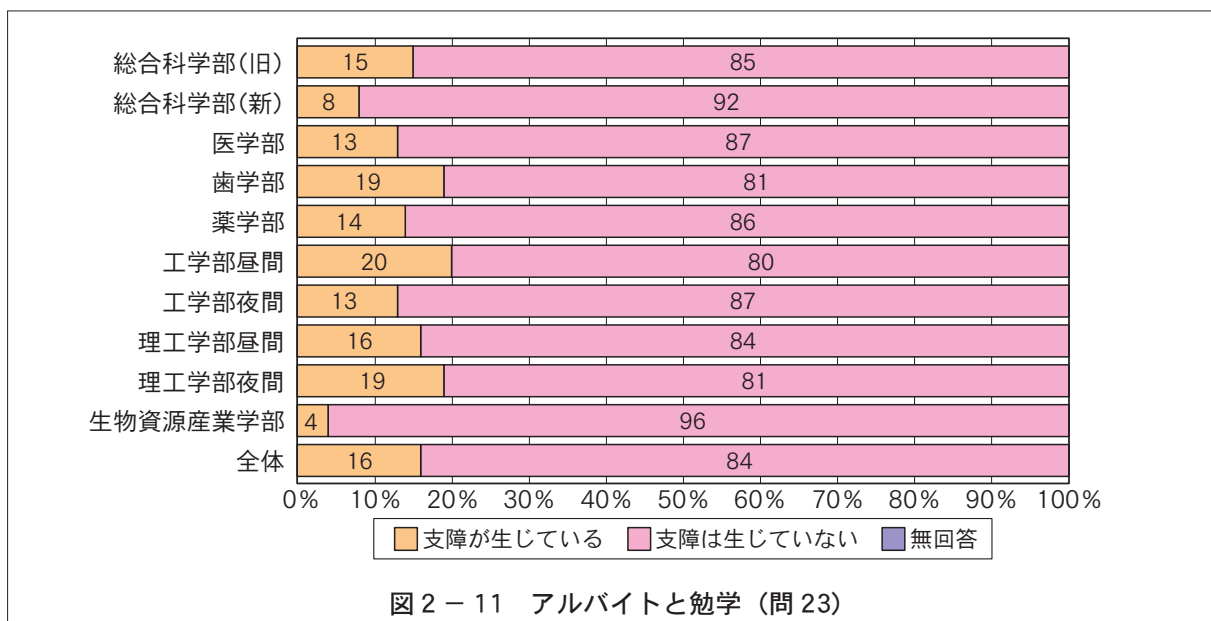


図2-10 1週間のアルバイト従事時間数 (問22)

2-11 アルバイトと勉学 (図2-11)

アルバイトによって勉学に支障が生じているかを尋ねたところ、大学全体では、「支障は生じていない」と答えた学生は84%で、前回調査（81%）や前々回調査（77%）よりも微増した。一方、「支障が生じている」と答えた学生は16%で、前回調査（14%）や前々回調査（16%）とほぼ同じである。今後は、家計の年収とアルバイトによる勉学への支障の関係性を詳細に調べる必要がある。

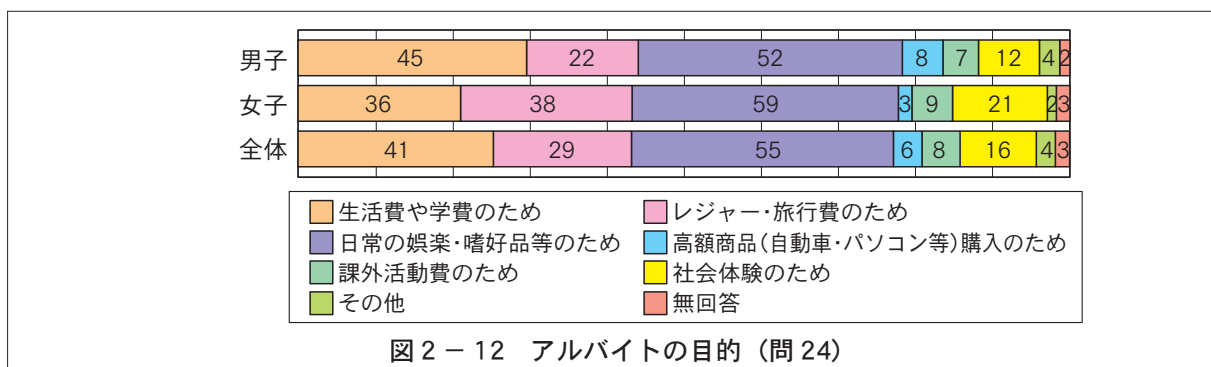
学部別では、「支障が生じている」と答えた学生の割合が多いのは工学部昼間（20%）と歯学部（19%）、理工学部夜間（19%）であり、一方、少ないのは生物資源産業学部（4%）と総合科学部（新）（8%）である。



2-12 アルバイトの目的 (図 2-12)

アルバイトの目的 (複数回答可) について、全体では、「日常の娯楽・嗜好品等のため」が55%、「生活費や学資のため」が41%で、この2つの割合が高い。次いで、「レジャー・旅行費のため」29%、「社会体験のため」16%などであり、これらの傾向は前回調査 (それぞれ54%、43%、25%、20%) とほぼ同様の傾向である。今回の調査では、この設問の回答と2-7 経済状態は対応させていないが、今後は両者の関係性をさらに詳細に調べる必要がある。

男女別にみると、ともに「日常の娯楽・嗜好品等のため」が最も割合が多いが、男女の違いとして、男子では「生活費や学費のため」(45%) の割合が多く、女子では「レジャー・旅行費のため」(38%) と「社会体験のため」(21%) の割合が多い。

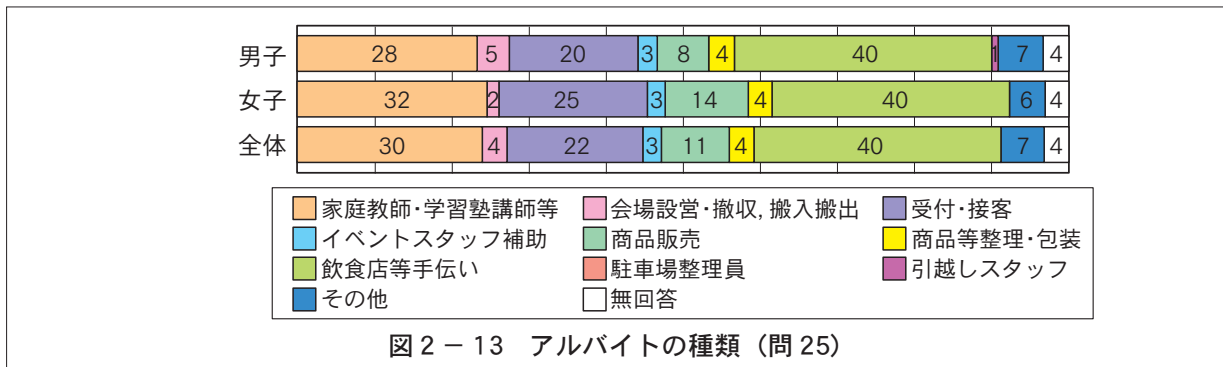


(※問 24 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

2-13 アルバイトの種類 (図 2-13)

アルバイトの種類 (複数回答可) は、全体では「飲食店等手伝い」が40%で最も多く、次いで「家庭教師・学習塾講師等」が30%、「受付・接客」が22%である。これは前回調査の結果 (それぞれ41%、31%、19%) とほぼ同じ傾向である。

男女別にみても同様の傾向で、この3種類の割合が高い。



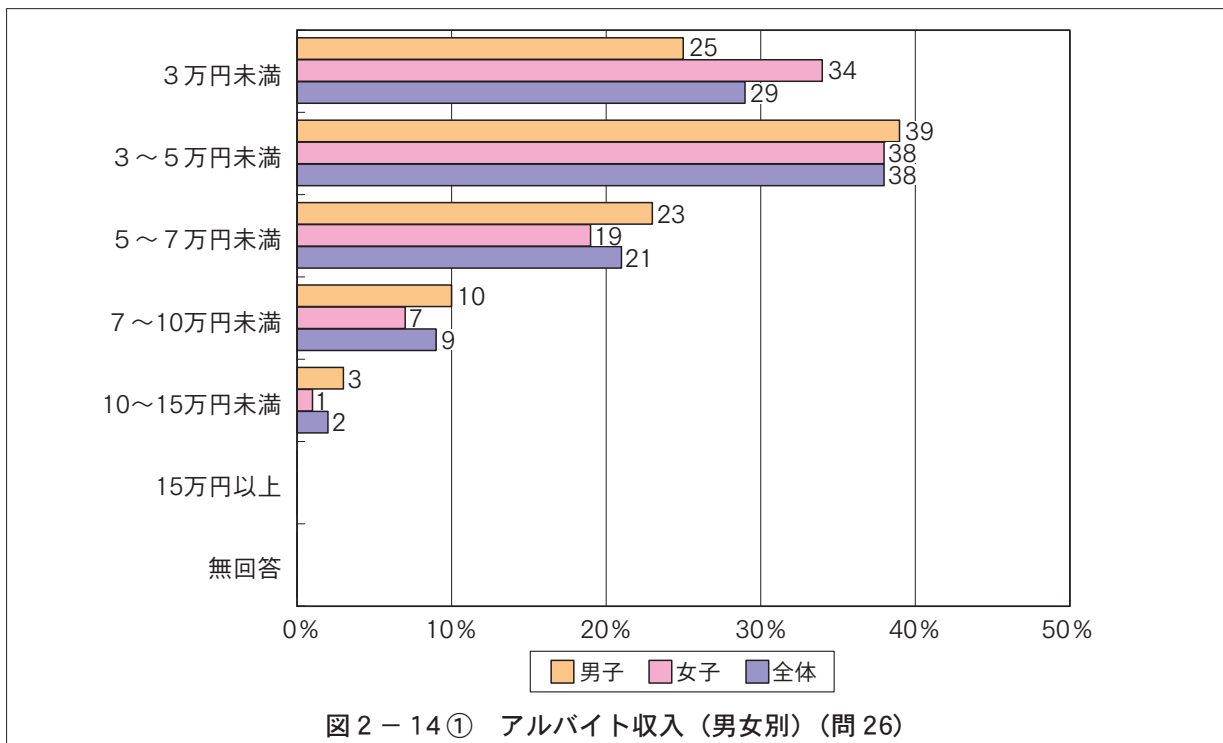
(※問 25 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

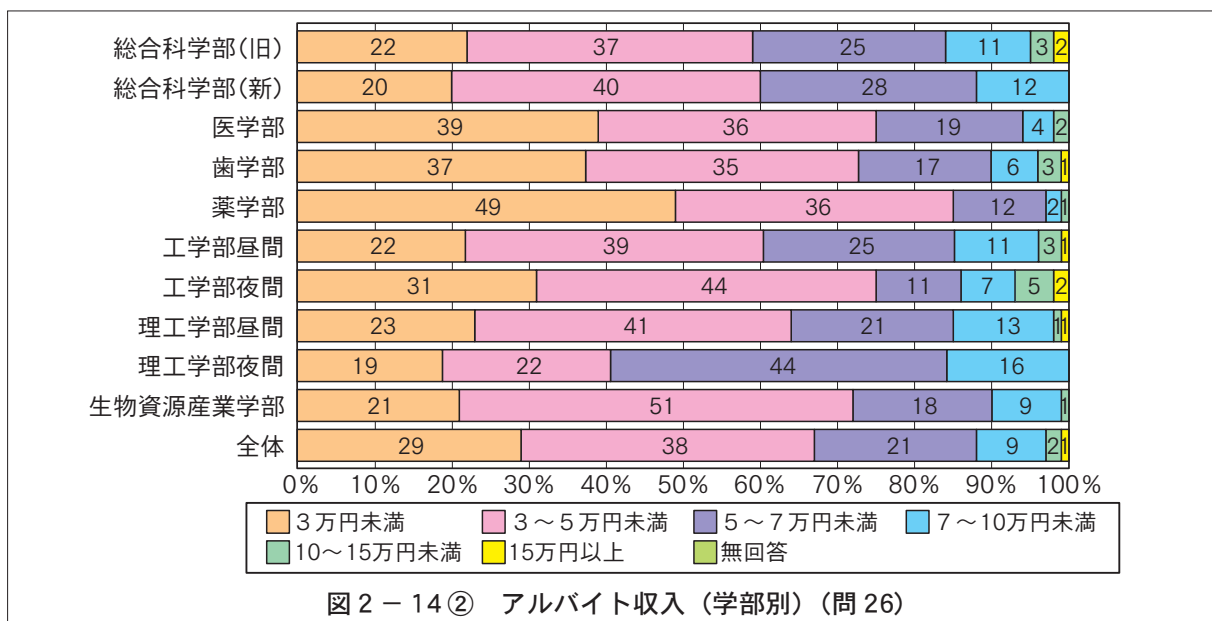
2 - 14 アルバイト収入 (図 2 - 14 ①, 図 2 - 14 ②)

アルバイトによる学生の 1 ヶ月間の平均収入は、大学全体では、「3～5 万円未満」が 38%で最も多く、次いで「3 万円未満」29%、「5～7 万円未満」21%、「7～10 万円未満」9%となっている。「10 万円以上」も 2%の割合である。これは、前回調査の結果 (それぞれ 36%、33%、19%、6%、1%) とほぼ同様の傾向であった。

男女間で比較すると、女子は「3 万円未満」の割合が 34%で男子 (25%) よりも多く、男子は「5 万円以上」の割合が 36%で女子 (27%) に比べて多い。これは、男子は、アルバイトの目的 (2 - 12) の違いが関連している可能性が考えられる。

学部別では、理工学部夜間でアルバイトをしている学生の 44%は「5～7 万円未満」の、生物資源産業学部の 51%と工学部夜間の 44%は「3～5 万円未満」の収入を得ている。一方、薬学部、医学部、歯学部では「3 万円未満」のアルバイト収入を得ている学生の割合が多く、それぞれ 49%、39%、37%である。

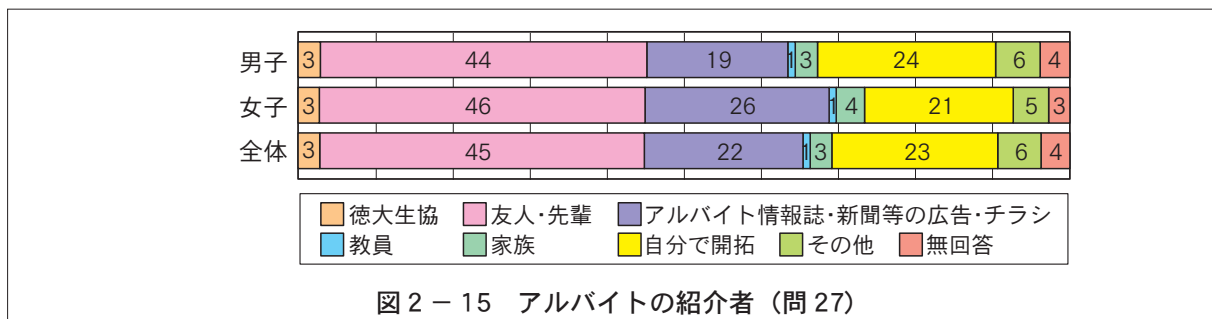




2-15 アルバイトの紹介者 (図 2-15)

アルバイトの紹介者 (複数回答可) は、大学全体では「友人・先輩」が最も多く 45% で、次いで「自分で開拓」が 23%、「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」が 22% であり、前回調査の結果に比べ、「自分で開拓」が 5% 増えている。「徳大生協」, 「家族」, 「教員」は 3~1% と極めて少ない。

男女別でも全体と同じ傾向で、男子、女子とも「友人・先輩」の割合が最も多く、それぞれ 44% および 46% であった。

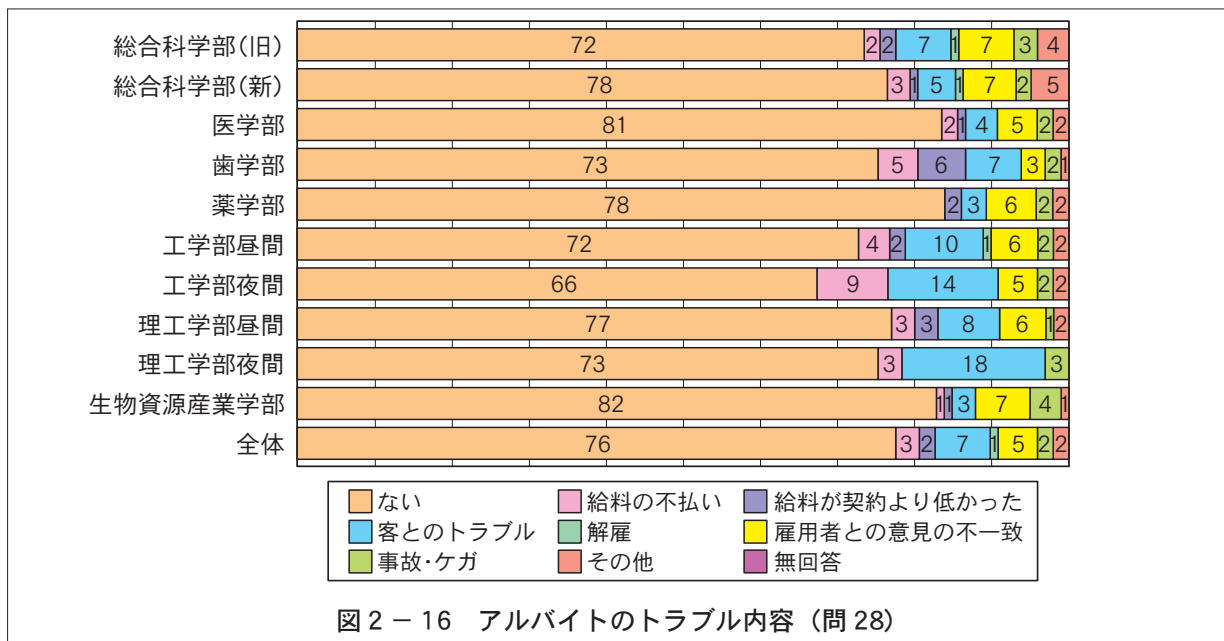


(※問 27 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

2-16 アルバイトのトラブル内容 (図 2-16)

アルバイトにおけるトラブル (複数回答可) について、「ない」と回答した割合が全体の 76% であった。前回調査では 75%、前々回調査では 74% であり、トラブルはわずかに減少している。おもなトラブルの内容 (複数回答可) は「客とのトラブル」(7%) や「雇用者との意見の不一致」(5%) などである。トラブルを経験した学生の割合は 22% で、アルバイトをしている学生の 4、5 人に 1 人はトラブルを経験していることになり、高い割合と考えられる。学生がアルバイトでトラブルに遭遇しないように、その内容を具体的に把握・検証して、注意喚起する必要がある。

学部別では、トラブルを経験した学生の割合は工学部夜間 (32%) と工学部昼間 (27%) で多く、薬学部 (15%)、医学部 (16%) と総合科学部 (新) (24%) で少ない。アルバイトでのトラブルは従事時間の長さに比例して起きると考えられる。



第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 図3-1②)

健康的な睡眠時間である「6～8時間」が男子54%、女子50%、「4～6時間」が男子37%、女子44%であり、前回調査と変化はなく、望ましい睡眠時間の学生が過半数を占めている結果となった。また、前回調査と同様に、男子4%、女子3%で「4時間未満」としており、過度の睡眠不足が危惧される。睡眠不足の状態が続くと、心身の変調を引き起こしやすく、活動性の低下や注意力・集中力の低下を招くため、睡眠時間を確保することの重要性を引き続き認識させる必要がある。

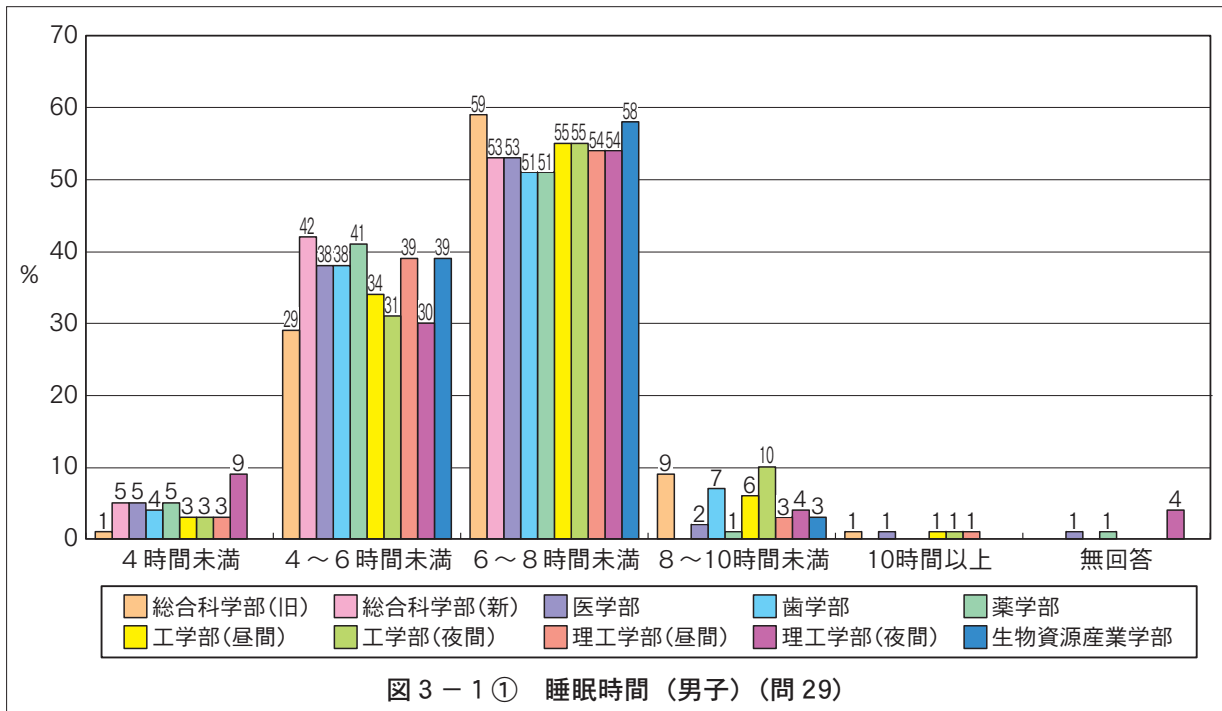


図3-1① 睡眠時間 (男子) (問29)

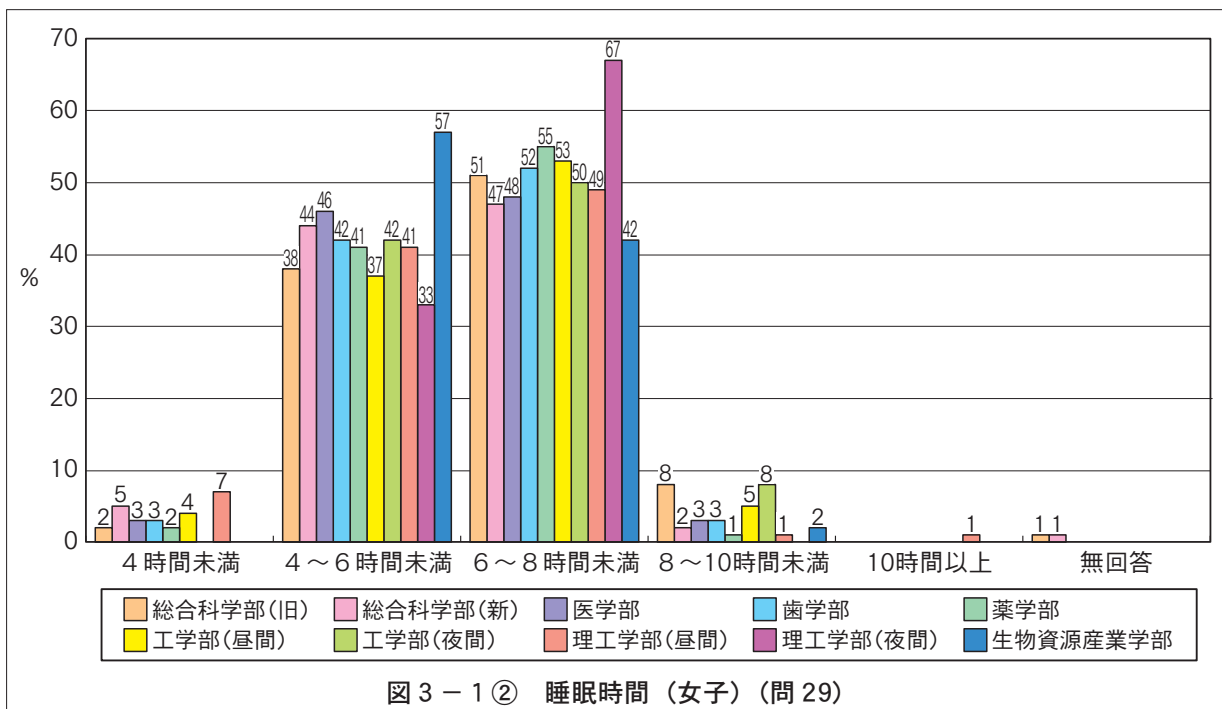


図3-1② 睡眠時間 (女子) (問29)

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

何らかの気になる症状がある学生は、男子で34% (前回調査32%), 女子で46% (前回調査49%) であり、男子より女子で何らかの不調を抱えている傾向は変わっていない。症状の内容としては、男子では「アトピー・アレルギー」が11%, 「頭痛・めまい」「不眠」がそれぞれ9%, 6%, 女子では「生理痛・生理不順」が20%, 「アトピー・アレルギー」「頭痛・めまい」が12%, 11%, 「下痢・便秘」が9%, 「不眠」を6%が認めている。慢性的に続いている症状については、必要に応じて、医療機関での治療および生活習慣などの見直し、助言指導を得るための保健管理・総合相談センター保健管理部門の

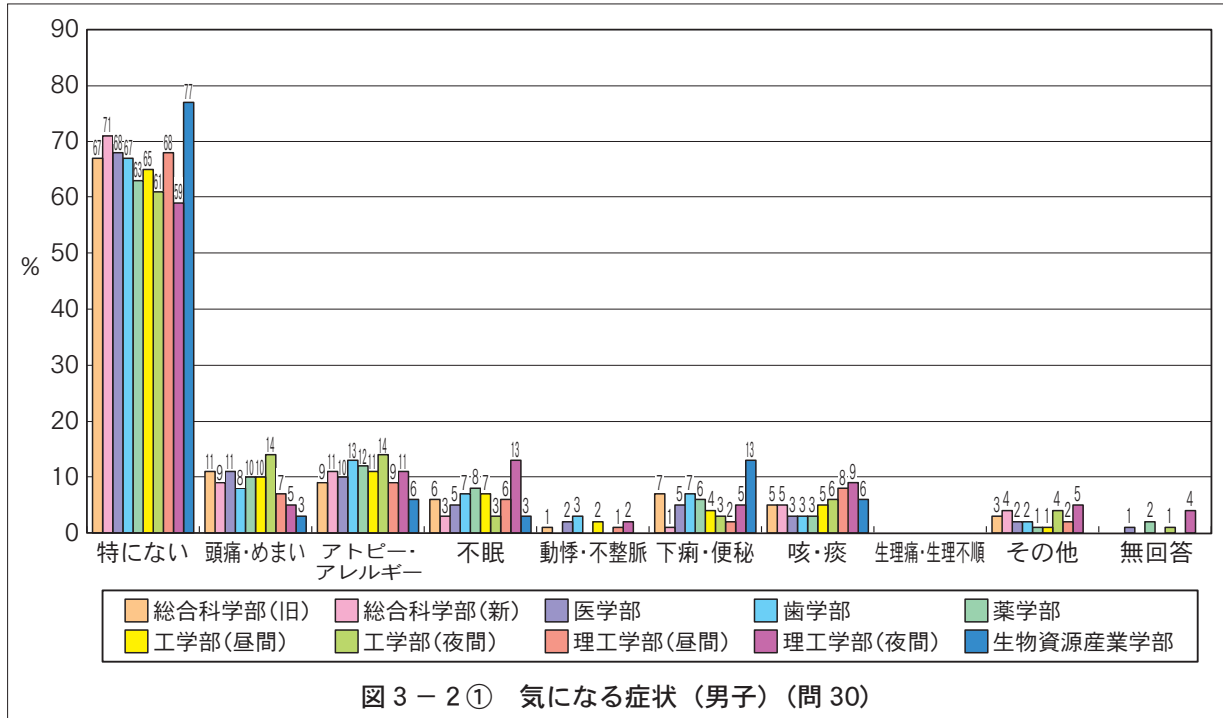


図3-2① 気になる症状 (男子) (問30)

(※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。)

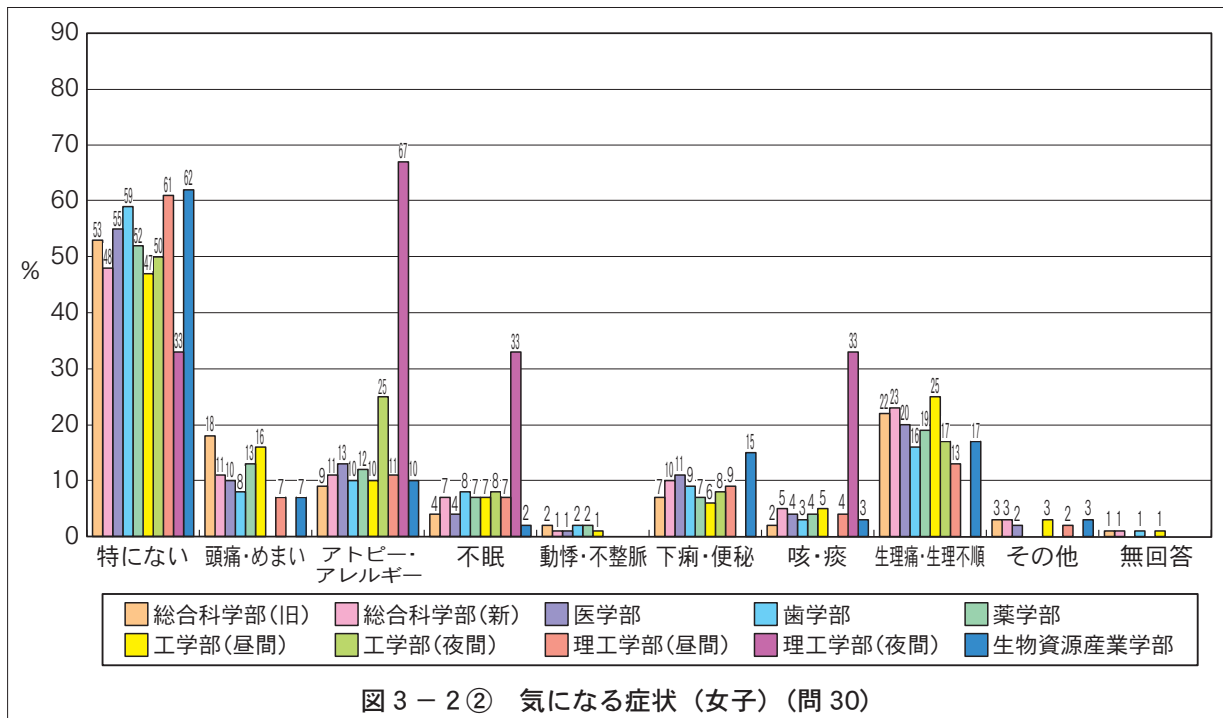


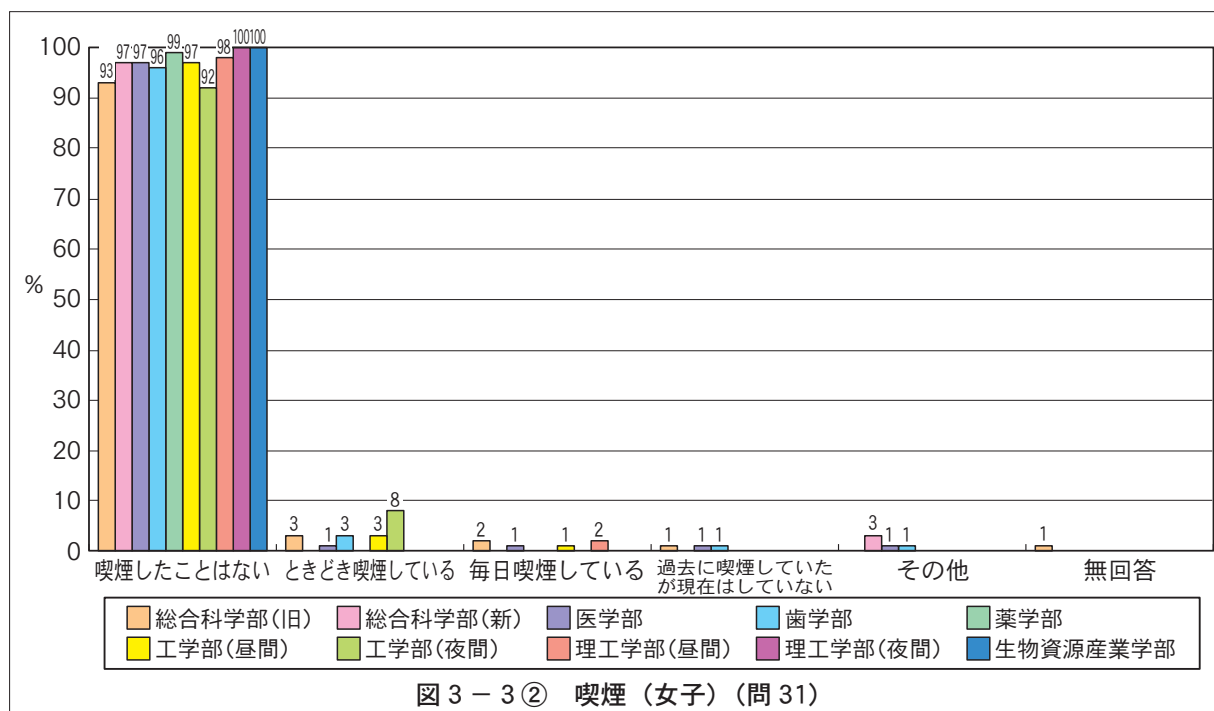
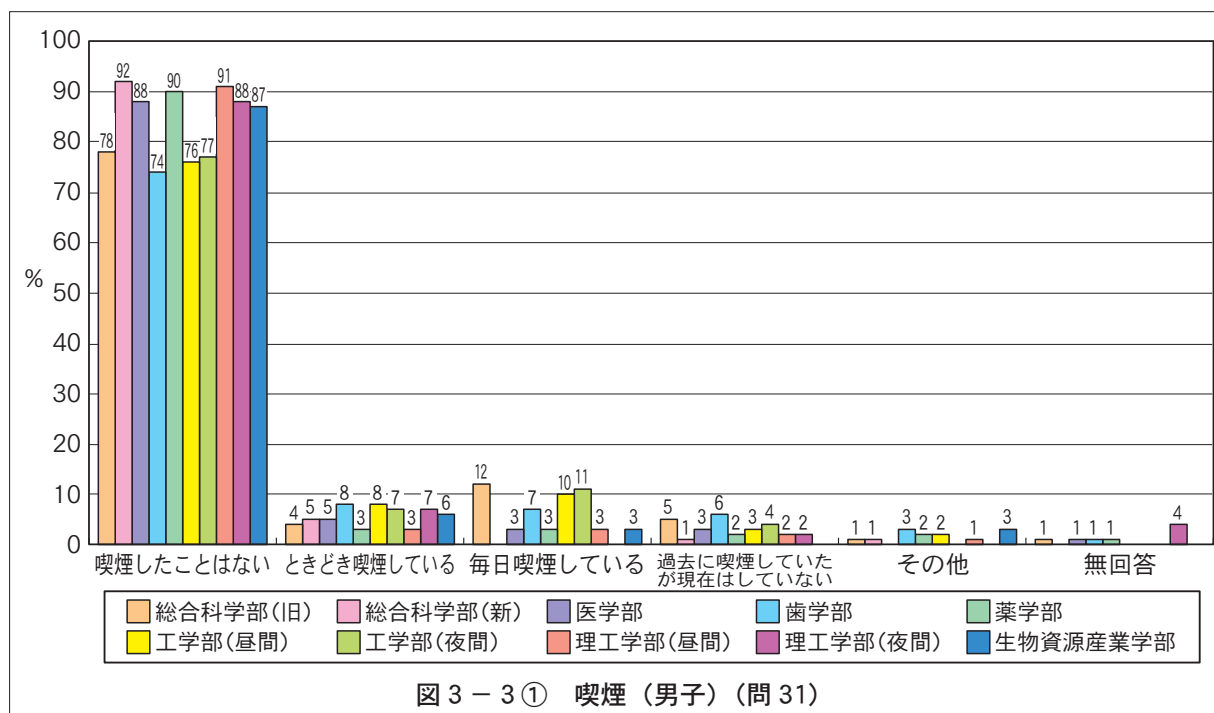
図3-2② 気になる症状 (女子) (問30)

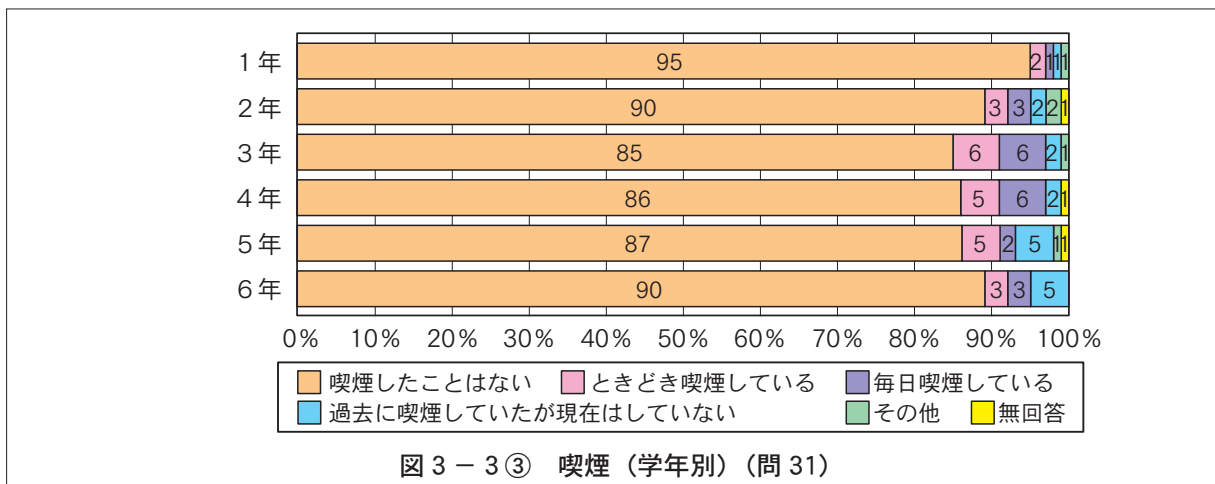
(※問30は複数回答のため合計は100%にはならない。)

利用も望まれる。

3-3 喫煙について (図3-3①, 図3-3②, 図3-3③)

「喫煙したことがない」学生は男子で84% (前回調査81%, 前々回調査78%), 女子で97% (前回調査97%)であり, 「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生を合わせると男子で87%, 女子で97%が喫煙していないという結果となった。前回調査に引き続いて, 今回調査でも男子の非喫煙率が上昇し, よい傾向が続いている。「ときどき, もしくは毎日喫煙している」学生は男子で12% (前回調査13%, 前々回調査14%), 女子で2% (前回調査2%)であり, 女子より男子で喫煙率が高いのは同様である。平成28年の国民健康栄養調査 (厚労省) では20代の喫煙率が男性31%, 女性6%であり, これと比

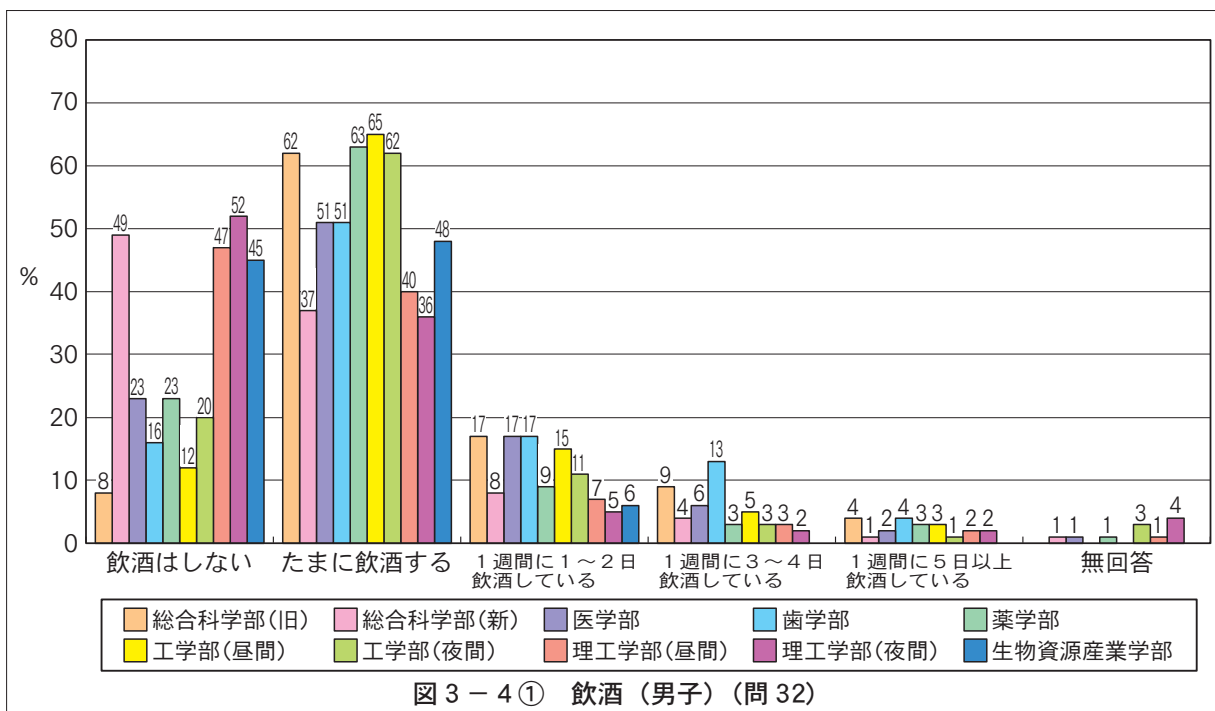




較して低いものの、男子においてはさらに低くなることが望まれる。学年別でみると、1年生では96%が非喫煙だが、3年生で喫煙率が12%と増加、5年生の喫煙率は7%であり前回調査の14%と比較して減少している。喫煙習慣が長年に及ぶと様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を習慣づけないように指導する必要がある。

3-4 飲酒について (図 3-4①, 図 3-4②, 図 3-4③, 図 3-4④)

「飲酒はしない」と答えた学生は男子26%（前回調査27%）、女子28%（前回調査29%）であり、男女共に飲酒しない学生は前回調査より微減している。「たまに飲酒する」と答えた学生は男子54%、女子58%であり、合わせて男子80%、女子86%の学生に飲酒習慣がみられなかった。一方、飲酒習慣のある学生のうち、週3、4日以上飲んでいる学生が男子で5%、女子で2%（いずれも前回調査と同様）見られるが、1回当たりの飲酒量が問題となる。



週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち、男子22%、女子37%では1回当たりの飲酒量が適度とされる量であった。一方、3合以上飲酒する学生が、男子で33%、女子で9%みられ、多量飲酒とされる1日平均純アルコール量で60g（日本酒で3合）前後を習慣的に飲酒している可能性があり、

これは長期間継続するとアルコール関連健康障害などの酒害に発展する飲酒レベルである。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒1合）といわれており、アルコールの過剰摂取には十分気をつけるよう指導していく必要がある。

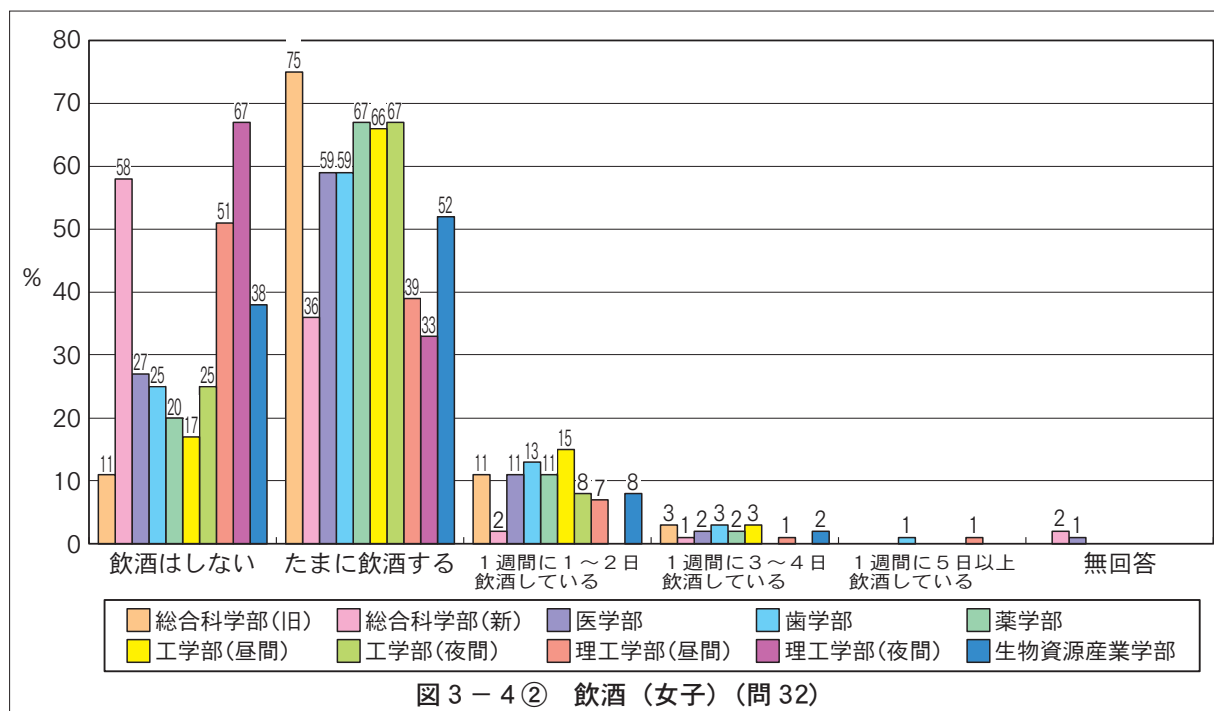


図 3-4② 飲酒 (女子) (問 32)

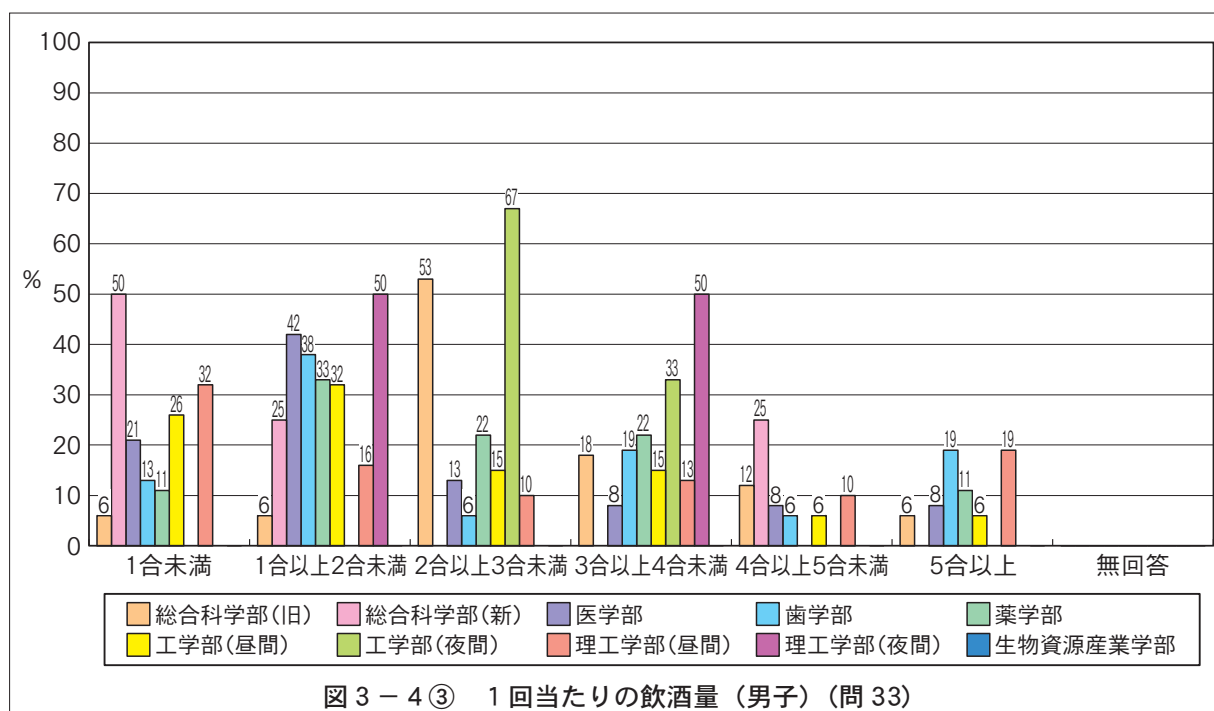


図 3-4③ 1回当たりの飲酒量 (男子) (問 33)

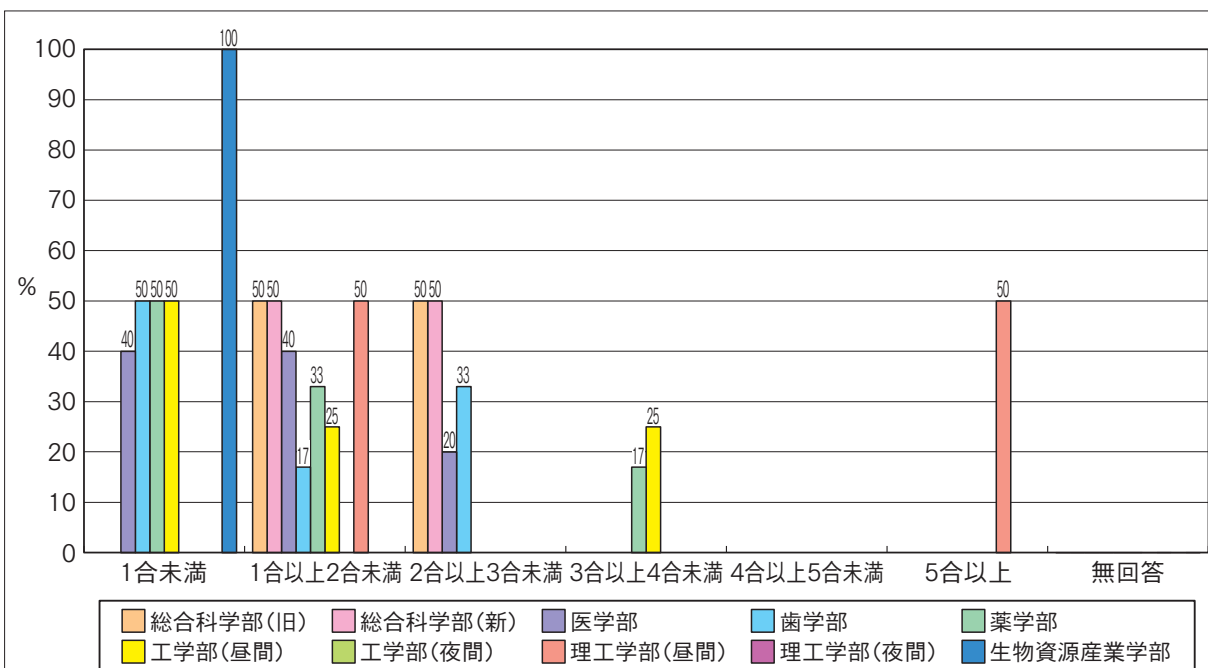


図3-4④ 1回当たりの飲酒量(女子)(問33)

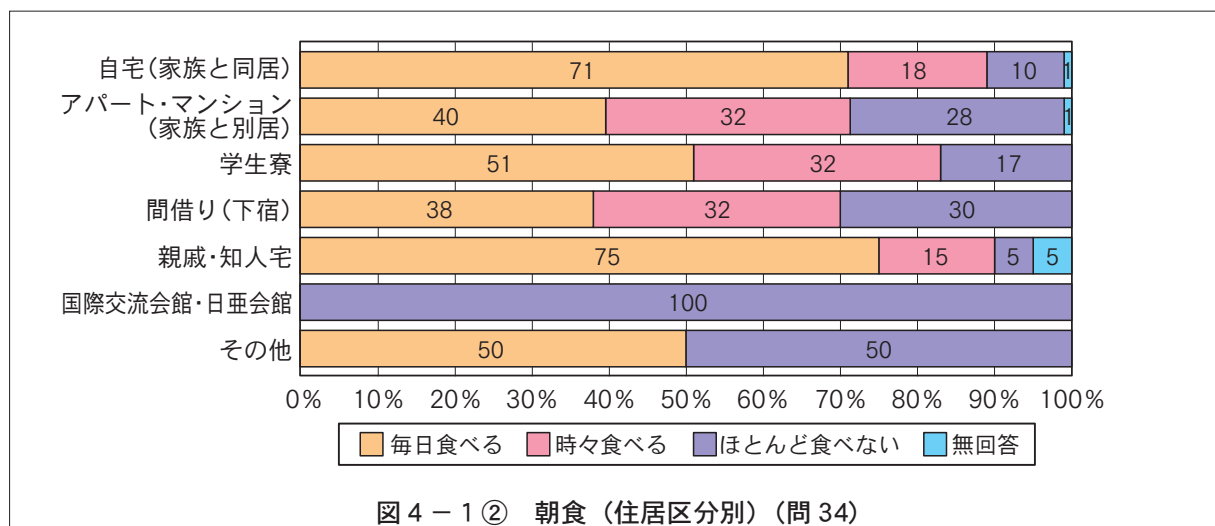
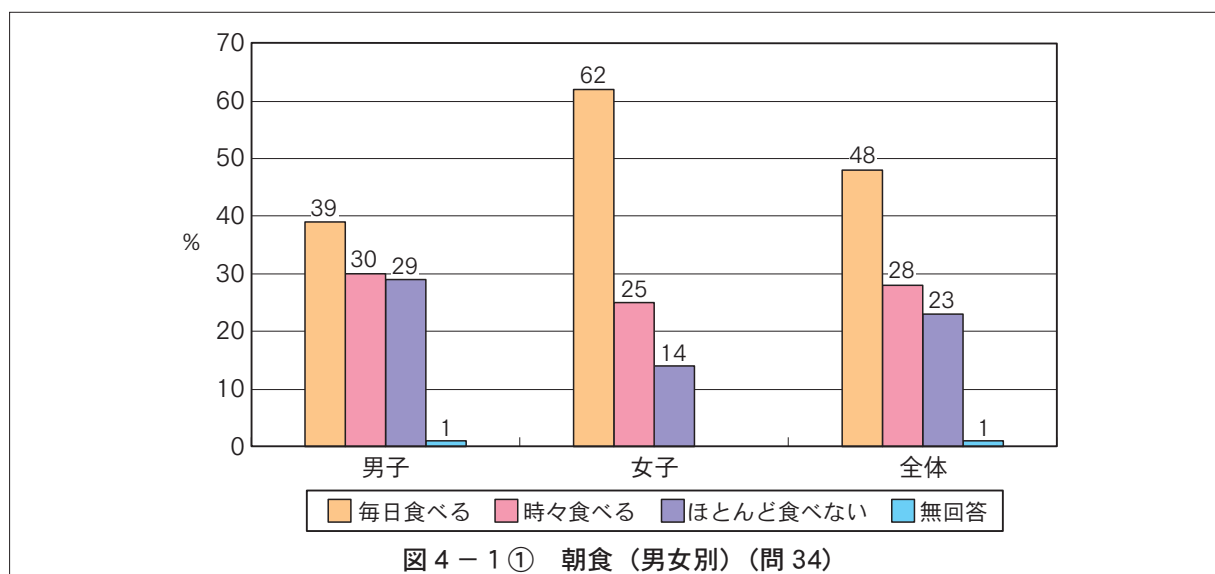
第4章 食事について

4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

学生全体では、約半数（48%）の学生は毎日朝食を食べているが、残りの半数は時々食べる（28%）、あるいは、ほとんど食べない（23%）のいずれかであった。全体および男女別ともに前回の調査結果と同じであった。

男女別にみると、毎日朝食を食べている割合は、女子（62%）が男性（39%）よりも高かった。一方、朝食をほとんど食べない割合は女子（14%）が男子（29%）よりも低かった。つまり、男女の約半数は毎日朝食を食べているが、男子の約3人に1人、女子の7人に1人は朝食をほとんど食べていないことが分かった。

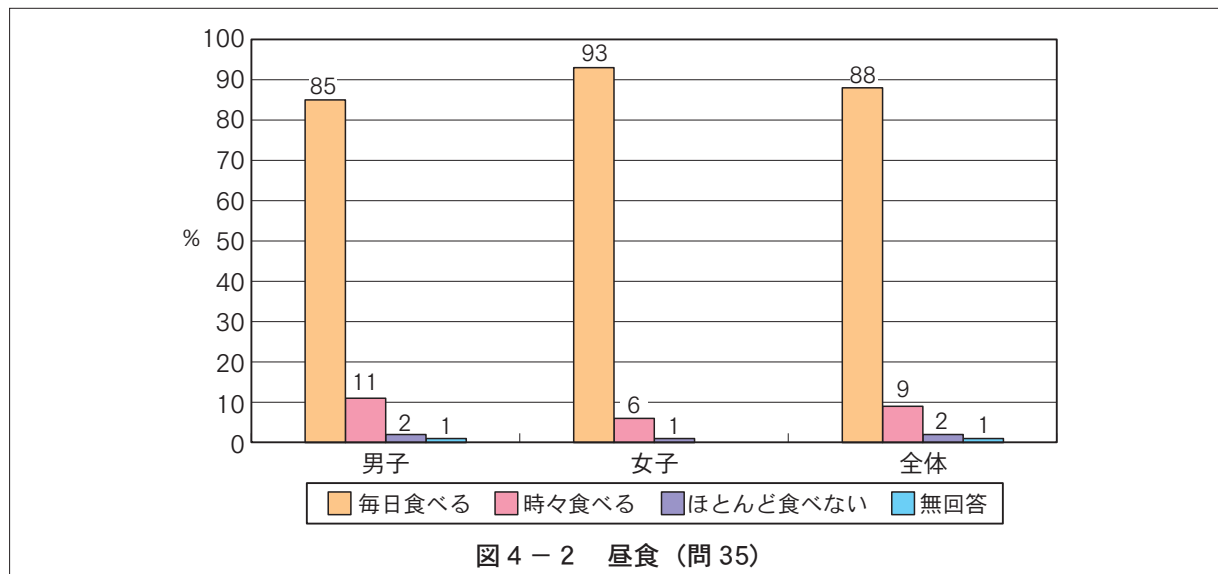
また住居区分別でも、前回調査と同様な割合が認められ、毎日朝食を食べている割合は、自宅（家族と同居）が71%、親戚・知人宅が75%であり、アパート・マンション（家族と別居）が40%、学生寮が51%、間借り（下宿）が38%であり、毎日朝食を食べる割合は、家族あるいは親戚・知人宅では約70%であるのに対し、学生単独での場合には38～51%と低かった。国際交流会館・日亜会館では、朝食をほとんど食べない割合は100%であった。



以上のことから、男子ならびに家族と別居して一人暮らしをしている学生は、毎日朝食を食べる割合が低い。これらの学生を含めて朝食を食べる生活習慣の指導をすることが必要と考えられる。

4-2 昼食 (図4-2)

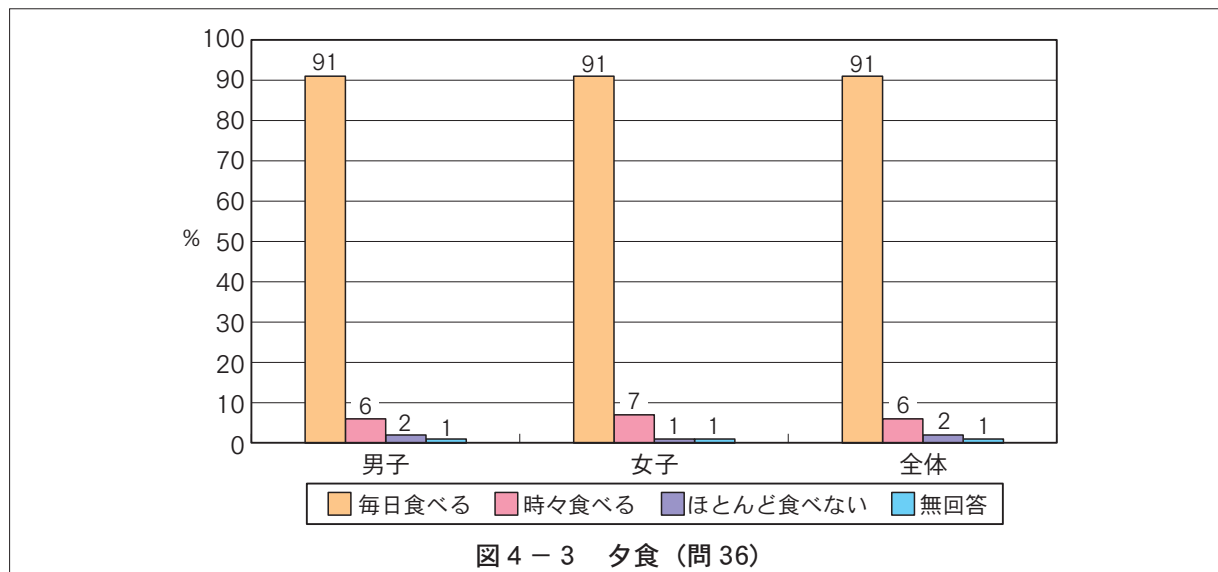
学生全体では、88%の学生は毎日昼食を食べており、男女別にみると、毎日昼食を食べている割合は、女子が93%、男子が85%であり、やや女子の割合が高い。残りの9% (男子11%、女子6%)の学生は昼食を時々食べており、ほとんど食べない学生もごくわずか (男子2%、女子1%) みられた。これらの結果は、前回の調査結果とほぼ同じであった。



4-3 夕食 (図4-3)

学生全体では、91%の学生は毎日夕食を食べており、6%は時々夕食を食べている。夕食を食べない学生は2%である。男女別にみると、毎日夕食を食べている割合は、男女ともに91%であった。全体および男女別ともに前回の調査結果とほぼ同じであった。

夕食についても、昼食の場合と同様に、ほとんどの学生が毎日夕食を食べていることが分かった。



6%（男子6%，女子7%）の学生は夕食を時々しか食べず、また、ほとんど食べない学生もごくわずか（男子2%，女子1%）であるがみられた。

4-4 昼食の利用場所 (図4-4)

学生全体での昼食の利用場所について、常三島第1食堂（生協）、常三島第2食堂（工学部構内）、蔵本会館食堂、弁当、自宅（下宿）の割合は、それぞれ22%、10%、17%、15%、15%であった。前回の調査結果と比べて、常三島第1食堂（生協）が6%から22%に増加し、常三島第2食堂（工学部構内）が14%から10%に減少しているが、これは常三島第1食堂（生協）の改修工事が終わり利用可能になったことによると考えられる。蔵本会館食堂は12%から17%に増加している。一方、弁当の購入は20%から15%に、自宅（下宿）は前回調査の20%から15%に、それぞれ減少した。全体では、昼食の利用場所は、前回の調査結果と比べて、常三島第1食堂（生協と蔵本会館食堂の割合が増加していた。

昼食における食堂の利用は、常三島地区では総合科学部（旧）24%、総合科学部（新）61%、工学部昼間30%、理工学部昼間64%、工学部夜間17%、理工学部夜間32%、生物資源産業学部73%、蔵本地区では医学部38%、歯学部29%、薬学部59%であり、両地区ともに学部によって利用率に大きな違いが見られた。食堂利用率が高い学部では、弁当を利用する割合は低い傾向にある。自宅で昼食を食べる学生の割合は、蔵本地区では約10%（医学部8%、歯学部14%、薬学部9%）と低いが、常三島地区では高い傾向にあり、特に総合科学部（旧）36%、工学部昼間20%、工学部夜間39%、理工学部夜間36%では高い。

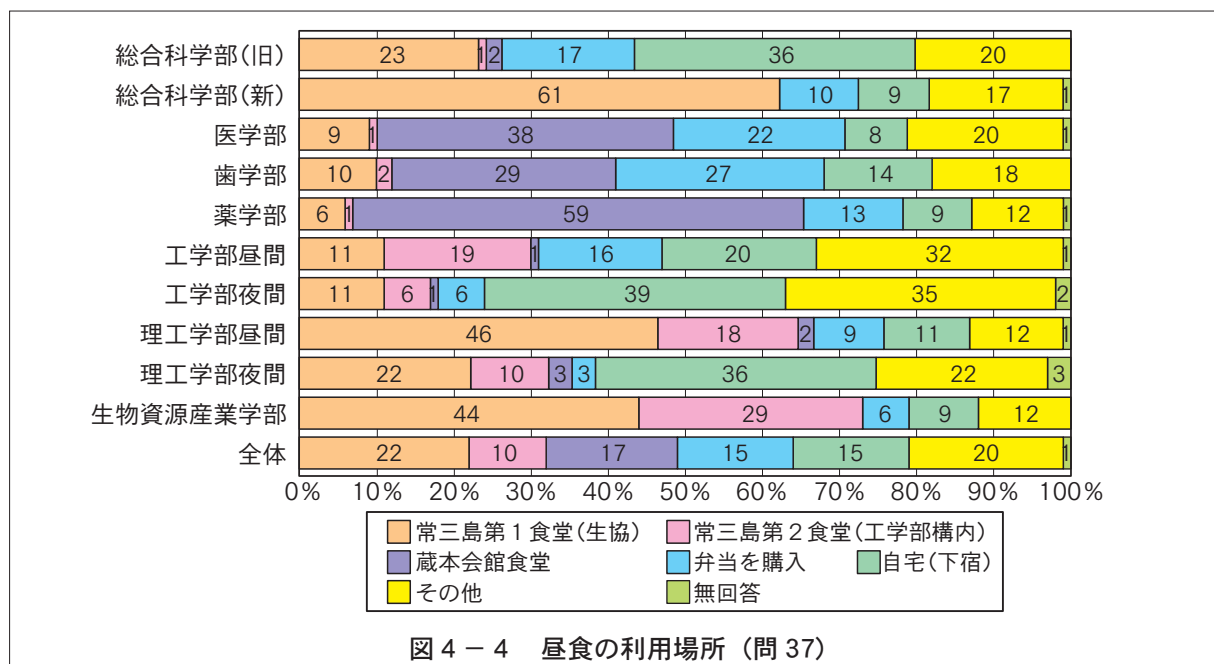
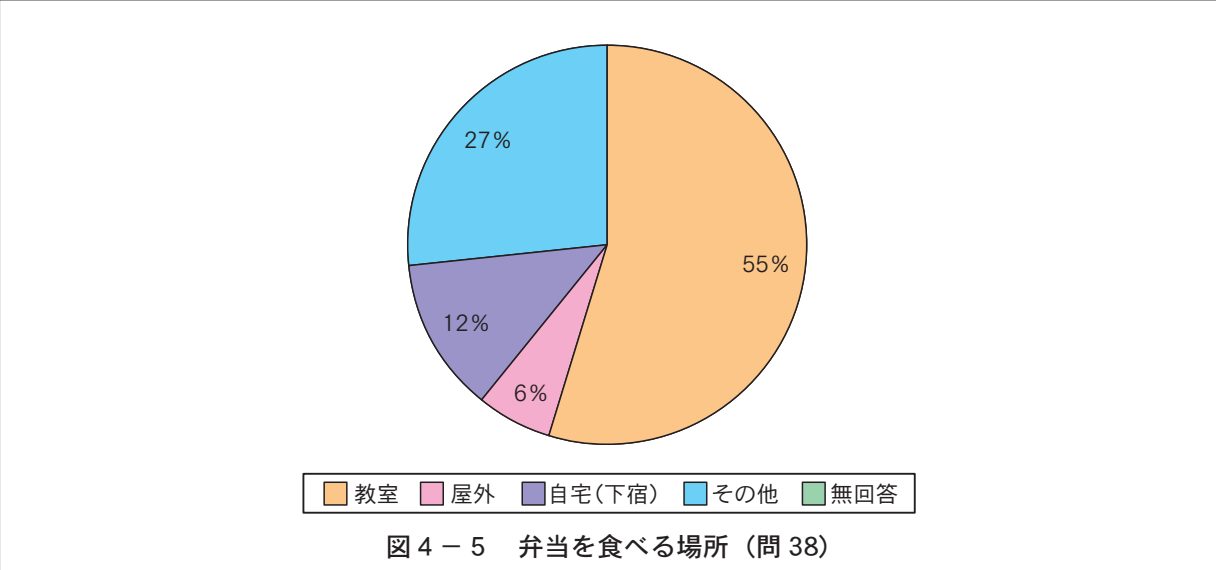


図4-4 昼食の利用場所 (問37)

4-5 弁当を食べる場所 (図4-5)

学生が弁当を食べる場所は、教室55%、屋外6%、自宅（下宿）12%、その他27%であった。前回の調査結果と比べて、教室で食べる割合はほぼ同じで、学生の半数は弁当を教室で食べている。自宅（下宿）の割合も同じだが、屋外の割合は12%から6%に減少している。教室を利用する割合が多いのは、時間の節約あるいは教室が利用しやすいことや昼食を食べるのに他に適当な場所が見つからないなどの理由が考えられる。



4-6 学生食堂について感じる事 (図 4-6①, 図 4-6②)

回答の内容の割合は前回の調査結果とほぼ同じ傾向であり、昼食時の混雑がひどいが50%を占め、次に値段が高いが36%であり、メニューが少ないが26%であった。その他、開店時間が短い8%、場所が不便であるが4%であった。

昼食の時間に学生が集中するのは、カリキュラムの時間割によると思われるが、約半数の学生が昼食時に混雑がひどいと感じて食事をしていることが分かった。常三島第一食堂の改修時に座席数を大幅に増やしたが、混雑解消には至っていない結果となっている。また、学生の26～36%が、学生食堂のメニューが少なく、値段が高いと感じており、前回調査とほぼ同様の結果である。学生食堂に対する学生のこれらの感想に対して、何らかの対応を行うことが求められる。

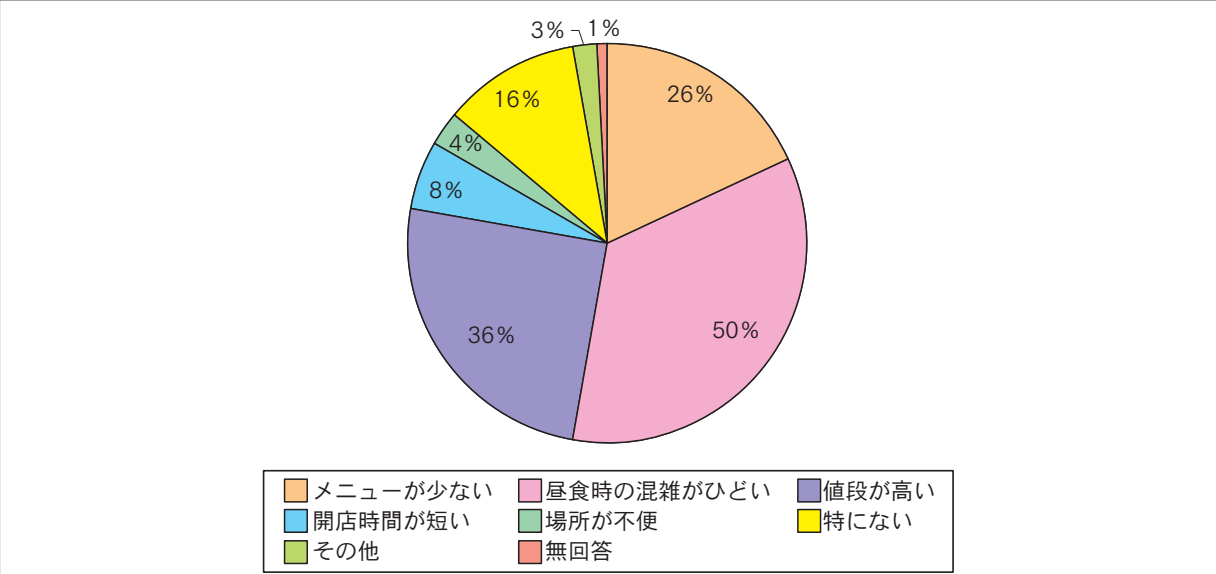


図 4-6① 学生食堂について感じていること (問 39)

(※問 39 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

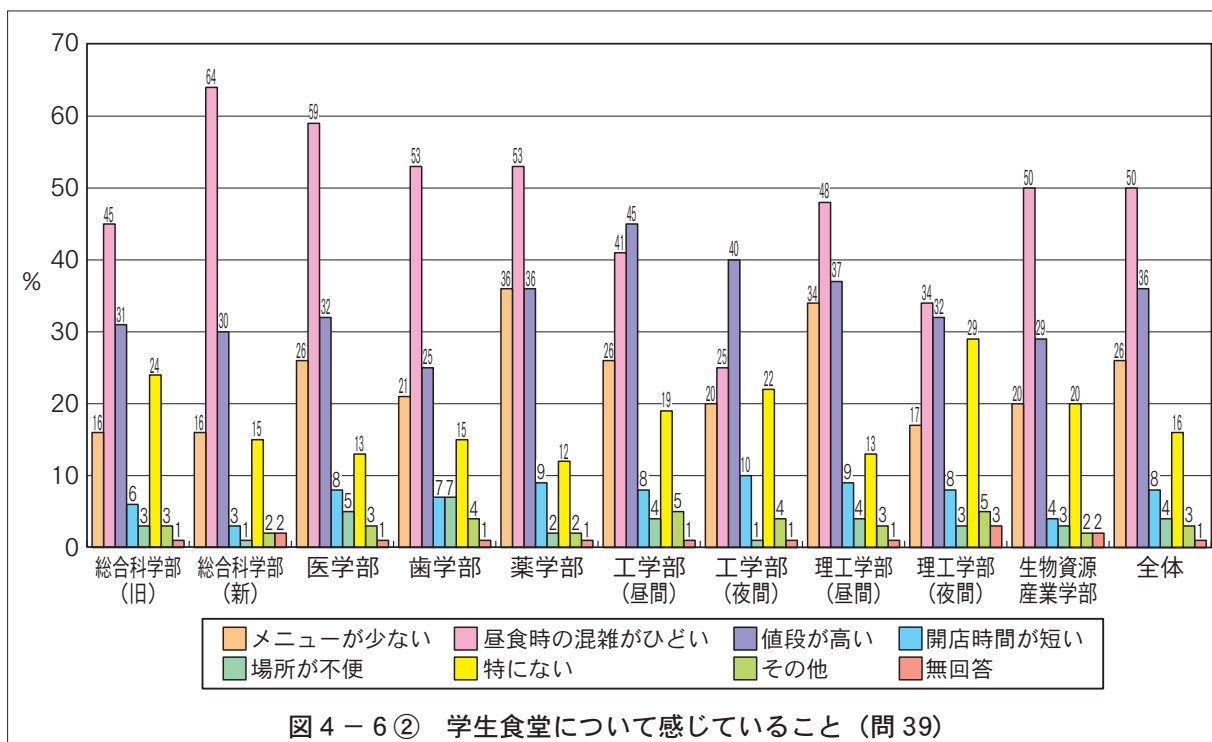


図 4 - 6 ② 学生食堂について感じていること (問 39)

(※問 39 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

今回の調査結果から、特に昼食では学生の多くが学生食堂を利用していることを考え、食堂のメニューや値段などについて検討して、学生の食生活をさらにサポートする必要がある。

第5章 学生生活上の問題点

5-1 大学生生活の意義 (図5-1①～図5-3②)

【項目間の比較】(図5-1①)

どの学部・学科共、第1位は「勉強や研究」であり(28～45%)、全体の平均値は、前回調査の値より1%高い38%である。教育・指導の効果がこの変化の一要因になっていると思われる。第2位は「特に重点もなく程々に」、第3位は「趣味・娯楽」となり、前回調査と同様の結果であった。第4位も前回調査と同様に「豊かな人間関係を結ぶこと」であった。第2位から第4位までは僅差であり、学生は個人活動を重視しつつも、他者との関わりにも重きを置いていることが伺われる。

【学部・学科・学年間での比較】(図5-1①～図5-1③)

「勉強や研究」は、医学部と生物資源産業学部が45%で最も高く、僅差で歯学部、薬学部が続いている。これは専門性の高い職業に結びつきやすい学部・学科では学業への意識が高いものと推察され、その結果であると考えられる。そして、工学部は改組により理工学部と生物資源産業学部となったが、生物資源産業学部が高い数値を示しているのは、改組の一つの効果と見なせるかもしれない。工学部昼間・夜間と理工学部昼間は他の学部・学科に比べ「趣味・娯楽」の割合が高く、個人活動を重視する傾向があるのかもしれない。

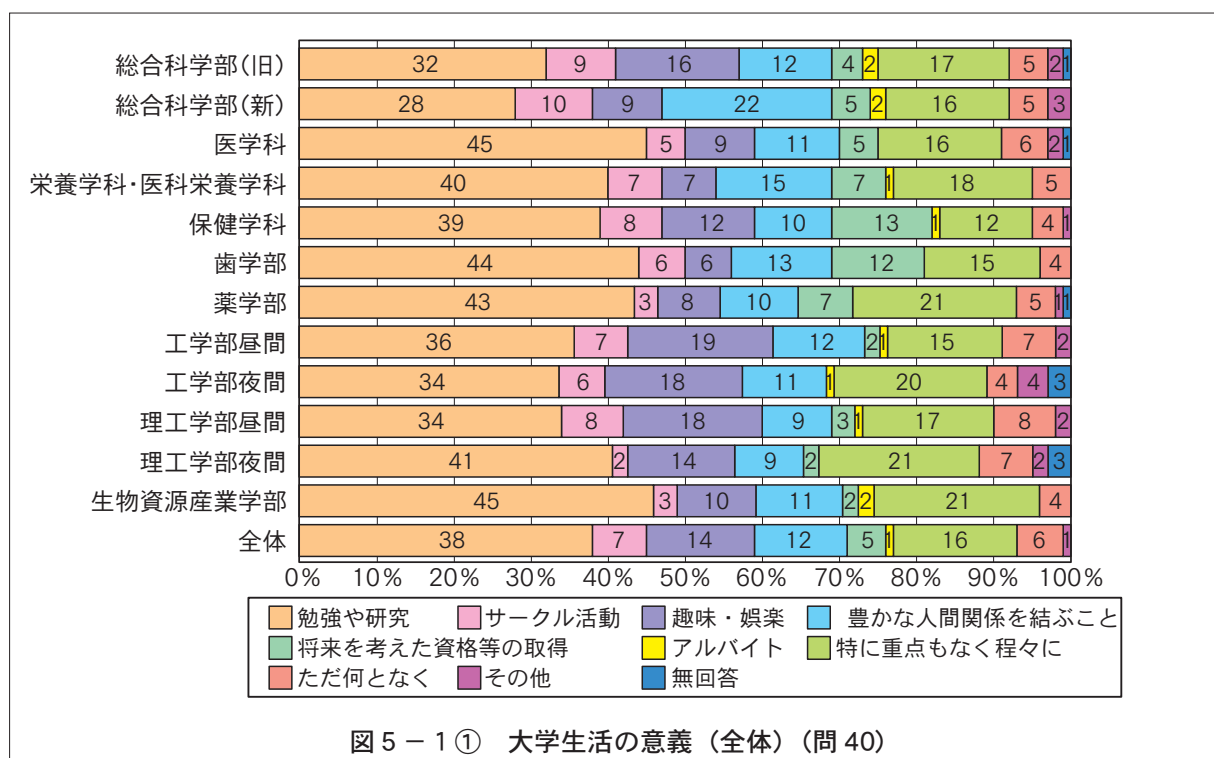
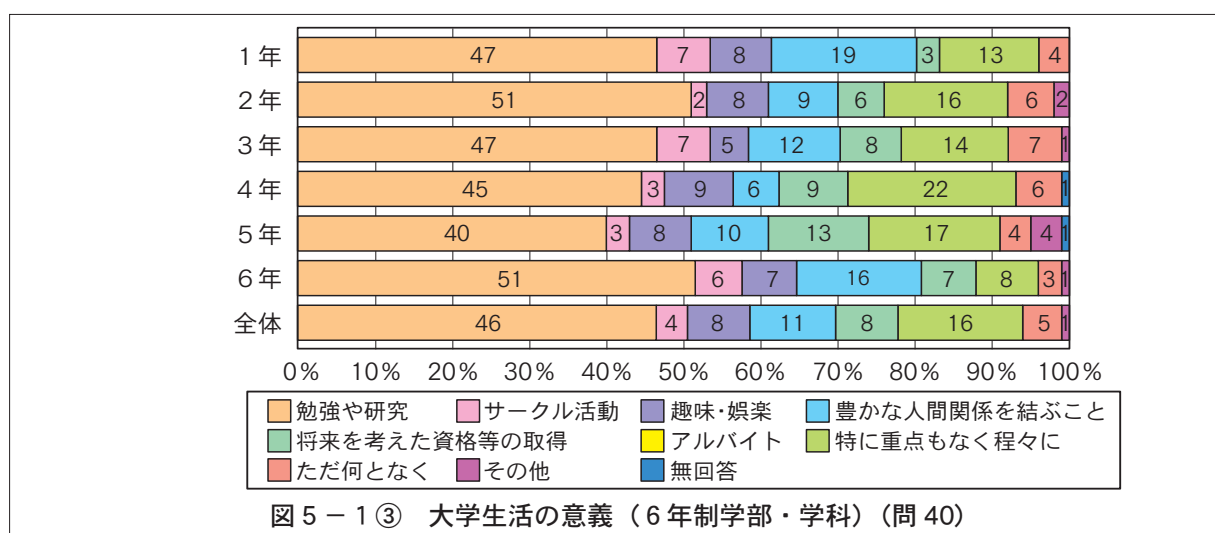
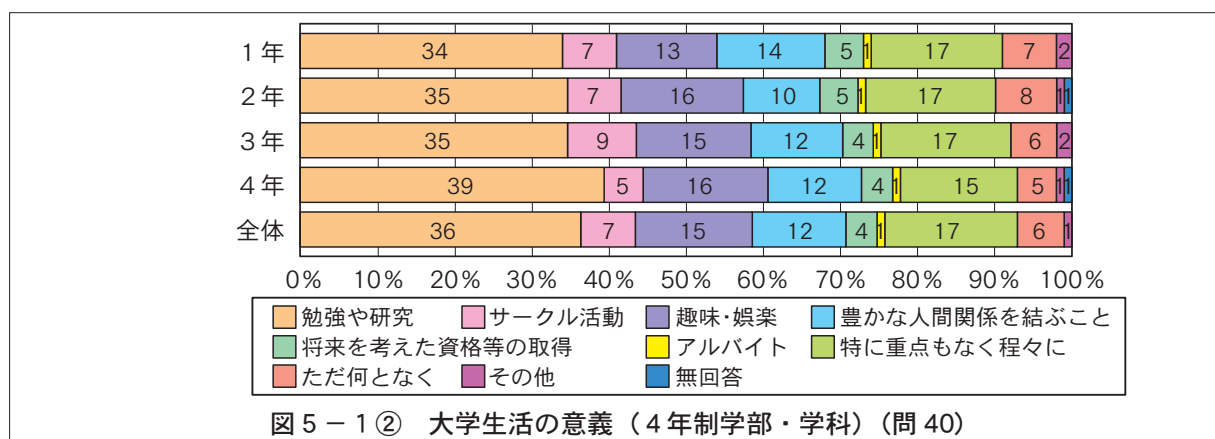


図5-1① 大学生生活の意義 (全体) (問40)

4年制では「勉強と研究」の割合は、一番高いのは39%で4年生であり、卒業研究や卒業論文に真摯に取り組んでいる結果と思われる。1・2・3年生は34～35%と同じ程度になっている。全体では「特に重点もなく程々に」の割合が前回調査より増え、「趣味・娯楽」や「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合より高く、価値観が多様化していることを表しているのかもしれない。6年制では「勉強と研究」の割合は、前回調査で最も高かった6年生と前々回調査で最も高かった2年生が共に51%で最も高い値を示しており、6年生に関しては、これまでの学業の成果に意義を感じているものと思われる。4年制・

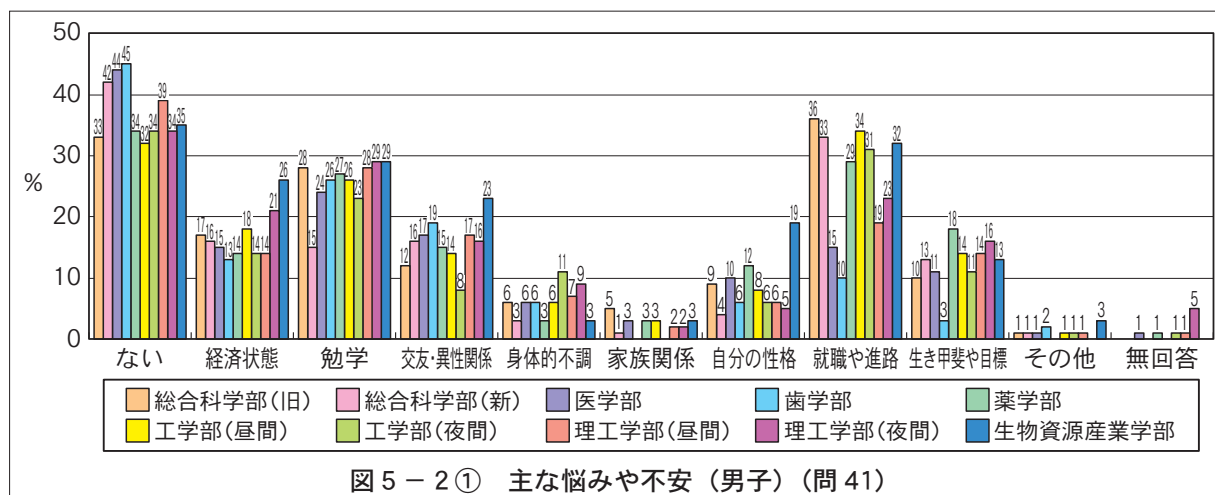
6年制共に「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合は、1年生が最も高く、入学時に新たな人間関係に期待していることの表れと考えることもできよう。



5-2 悩みと相談 (図 5-2①~図 5-2⑤)

【主な悩みや不安】(図 5-2①~図 5-2③)

前回調査と同様、悩みや不安がないと回答した割合は男子の方が多かった。男子では第1位が「勉学」、 「就職や進路」であり、女子では第1位が「就職や進路」で、第2位が「勉学」であった。国家試験で



(※問 41 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

資格を得られる学部では、「就職や進路」に関する悩みや不安を持つ学生の割合が低い傾向が見られる。逆にこの割合が高いのは、生物資源産業学部女子であり、半数以上にあたる53%が将来の就職・進路に不安を感じており、大学からの支援が必要と思われる。また、理工学部夜間女子の67%が「生き甲斐や目標」について悩みや不安を持っており、こちらも大学からの支援が必要であろう。

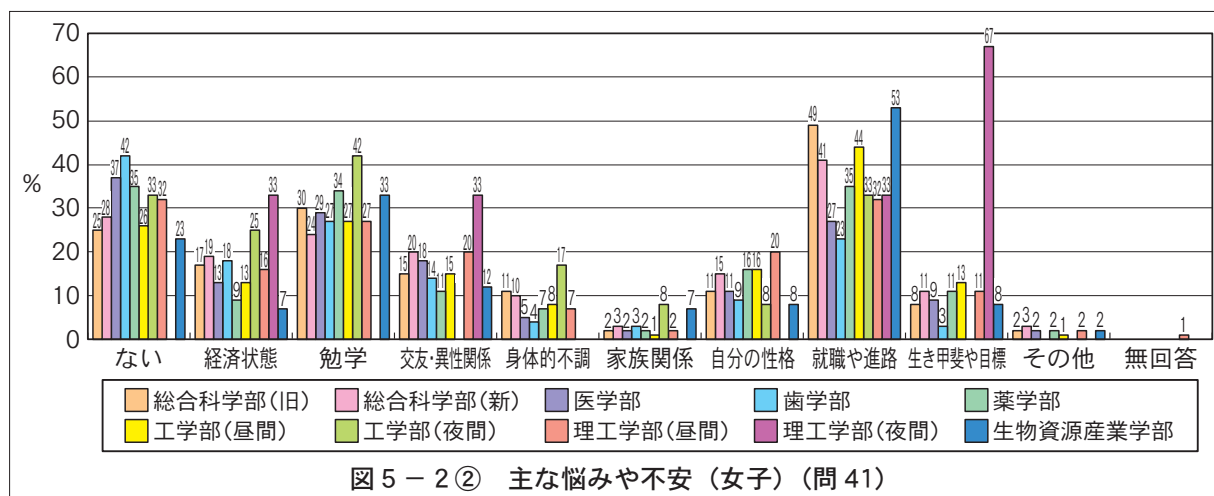


図5-2② 主な悩みや不安 (女子) (問41)

(※問41は複数回答のため合計は100%にはならない。)

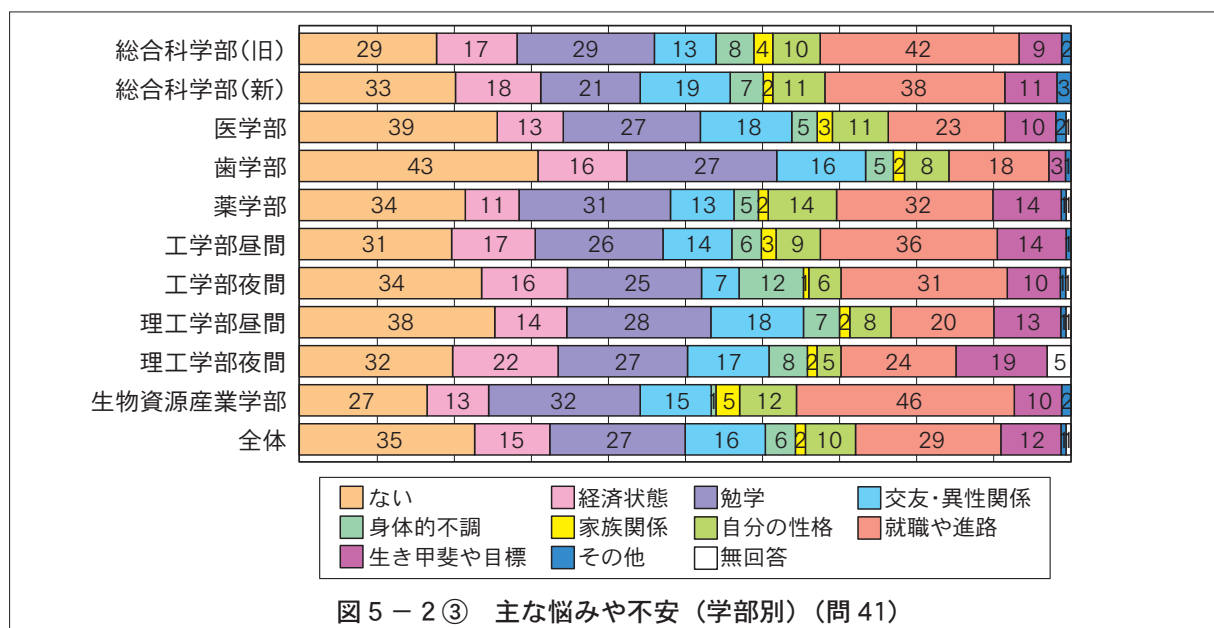
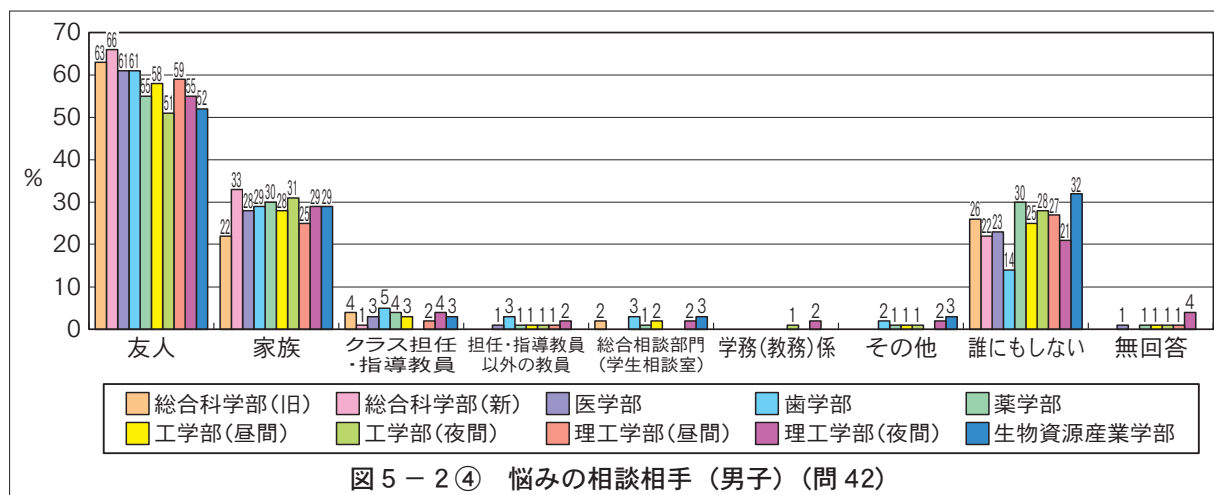


図5-2③ 主な悩みや不安 (学部別) (問41)

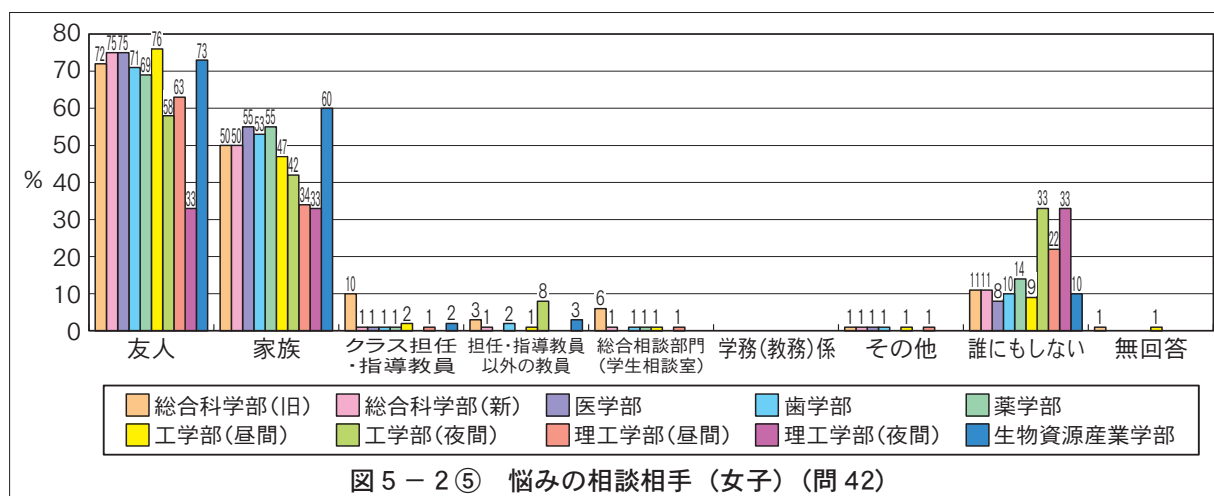
(※問41は複数回答のため合計は100%にはならない。)

【相談相手】(図5-2④, 図5-2⑤)

どの学部・学科も第1位が友人, 第2位が家族であるが, それらの割合は基本的には女子の方が男子よりも高かった。教員と回答した割合は低いが, の中では, 男子で歯学部が5%, 女子で総合科学部(旧)が10%と高かった。部局関係者による対応が奏功していると思われる。男子の14~32%と女子の8~33%は誰にも相談しないと回答しており, 前回調査と同様に, ある程度の学生が自力で悩みや不安を何とかしようとしている様子が伺われるが, 解消できない場合も多いと思われるため, 支援を要する学生を早めに見出し, 悩みや不安の内容に応じて, 部局教職員や保健管理・総合相談センターにつないでいく体制を強固にすることが必要と思われる。



(※問42は複数回答のため合計は100%にはならない。)

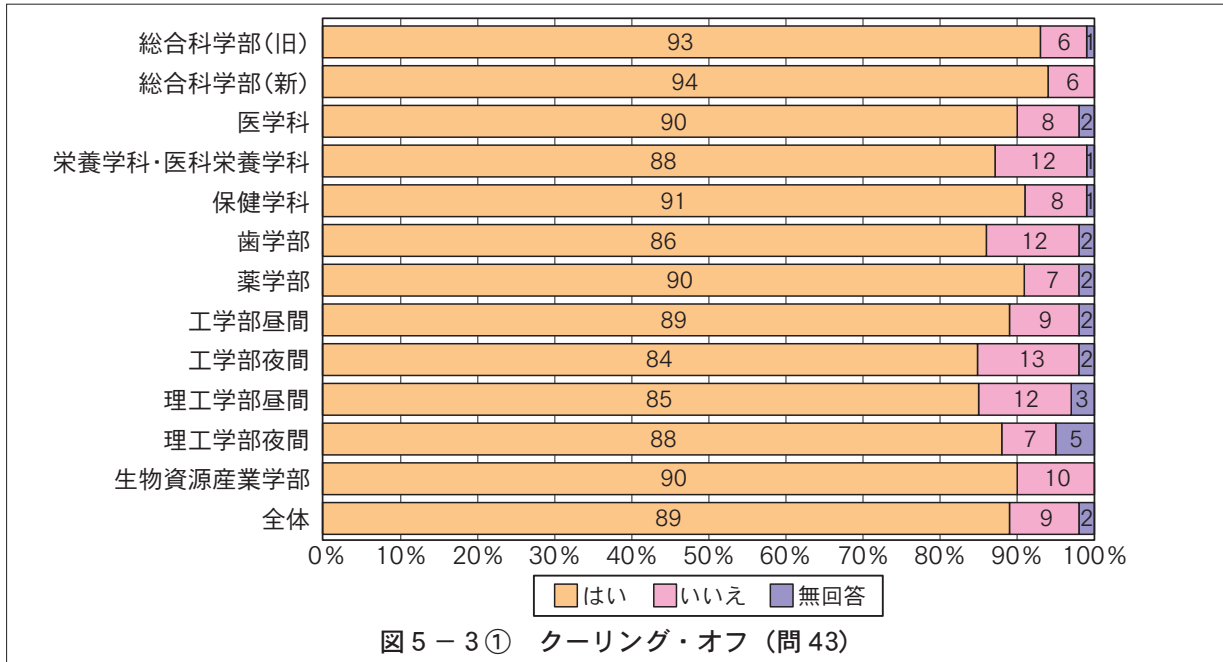


(※問42は複数回答のため合計は100%にはならない。)

5-3 迷惑行為 (図5-3①~図5-3⑫)

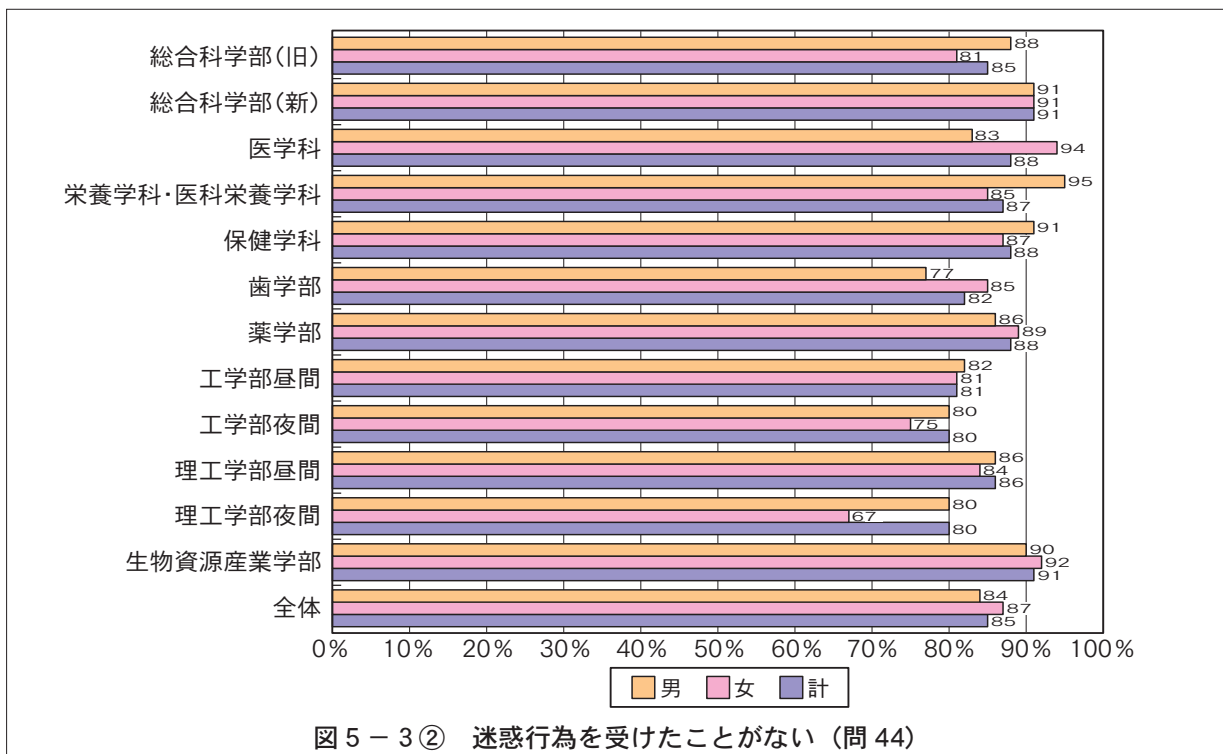
【クーリング・オフ制度の認識】(図5-3①)

全体89%の学生がクーリング・オフ制度を認識しており、前回調査より2%減少した。総合科学部(旧)で93%、同学部(新)で94%と高かった。学部ガイダンスや大学入門講座における教育効果によるものと考えられることから、これまでの啓蒙活動をしっかりと継続することが重要である。



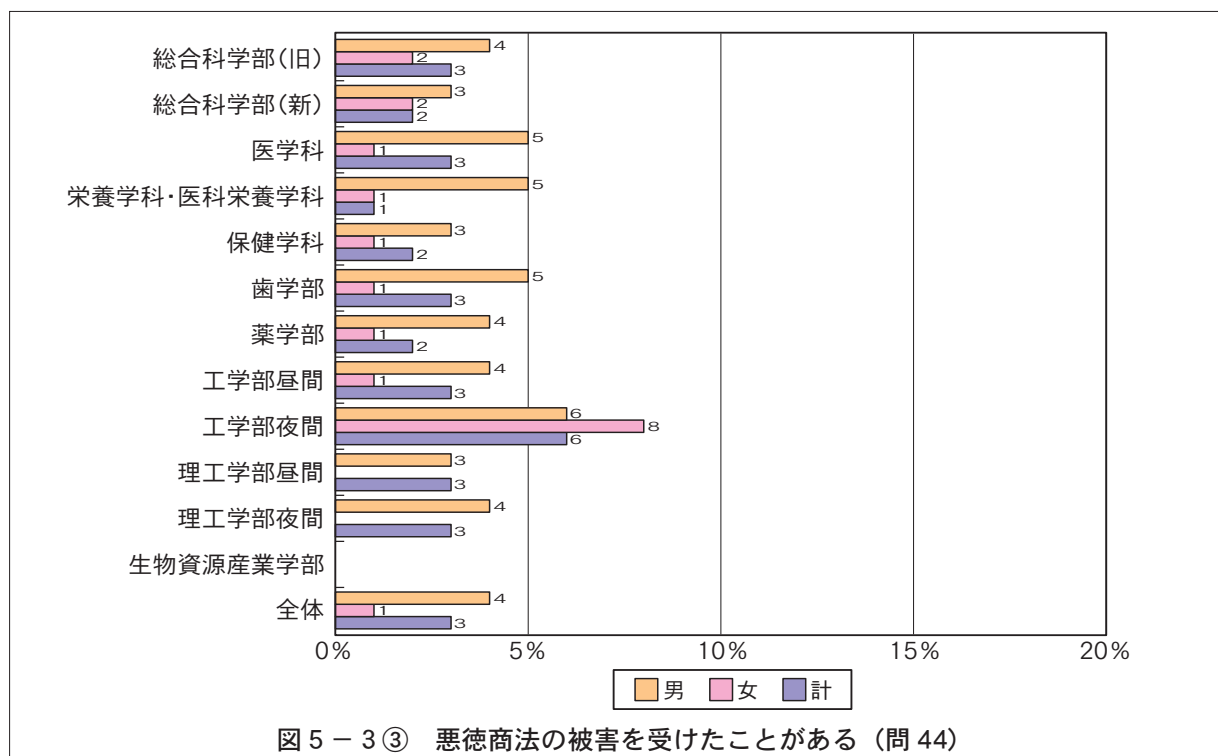
【迷惑行為全体】(図5-3②)

迷惑行為を受けていないと答えたのは、男子全体で84% (前回調査85%)、女子全体で87% (前回調査85%)であった。理工学部夜間女子で67%と低かった。



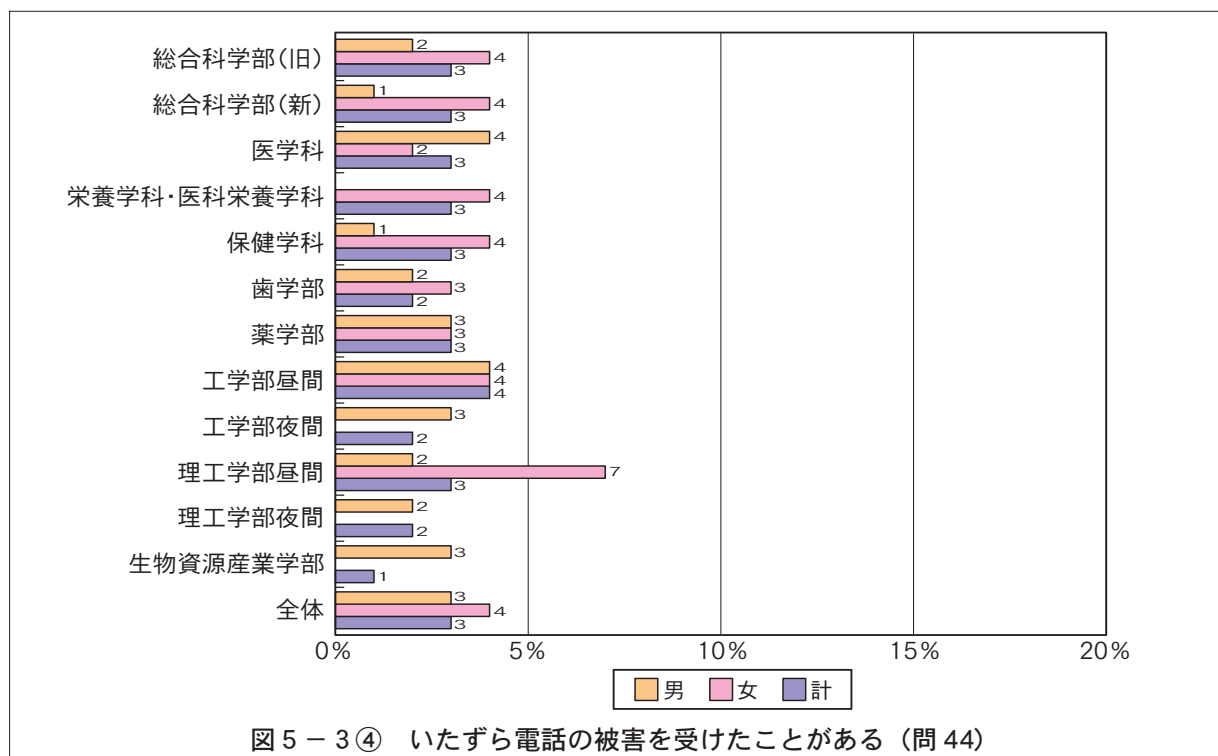
【悪徳商法】(図5-3③)

悪徳商法の勧誘を受けた学生は全体の3%であるが、工学部夜間女子は8%と高かった。前回調査では、工学部夜間女子は4%であったことから、何らかの特殊要因が働いたように思われる。原因を調査し、注意喚起・予防対応の実施が必要である。



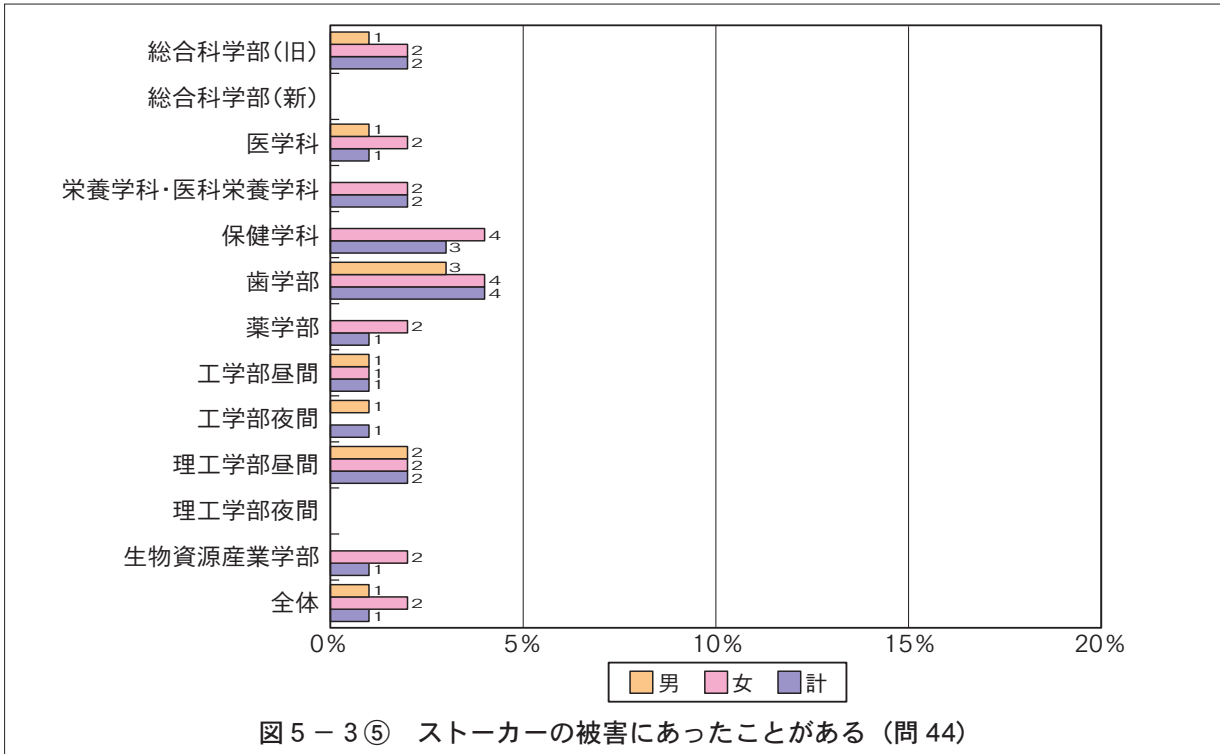
【いたずら電話】(図5-3④)

全体の3%の学生がいたずら電話を受けたと答えている。前回調査ではすべて4%以下の値であったが、今回調査では、理工学部昼間女子が7%と突出して高かった。



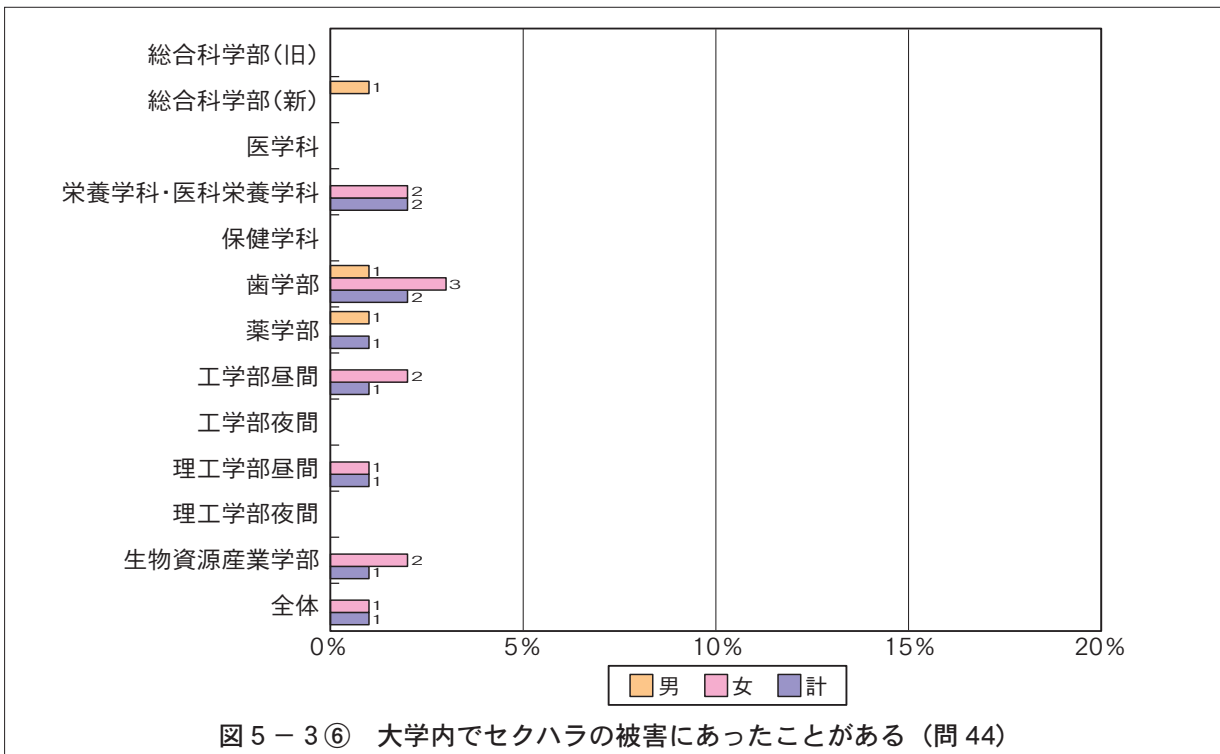
【ストーカー】(図5-3⑤)

今回調査は前回調査より1%低くなり、全体で1%であった。保健学科女子と歯学部女子で4%と高く、前回調査と同様に女子学生の方が高い割合を示している。



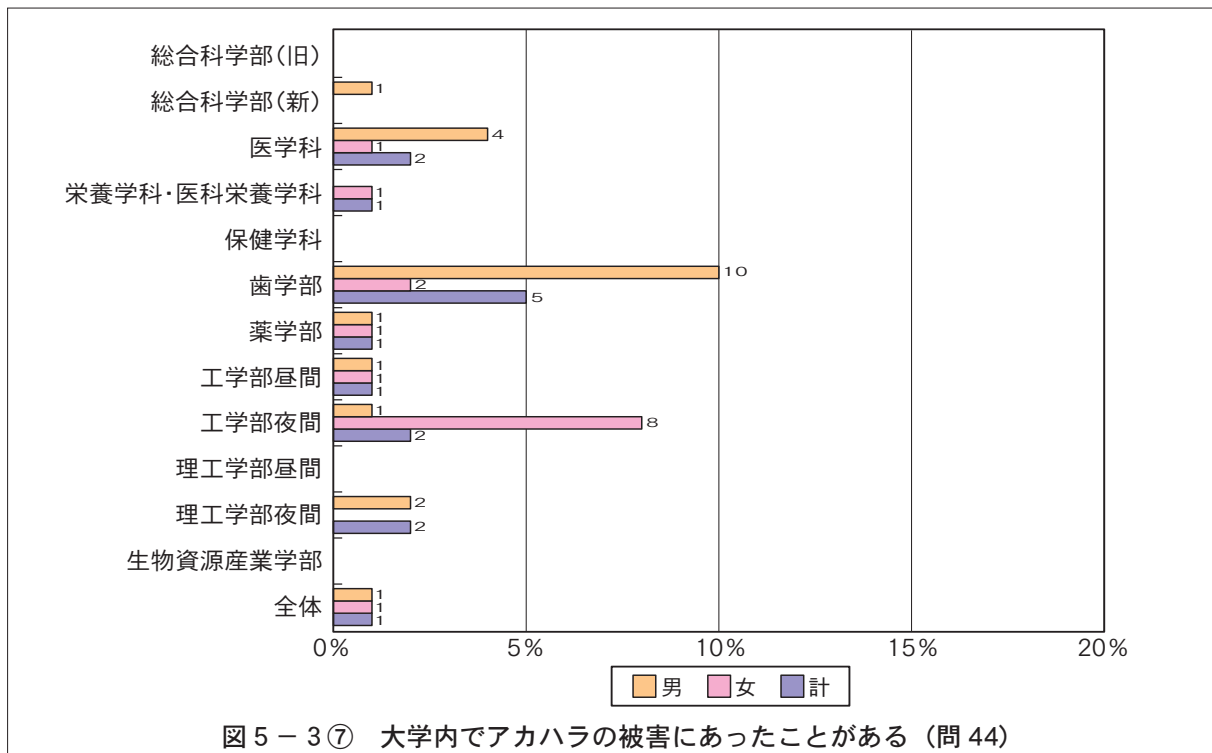
【大学内でのセクハラ】(図5-3⑥)

前回調査同様、全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は1%であった。全体として女性の割合が高めであり、歯学部女子で3%と高かった。セクハラ被害撲滅に向かって啓発運動を継続する必要がある。



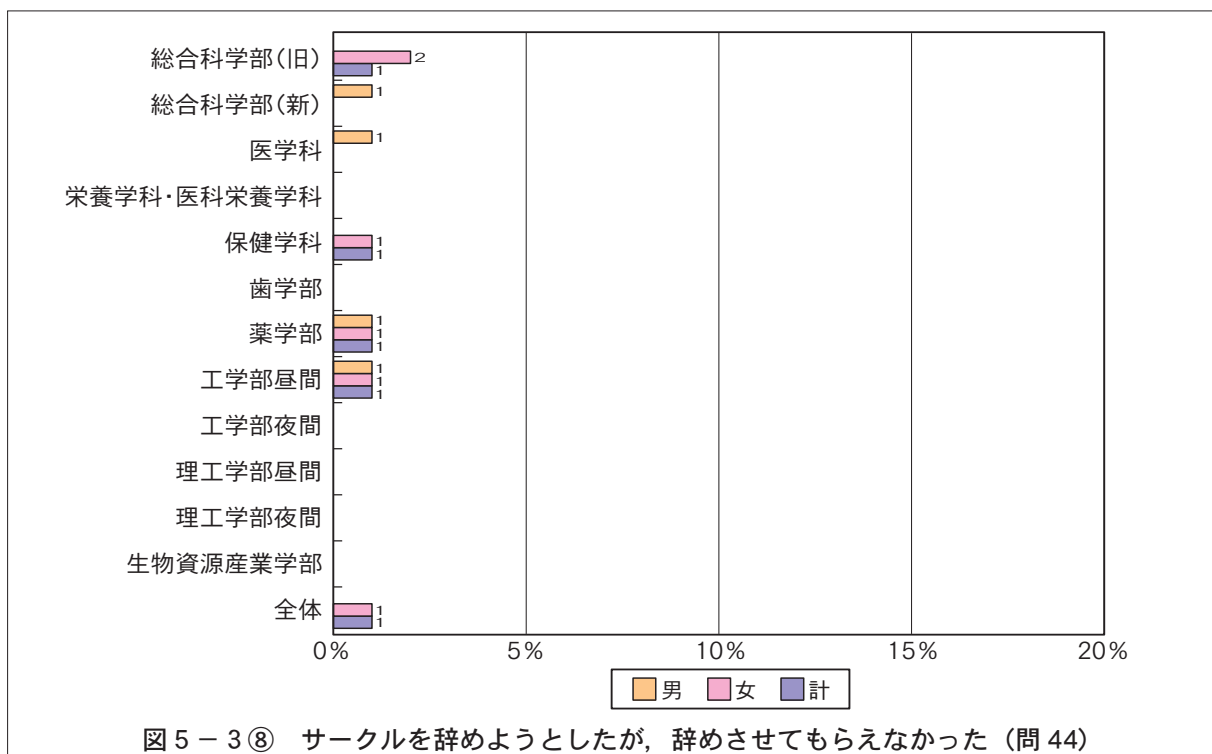
【大学内でのアカハラ】（図5-3⑦）

前回調査同様、全体では1%であるが、今回は歯学部男子で10%、工学部夜間女子で8%がアカハラの被害にあったと答えている。大学と当該部局が連携して早急に解決に向け対応を協議する必要がある。



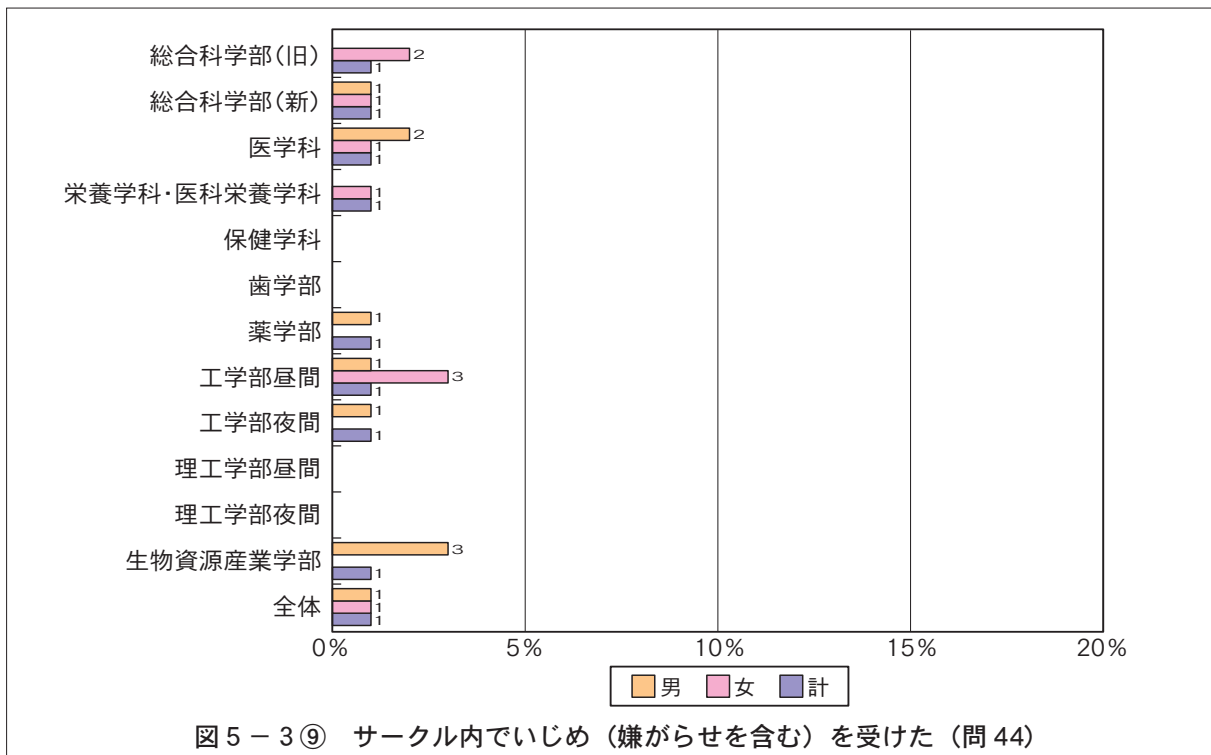
【サークル退部の阻止】（図5-3⑧）

前回調査同様、全体に1%の学生がサークルを辞めさせてもらえなかったと回答した。前回調査同様、学部間差はあまりない。学生の意向を尊重するようサークル活動の指導を強化すべきである。



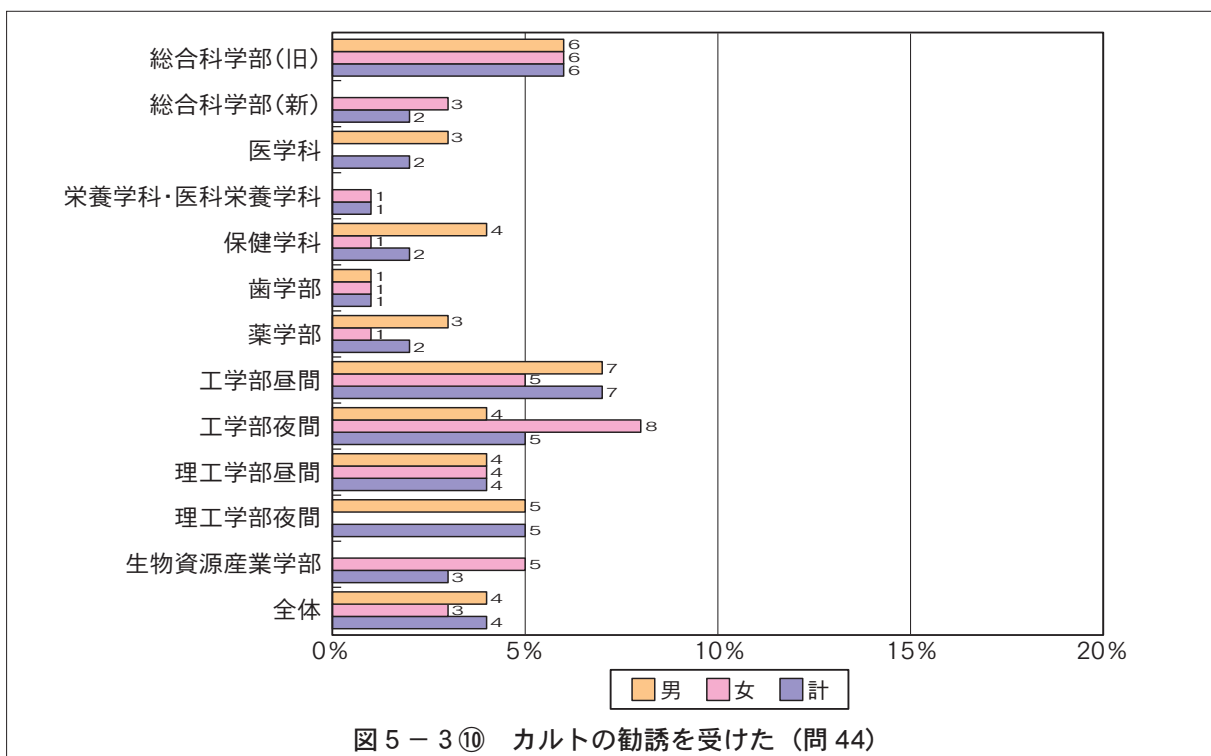
【サークル内でのいじめ】(図5-3⑨)

前回調査同様、全体の1%のサークル内でいじめを受けたと答えている。サークル活動・運営に関する指導の中にいじめや飲酒強要などの項目を引き続き盛り込み、予防に努める必要がある。



【カルトの勧誘】(図5-3⑩)

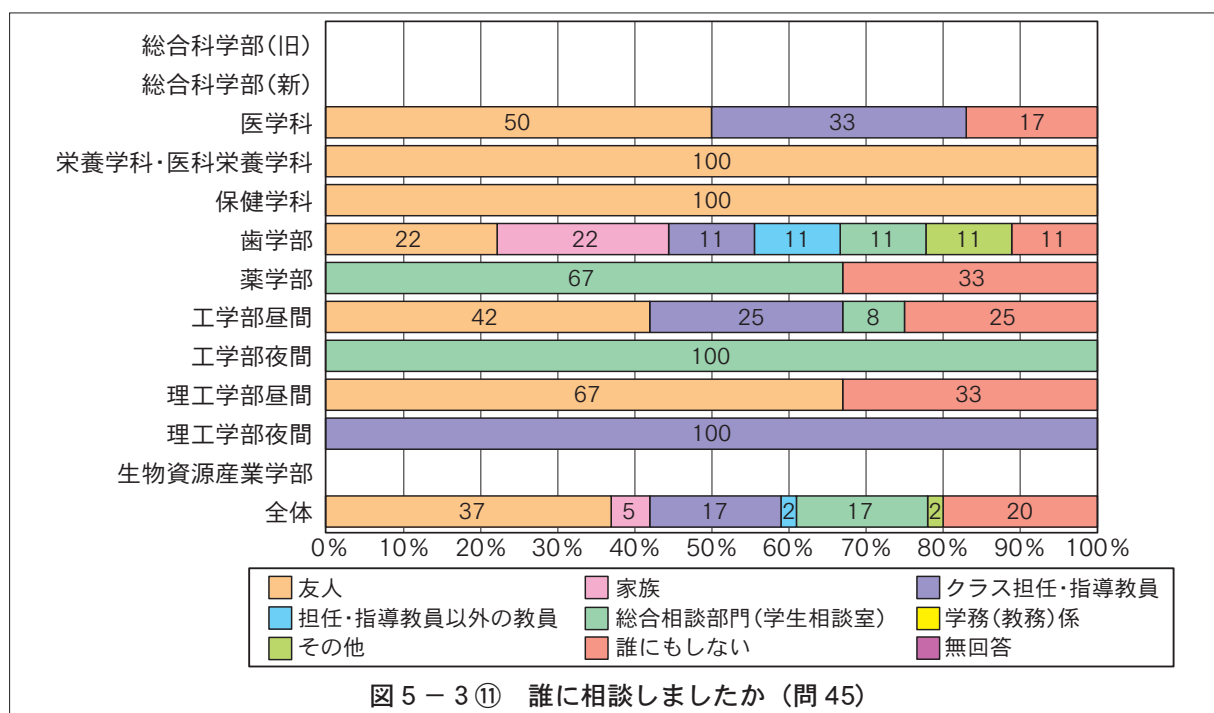
全体の4%がカルトの勧誘を受けていると答え、前回調査と同様の結果であった。男子の方が女子よりも勧誘を受けた割合が高い。学部別では、前回調査は栄養学科・医科栄養学科男子(17%)であったが、今回調査は工学部夜間女子の8%が目立つ。カルト勧誘は、被害に繋がる潜在リスクを有しており、



適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。

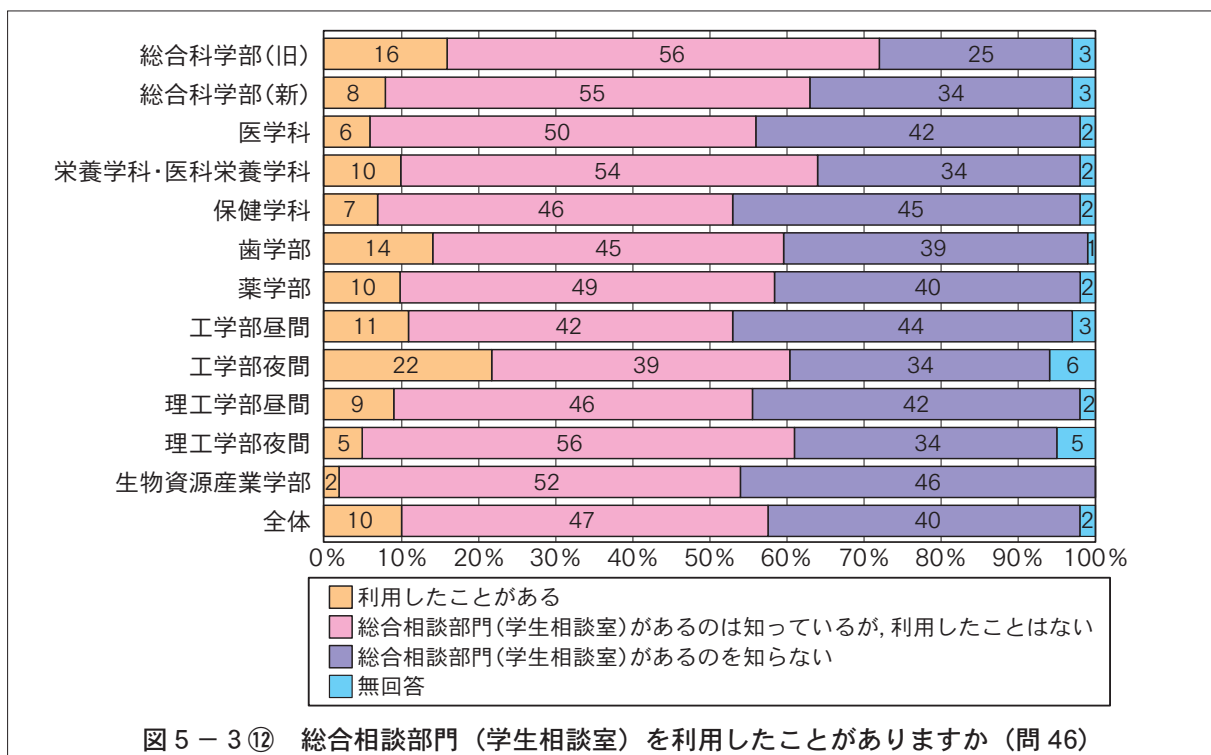
【迷惑行為を受けた際の相談先】（図5-3⑪）

全体の傾向は前回調査同様、友人が第1位、誰にも相談しないが第2位となっている。前回調査は、保健学科だけ「友人」が100%であったが、今回調査は栄養学科・医科栄養学科も100%であった。全体では、総合相談部門（学生相談室）への相談が前回調査の7%から17%に増加していた。広報活動の成果のあらわれであると考えられる。栄養学科・医科栄養学科と保健学科では友人以外に相談していないことから、相談先の選択肢を広げる工夫をする必要がある。



【総合相談部門（学生相談室）】（図5-3⑫）

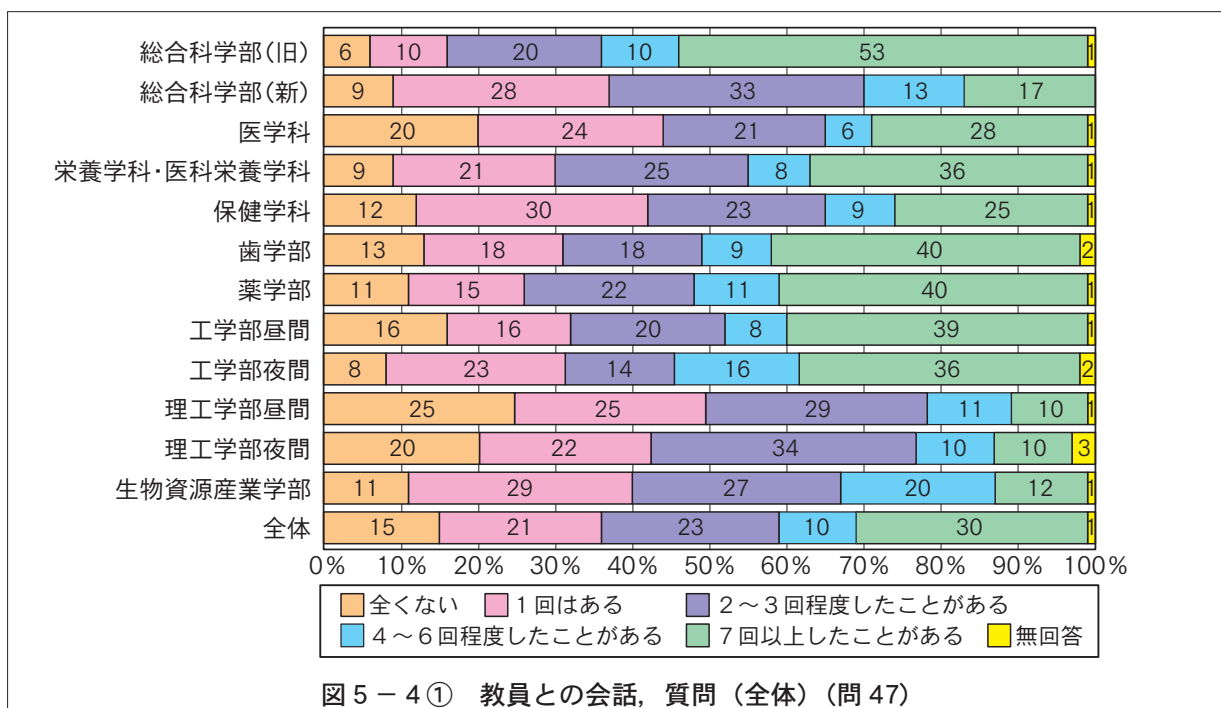
「総合相談部門（学生相談室）を利用したことがある」と答えた学生は、全体で10%であった。工学部夜間が22%と高く、生物資源産業学部が2%と低かった。「学生相談室を知らない」と答えた学生は、全体で40%であり、前回調査の23%より増加した。



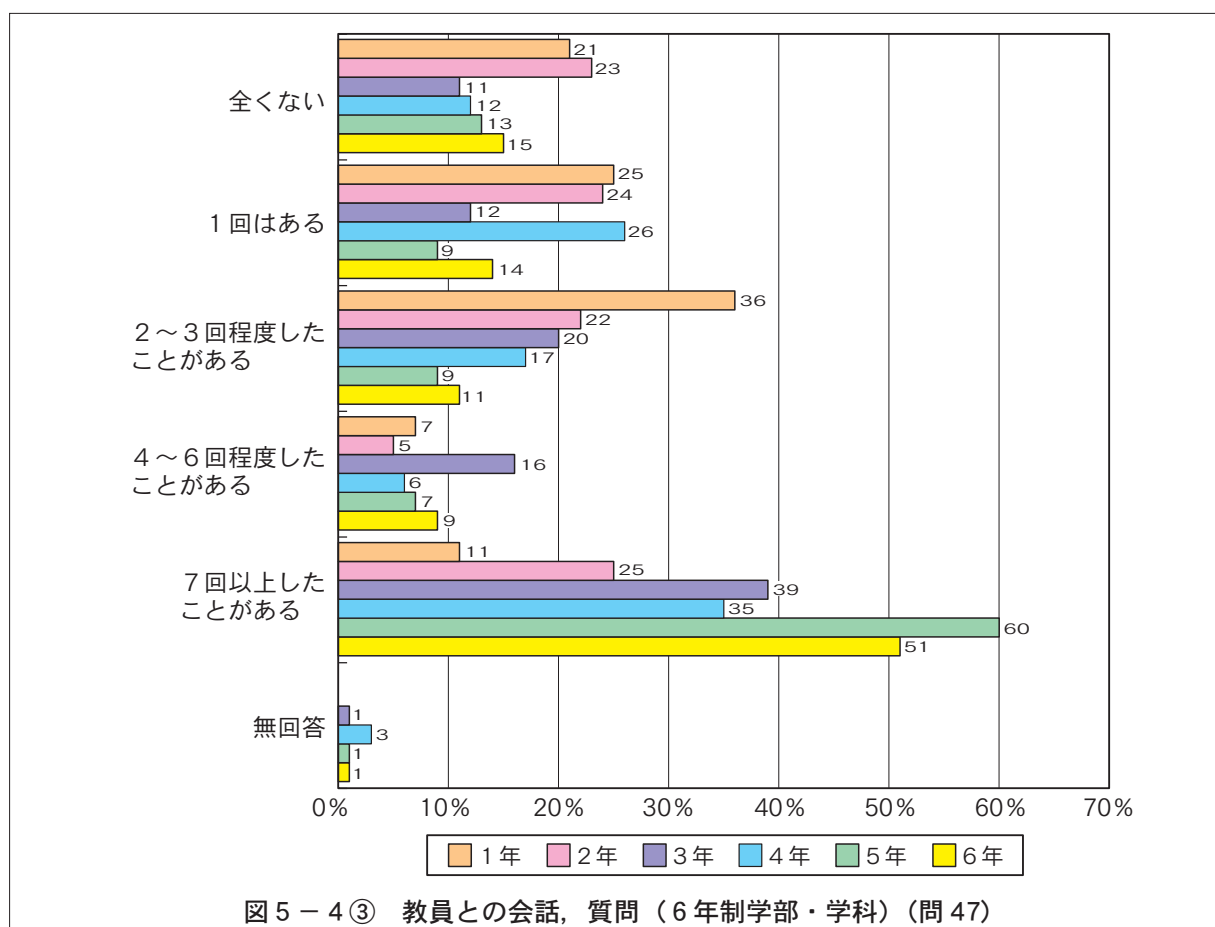
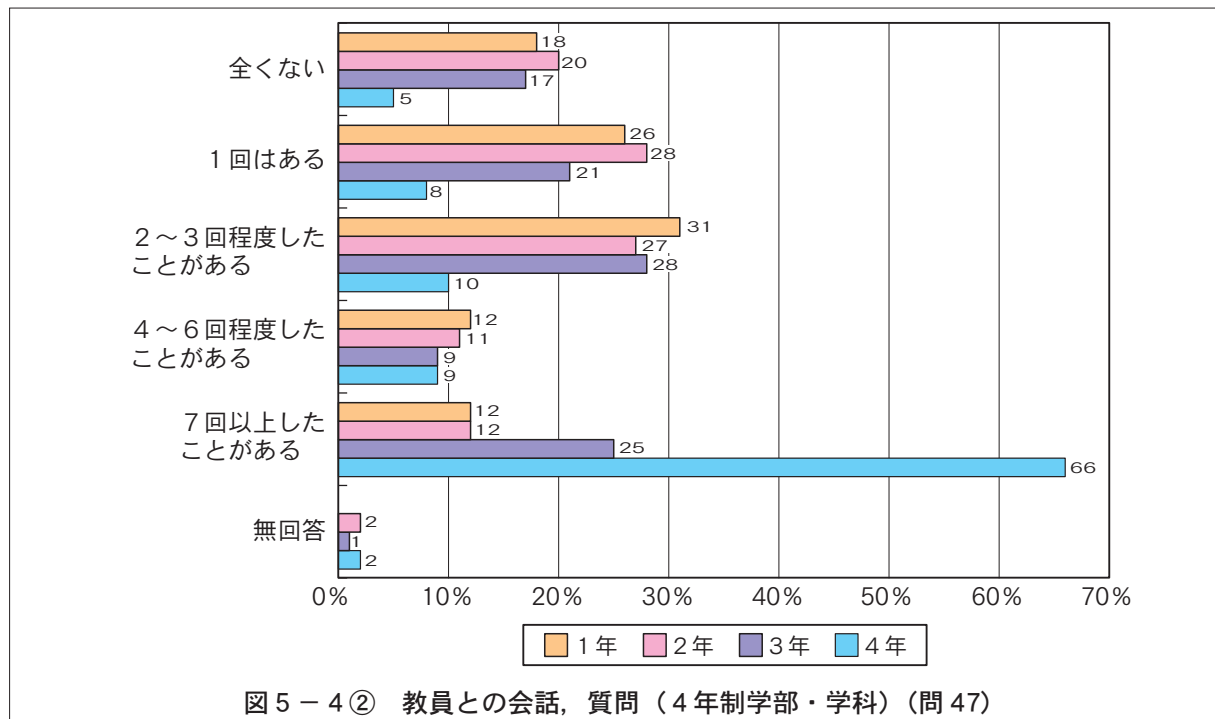
5-4 教職員・友人との交流 (図5-4①~図5-4⑥)

【教員との会話・質問】(図5-4①~図5-4③)

教職員と7回以上会話・質問した学生は、全体では30%であった(前回調査32%)。総合科学部(旧)は53%と高い値であった。クラス担任、学年担任研究指導で教員とのコミュニケーションが図られているものと思われる。「全くない」と答えた学生が全体で15%であり、前回調査の17%よりもやや減少した。4年制では、学年が上がるにつれ教員との会話回数が増え、4年生でその増加が顕著であった。6年制においても4年制に比べると学年間の差の開きは小さいものの、同様の傾向が見られた。学年が上

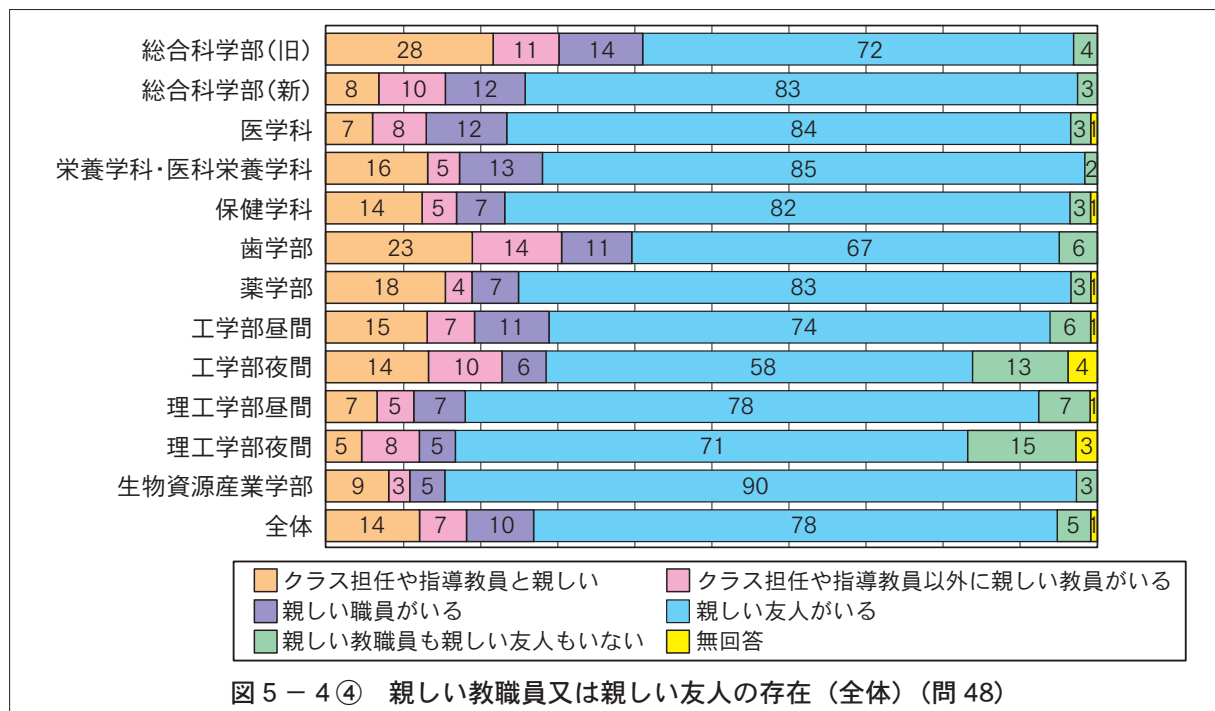


がるにつれて研究やゼミナールなど指導がより個別化していくためと思われる。学生の中には、教員とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生も含まれており、対話形式の授業、合宿形式の授業、体験授業、演習、実習を通じて教員側からの働きかけを強めていくことが望まれる。

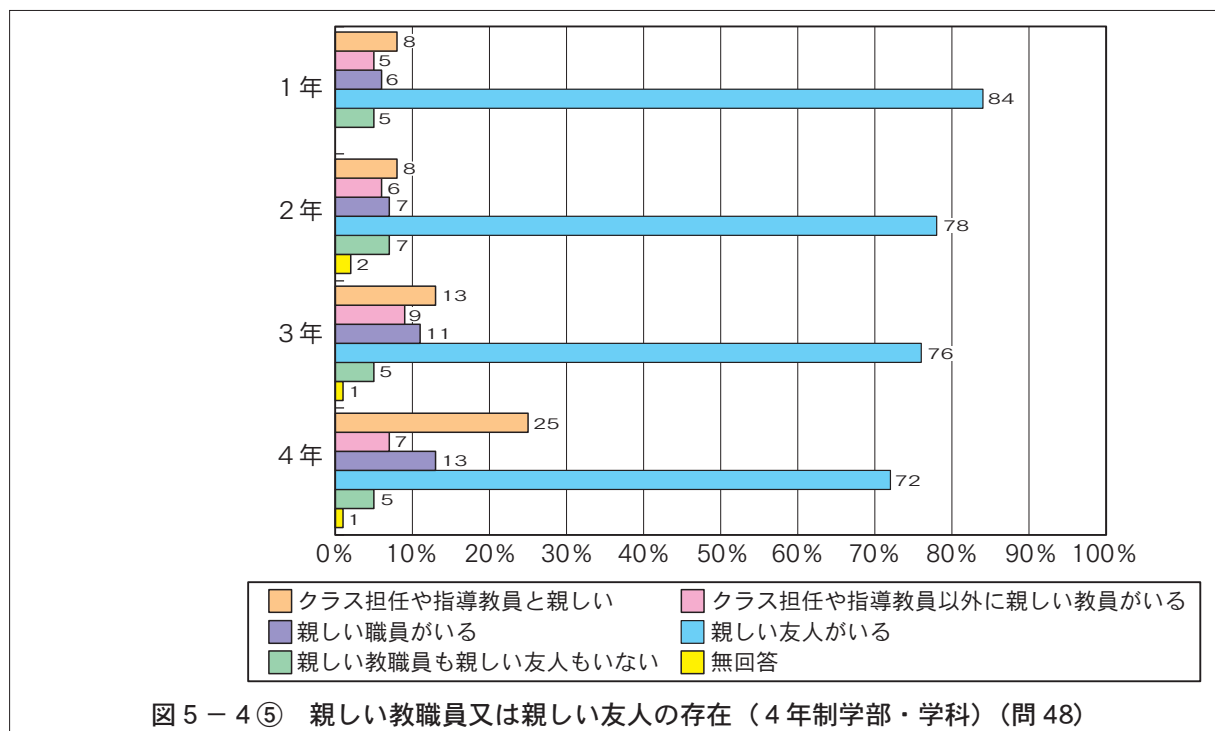


【親しい教職員・親しい友人の存在】(図5-4④～図5-4⑥)

「親しい教職員がいる」と答えた学生は、全体で21%（前回調査19%）であった。総合科学部（旧）と歯学部が最も高かった。4年制も6年制も3年生以上になると「親しい教職員がいる」と答えた割合が高くなった。より長い期間での交流の成果であることが考えられる。担任制全学導入のガイドラインが制定され、次年度から全学部で担任制の運用が統一されることになっているので、さらに学生と教職員の距離が縮まることが期待される。親しい教職員も友人もないと回答した学生は、全体で5%と前回調査の7%より低下し、親しい友人がいると回答した学生が全体で78%と前回調査の87%より低下した。



(※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。)

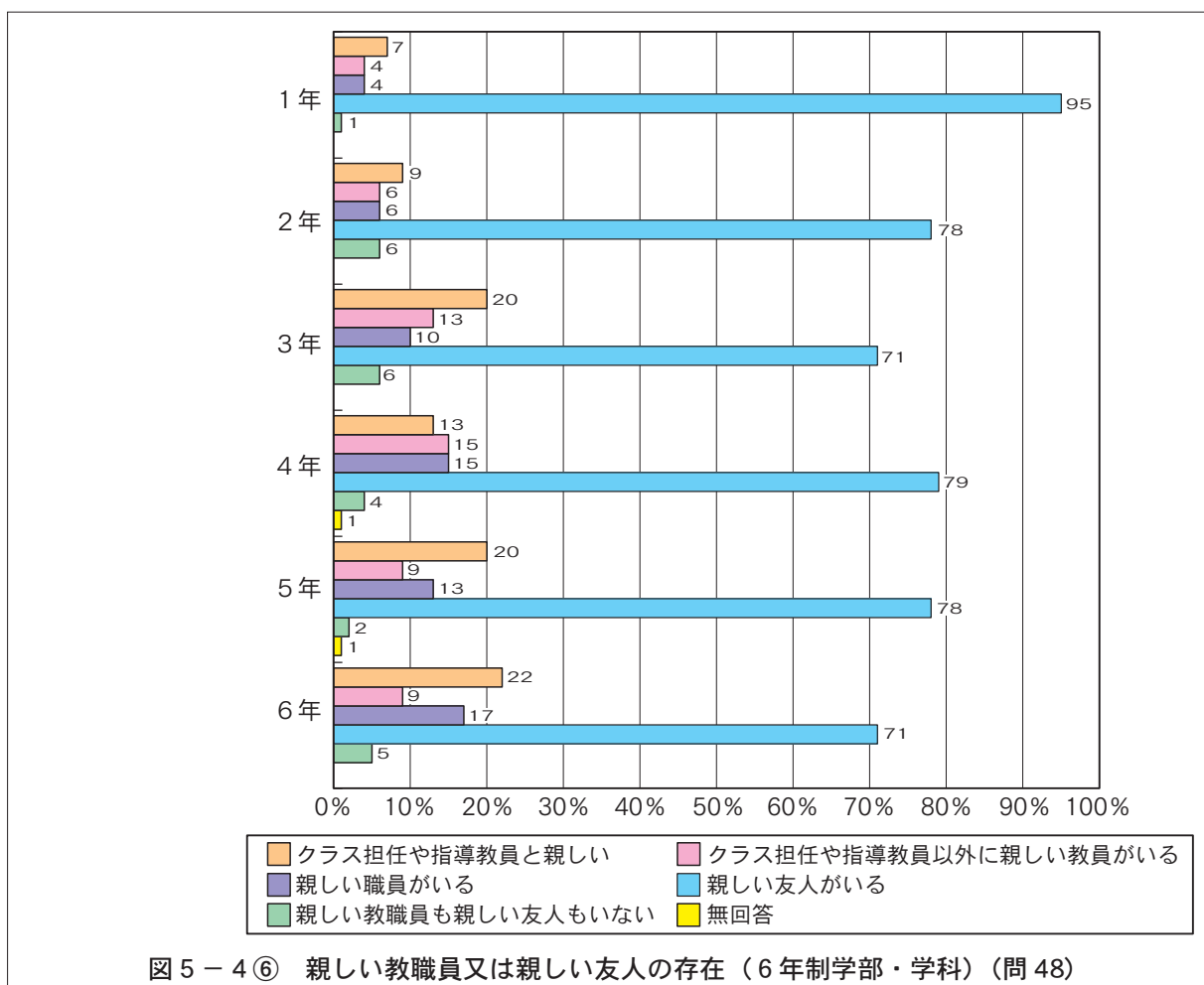
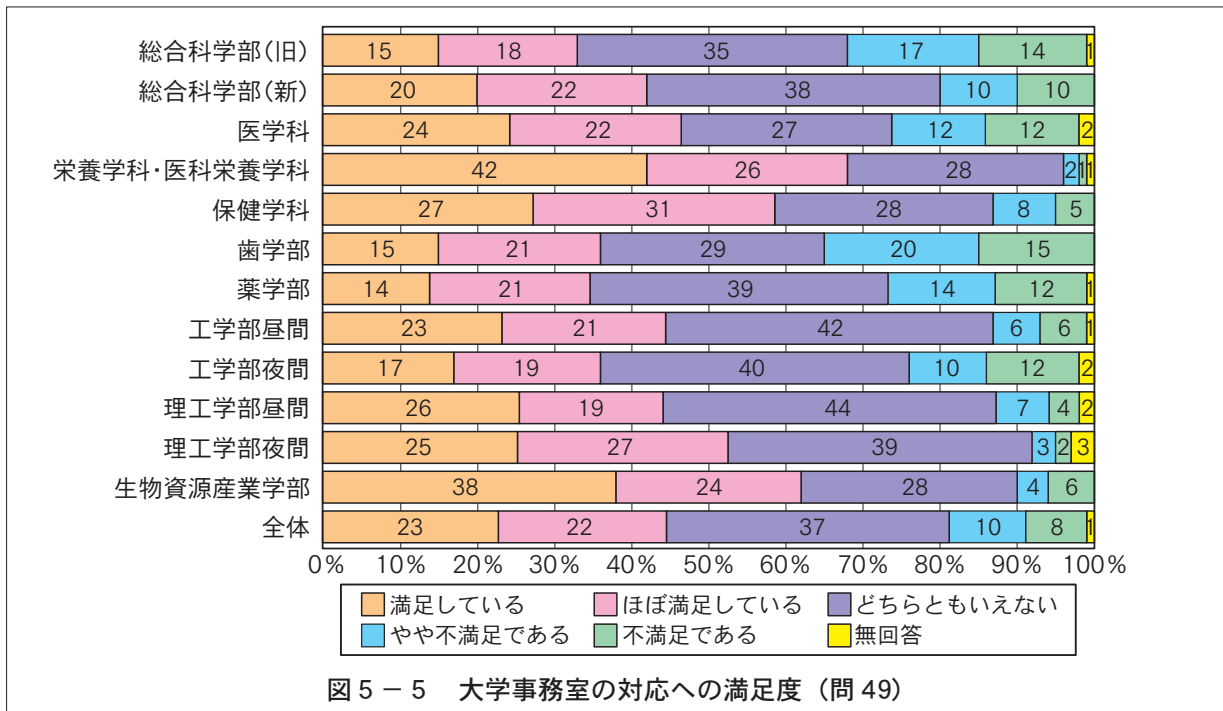


図5-4⑥ 親しい教職員又は親しい友人の存在（6年制学部・学科）（問48）

（※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。）

5-5 大学事務室の対応への満足度（図5-5）

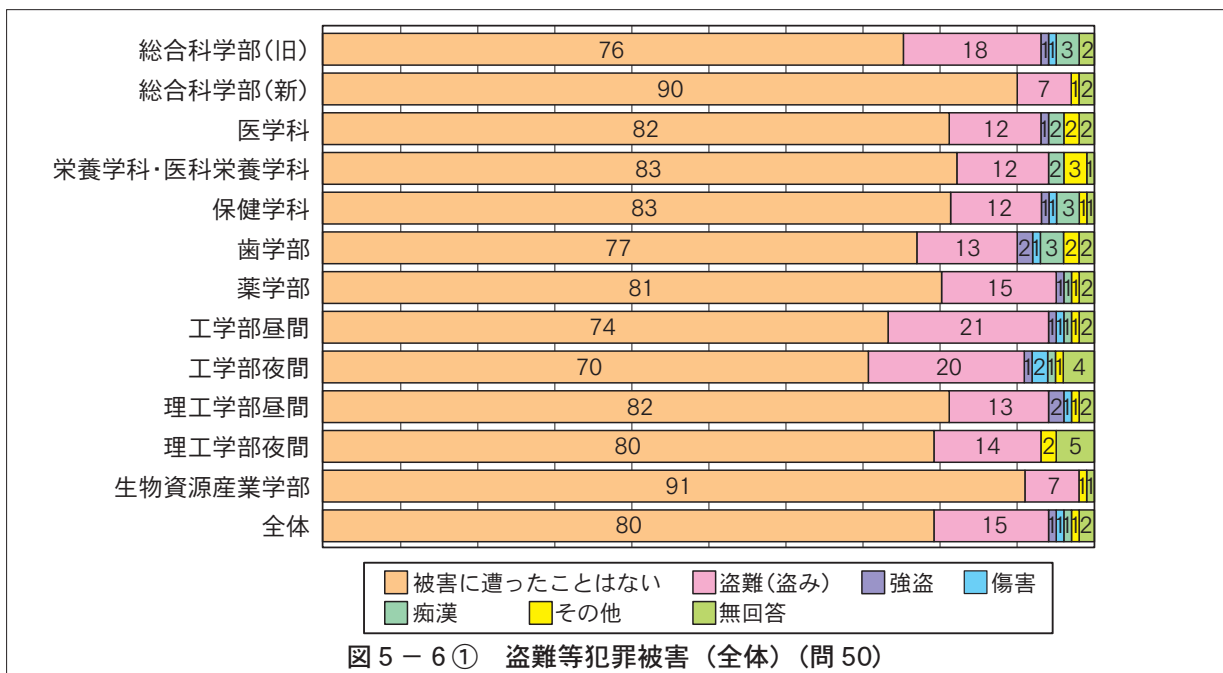
全体では、「満足」と「ほぼ満足」とを合わせると45%であり、前回調査の44%とほぼ同じ結果となった。大学職員の丁寧な対応など職員が細やかな対応をしていくことが期待される。「やや不満足」と「不満足」を合わせた割合は、全体では18%、学部・学科別では歯学部が最も高く35%であった。満足度が低い学部・学科では改善策を検討する必要がある。



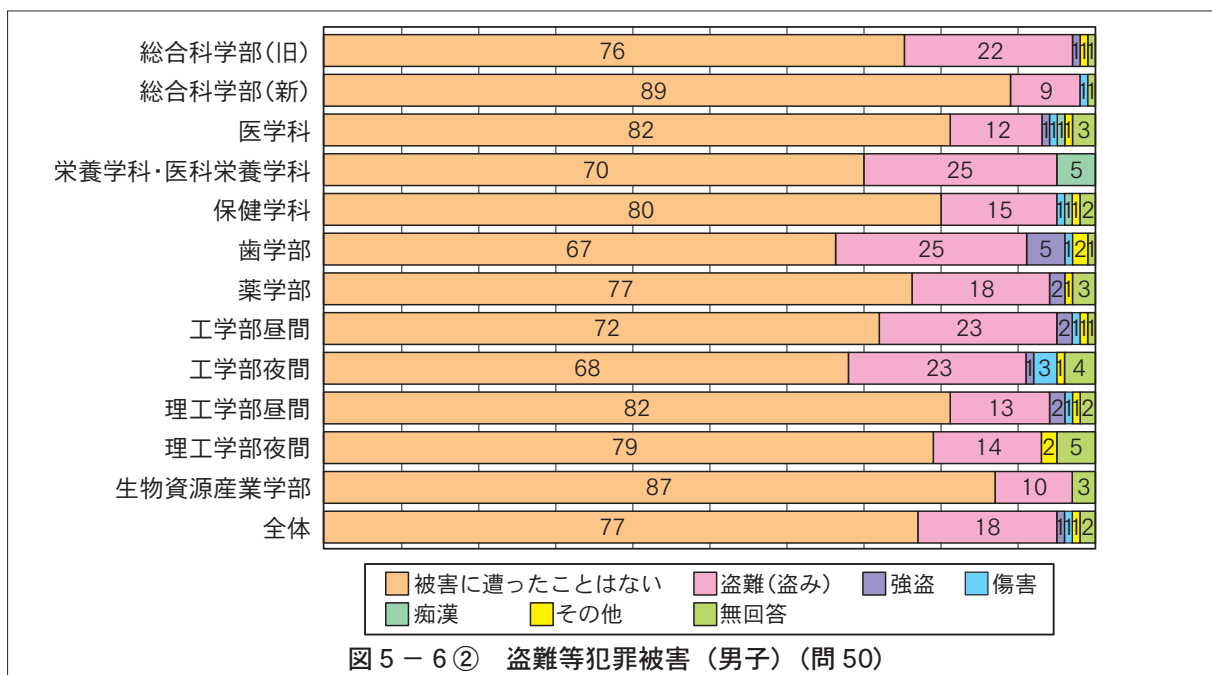
5 - 6 盗難等犯罪被害 (図 5 - 6 ①~図 5 - 6 ⑤)

【盗難等犯罪被害】 (図 5 - 6 ①~図 5 - 6 ③)

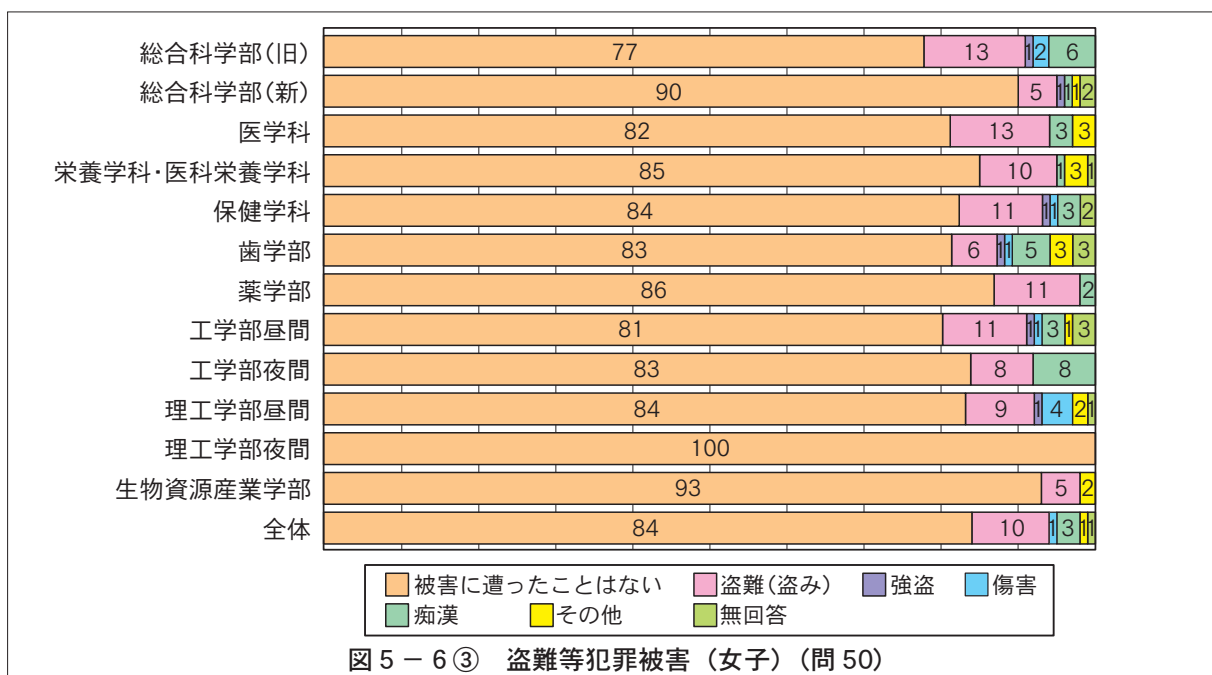
前回調査, 前々回調査とほぼ同様, 盗難の被害にあったと回答した学生は, 全体の 15%であった。特に工学部昼間では 21%と高かった。男子は女子よりも被害にあった割合が高い。これは女子の方が警戒感を高めているからと推測される。今後は男子には防犯広報を強化し, 被害を予防する生活態度を固めるよう指導することが必要である。強盗の被害は歯学部と理工学部昼間がそれぞれ 2%と高かった。強盗の被害比率は男性の方が女性より高かった。また, 痴漢にあった学生の割合は全体の 1%であった。女性の工学部夜間で 8%, 総合科学部 (旧) で 6%であり, 防犯教育を強化する必要がある。



(※問 50 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)



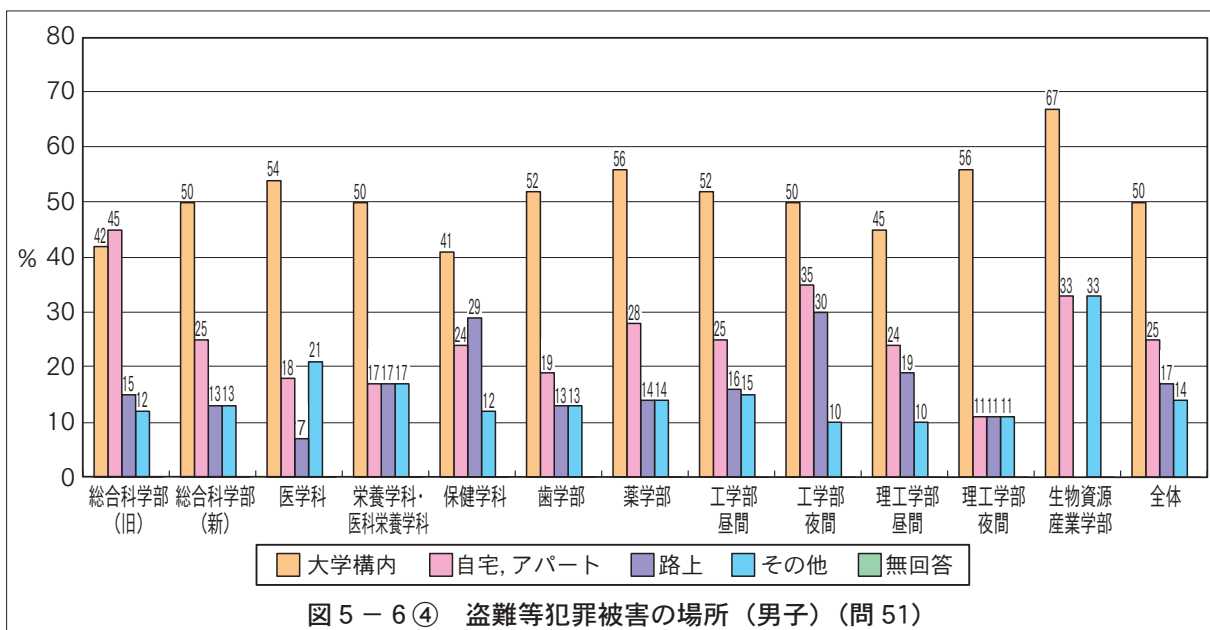
(※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。)



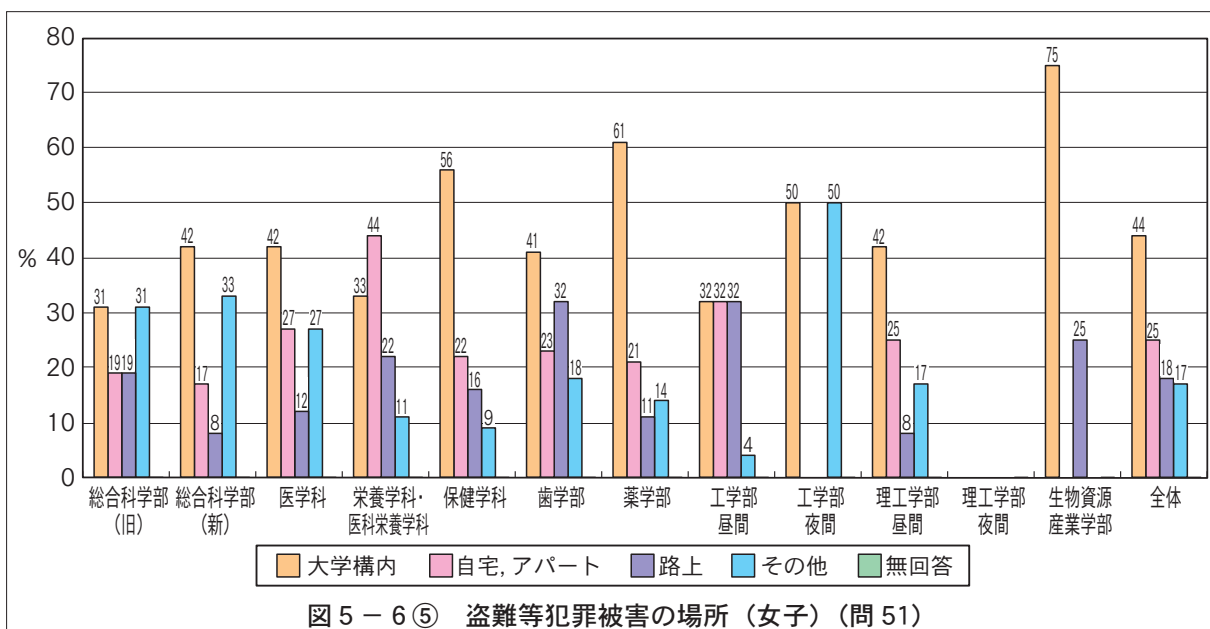
(※問50は複数回答のため合計は100%にはならない。)

【盗難被害場所】(図5-6④, 図5-6⑤)

前回調査, 前々回調査同様, 大学構内と答えた割合が男女共, 最も高かった。今回の調査では男子全体の50%, 女子全体の44%が大学構内と答えている。今後は防犯教育を徹底し, 構内に防犯意識を高める啓発ポスターを多数掲示するなどの対策が求められる。また, 大学構内で起こった盗難等犯罪被害については, 即座に全学に通知し, 注意を呼びかけて再発防止を図るべきである。また, 大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。学生委員会委員や学生支援の担当教職員が適切に犯罪被害に対応できるよう定期的な研修を行う必要がある。



(※問 51 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)



(※問 51 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

本学を選んだ理由(複数回答可)は「国立大学だから」が最も多く(43%), 続いて「希望する学部・学科があったから」が31%, 「地元の大学だから」が25%となっており, 前回調査と同様の傾向である(図6-1①)。学部別に見ると, 総合科学部, 工学部, 理工学部および生物資源産業学部では, 総合科学部(旧):49%, 総合科学部(新):42%, 工学部昼間:44%, 工学部夜間:47%, 理工学部昼間:45%, 理工学部夜間:36%で「国立大学だから」との回答が最も多い一方, 生物資源産業学部では「地元の大学だから」が最も多い回答(44%)となっている。2番目に多い回答は, 総合科学部(新):40%,

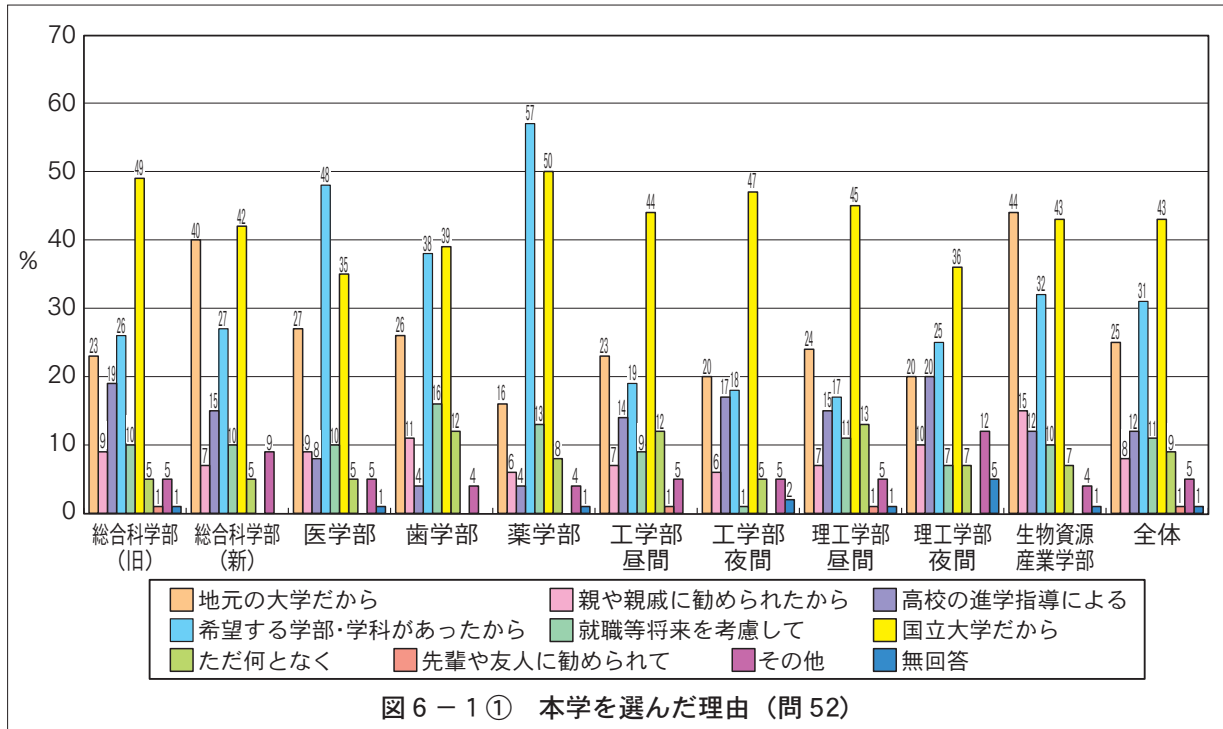


図6-1① 本学を選んだ理由 (問 52)

(※問 52 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

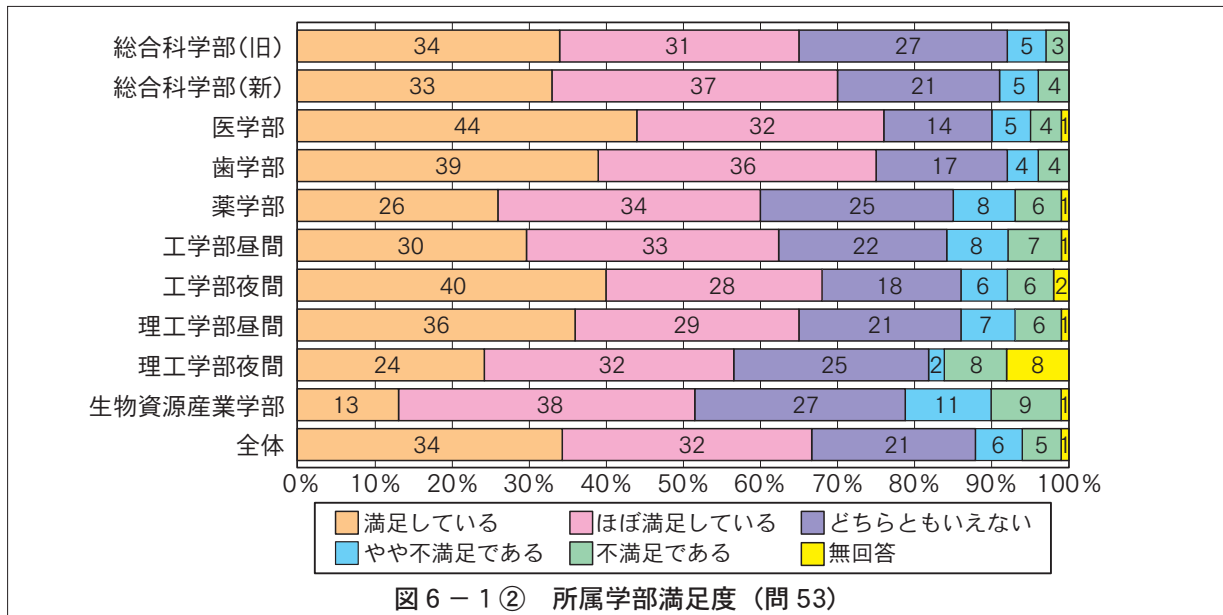


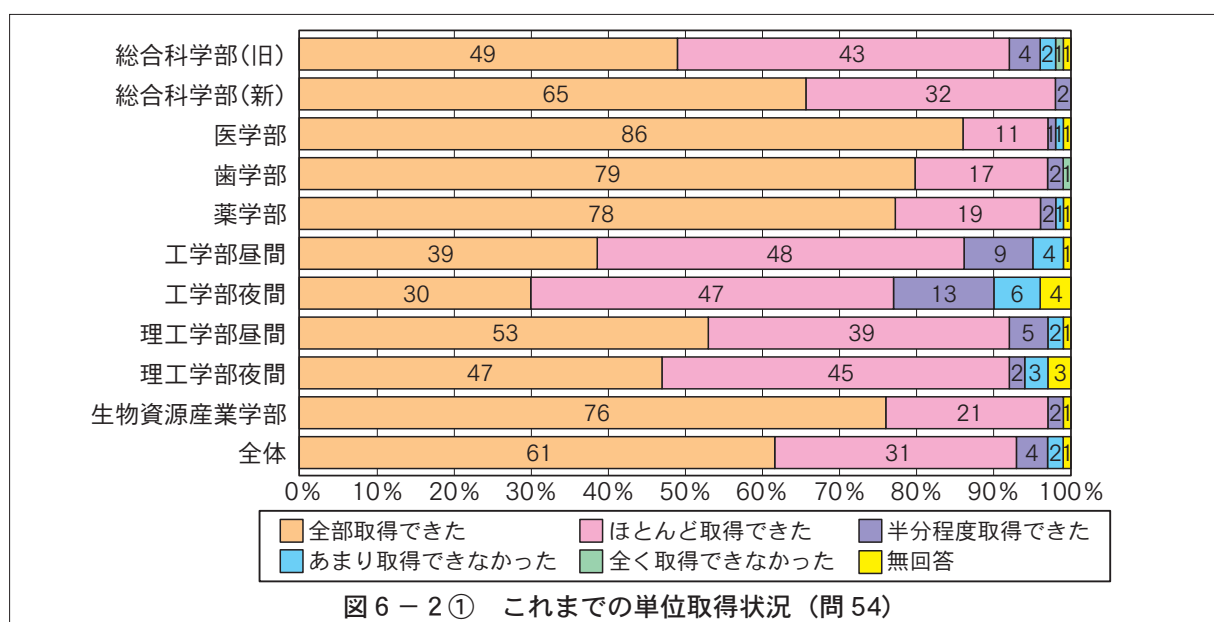
図6-1② 所属学部満足度 (問 53)

工学部昼間：23%，工学部夜間：20%，理工学部昼間：24%で「地元の大学だから」である。一方，総合科学部（旧）と理工学部夜間は，それぞれ26%，25%で「希望する学部・学科があったから」となり，生物資源産業学部では，「国立大学だから」（43%）となる。一方，医学部と薬学部では「希望する学部・学科があったから」との回答が最も多く（医学部：48%，薬学部：57%），続いて「国立大学だから」（医学部：35%，薬学部：50%）が続く。歯学部でも「希望する学部・学科があったから」（38%）が「国立大学だから」（39%），とほぼ同じであり，医療系3学部では入学時における目的意識の高さがうかがわれる。

所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は34%であり，「ほぼ満足している」と答えた学生（32%）と合わせて66%であった（図6-1②）。一方，「やや不満足である」は6%，「不満足である」は5%となっている。学部別に見ると，医学部の満足度（満足している：44%，ほぼ満足している：32%）が非常に高い。最も低い生物資源産業学部にしても「満足している（13%）」と「ほぼ満足している（38%）」を合わせた回答が51%を示し，概ね，所属学部には満足しているといえる。

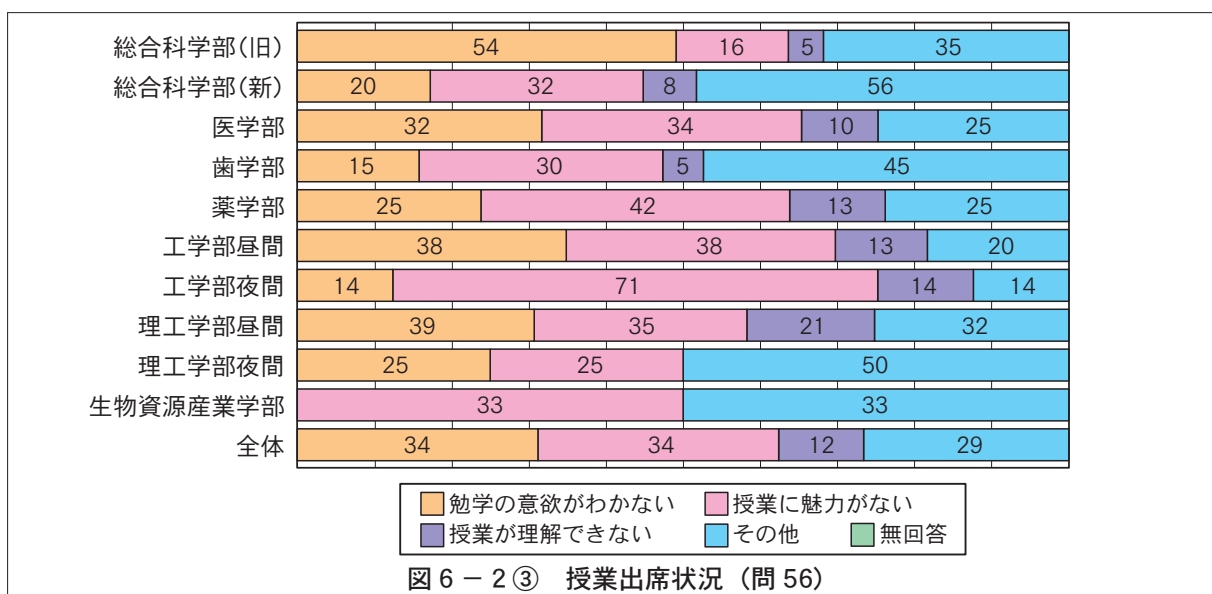
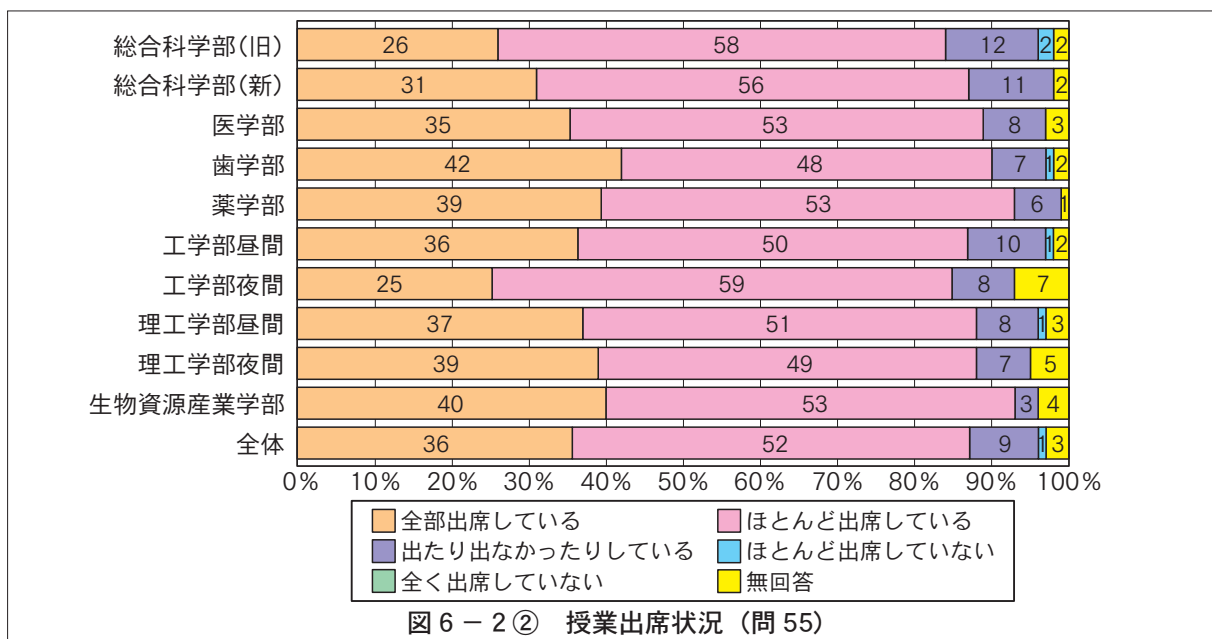
6-2 単位取得状況と授業出席状況（図6-2①～図6-2③）

図6-2①より，これまでの単位取得状況について「全部取得できた」（61%）または「ほとんど取得できた」（31%）と回答した学生の割合は92%であり，前回調査（92%）と同じ割合であった。学部別に見ると，工学部では「全部取得できた」または「ほとんど取得できた」と回答した学生の割合（昼間：87%，夜間77%）が前回調査と同様に全体平均を下回っている。理工学部（昼間：92%，夜間92%）および生物資源産業学部（97%）は全体平均以上である。



また，授業の出席状況について，図6-2②より，「全部出席している」（36%）または「ほとんど出席している」（52%）と回答した学生の割合は，前回調査と同様の88%であった。学部別に見ると，「全部出席している」または「ほとんど出席している」と回答した学生が，総合科学部（旧：84%，新：87%），工学部（昼間：86%，夜間：84%）では全体平均より低い。一方，理工学部（昼間：88%，夜間：88%），生物資源産業学部（93%），医学部（88%），歯学部（90%），薬学部（92%）は，全体平均以上の出席状況である。

授業の欠席理由（複数回答可）については，「勉学の意欲がわからない」と「授業に魅力がない」が同率（34%）で最も高く，続いて「授業が理解できない」が12%と，前回調査と同様である（図6-2③）。



(※問 56 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

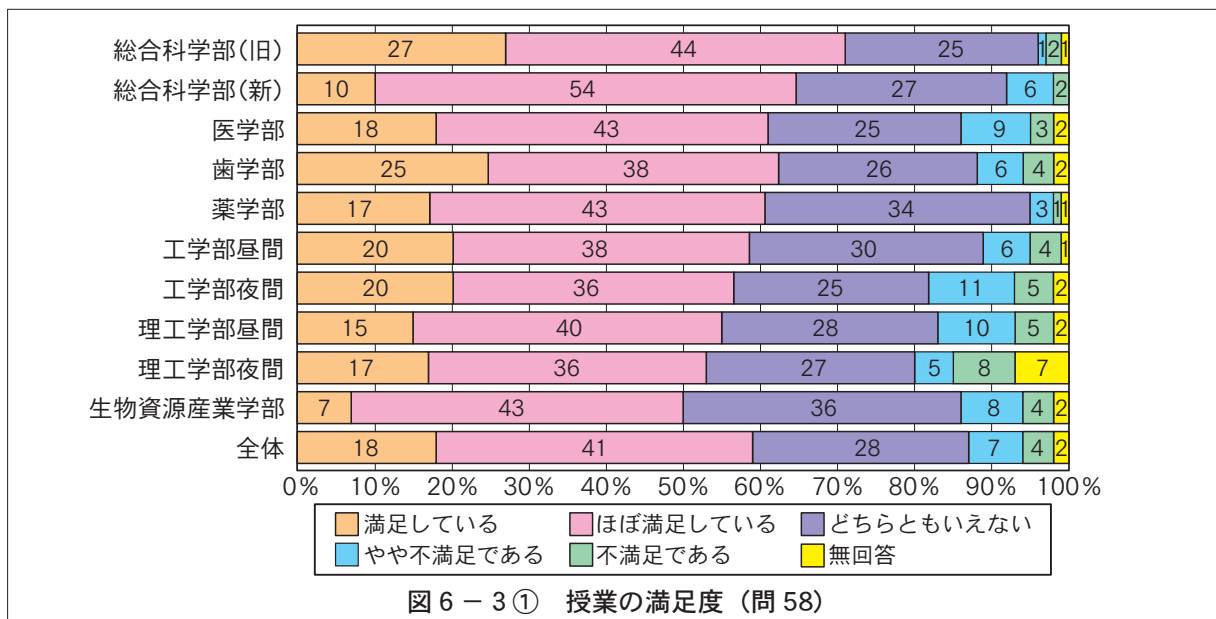
生物資源産業学部では、「勉学の意欲がわからない」が 0% であることは特筆に価する。教員には、学生の興味を掻き立て、より分かりやすい授業を行うための一層の努力が望まれる。

「授業が理解できない」と答えた学生に、授業が理解できなかった場合の対応法を問 57 とした。回答総数が 43 件と少ないが、「教室で質問する」：0%、「教員に後で個人的に質問する」：14%、「先輩・友人と議論・相談する」：36%、「参考書等で調べる」：19%、「気になるけど何もしない」：17%、「気にしない」：17%と回答があり、無対応の学生を減らす努力が必要である。

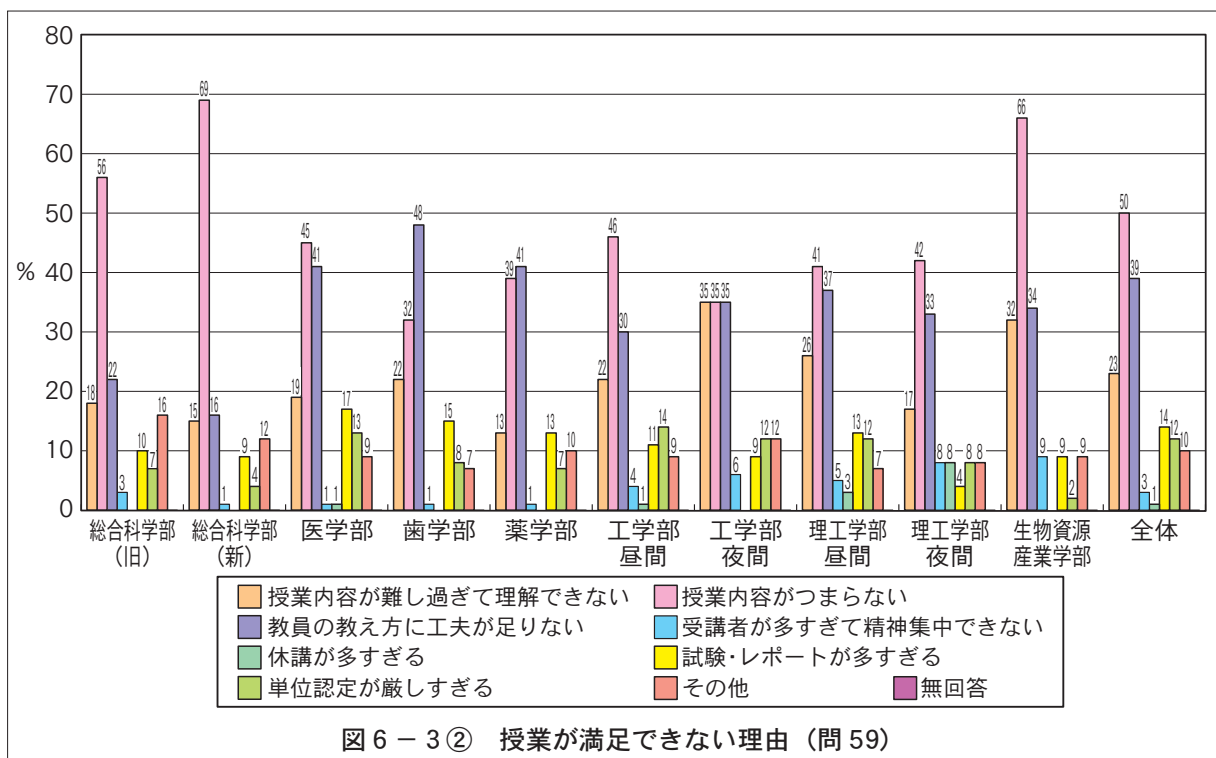
6-3 授業の満足度 (図 6-3①, 図 6-3②)

図 6-3①より、受講している授業への満足度に対する設問に対しては、「ほぼ満足している」との回答 (41%) が最も多く、続いて「どちらともいえない」が 28%、「満足している」が 18%、「やや不満足である」が 7%、「不満足である」が 4%となっている。学部別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は、生物資源産業学部で 50%と、前回調査で最低であった工学部夜間の

51%より低くなっている。



授業が満足できない主な理由（複数回答可）は、「授業内容がつまらない」が最も多く（50%）、「教員の教え方に工夫が足りない」が39%、「授業内容が難しすぎて理解できない」が23%と、前回調査（授業内容がつまらない：48%、教員の教え方に工夫が足りない：39%、授業内容が難しすぎて理解できない：22%）と同様であり、各学部とも同様な傾向である（図 6-3②）。



(※問 59 は複数回答のため合計は 100% にはならない。)

6-4 授業予習復習時間とカンニング経験 (図 6-4①, 図 6-4②)

授業の予習・復習に費やす1日の平均時間は、「1時間未満」との回答（59%）が最も多く、次いで「1時間以上～2時間未満」が27%、「2時間以上～3時間未満」が8%となっており、前回調査（1

時間未満：59%、1時間以上～2時間未満：29%、2時間以上～3時間未満：8%）と同様に予習・復習に費やす時間は短い（図6-4①）。各学部とも同様の傾向ではあるが、「1時間未満」との回答が、前回調査と同様に薬学部（74%）で突出している。一方、理工学部夜間は42%と「1時間未満」の回答が最も少ない。

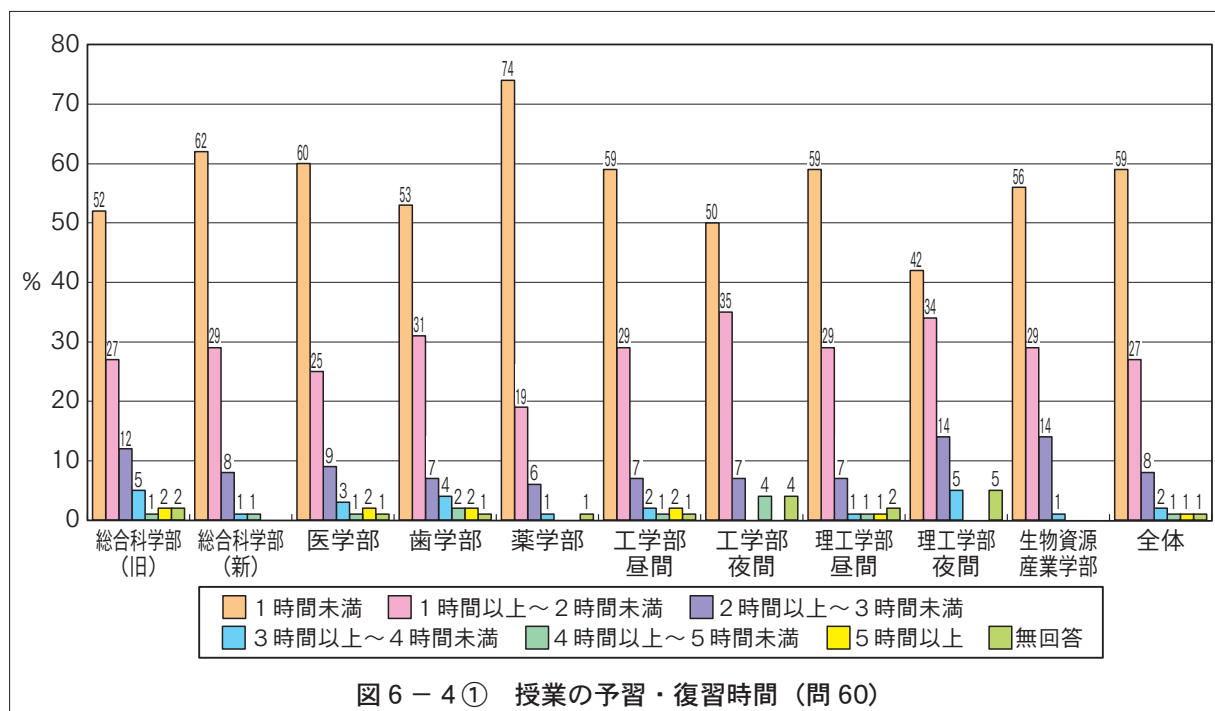


図6-4① 授業の予習・復習時間 (問60)

カンニングをしたことがあるかとの設問には、4%の学生が「ある」と回答しており、前々々回調査（9%）、前々回調査（7%）、前回調査（4%）から見ると、下げ止まり傾向にある。各学部とも、カンニングの根絶に向けてより一層の厳格な取組が求められる。

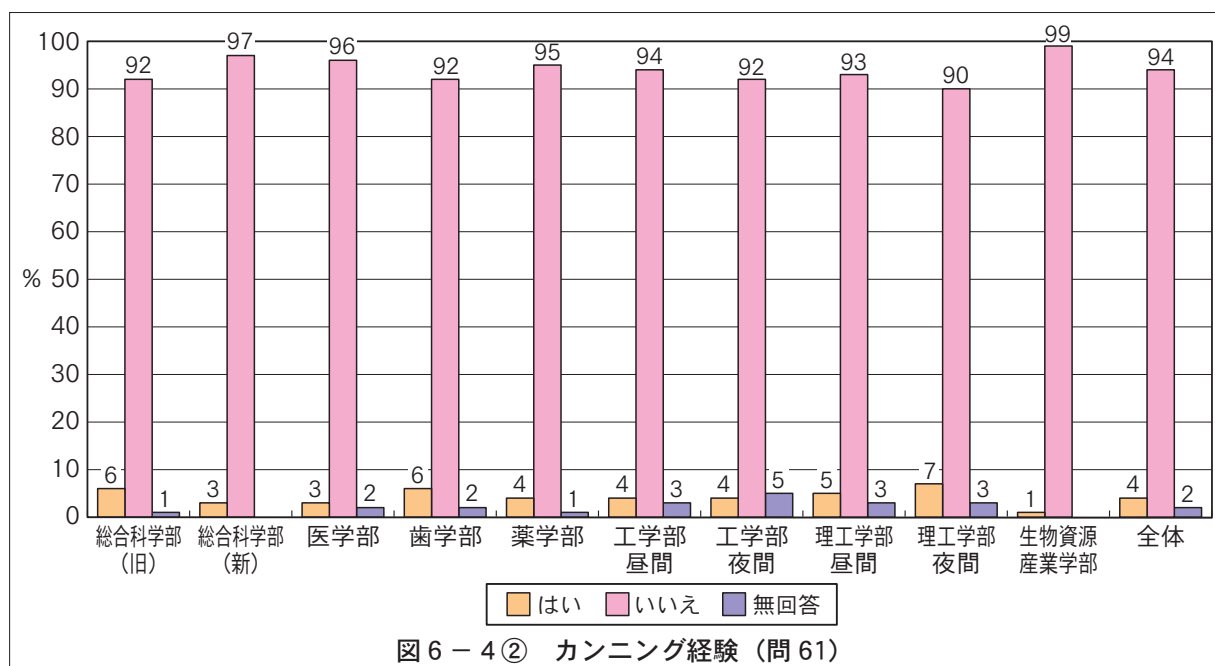
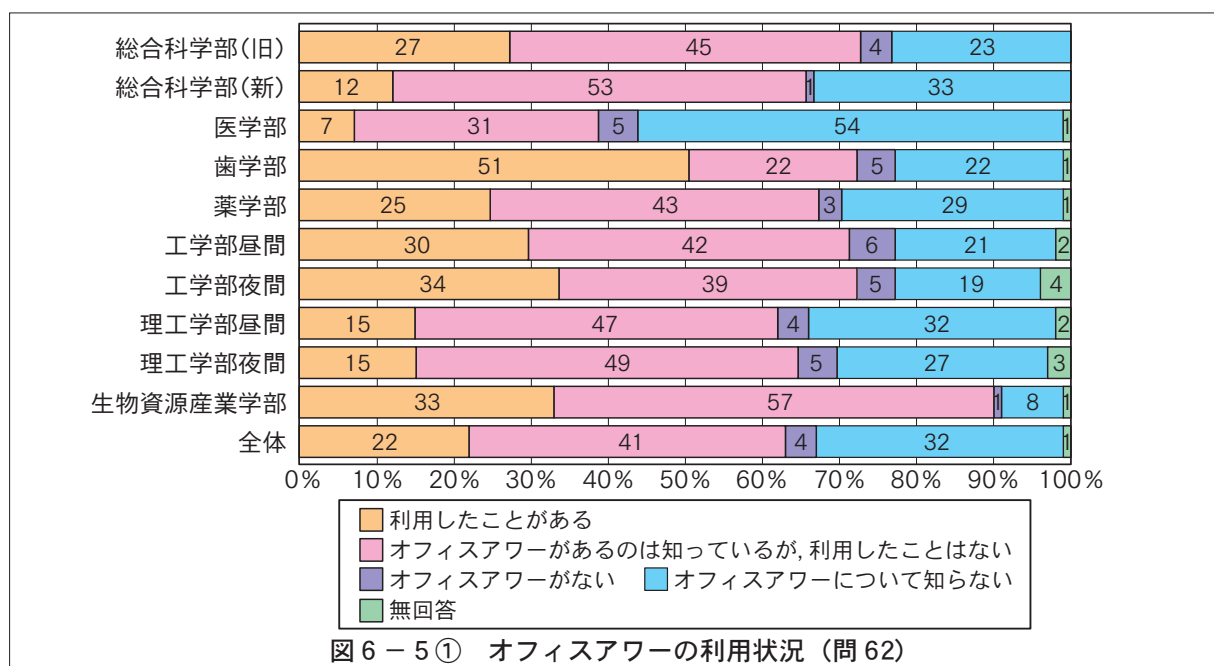


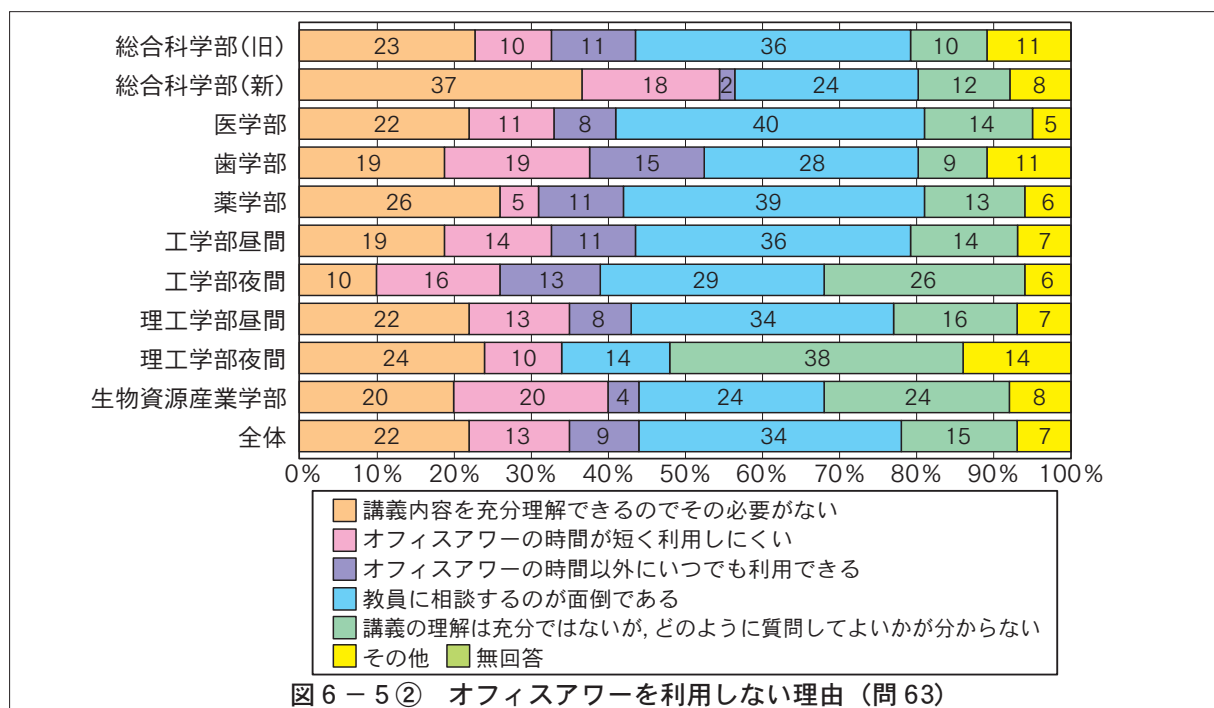
図6-4② カンニング経験 (問61)

6-5 オフィスアワーの利用状況 (図6-5①, 図6-5②)

オフィスアワーについては、22%の学生が「利用したことがある」と答えており、前回調査(23%)と同様の結果である(図6-5①)。一方で、「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生(32%)も前回調査(31%)と同様であり、オフィスアワーの周知が進んでいないことがうかがわれ、周知へ向けた一層の取り組みが必要である。学部別に見ると、前回調査同様、医学部でのオフィスアワー利用状況が極端に低い(利用したことがある:7%)。一方、歯学部では51%に達しており、前回調査(38%)と比較しても著しく高い。



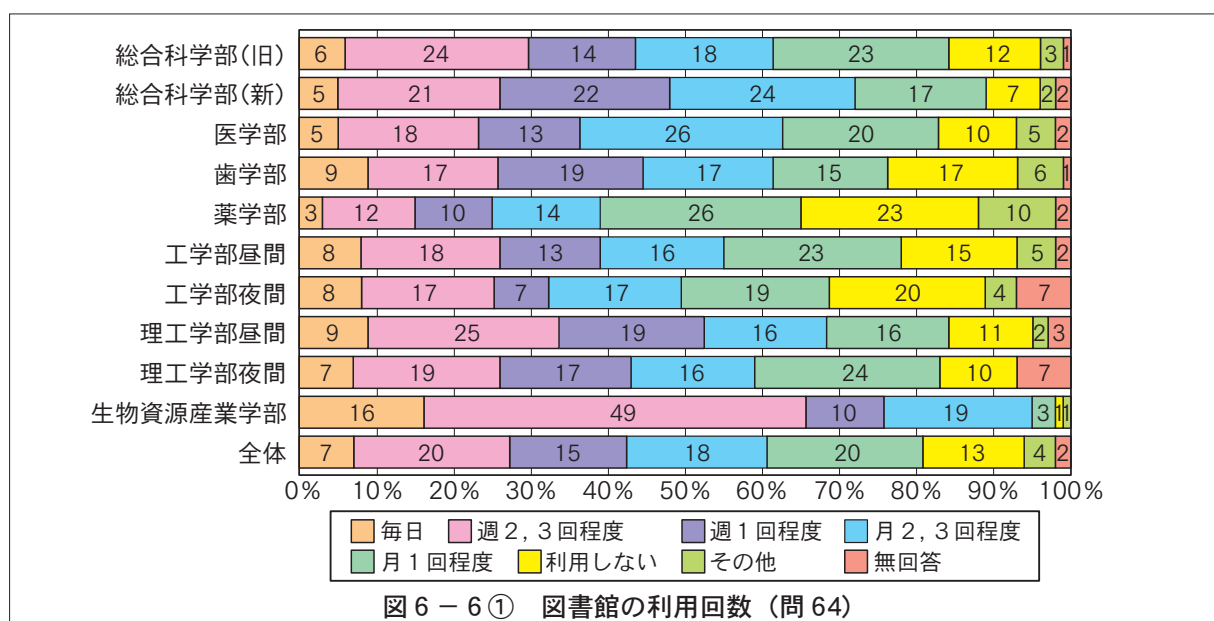
オフィスアワーを利用しない理由として、「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」(22%; 前回調査20%)と「オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる」(9%; 前回調査10%)と回答した31%(前回調査30%)については利用しないことに問題はないが、「教員に相談するのが面倒であ



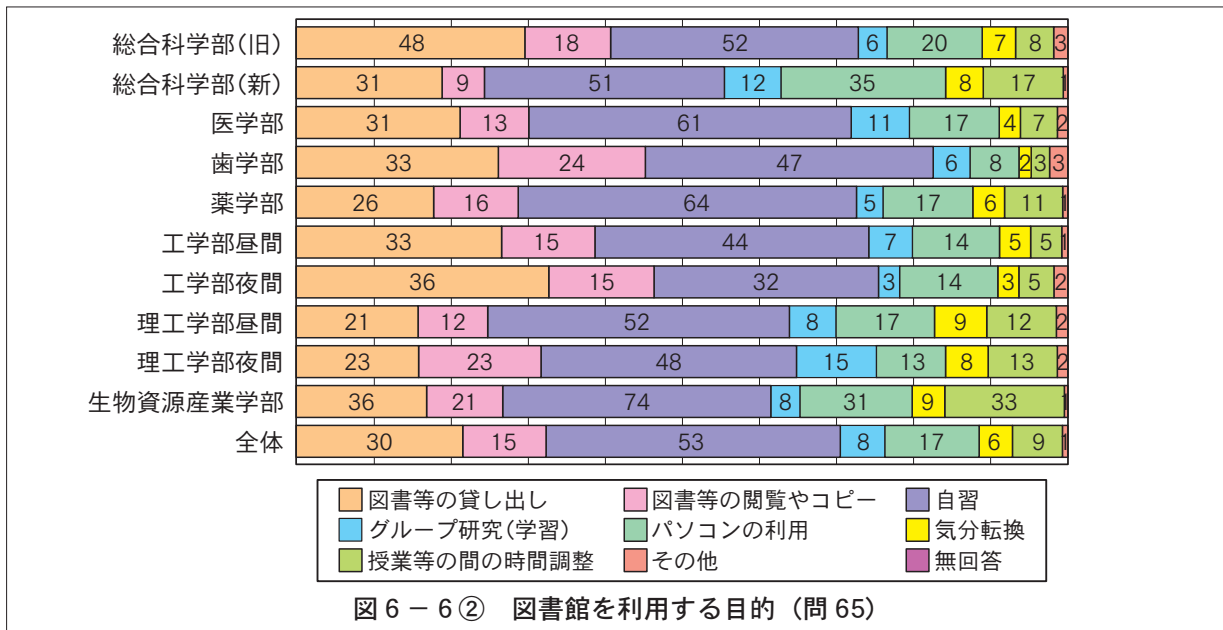
る」(34%；前回調査回 32%)，「講義の理解は充分ではないが，どのように質問してよいか分からない」(15%；前調査回 14%)，「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」(13%；前回調査 14%) と回答した 62% (前回調査:60%) と，いずれの項目も前回調査と驚くべきほど同様になっている (図 6-5②)。毎回指摘があるように，学生が相談しやすい環境づくりなどオフィスアワーの利用改善に向けた取組が必要であるが，新たに全学的に進められているクラス担任制，アドバイザー教員制とリンクさせて実質的な環境づくりが求められる。

6-6 図書館の利用状況 (図 6-6①, 図 6-6②)

図書館を 1 週間に 1 回以上利用する学生は 42% (毎日: 7%, 週 2~3 回程度: 20%, 週 1 回程度: 15%) であり，前回調査の 43% (毎日: 6%, 週 2~3 回程度: 21%, 週 1 回程度: 16%) とほぼ同じ結果であった。学部別に見ると，薬学部 (25%；前回調査 26%)，工学部夜間 (32%；前回調査 32%)，医学部 (36%；前回調査 45%) と平均より下回っている。一方，生物資源産業学部は 75% と著しく高い。生物資源産業学部は，学部 1, 2 年生しか在籍していないために，他学部と単純に比較できないが，同様に学部 1, 2 年生しか在籍していない理工学部昼間・夜間とも全く異なる傾向であり，図書館離れが進む現状を考えると興味深い結果である。



図書館を利用する理由 (複数回答可) としては「自習」(53%) が最も多く，次いで「図書等の貸し出し」が 30% で，「パソコンの利用」が 17% であり，図書館の利用状況で特徴的な結果を示した生物資源産業学部を含めた各学部とも同様の傾向であった。学生の多様なニーズに対応したサービスの一層の充実が望まれる。



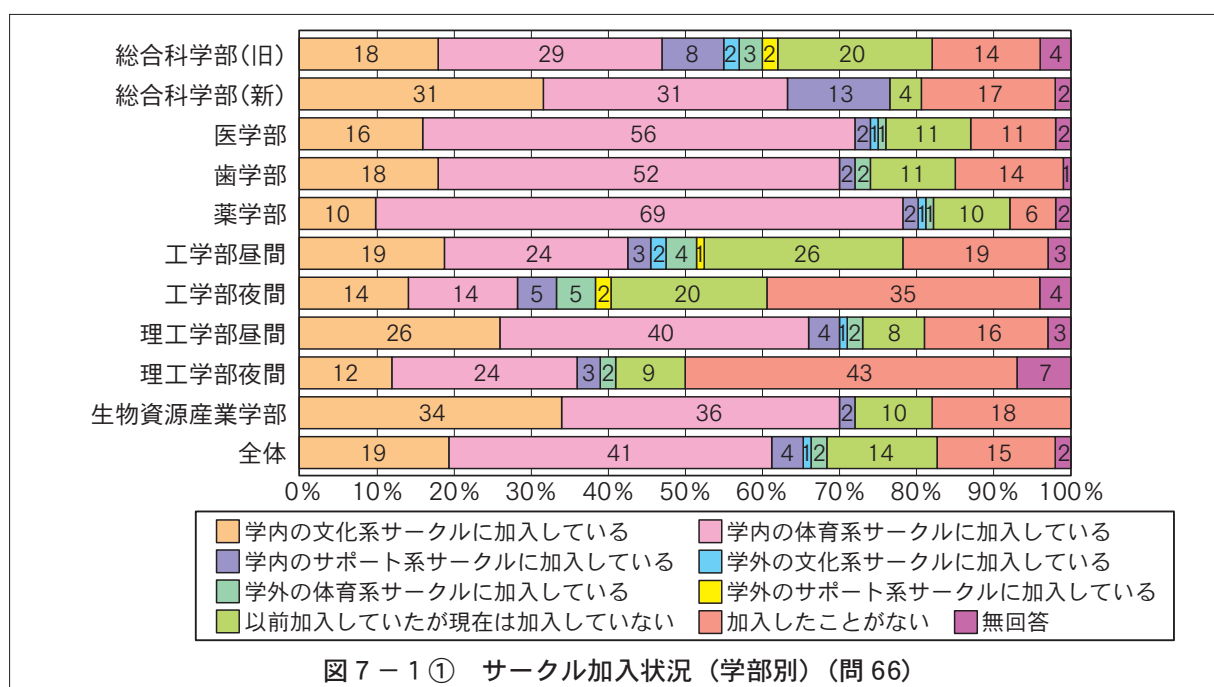
(※問 65 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

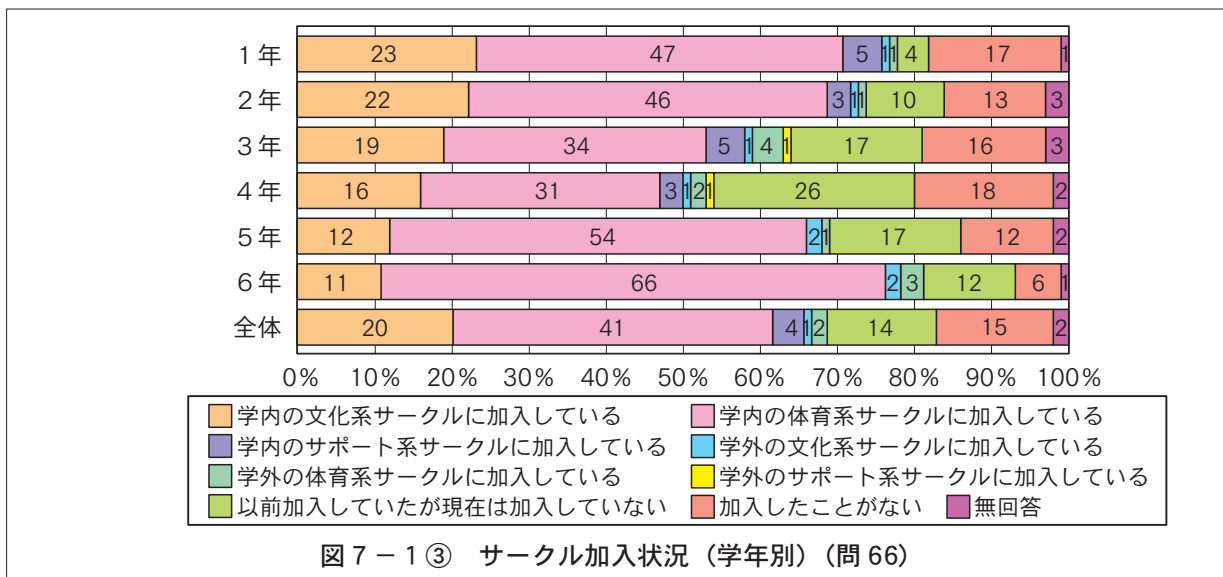
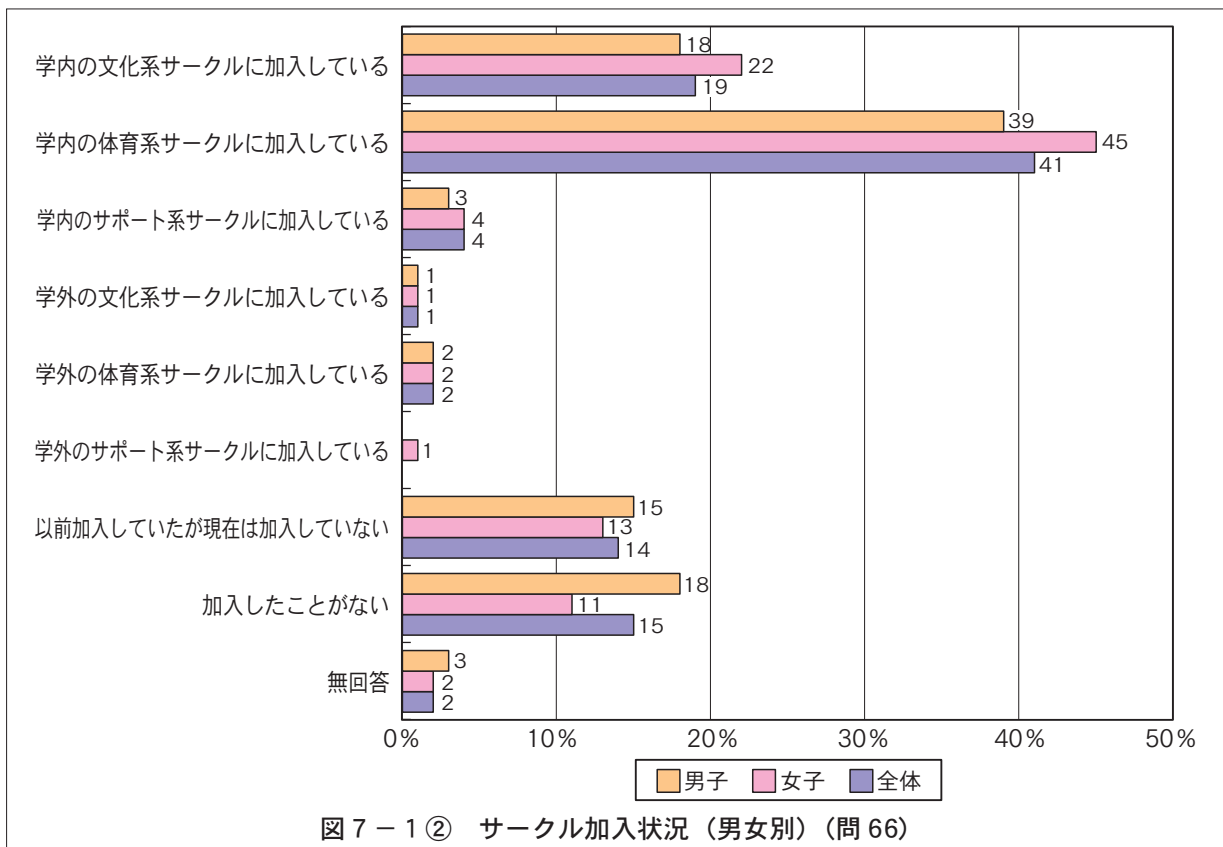
第7章 課外活動について

7-1 サークル加入状況 (図7-1①~図7-1③)

サークル加入状況は、3,758名の調査をまとめた結果、学内の文化系サークルが19%（男子18%、女子22%）、体育系サークルが41%（男子39%、女子45%）で、この比率は前回の調査とほぼ同様である。サークル加入率は、文科系より体育系が約2倍多い。男女の比率は、女性の方がどちらの系においても男子よりやや高く、この傾向も前回の調査結果と同様であった。学内のサポート系サークルへの加入率は4%である。以前加入していたが現在は加入していない学生の比率は14%で、やや微減している。学外のサークルに加入率は数パーセントである。

学部別のサークル加入状況は、総合科学部（旧）は62%、総合科学部（新）は77%の学生、医学部は76%、歯学部は74%、薬学部は82%、工学部昼間は52%、工学部夜間は41%、理工学部昼間は73%、理工学部夜間は41%、生物資源産業学部は72%の学生がサークルに属している。総合科学部と工学部（理工学部）において、改組前と改組後で差があるのは、改組後では1、2年生が調査対象になっているため、3、4年に比べ高くなっていると考えられる。前回調査と比較して、蔵本キャンパスの医歯薬が常三島キャンパスの総合科学部、工学部（理工学部）よりサークル加入率が高く、工学部（理工学部）の夜間主コースは昼間コースより加入比率が低いという傾向は変わっていない。全く加入していない学生の比率（15%）も前回調査とほぼ同様の比率であった。工学部昼間（4%）、工学部夜間（5%）では、学外の体育系サークルへの加入率が他学部に比べ高い。

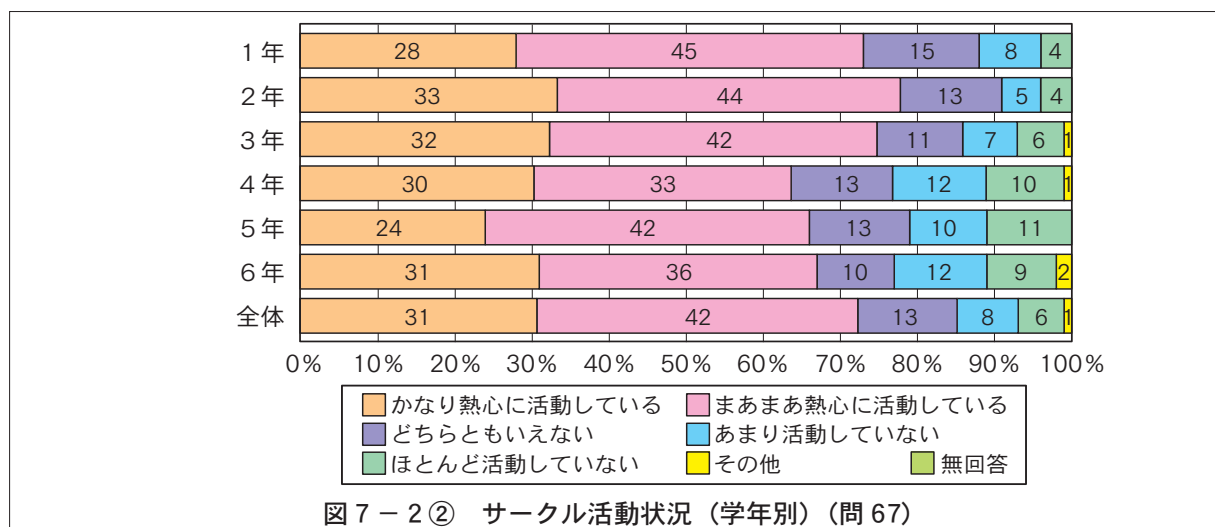
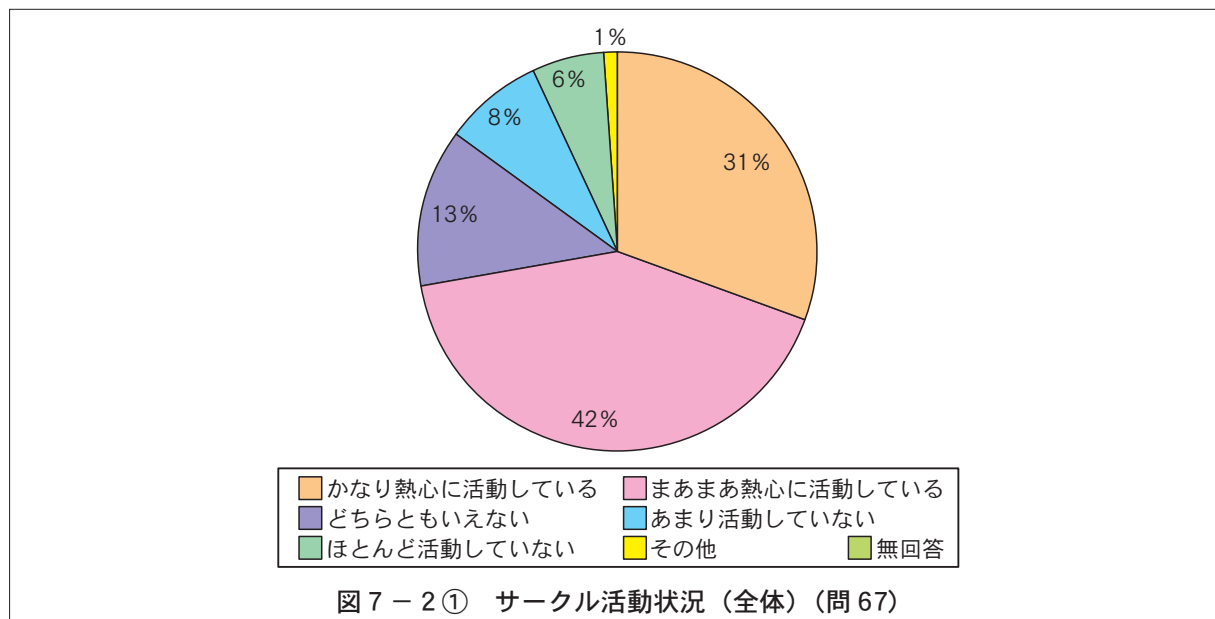




7-2 活動状況 (図 7-2 ①, 図 7-2 ②)

サークル活動状況については、加入している学生の約70%の学生が熱心に活動している。サークル加入率は、文科系より体育系が約2倍多く、文化系が19%、体育系が41%である。男女の比率は、女性の方がどちらの系においても男性よりやや高い。4年生はやや減少しているものの、学年が進行しても活動状況に大きな変動はなく、サークルに加入した学生の約70%は熱心に活動していることがわかる。以上の傾向は前回の調査結果と同様であった。また、学部別に見ると、総合科学部(新)は熱心に活動している学生の比率が84%で最も高かった。薬学部は熱心に活動している学生の比率が63%で、医学部(76%)、歯学部(79%)と比べてもやや低い。工学部、理工学部、生物資源産業学部では、生物資

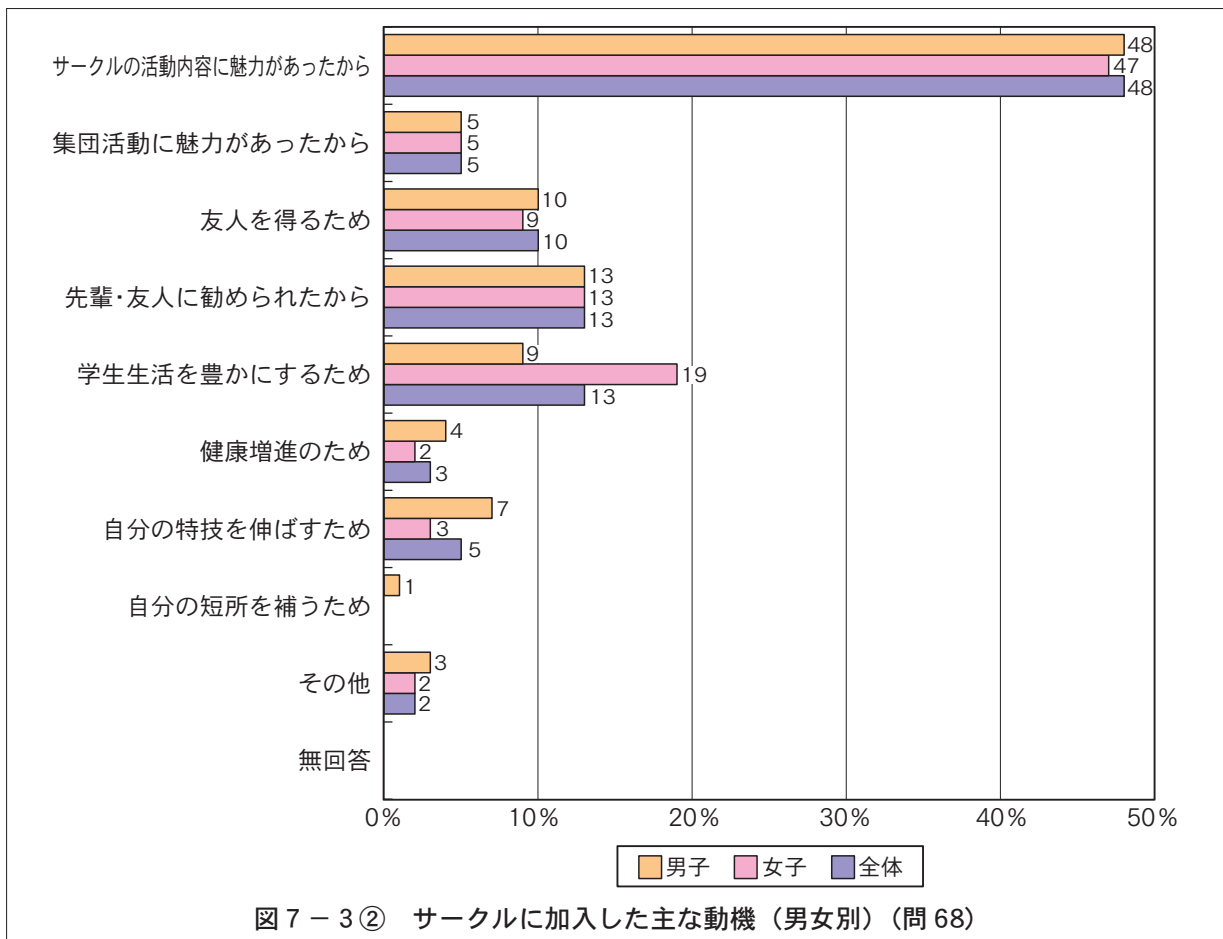
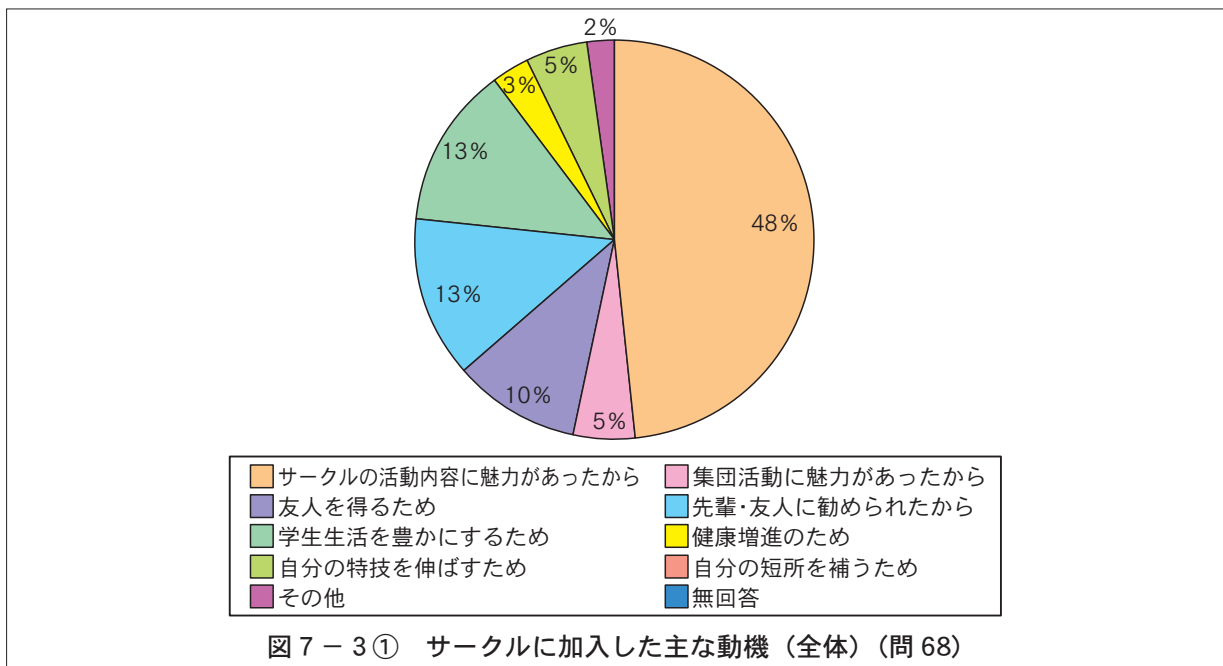
源産業学部が最も低く 66%であった。工学部, 理工学部は約 70%であった。



7-3 加入の動機 (図 7-3 ①~図 7-3 ②)

加入動機については, 上位 3 位は「魅力があったから (48%)」, 「先輩・友人に勧められたから (13%)」, 「学生生活を豊かにするため (13%)」である。他の加入動機も含めて, 前回の調査結果とほとんど同じである。また性別の違いもほとんど見られないが, これも前回と同様に, 「学生生活を豊かにするため」を選んだ学生は, 男子学生が 9%, 女子学生が 19%であり, 女子学生の比率が高かった。

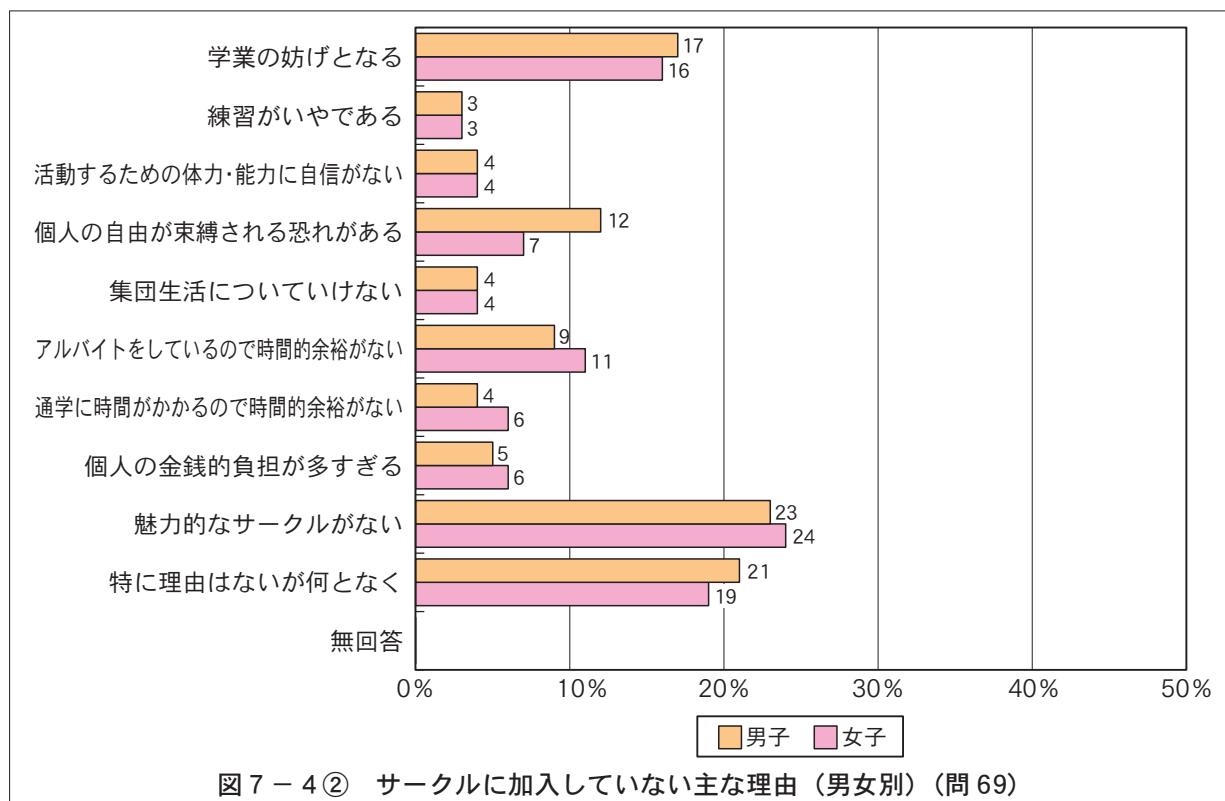
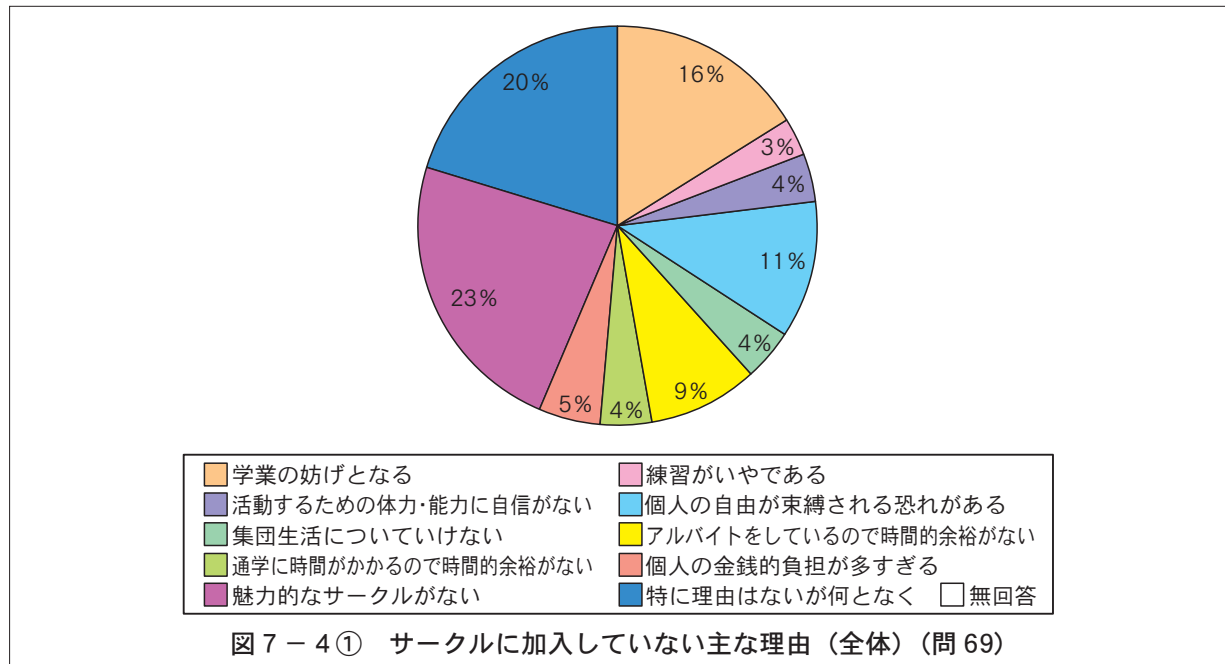
学部別では, 「魅力があったから」を選んだ学生は, 総合科学部 (旧) が 56%で最も高く, 薬学部が 38%で最も低かった。他の学部は工学部夜間と理工学部夜間を除いて 50%前後である。夜間主コースは工学部が 32%, 理工学部が 41%であった。歯学部学生は, 「先輩・友人に勧められたから」を選んだ学生が, 22%で, 他学部に比べ, 約 2 倍である。「自分の特技を伸ばすため」を選択した学生は 5%で, 前回とほとんど同じであり, 現在サークルで活動している学生の多くは, 高校時代とは異なるサークル活動を行っていると考えられる。



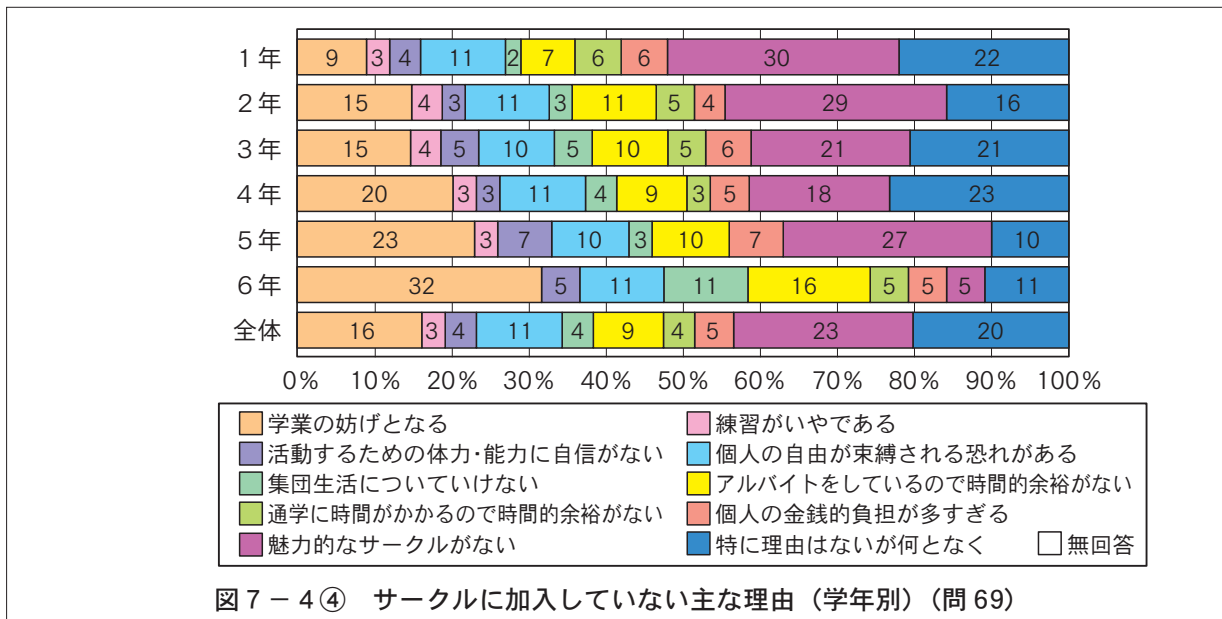
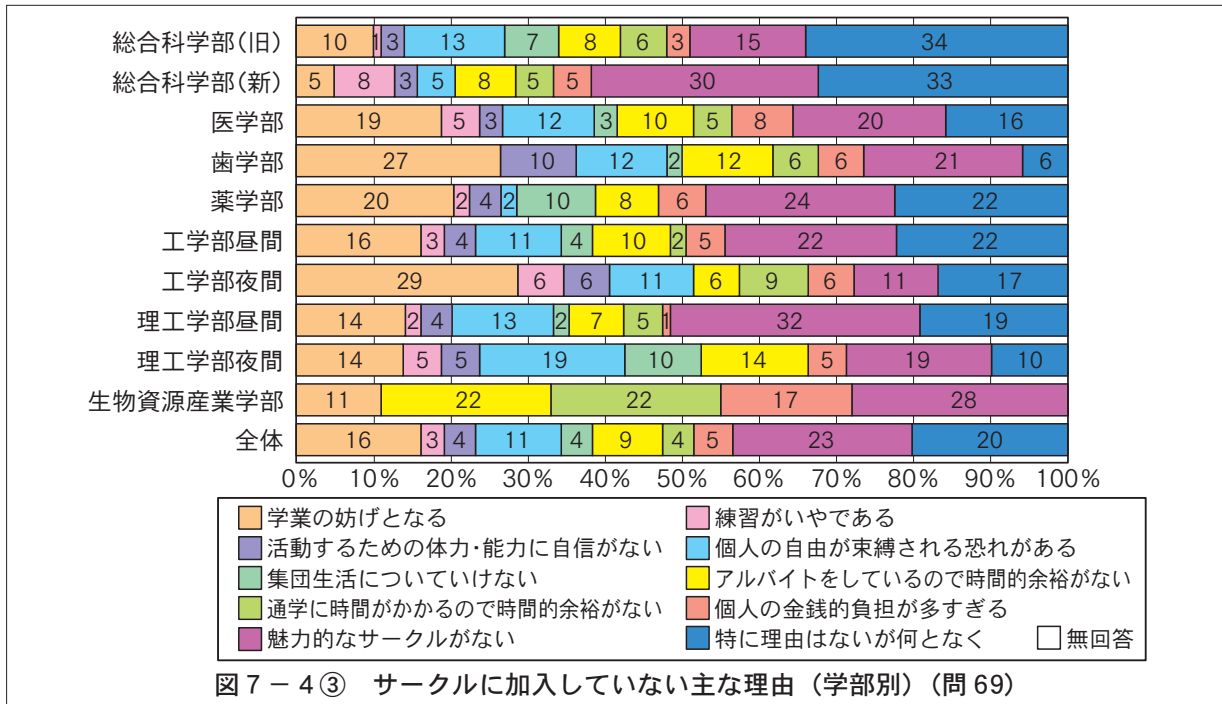
7-4 サークルに加入していない理由 (図 7-4 ①~図 7-4 ④)

サークルに加入していない学生は、3,758名中1,113名で、29%で全体の約4分の1である。加入していない原因は、「魅力的なサークルがない (23%)」, 「特に理由はないが何となく」 (20%) , 「学業の妨げとなる (16%)」, 「個人の自由が束縛される恐れがある (11%)」, 「アルバイトをしているので時間的

余裕がない（9%）」が上位である。男女別に見ると、「学業の妨げとなる」と「個人の自由が束縛されるおそれがある」では、男子学生が女子学生より比率が高い。一方、女子学生が男子学生より比率が高い理由は、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」と「通学に時間がかかる」である。学部別では、「学業の妨げになる」を選んだ学生の比率が高いのは、工学部夜間（29%）、歯学部（27%）、薬学部（20%）、医学部（19%）、工学部昼間（16%）であった。低いのは、総合科学部（新）が5%、総合科学部（旧）が10%、生物資源産業学部が11%であり、学部間に違いが認められた。「アルバイト」をサークルに加入していない理由として選択した学生の比率は、生物資源産業学部が22%、理工学部夜間が14%で、他学部に比べ高い。学年別の調査では、学年が進行するに従い、「学業の妨げとなる」が増加している。他の理由はほとんど変化がなく、学年とは関係が少ない。ただ、6年次において、「集団生

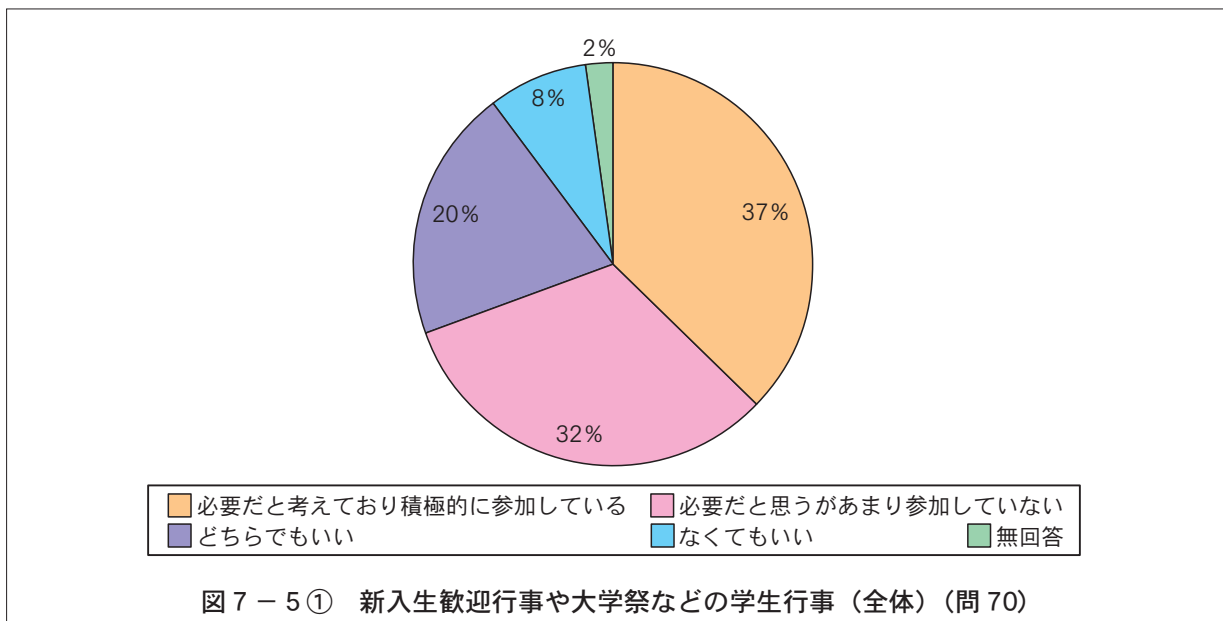


活についていけない」、「アルバイト」を原因としてあげている学生の比率が増加している。



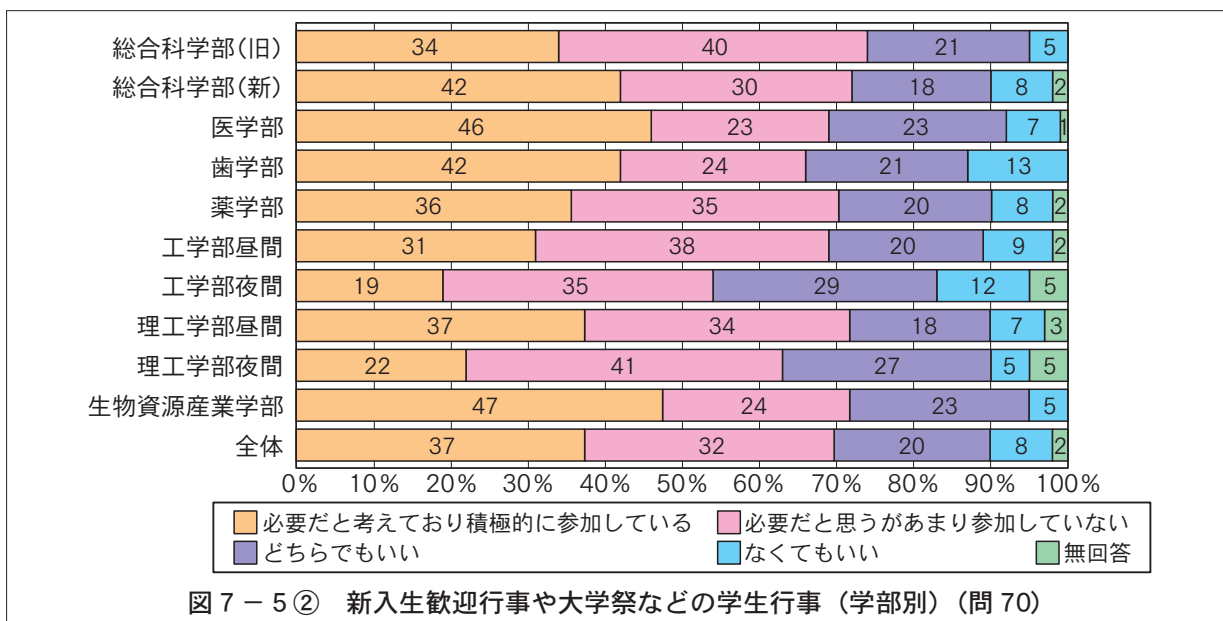
7-5 学生行事 (図7-5①~図7-5④)

新入生歓迎会や大学祭については、7割の学生が必要と考えているものの、積極的に参加している学生の比率は37%で、前回の結果より微減している。また、「どちらでもいい」、「なくていい」を選択した学生の比率も微増しており、全体的に学生行事に対する学生の興味は減少傾向であると思われる。



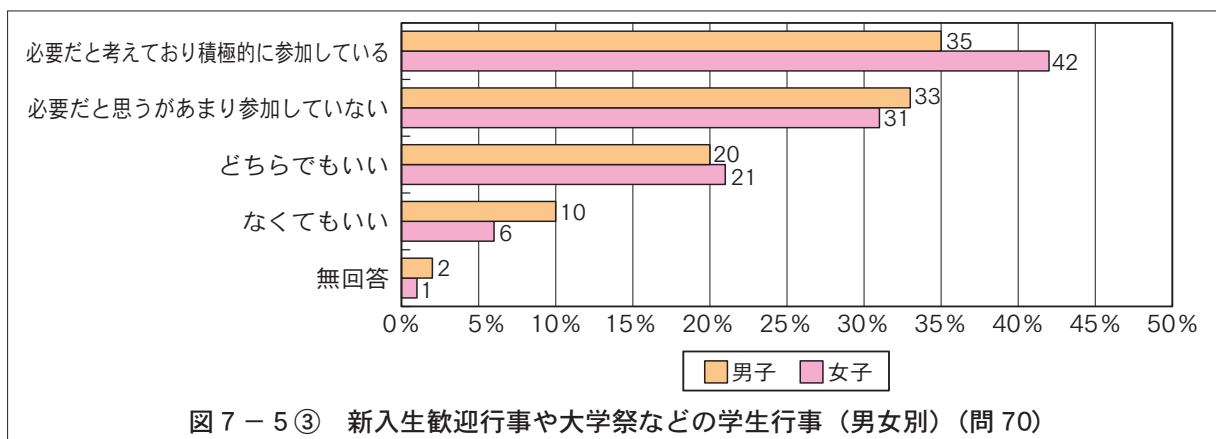
<学部別>

学部別の分析では、医学部、歯学部、薬学部、生物資源産業学部に比べ、工学部、理工学部の積極的に参加する学生の比率が低い。特に夜間主コースの比率が低い。この傾向は前回の調査と同様である。



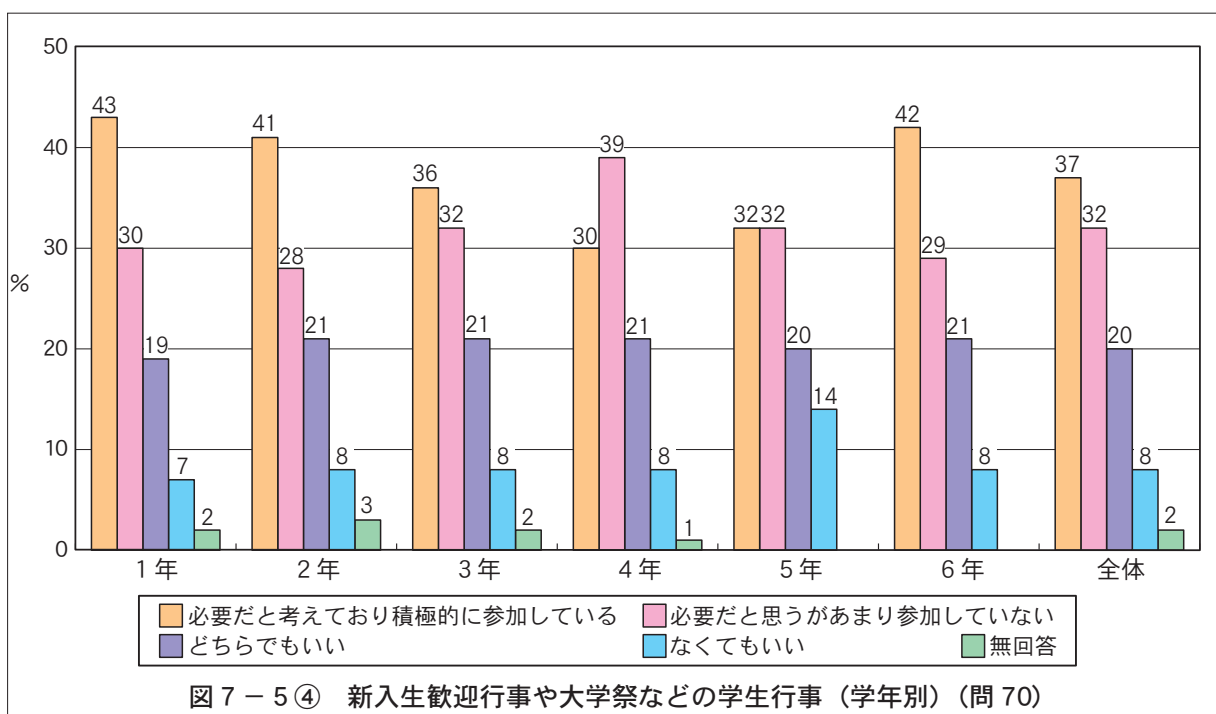
<男女別>

積極的に参加したと答えた学生の比率は、男子学生が35%、女子学生が42%で、女子学生が積極的に参加している学生がやや多いことがわかる。この傾向も前回と同様であるが、ややその差が小さくなっている。「どちらでもいい」を選択した学生では、男子学生が20%、女子学生が21%でほとんど同じであるのに対し、「なくていい」を選択した学生は、男子学生が10%、女子学生が6%で、明らかに学生行事に否定的な態度を持つ学生の比率は男子学生の方が高い傾向がある。



<学年別>

積極的に参加した学生の比率は、3、4年次で減少傾向である。6年次では逆に増加し、42%である。これも前回の調査より減少している。

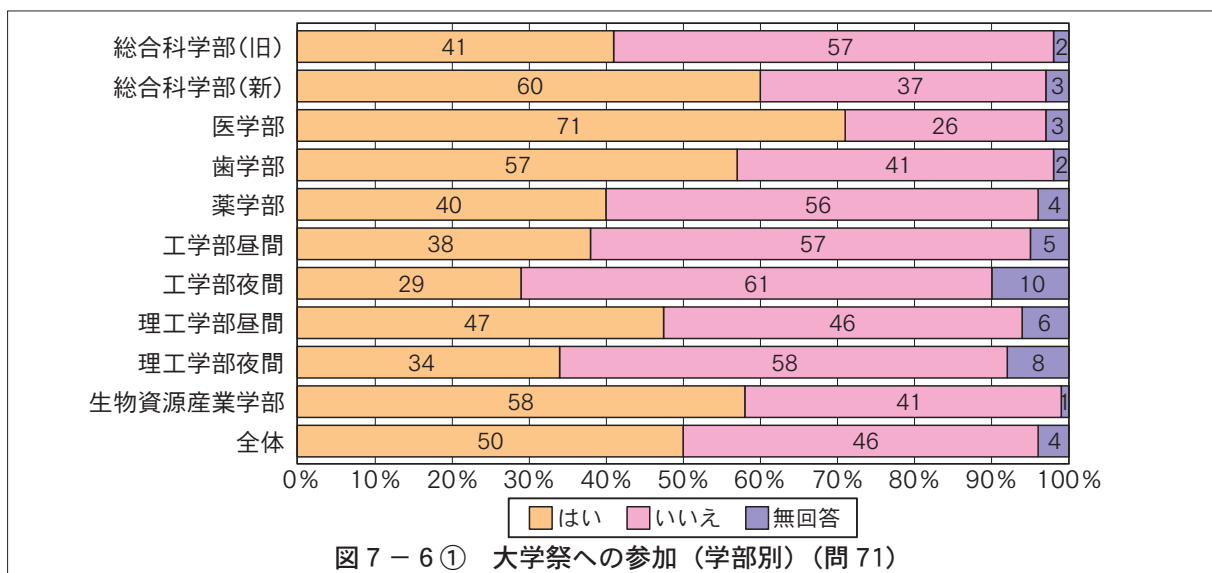


7-6 大学祭への参加状況 (図 7-6①, 図 7-6②)

大学祭への参加意志については「参加する」と答えた学生の比率は、全体の50%で、前回より減少している。

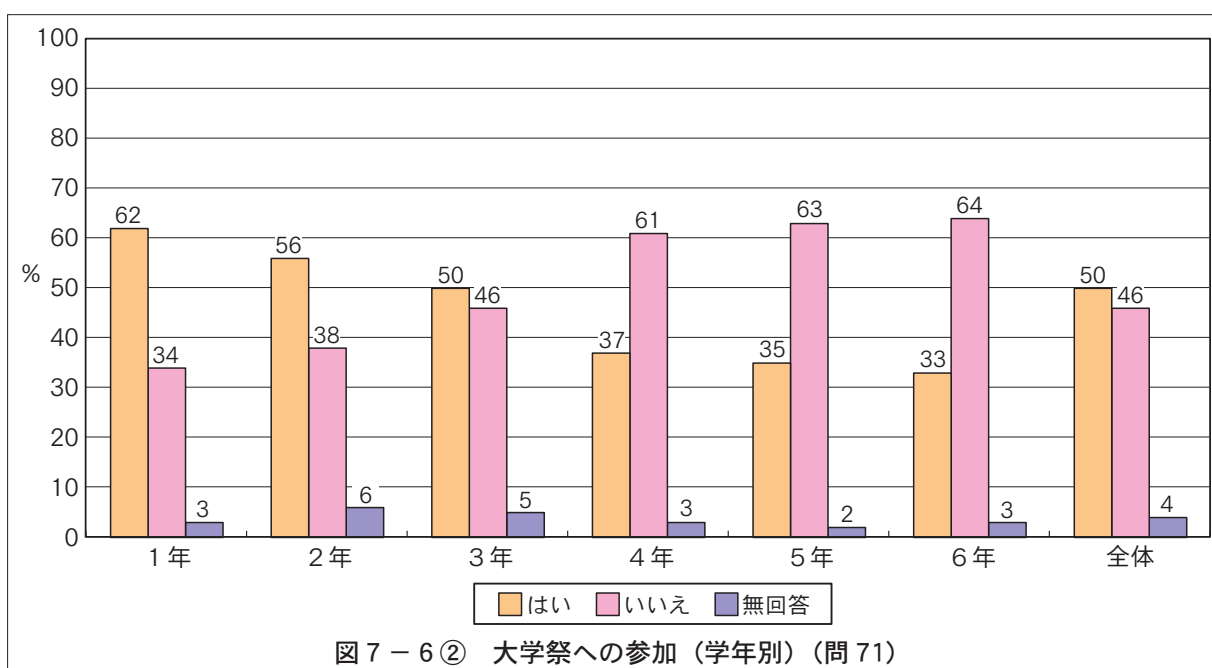
<学部別>

医学部が最も高く、71%の学生が「参加する」を選択している。歯学部(57%)、総合科学部(新)(60%)、生物資源産業学部(58%)は半数以上の学生が「参加する」を選択しているが、工学部昼間は38%、理工学部昼間は47%、総合科学部(旧)(41%)で、やや少ない。工学部夜間と理工学部夜間は、29%、34%で全体の中で最も少ない。



<学年別>

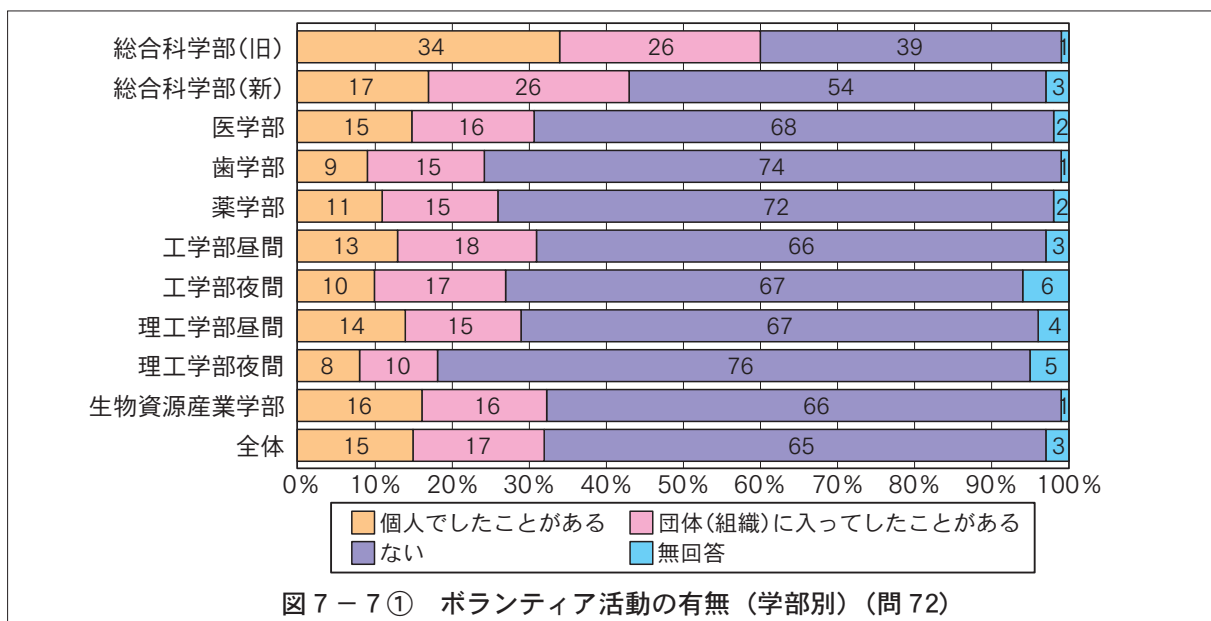
高学年になるにつれて、大学祭に参加した学生の比率は減少している。1年生は62%、2年生は56%、3年生は50%で半数以上が参加しているが、4年生から6年生では37から33%の範囲で、大学祭に参加した学生の比率は、3分の1よりやや多い程度である。



7-7 ボランティア活動 (図7-7①, 図7-7②)

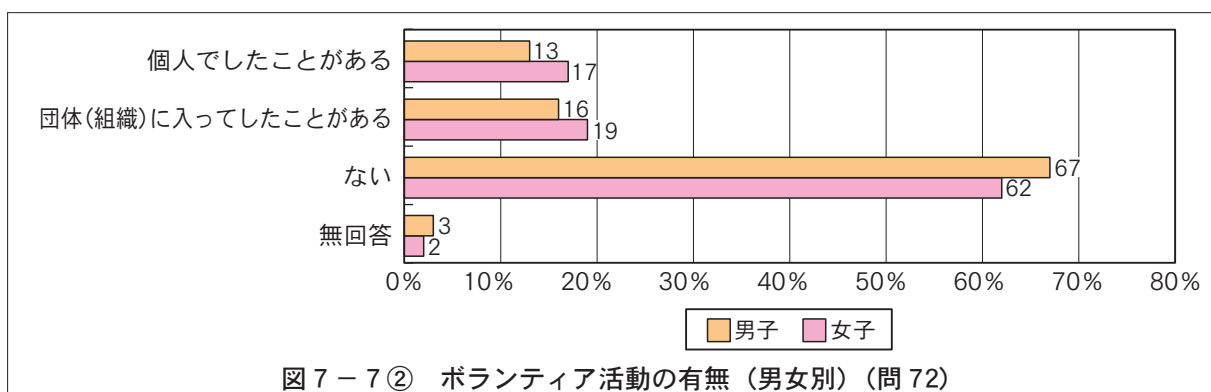
<大学入学後のボランティア活動>

全体の集計では、ボランティア活動の経験がある学生の比率は、個人で行った経験がある学生が15%、団体に入って行った経験がある学生が17%で、両方を合わせると32%で、前回の調査とほとんど変わっていない。しかし、学部別に見ると、総合科学部、薬学部、歯学部は増加し、医学部、工学部は減少傾向である。



<男女別>

男女別に見ると、やや女子学生が男子学生より経験した学生の比率が高い。前回の調査と比べ、男女共微減している。



まとめと今後の課題

サークル活動や大学祭活動、ボランティア活動は、大学の課外活動として、単位にはならないものの、学生の多様な能力の養成、また新たな経験による今までない観点にたった考え方を身につけるために極めて重要な活動であると考えられる。特に、受験勉強に集中し、集団行動のトレーニングが十分でない学生、他の世界を見ようとしなかった学生にとって、課外活動は、まさに協調性を養い、チームの中での自分の果たすべき役回りや、社会の中での自分の立ち位置を考えられる絶好の機会である。そのため、大学も許す限り、多くの学生がサークル活動に参加して活動できるよう支援することが必要である。サークル活動を行わない理由として多かった理由は、「魅力的なサークルがない」と「学業の妨げとなる」、「特に理由はない」の3点であった。アルバイトのためにサークル活動に参加できないと答えた学生の比率は、男子学生9%、女子学生11%で、それほど高くない。今後は、サークル活動に熱心に参加している学生に対して、何が楽しいのか、またはいつてよかった点など、アンケート調査で聞き、この生活実態調査報告書に記載することが必要と思う。また、「魅力的なサークルがない」と答えた学生には、どんなサークルなら参加するかといった質問も必要で、最近の学生の希望も調べる必要がある。

はと思われる。私としては、「個人としての自由が束縛される恐れがあるから」と答えた学生の比率が全体の10%程度あるのが気にかかる。

学部別の分析結果では、特に体育系サークルへの加入率が、医学部（56%）、歯学部（52%）、薬学部（69%）に対して、工学昼間（24%）、理工昼間（40%）、総合科学部（旧、29%）、総合科学部（新、31%）と低い。この傾向は前回とほぼ同様である。男子学生の比率が高い工学部・理工学部において、サークル加入率が低い理由を今後調査し、改善策を考える必要があるのではないかとと思われる。

ボランティア活動を行った経験のある学生は微減しており、今後、学生と社会の関わりを強めるため、参加する機会を増やす必要があるのではと思われる。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様の傾向を示しており、また今回から調査対象になる理工学部、生物資源産業学部も同様な傾向を示している。各学部とも大局的にはよく似た傾向にあり、「インターネット利用」と「先輩・知人」がほとんどの学部で20%台と最も多く、次いで「指導教員」、「就職情報誌・新聞・マスコミ」、「大学内の資料」ならびに「家族等」もしくは「就職担当教員」の順となっている。歯学部、薬学部および医学部では、この順に「先輩・知人」の割合が高く（ともに30%弱）、かつこの手段に関しては他の学部より高い比率となっている。また歯学部、薬学部および医学部では、「指導教員」の比率も高いが（ともに17%以上）、他学部より著しく高いとまでは言えない。これらのことより医学部・歯学部・薬学部では約半数の学生が「先輩・知人」あるいは「指導教員」から情報を得ていることがわかる。キャリア支援室からの情報入手率は2%と高いとは言えない。今後とも同室の情報収集・整備と学生への広報活動の充実が望まれる。また前回調査同様、「直接会社に照会」は2%程度に過ぎない。これはインターンシップの充実が原因の可能性もあるが、学生のより積極的な活動も促す必要があると思われる。

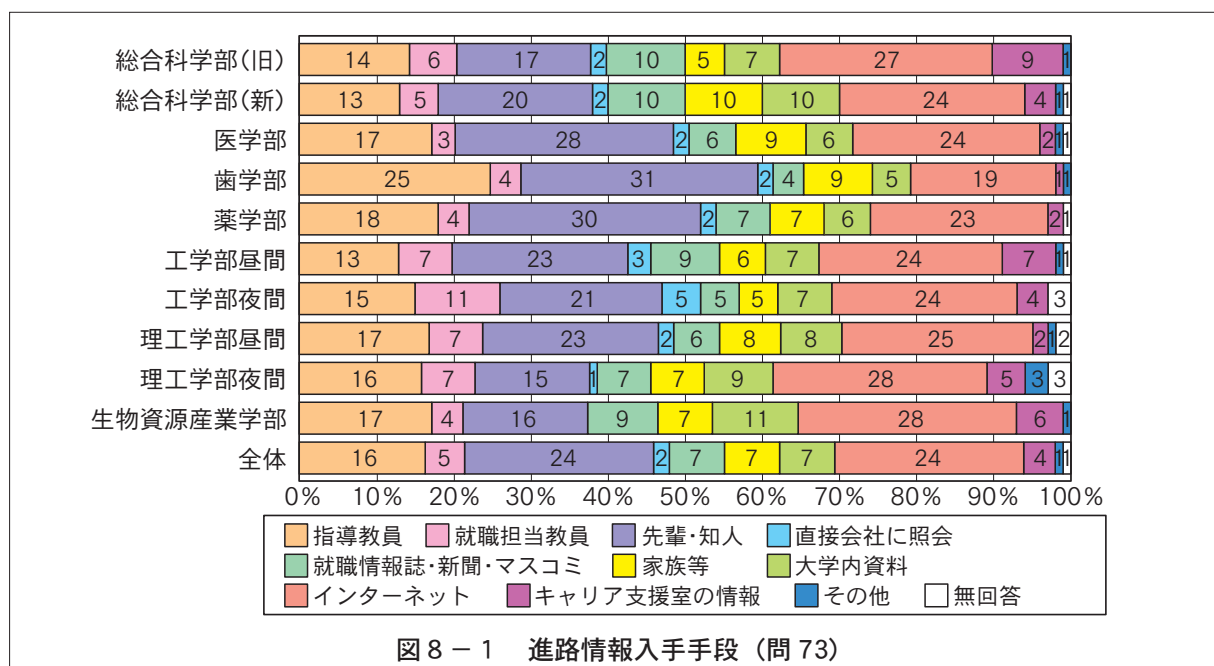
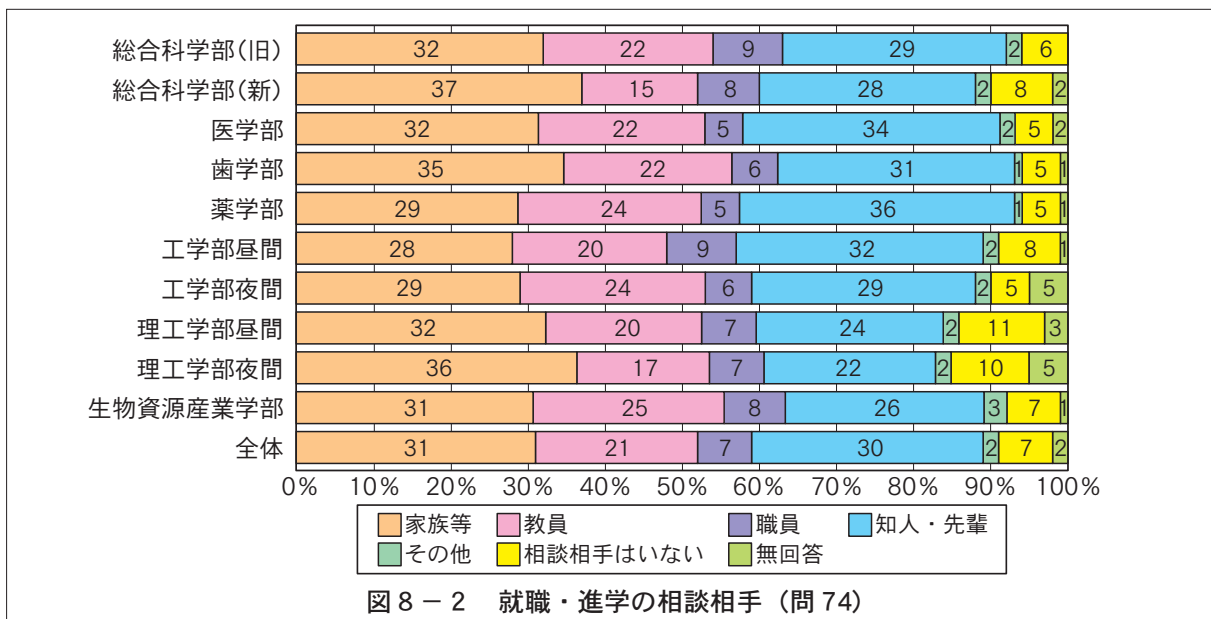


図8-1 進路情報入手手段 (問73)

8-2 就職・進学相談相手 (図8-2)

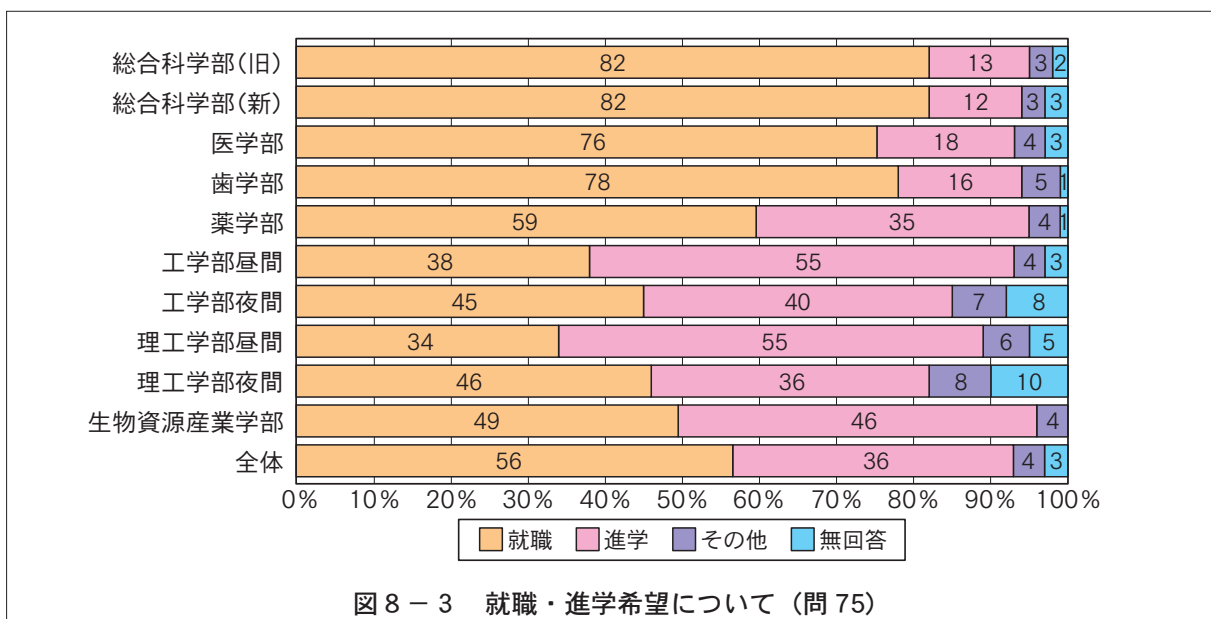
図8-2は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部とも大局的にはよく似た傾向にあり、また今回から調査対象になる理工学部、生物資源産業学部も同様な傾向を示している。最も信頼できる相談相手でも多かったのが「家族等」であり30%弱から40%弱で、家族への信頼感が伺われる。それに次ぐのが「知人・先輩」であり、これもほぼ30%で学生が信頼する相手であることが伺われる。また「教員」に相談すると回答した者も20%前後に上り、教員に対する信頼感も伺われる。相談相手としては、この三者で全体の80%から90%になっておりほとんど全ての学生は身近で信頼できる相手に就職・進学の相談をしている様子が伺われる。只、「相談相手がいない」という回答も5%か

ら10%となっており無視できない数字である。学生支援の一層の充実が望まれるところである。



8-3 就職・進学希望について (図8-3)

図8-3は、学部生全員に対して卒業後の進路を尋ねたものである。就職希望と進学希望の比率は全学部とも前回調査ならびに前々回調査とあまり変化が感じられなく、また今回から調査対象になる理工学部、生物資源産業学部も同様な傾向を示しているが、総合科学部では若干就職希望者が増え進学希望が減っているように見受けられる。全体での進学希望者の割合は3分の1強であり、最も学生数の多い工学部・理工学部の昼間コースでは55%の学生が進学を希望している。それに対し、総合科学部、歯学部および医学部における進学希望者の割合はこの順に低く、ともに20%を下回っている。これらの学部における大学院進学希望者の増加対策の検討が求められる。



8-4 就職先選択で重視するもの (図8-4)

図8-4は、前出の間75で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともよく似た傾向を示しており、全体的な傾向も前回・前々回調査と大きくは変わっていない。また今回から調査対象になる理工学部、生物資源産業学部も同様な傾向を示している。全体をみると、「就職先の将来性・安定性」が24%（前回調査27%、前々回調査26%）と最も多く、次いで「収入」23%、「人間関係の良いこと」18%、「能力を發揮できること」12%、「勤務地の地理的条件」12%となっている。「就職先の社会的評価」は6%と少なく、「先端技術を駆使しているところ」と「研究評価をしてくれるところ」はともに1%とさらに少ない。専門分野にかかわらず全体的に安定志向の傾向にあるといえる。

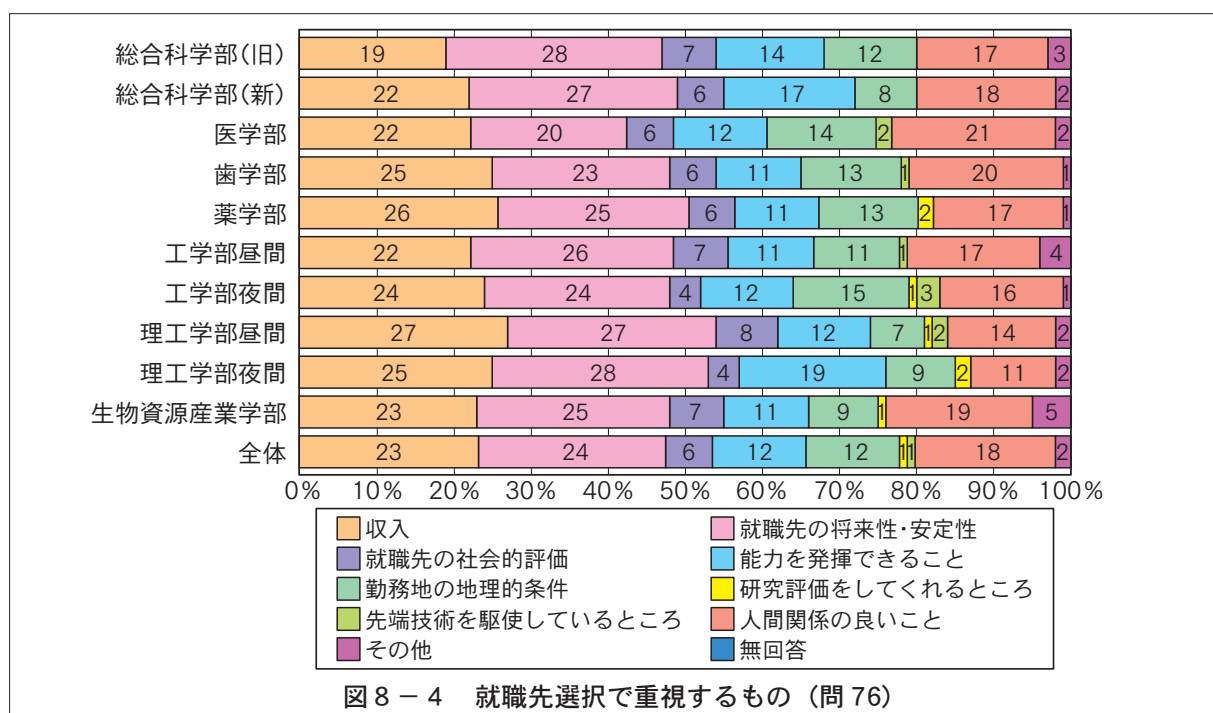
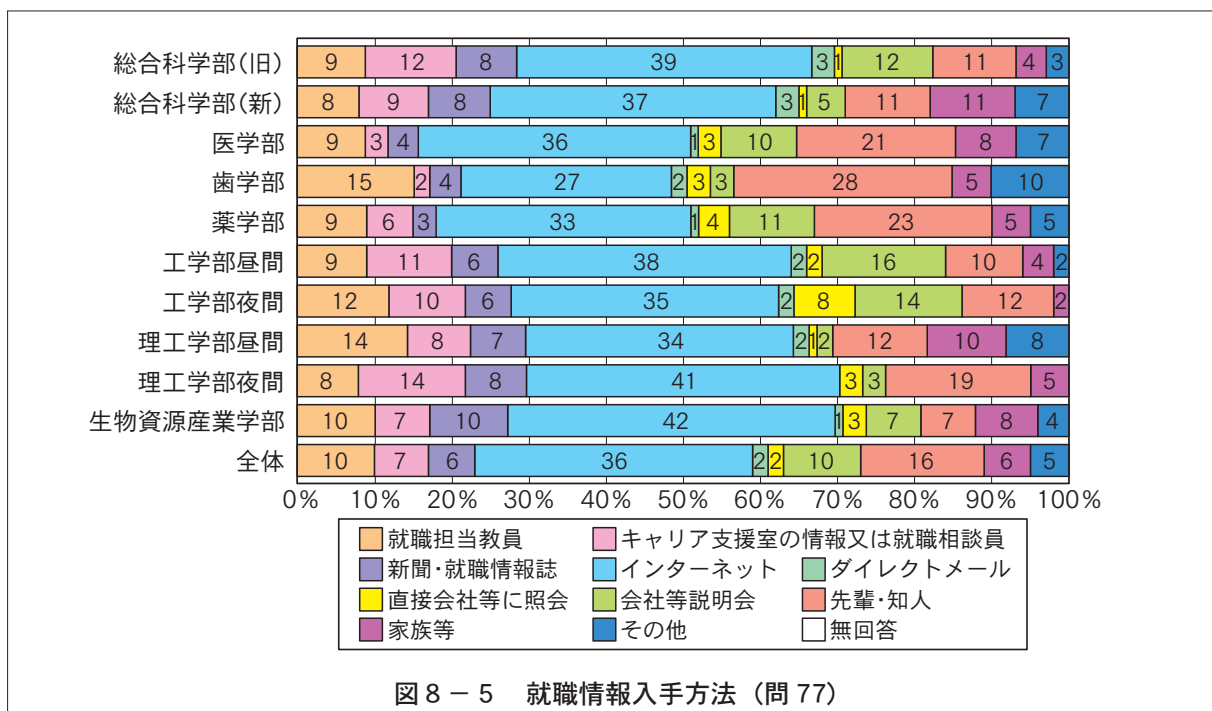


図8-4 就職先選択で重視するもの (問76)

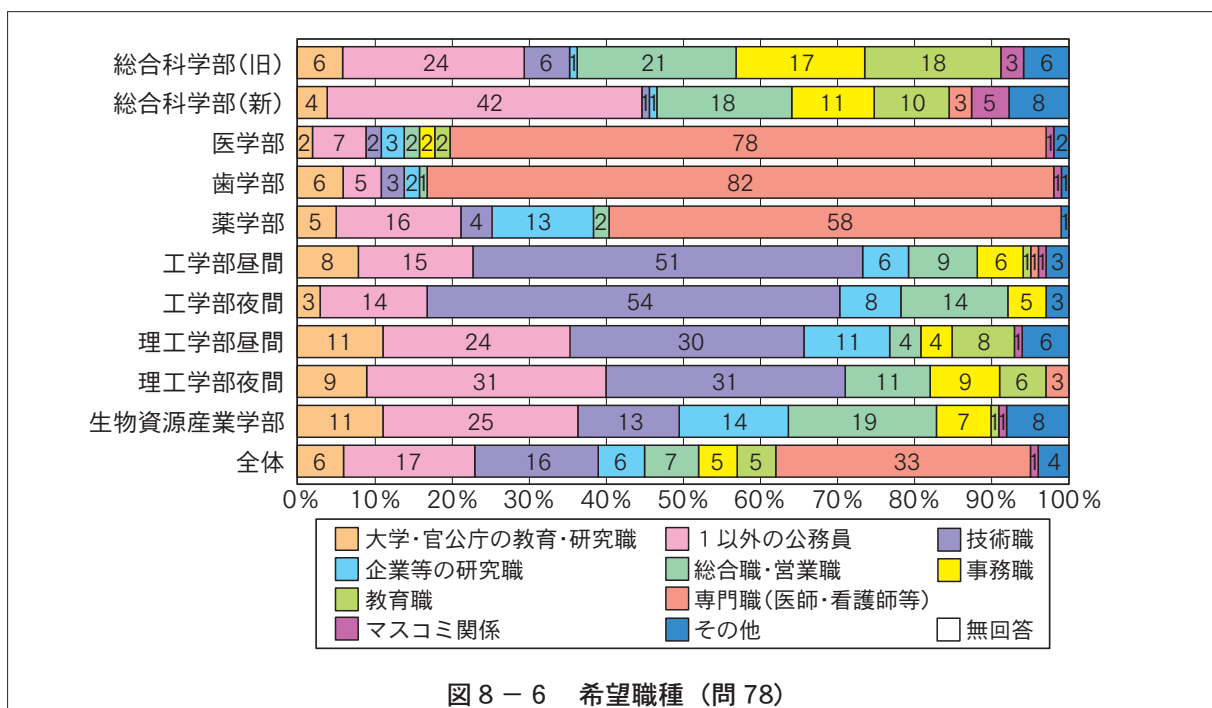
8-5 就職情報の入手方法 (図8-5)

図8-5は、学部卒業予定の就職希望学生に対して、複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたものである。各学部とも前回調査および前々回調査の分布とほぼ同様であり、また今回から調査対象になる理工学部、生物資源産業学部も同様な傾向を示してはいるが、「会社等説明会」の比率が、前回調査よりも若干上がっている様である。全体の傾向としては「インターネット」が36%（前回調査35%、前々回調査36%）とやはり多く、次いで「先輩・知人」16%、「就職担当教員」10%、「会社等説明会」10%と続き、「キャリア支援室」7%、「新聞・就職情報誌」および「家族等」がともに6%となっている。歯学部、薬学部ならびに医学部では、この順に「先輩・知人」の割合が高く、かつこの方法に関しては他の学部より相対的に高い比率となっている。この傾向は前出の8-1の進路情報入手手段の場合と同様である。「新聞・就職情報誌」については、医学部、歯学部、薬学部で、その割合はすべて5%以下となっている。「直接会社に照会」は前出の8-1と同様で全体の2%に過ぎない。学生の自主的で積極的な行動が望まれる。



8-6 希望する職種 (図 8-6)

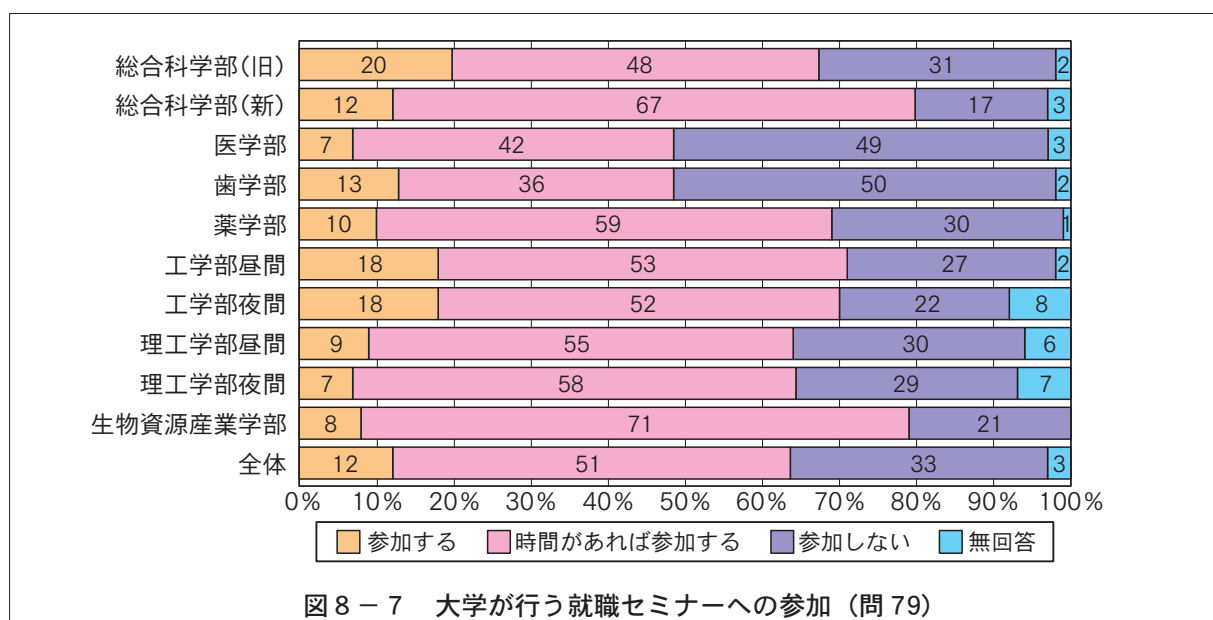
図 8-6 は、問 75 で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。全体的な傾向は前回調査とほぼ同様である。また今回から調査対象になる理工学部、生物資源産業学部も同様な傾向を示している。医学部・歯学部・薬学部では「専門職（医師・看護師等）」がそれぞれ 78%・82%・58%と卓越している。工学部昼間では「技術職」が 50%強であり、続いて「大学・官公庁の教育・研究職以外」15%、「総合職・営業職」9%、「大学・官公庁の教育・研究職」8%、「企業等の研究職」6%、「事務職」6%となっている。一方理工学部昼間では「技術職」が 30%強に留まり、続いて「大学・官公庁の教育・研究職以外」24%、「大学・官公庁の教育・研究職」11%、



「企業等の研究職」11%となり少し公務員志向が強いようである。総合科学部（旧）では「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が24%と最も多いが、他の職種の割合も「総合職・営業職」21%、「教育職」18%、「事務職」17%、「マスコミ関係」3%となっており、他の学部 비해希望職種が多岐にわたっていることが分かる。薬学部でも「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が16%（前回調査10%）となっており比較的公務員志望者が多いことが分かる。

8-7 就職セミナーへの参加 (図8-7)

図8-7は、大学が行う就職セミナー参加について学部生全員に尋ねたものである。全体では、「参加する」12%（前回調査14%、前々回調査16%）、「時間があれば参加する」51%（前回調査59%、前々回調査とも53%）、「参加しない」33%（前回調査24%、前々回調査27%）、「無回答」3%（前回調査3%、前々回調査4%）であった。総合科学部、工学部、理工学部、生物資源産業学部ならびに薬学部では、「参加する」および「時間があれば参加する」を合わせて70%程度であるのに対して、医学部と歯学部の割合は50%程度で20%程度低くなっている。これは、就職セミナーの内容が主に一般企業関連であるためと思われる。



8-8 キャリア支援室の利用状況 (図8-8)

図8-8は、全学生に対してキャリア支援室の利用状況を尋ねたものである。キャリア支援室の利用状況を全体的に見ると、「キャリア支援室を利用したことがない」77%（前回調査75%、前々回調査78%）に対して「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計は20%（前回調査15%、前々回調査17%）となっている。全学年を対象としているため、未だ卒業生の出していない理工学部と生物資源産業学部では利用した事がない割合が際立っているものの、学年進行とともに利用経験者の割合は増加して行くと考えられる。

各学部別に「現在も利用している」と「以前に利用したことがある」の合計を前回、前々回の調査結果と比較すると、総合科学部（旧）46%（前回調査26%、前々回調査28%）、工学部昼間42%（前回調査28%、前々回調査22%）、工学部夜間35%（前回調査32%、前々回調査29%）であるので、これらの学部では利用者は確実に増えている。また医学部、歯学部および薬学部ではそれぞれ10%、7%、

10%であり、歯学部、薬学部で前回調査より2%程度下降している、これら3学部の利用率は総合科学部と工学部に比べ低いことが分かる。ただし、就職活動期にあたる学年に限定すればその利用率はもっと高いと思われる。

なお、キャリア支援室では常三島地区および蔵本地区において就職相談体制を整えており、加えて常三島地区には就職コーディネーターを配置し、学生と企業の橋渡しを行っている。また就職ガイダンスやセミナーを実施するとともに、すべての卒業・修了予定者に対して冊子『就職ハンドブック』や履歴書入りクリアファイルを配付し、希望学生には携帯電話登録で就職セミナーや求人情報を提供している。さらに、平成27年度よりウェブ上の情報サービスであるTwitter（ツイッター）を開始し、就活情報を広報している。また毎年度末に大阪等で開催される合同企業説明会へのバスツアーを企画・実施するとともに、大規模な学内合同企業説明会を複数回開催している。

キャリア支援室における直接的な利用以外にも、このような間接的サービスを受けている学生も数多いとみられる。今後さらにサービス内容の充実とともに学生への周知徹底を図ることが望まれる。

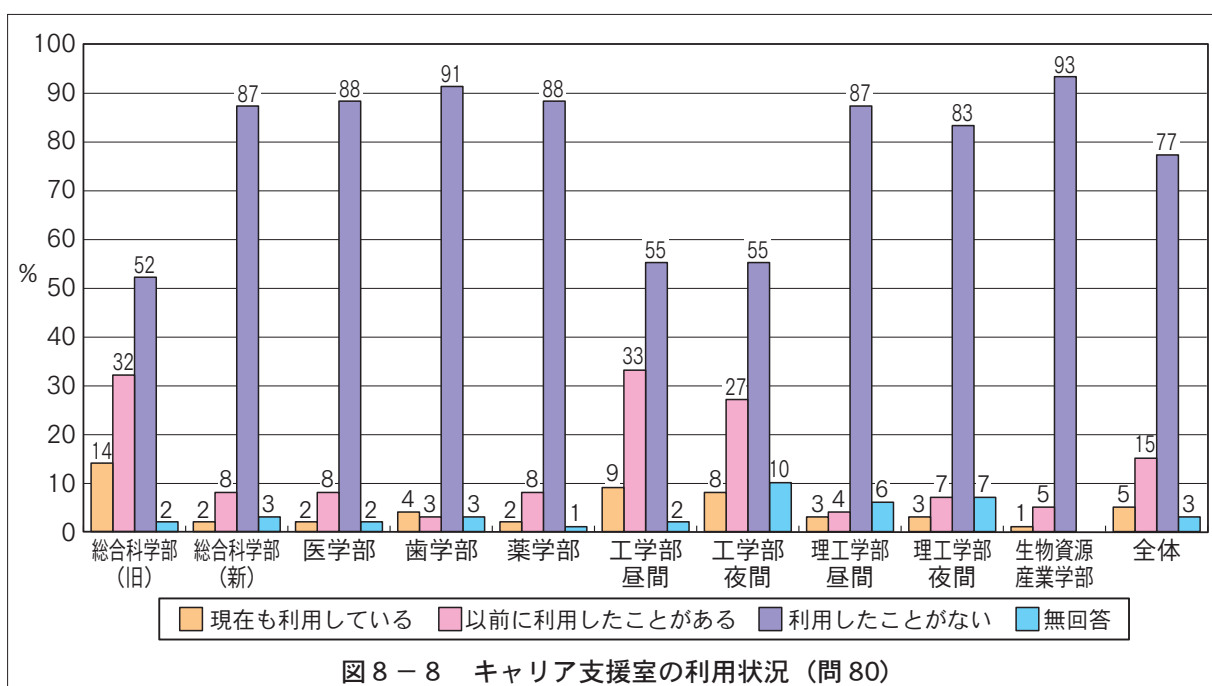


図8-8 キャリア支援室の利用状況 (問80)

第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、平成28年(2016)4月より、社会総合科学科(1学科)からなる学部として再スタートした。この総合科学部(新)は、「国際教養コース」「心身健康コース」「公共政策コース」「地域創生コース」の4コースからなり、現在1年生・2年生が在籍している。一方、3年生・4年生が在籍する改組前の総合科学部(旧)は、人間文化学科、社会創生学科、総合理数学科の3学科体制をとっている。

今回の調査において、総合科学部全体の調査票回収率は52.3%で、前回調査の61.5%から低下した。総合科学部(新)の社会総合科学科においては64.8%と高い数値を示しているものの、総合科学部(旧)の人間文化学科および社会創生学科での回収率は、それぞれ38.1%、36.2%と低くなっている。3年生・4年生への調査票の配布・回収に関しては、今後さらなる工夫が必要である。

「住居・通学について」では、自宅からの通学者は総合科学部(旧)では26%を占め、全学平均と同じとなっている。一方、総合科学部(新)においては46%と高く、県内出身者の比率の高さが覗える。家賃支出については、前回調査の92%と大きな変化はなく、5万円未満の学生が90%を占めている。この傾向は、同じ常三島地域の工学部・理工学部・生物資源産業学部の学生とほぼ同じである。また通学方法については、全学の傾向と同様、自転車が最も多くなっている。

「収入・支出について」では、家庭の年間所得が500万円未満とする回答が総合科学部(旧)33%、総合科学部(新)29%であり、全学平均の25%よりも高くなっている。授業料免除状況では、年収500万円未満の層で「授業料免除制度を知らない」という回答が5%あり、前回調査の11%からはかなり少なくなっているが、さらなる周知は求められるであろう。また「授業料免除制度は知っているが申請していない」とする回答が49%(前回調査54%)にのぼる。今後、やはり申請を躊躇する背景などを調査する必要があるかもしれない。

ところで自宅外通学者においては、家計状況として保護者等から「5万円未満」の援助を受けているとする回答は総合科学部(旧)73%、総合科学部(新)74%であり、前回調査の73%とほぼ変化はないものの、全学平均より7~8ポイントも多くなった。一方、1か月の平均支出額は「5万円未満」が総合科学部(旧)47%、総合科学部(新)68%を占め、総合科学部(新)においては全学平均の50%より目立って大きく、「3万円未満」の区分においても27%(全学平均16%)と多い。さらに、1か月の食費は「2万円未満」が総合科学部(新)45%で全学平均の29%よりかなり高い。総合科学部(新)の学生において、食事を節約して支出を切り詰めている様子が覗え、今後は健康管理へのアドバイスを実施する機会の提供も必要と考えられる。

総合科学部(旧)72%、総合科学部(新)73%の学生がアルバイトに従事しており、前回調査の71%と大きな変化はない。しかし、週10時間以上の時間をアルバイトに割いている学生は総合科学部(旧)55%、総合科学部(新)57%であり、前回調査の46%に比べて、その割合はかなり高くなっている。他方「勉学に支障はない」とする回答は、総合科学部(旧)85%、総合科学部(新)92%にのぼる(前回調査86%)。アルバイトの目的に対する回答から、「生活費・学費」と学生生活を豊かにするための「レジャー・旅行費」「日常の娯楽・嗜好品」をアルバイトで補おうとする学生の傾向が依然として覗える。

「健康状態について」では、睡眠時間、喫煙や飲酒の頻度についても、他学部と大きな違いは認められない。飲酒の頻度に関しては、総合科学部(新)に比べて総合科学部(旧)が高い傾向にはあるが、学年の差異が反映されているであろうと考える。しかし、週3回以上の飲酒習慣があると答えた総合科学部(新)の男子学生のうち、1回あたりの飲酒量「4合以上5合未満」の占める割合が他学部に比べて

高かった。アルコール摂取に関する指導を行っていく必要があるかも知れない。

「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が総合科学部（旧）32%、総合科学部（新）28%であり、前回調査と同じく、全学平均の38%より低かった。さらに、学習意欲の向上に対する取り組みを進める必要があると考えられる。

「就職や進路」について悩む割合は総合科学部においては前回調査と同じで高く、男子は総合科学部（旧）36%、総合科学部（新）33%、女子は総合科学部（旧）49%、総合科学部（新）41%となっている。国家試験で資格を得て専門職を目指す学部とは異なる本学部の性質に因るもので、工学部や理工学部・生物資源産業学部にも同様の傾向がみられる。様々な情報提供を含め、初年次からの対応が今後とも必要であろう。

セクハラ、アカハラ、サークル内でのいじめ（嫌がらせを含む）を受けた学生は、前回調査と同じく1%前後存在し、悪徳商法、いたずら電話、ストーカー被害についても2~4%の回答があった。また「カルトの勧誘」では、総合科学部（旧）の男子・女子ともに6%、総合科学部（新）の女子3%が「受けた」と回答しており、前回調査の5%とほとんど変化はない。そのため今後も、注意喚起を学生に継続して行っていくことが必要である。

「修学状況について」では、「国立大学だから」が総合科学部（旧）49%、総合科学部（新）42%と「地元の大学だから」が総合科学部（旧）23%、総合科学部（新）40%で回答が多い。また、「希望する学部・学科があったから」とする回答が総合科学部（旧）26%、総合科学部（新）27%と前回調査よりもわずかに増えた（前回調査23%、前々回調査28%）。ただ今後も受験生に対して、学部の教育方針をより積極的に広報する努力は求められるであろう。

所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が総合科学部（旧）65%、総合科学部（新）70%で、全学平均の66%と大差ない。また、授業の満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計は、総合科学部（旧）71%、総合科学部（新）64%で、全学平均の59%を上回っている。その一方、授業が満足できない理由として、総合科学部（旧）56%、総合科学部（新）69%が「授業がつまらない」と回答しており、これは全学的に同じ傾向にある。

「課外活動について」では、「サークル加入状況」は総合科学部（旧）62%、総合科学部（新）77%である（全学平均69%）。総合科学部（旧）において「以前は加入していたが現在は加入していない」の割合が高くなっているが、これは調査対象が3年生・4年生となっているためであると考えられ、同様の傾向は工学部にも認められる。サークル加入の動機では「活動内容に魅力があった」が48%を占めており、充実した学生生活を送ろうとする傾向が覗える。

大学入学後のボランティア活動では、総合科学部（旧）60%、総合科学部（新）43%の学生が何らかの活動に従事しており、全学平均の32%に比べると高い。ボランティア活動への関心の高まりとともに、ボランティア・パスポート制度の導入なども影響していると考えられる。

「進路・就職について」は、総合科学部（旧）で公務員志望者が24%、総合職・営業職21%、教育職18%、事務職17%、総合科学部（新）でそれぞれ42%、18%、10%、11%となっている。就職先の選択で重視するものとしては、「就職先の将来性・安定性」が総合科学部（旧）28%、総合科学部（新）27%、「収入」が総合科学部（旧）19%、総合科学部（新）22%、「人間関係のよいこと」が総合科学部（旧）17%、総合科学部（新）18%、「能力を発揮できること」総合科学部（旧）14%、総合科学部（新）17%となっており、前回調査と同じく、安定志向が見られる。多くの学生が公務員講座などに参加している一方で、主に一般企業関連である大学が行う就職セミナーへの参加率は、前回調査の17%と同じく、総合科学部（旧）20%、総合科学部（新）12%と低い。また「進学・就職の相談相手」では、総合科学部（旧）・総合科学部（新）の学生ともに、「家族等」「知人・先輩」「教員」「職員」の順となっており、これは全学と同様の傾向である。なお総合科学部（旧）52%、総合科学部（新）87%の学生が

「キャリア支援センターを利用したことが無い」と回答しており、多様な就職選択が可能な学部であるにもかかわらず、キャリア選択に関する関心の低さは依然として懸念される。「就職や進路」でも少し触れたように、初年次からのキャリア教育を今後さらに推進していく必要があるだろう。

9-2 医学部

医学部は、医学科、栄養学科・医科栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科329人(47.8%)、栄養学科・医科栄養学科156人(78.8%)、保健学科310人(59.5%)であり、医学部全体では795人(56.5%)であった。大学全体の回収率(64.0%)と比較すると回収率は良くない。前回調査での回収率は医学部全体で38.1%であり、今回は増加している。回収率は医学科で2倍強に増加し、栄養学科・医科栄養学科では4割増加して、保健学科はほぼ同じである。医学科の回収率が5割以下と低く、医学部全体では男子の回収率が低いことが問題である。

医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験(医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師等の国家試験)を受験して免許を取得し、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中は目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮し、以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」は、自宅通学が25%であり、前回調査の32%よりやや減少しているが、約30%の学生は自宅から通学している。また、74%の学生が毎月5万円未満の家賃を支払っている。「通学方法」では、「自転車」が76%と一番多く、他学部とほぼ同じ割合である。「通学中の事故あり」が11%であり、約1割の学生が通学中に事故を起こしているため、自転車通学を含めて事故に対する注意と交通ルールやマナーの遵守が必要である。

「収入・支出について」は、「家庭の年間収入」では、「750万円以上の収入」がある家庭が45%で、歯学部、薬学部とほぼ同じであり、全体と比較して割合がやや高いが、「500万円未満の収入」の家庭が21%、「500～750万円未満」の家庭が28%みられる。年収500万円未満の家庭において「全額あるいは半額免除を受けている」が34%あるが、「授業料免除を知っているが申請していない」が43%あり、「授業料免除制度を知らなかった」が7%あることから、授業料免除制度を十分に周知して活用してもらう必要がある。「自宅外通学者」について、「1か月の平均収入額」で、「10万円以上」の収入がある学生が25%であり前回調査の23%よりやや増加し、「5万円未満」の収入がある学生が33%であり前回調査の32%とほぼ同じで、約3割の学生の生活は楽ではない。また、「保護者等からの援助額」では、「10万円以上」の学生が12%であり前回調査の8%からやや増加し、「5万円以下」の学生が57%であり前回調査の56%とほぼ同じであることから、保護者等からの援助額は全体としてあまり変化していない。「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせて31%であり、前回調査とほぼ同じ状況である。経済的にゆとりがない学生の割合は他学部とほぼ同じであり、経済的に困窮している学生に対して、授業料免除および奨学金の受給などを通して経済的な支援を行う必要がある。アルバイトは62%の学生が行っており、従事日数は全体の割合とほぼ同じであるが、従事時間は5時間未満の割合が30%で歯学部、薬学部以外の他学部より従事時間数はやや少ない。しかし、アルバイトを行う学生の13%が勉学に支障が生じており、何らかの対策が必要である。

「健康状態について」は、「睡眠時間」は、他学部と同じで大部分の学生は4～8時間である。「気になる症状」も、他学部とほぼ同じ内容であり、男女とも「アトピー・アレルギー」、「頭痛・めまい」、「不眠」等が多く、女子では「生理痛・生理不順」、「下痢・便秘」が多い。「喫煙について」は、男子の88%が喫煙したことがなく、前回調査の85%よりもやや増加しているが、非喫煙者の割合はほぼ同じである。女子は97%が喫煙したことがなく、前回調査と同じである。「飲酒について」は、男子の23%、女子の

27%が飲酒をしないが、女子で1回当たりの飲酒量が2合以上3合未満の割合が20%あり、飲酒量について注意が必要である。

「食事について」は、「昼食の利用場所」は「蔵本会館食堂」が38%で最も多く、次いで「弁当を購入」が22%、「自宅（下宿）」が8%であり、昼食に蔵本会館食堂を利用する学生が多い。「学生食堂について感じていること」は、「昼食時の混雑がひどい」が59%、「値段が高い」が32%、「メニューが少ない」が26%であり、昼食時における食堂の混雑を解消することが望まれる。

「学生生活上の問題点」については、「主な悩みと不安」は、学生の39%には悩みや不安がないが、「勉強」（27%）に関する悩みが最も多く、次いで「就職や進路」（23%）、「交友・異性関係」（18%）、「経済状態」（13%）、「自分の性格」（11%）などがある。「迷惑行為」では、「迷惑行為を受けたことがない」は、医学部の3学科は87～88%であり、注意喚起が必要である。「悪徳商法の被害」は各学科とも1～3%あるが、医学科と栄養学科・医科栄養学科の男子は5%あり、被害者が多い。「ストーカーの被害」は、医学科と栄養学科・医科栄養学科の女子が2%、保健学科の女子が4%であり、被害者が多い。「大学内でのセクハラ」は、栄養学科・医科栄養学科の女子が2%であり、防止対策を行う必要がある。「大学内でのアカハラ」は、医学科の男子が4%、女子が1%あり、栄養学科・医科栄養学科の女子が1%あることから、防止対策が求められる。「カルトの勧誘」について、医学科の男子が3%、保健学科の男子が4%勧誘を受けており、適切な対策を講じる必要がある。

「修学状況について」は、「本学を選んだ理由」では、「希望する学部・学科があったから」が48%で最も高く、次に「国立大学だから」が35%で、「地元の大学だから」が27%であり、他学部の理由と類似している。「所属学部満足度」では、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて76%であり、他学部と比較して満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」は、「全部取得できた」が86%で、他学部と比較して割合が高い。医学部では、卒業時に国家試験を受けて取得する免許の種類と卒業後の進路が明確であり、本学を選んだ時点で将来の職種を考えている学生が多く、学部に対する満足度が高いと思われる。「授業に対する満足度」は、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて61%であり、全学平均の59%よりやや高い。授業に満足していない学生は12%おり、「満足できない」理由として「授業内容がつまらない」が他学部と同様にみられ、公開授業等で意見交換する等の努力が求められる。「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーについて知らない」が54%と全学部で最も高く、オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。

「課外活動について」は、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせて72%であり、学内のサークルへの加入者が多い。学生行事に積極的に参加している学生は46%で、「大学祭への参加」も71%あり、他学部と比較して学生行事や大学祭に積極的に参加している。

「進路・就職について」は、「希望職種」は「専門職（医師、看護師等）」が78%であり、歯学部、薬学部と同様に卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。「大学が行う就職セミナーへの参加」では、「参加する」や「時間があれば参加する」と答えた学生が49%で、全体の63%と比較して少ない。「キャリア支援室の利用状況」は、88%の学生が利用したことがなく、全体の77%よりも利用していない割合が高い。医学部では、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生が多いので、医療機関に関する就職情報の広報やセミナー開催等によって就職支援を充実させる必要がある。

9-3 歯学部

歯学部は歯学科と口腔保健学科の2学科から構成される。今回の調査の回収者数（回収率）は、歯学科196人（77.5%）と口腔保健学科59人（100.0%）であり、歯学科の回収率は前回調査（67.5%）に

比べ10%も上昇し、口腔保健学科は前回同様、今回も学生全員から回答が得られた。歯学部全体でみると回収者数と回収率は255人、81.7%であり、回収率は前回調査(73.8%)と前々回調査(69.2%)よりも高く、学部別では薬学部(92.2%)に次いで高く、歯学部学生の実態を反映したデータが得られたと考える。

歯学部学生の28%が自宅通学、57%が家族と別居シェアパートあるいはマンションを借りており、13%が間借り(下宿)である。約3割は自宅生、約6割はアパート・マンション暮らしの傾向は前回および前々回調査と差異がない。1か月の家賃は3万円~6万円未満が73%を占め、前回調査(80%)、前々回調査(84%)よりも減少している。また、住居の満足度については「満足している」と「ほぼ満足している」学生の割合は合わせて79%であり、前回調査(81%)と前々回調査(76%)とほぼ同様、概ね満足している。住居の紹介・斡旋者は、不動産業者の割合が60%と最も高く、次いで徳大生協からの紹介(25%)である。通学方法は自転車が多く65%を占め、徒歩通学の割合は15%、自動車の割合は11%で全学部の中で最も高い。通学時間は15分未満が67%、15分~30分未満が18%、30分~1時間未満が13%であり、前回調査同様の傾向である。また、歯学部学生の15%が通学中の交通事故を経験しており、前回調査(13%)と前々回調査(11%)よりも微増している。

経済面は、家庭の年収が750万円以上の学生の割合は50%であり、前回(43%)および前々回調査(47%)よりも増加した。とくに1500万円以上の割合は12%であり、全学部の中で最も高かった。一方、500万円未満の収入の家庭は22%であり、前回および前々回調査(28%、24%)よりも減少した。日本の好景気が学生の経済面にも反映されはじめたと考えられる。年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では、「授業料免除を知っているが申請していない」は35%であり、全学部中最も割合が低い。一方、「制度を知らなかった」のは16%であり、前回および前々回調査(5%、6%)に比べ増加しており、今回は授業料免除制度の周知が徹底されていないことが伺える。全額免除あるいは半額免除を受けている学生は合計38%であり、前回(25%)および前々回調査(30%)よりも増加した。自宅外通学者の1か月の平均収入額は10万円未満が71%を占め、前回調査(70%)とほぼ同様であった。自宅外通学者の保護者等からの援助額については11%が援助を全く受けておらず、この割合は前回調査(13%)よりもわずかに減少し、一方、3~7万円未満の援助を受けている学生の割合は45%であり、前回調査(42%)よりも微増した。10万円以上の援助の割合は前回調査(15%)とほぼ同様の16%であり、全学部の中で割合が最も高い。自宅外通学者の1か月の平均支出額は、前回調査(3~5万円未満、26%)と異なり、5~7万円未満の学生の割合が28%と最も高かった。また、7~10万円未満(22%)、10~15万円未満(18%)、15~20万円未満(3%)の区分のいずれも、学部別には歯学部が最も割合が高かった。一方、8%の学生は支出額が3万円未満で切り詰めた生活を送っている。自宅通学者の1か月の食費は3万円未満が61%を占め、前回調査(55%)よりも増加した。一方、4万円以上は16%であり全学部の中では最も割合が多い。学生自身の経済状況は、「ゆとりがある」学生の割合は20%で全学部の中で最も高い。一方、「大変苦しい」と回答した学生は10%であり、前回(8%)および前々回(7%)よりも微増している。奨学金を受給している学生の割合は30%であり、前回調査40%よりも減少し、全学部の中で最も割合が低い。一方、65%の学生は奨学金を希望しておらず、この割合は全学部の中で最も高い。歯学部学生の4割はアルバイトをしておらず、前回調査とほぼ同様であった。アルバイトをしている学生の87%は週に1~3日の従事であるが、4%の学生は週に5日以上も従事している。1週間のアルバイト従事時間数は、5時間未満の学生の割合が38%と最も高く、次いで5~10時間未満が23%、10~15時間未満が20%を占める。これら3区分を合計すると約8割となり、前回調査とほぼ同様である。歯学部は、高学年では学内臨床実習や研究室配属、学外臨床研修など長時間の実習・研修があるため、長時間のアルバイトは従事しにくいと考えられる。また、アルバイトによって勉学に「支障が生じている」と回答した学生の割合は19%であり、前回調査(12%)よりも増加した。アルバイト収入は

5万円未満が72%を占め、それほど高額の収入は得ていない。73%はアルバイトにおけるトラブルの経験はない一方、24%は何らかのトラブルを経験しており、この割合は前回(20%)、前々回調査(16%)よりも増加している。

歯学部男子学生の58%と女子学生の55%の睡眠時間は6～10時間未満である。また、男子の43%と女子の56%は健康状態について何らかの気になる症状を持っている。女子の気になる症状は生理痛・生理不順(16%)が最も多く、次いでアトピー・アレルギー(10%)、下痢・便秘(9%)、頭痛・めまい(8%)、不眠(8%)である。男子はアトピー・アレルギー(13%)が最も高く、次いで頭痛・めまい(8%)、不眠(7%)、下痢・便秘(7%)である。喫煙に関して、男子の74%と女子の96%は「喫煙歴がない」。喫煙している男子のうち、ときどき喫煙している学生は8%、毎日喫煙している学生は7%である。飲酒について、男子の16%と女子の25%は「飲酒しない」。「たまに飲酒する」割合が最も高く、男子51%、女子59%である。週3回以上の飲酒習慣があると回答した学生の1回あたりの飲酒量は、男子は「1合以上2合未満」が38%で最も多く、一方、「5合以上」は19%である。女子は「1合未満」が50%を占めている。

食事について、歯学部学生の29%は蔵本会館食堂を利用し、27%は昼食に弁当を購入している。蔵本会館食堂の利用は前回調査(25%)よりも微増しているが、蔵本地区の学部の中で最も低い。歯学部学生の53%が学生食堂の昼食時の混雑に不満を抱き、値段が高いこと(25%)やメニューが少ないこと(21%)を不満に思っている。

大学生活の意義としては「勉強や研究」が44%と最も高く、前回(41%)および前々回調査(42%)とほぼ同様である。前回調査と異なったのは、「特に重点もなく程々に」(15%)が「将来を考えた資格等の取得」(12%)や「豊かな人間関係を結ぶこと」(13%)よりも高かったことである。歯学部の男子の45%と女子の42%は悩みや不安は「ない」と回答しており、ともに他学部よりも割合が高い。主な悩みの内容としては、男女ともに「勉学」(男子26%、女子27%)の割合が高く、男子の「経済状況」(13%)は前回調査(21%)よりも大きく減少した。また、相談相手は男女ともに「友人」(男子61%、女子71%)と「家族」(男子29%、女子53%)の割合が高い。一方、「誰にもしない」と回答した男子は14%であり、全学部の中で最も割合が低い。同じく「誰にもしない」女子は10%である。相談相手が「教員」である割合は男子8%、女子3%であり、これはメンター制度の充実を図り、教員が相談相手となれるような支援体制を構築・推進してきた結果と考え、今後も継続・強化していく必要性を感じる。迷惑行為に関して、クーリング・オフ制度は歯学部学生の86%が認識している。82%の学生は迷惑行為を受けたことがないが、男子の5%は「悪徳商法」の、女子の4%は「ストーカー」の被害を受けた経験がある。歯学部女子の3%は「大学内でのセクハラ」の被害を受けており、全学部の中で最も割合が高い。また、歯学部男子の10%は「大学内のアカハラ」の被害を受けており、これも全学部の中で最も割合が高く、由々しき事態である。歯学部学生は「サークル退部の阻止」も「サークル内のいじめ」も受けていない。「カルトの勧誘」は1%が被害を受けている。迷惑行為を受けた際の相談先は「友人」(22%)と「家族」(22%)、「教員」(合計22%)の割合が高く、「総合相談部門(学生相談室)」(11%)にも相談している。また、学生相談室を利用したことがある学生は、前回同様14%であった。

教職員・友人との交流について、教員との会話あるいは質問を7回以上したことがある歯学部学生は40%と最も割合が高く、一方、教員との交流を全くしたことのない学生も13%いる。親しい教職員がいる学生の割合は48%であり、前回調査(36%)よりも増加し、この割合は全学部の中で総合科学部(旧)に次いで高い。また、学生の67%には親しい友人がいる一方、6%の学生には親しい教職員も友人もないことから、このような孤立した学生に対する支援体制の構築や強化が必要である。大学事務室の対応について「満足」と「ほぼ満足」と感じる学生の割合は合計36%で、前回(47%)および前々回調査(54%)より減少した。一方、「やや不満」と「不満」の合計は35%であり、全学部の中で最も高い。

前回 (23%) および前々回調査 (17%) と比べても、大学事務室の対応への満足度は下がっている。本調査では具体的内容が把握できないが、何かしらの方法で問題を明らかにし、改善すべきと考える。

盗難等犯罪被害は21%の歯学部学生が被害に遭い、前回調査 (14%) よりも増加している。被害の種類としては、男女とも盗難 (男子25%、女子6%) が最も多く、女子では次いで痴漢 (5%) が多い。犯罪被害を受けた場所は男女ともに大学構内が最も多い (男子52%、女子41%) ため、早急に大学構内の治安改善の方策が必要である。

修学状況として、本学を選んだ理由は「国立大学だから」が39%と最も高く、次いで「希望する学部・学科があったから」(38%)、「地元の大学だから」(26%) であり、前回調査と同じ傾向である。歯学部学生の75%が所属学部「満足している」もしくは「ほぼ満足している」。この割合は前回 (68%) および前々回調査 (67%) よりも高く、4人中3人は歯学部満足している。一方、8%が何らかの不満を抱いている。単位取得状況については、「全部取得できた」(79%) と「ほとんど取得できた」(17%) を合わせた96%の歯学部学生が、ほぼすべての単位を取得している。また、授業出席状況は90%の歯学部学生が「全部」あるいは「ほとんど」出席している。一方、「ほとんど出席していない」学生 (1%) と「出たり出なかつたりしている」学生 (7%) に対しては何らかの積極的指導が必要と思われる。授業欠席理由として、30%が「授業に魅力がない」、次いで15%が「勉学意欲がわからない」と回答した。

「授業が理解できない」学生は5%で前回調査 (13%) よりも減少したが、引き続き、このような学生に対しては学習面のサポートが必要である。授業満足度は、「満足」と「ほぼ満足」の合計は63%、「やや不満足」と「不満足」の合計は10%であり、前回調査と同じ傾向である。不満な理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」(48%) の割合が最も高い。次いで「授業内容がつまらない」(32%) であるが、この割合は前回 (54%) および前々回調査 (48%) よりも減少した。授業の予習復習にかかる時間は、1時間未満が53%、1時間以上～2時間未満が31%であり、前回調査と同様の傾向である。学生教育にアクティブ・ラーニングが導入され促進されるなか、学生側の予習復習はまだ不十分と考えられる。また、残念ながら歯学部学生の6%はカンニングの経験がある。

オフィスアワーを「利用したことがある」歯学部学生は51%であり、全学部の中で最も高い割合である。一方、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」学生は22%であり、理由としては「教員に相談するのが面倒である」(28%)、「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」(19%)、「オフィスアワーの時間が短く利用しにくい」(19%) の割合が高い。一方、「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」という心配な回答も9%あり、このような学生に対しては早急かつ積極的対処が必要である。図書館の利用回数については、歯学部学生の45%は週1回以上の頻度で、8割弱の学生は月1回以上の頻度で図書館を利用している。一方、図書館を「利用しない」学生も17%いる。図書館利用の理由は「自習」(47%) が最も多い。

課外活動として、歯学部学生の72%が学内のサークルに加入しており、その内訳は体育系52%、文科系18%、サポート系2%である。一方、「加入したことがない」と「以前加入していたが現在は加入していない」を合わせると25%である。サークルに加入しない理由として、「学業の妨げとなる」と回答した学生が27%で最も多く、前回 (13%) および前々回調査 (17%) よりも増加し、異なる傾向を示している。また、この割合は全学部の中で最も高い。次いで「個人の自由が束縛される恐れがある」と「アルバイトをしているため時間的余裕がない」がそれぞれ12%であった。歯学部学生の42%は学生行事が「必要だと考えており積極的に参加する」と回答した。大学祭への参加は57%、不参加は41%であり、前回調査と同様、参加が不参加を上回っている。74%の歯学部学生はボランティア活動の経験がなく、前回調査 (75%) とほぼ同じ割合である。

歯学部の場合、進路や就職の情報の入手手段は限られており、「先輩・知人から」(31%) と「指導教員から」(25%) が多い。進学・就職の相談相手は他学部同様、家族等 (35%) が最も割合が高く、次

いで知人・先輩（31%）、教員（22%）である。歯学部学生の78%が就職を希望し、進学希望は16%であり、前回と同じ傾向である。歯学科においては歯科医師免許取得後1年以上の臨床研修が義務づけられているため、大学卒業後すぐに進学できないことが結果に反映されている。就職先選択で重視するのは「収入」（25%）、「就職先の将来性・安定性」（23%）、「人間関係の良いこと」（20%）が高い。就職情報の入手先として、歯学部特徴的な「先輩・知人」（28%）が最も高く、次いで「インターネット」（27%）、と「就職担当教員」（15%）である。希望する職種は専門職が82%であり、卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。歯学部学生の約半数は大学が行う就職セミナーへ参加するが、半数は参加しない。また、9割の歯学部学生はキャリア支援室を利用したことがない。その代わりに、歯学部学生委員会は独自の研修医マッチング説明会や卒業生・開業OBによる就職説明会を開催し、学生を支援している。毎年、歯学部同窓会主催で同窓生と歯学科6年生、口腔保健学科4年生との懇親会を設け、全国各地の歯科医師や歯科衛生士の需給状況などの情報を直接収集できる機会を提供している。今後も、歯学科学生に対しては同窓会や後援会の協力を得ながら、口腔保健学科学生に対してはキャリア支援室と連携を図りながら、医療専門職に適した就職支援体制を充実させたい。

以上、歯学部学生生活の実態からいくつかの重要な課題が浮かび上がった。それらに対する解決策概略を以下に示すが、今後はさらに具体的対策を検討する必要がある。

- 1) ハラスメント防止の啓発と徹底
- 2) 孤立学生に対する支援体制の構築と強化
- 3) 不熱心な学生に対する積極的指導
- 4) 理解不十分な学生に対する学習面のサポート
- 5) 大学事務室の対応改善
- 6) 大学構内の治安改善
- 7) 進路や就職に関する情報収集の場の提供

9-4 薬学部

薬学部は、薬剤師養成を主たる目的とする6年制の薬学科と、創薬・製薬科学の研究者養成を目的とする4年制の創製薬科学科で構成されているが、入学試験において両学科を一括募集し、3年次後期から各学科に配属することとしている。そのため、今回の各学科調査対象者は、薬学部共通学科180名（1～2年次）、薬学科167名（3～6年次）、創製薬科学科75名（3～4年次）の合計422名であり、調査票の回答数は薬学部共通学科162名、薬学科157名、創製薬科学科70名であった。調査票回収率は、薬学部共通学科（今回調査90.0%、前回調査44.8%）、薬学科（今回調査94.0%、前回調査78.4%）、創製薬科学科（今回調査93.3%、前回調査86.8%）と、回収率改善に向けた対策が功を奏し、いずれも回収率は増加し、薬学部全体で92.2%（前回調査65.8%）であった。特に薬学部共通学科で大幅に改善された結果、回答数全体に占める各学科の割合は、薬学部共通学科42%（前回調査29%）、薬学科40%（前回調査47%）、創製薬科学科18%（前回調査24%）と、各学科の定員割合に近く、前回調査に比べ薬学部全体の状況をより反映した結果となっている。

「住居・通学」について、自宅からの通学生の割合は17%（全学部平均26%）であり、他学部と比較して最も低い。この結果は、前回調査（19%）、前々回調査（17%）と同様であり、県外からの入学者が多い傾向に変わりはない。通学方法としては「自転車」が最も多く（80%）、通学時間は「15分未満」が73%であった。通学中に交通事故に遭った割合は14%（全学部平均10%）と、前回調査（15%）、前々回調査（14%）同様高く、交通安全への意識喚起に継続的に努める必要がある。

「収入・支出」について、1か月の平均支出額を7万円以上と回答した自宅外通学生は21%である。一

方で、アルバイトをしていない学生は47%（全学部平均34%）、1ヶ月のアルバイト収入が3万円以下が49%（全学部平均29%）と、いずれの割合も他学部と比較して最も高く、教育カリキュラムによる時間的制約が一因ではないかと考えられる。そのため、保護者から1か月に7万円以上の援助を受けている学生は21%（全学部平均17%）と高く、奨学金については36%の学生が「現在受給中であり、受給の継続（または増額）を希望する」と答えた。経済状況について「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と答えた学生が29%を占め、依然として生活に余裕がないことがわかる。奨学金や授業料免除等の経済的支援は、今後も継続して取り組むべき重要課題の一つである。なお、「授業料免除制度を知らなかった」と回答した年収500万円未満の家庭の学生は12%（全学部平均10%）と、前回調査（2%）から大幅に増加し、授業料免除制度の周知に努める必要があるが、一方で、「申請したが不許可だった」が16%（全学部平均10%）と最も高かった。

「健康状態」について、睡眠不足とされる「6時間未満」と答えた学生が男子46%、女子43%であった。気になる症状が「特にない」と答えた学生は、男子で63%と前回調査（71%）よりやや減少しているが、女子は52%と前回調査（49%）よりやや増加し、半数以上が現在気になる症状を抱えている。健康管理センターと連携した、きめ細かい生活指導の必要性が感じられる。

「食事」について、昼食の利用場所として「蔵本会館食堂」との回答（59%）が最も多く、前回調査（59%）と変わらないが、今回の調査結果は、教養科目（常三島キャンパス）を受講している薬学部共通学科（1, 2年次）の状況を前回調査より反映していることを考慮すると、低学年学生も蔵本会館食堂をよく利用していることがうかがわれる。食堂利用率が高い一方で、利用時の混雑やメニュー、値段などに不満を持っている学生が多い。他学部でも同様の不満を持つ学生が多いことから、学生の意見を食堂に働きかけるなど大学全体の課題として、学生の食生活をサポートする対応が必要と思われる。

「学生生活上の問題点」について、男子で86%、女子で89%の学生が「迷惑行為を受けたことはない」と答えており、女子は前回調査（89%）と変わらないが、男子は減少（前回調査95%）している。総合相談部門と連携した、カルト問題、悪徳商法問題、ハラスメントなどに対する継続的な啓蒙活動・予防対策を推進していくことが求められるが、一方で、「総合相談部門（学生相談室）を知らない」と答えている学生が40%と、前回調査（21%）より増加していることから、周知に一層努める必要がある。教職員と7回以上会話・質問した学生は40%（全学部平均30%）であり、クラス担任（低学年）や卒業研究指導教員（高学年）とコミュニケーションが図られているものと思われる。

「修学状況」について、本学を選んだ理由としては「希望する学部学科があったから」、「国立大学だから」の順に回答数が多く、前回調査と同様の傾向であり、入学時における目的意識の高さがうかがわれる。一方で、「薬学部に満足していますか」との設問に対し、「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は60%（全学部平均66%）であり、志望理由に対して満足度は低いと言える。「授業に満足していますか」との設問に対しても、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は60%（全学部平均59%）であり、前回調査（55%）からは増加している。授業に満足できない理由としては、「教員の教え方に工夫が足りない」（41%；全学部平均39%）と「授業内容がつまらない」（39%；全学部平均50%）が多い。また、授業の予習・復習時間が「1時間未満」との回答が74%（全学部平均59%）と、前回調査（80%）同様、他学部と比べても多く、学生の自学自習を促す一層の取組が必要である。教員はこれらの調査結果を真摯に受け止め、一括募集や薬学科と創製薬科学科という修業年限の異なる学科が同一学部内に存在するという他学部にはない教育システムの中で、学部や授業に対する満足度が100%となることを目標とした不断の努力が求められる。なお、カンニング経験が「ある」と答えた学生が4%おり、完全防止に向けて今後も厳格に取り組んでいくことが肝要である。

「課外活動」について、サークルへの加入や学生行事への参加は、学生教育の一翼を担う事項であるが、サークルへの加入率は82%と高く、「以前に加入していた」を加えると学生の92%がサークル活動の経

験がある。一方で、ボランティア活動をした学生の割合は26%であり、前々回調査(19%)、前回調査(23%)と漸増しているが、他学部と比べてまだ低い(全学部平均32%)。今後も学生の意見を聴取しながら、課外活動支援に努めていく必要性を感じる。

「進路・就職」について、就職を希望する学生は59%であり、現行の2学科制になって以降、傾向は変わらない(前回調査62%)。希望職種としては「専門職(薬剤師)」が最も多い(58%)。薬学科と創製薬科学科では卒業後の進路が大きく異なるため、回答数に占める薬学科生の割合が創製薬科学科生に比べて高いことを反映した結果であると思われる。また、薬学部共通学科に薬学科希望者が多いこともうかがわれる。

はじめにも述べたとおり、薬学部は教育目標が異なる薬学科と創製薬科学科を併設している。徳島大学では、平成29年度入学生までは一括で募集し、入学後薬学の基礎を学び、自分の適性を考えてから学科配属を決める教育システムを採用しているが、平成30年度入試からは学科別に募集し、1年次から学科ごとに異なるカリキュラムを導入する新しい教育システムに移行する。このような変革期にあって、学部学生を対象とした学生生活実態調査の貴重なデータを有効に活用し、より良い修学・生活環境を構築するための実効性のある学生支援体制の充実に努めていくことが求められる。

9-5 工学部

「住居・通学」について、工学部学生の1ヶ月家賃は、他学部と比べて4万円未満とする学生の割合が昼間64%、夜間74%と多い。前回調査と比較して、昼間は2%減少し、夜間では5%増加した。3万円未満の夜間学生が31%と、特に安い住居を利用している。これを反映して、住居満足度は他学部と比べて夜間学生で低い傾向にある。

「収入・支出」について、工学部夜間では、年収が500万円未満と回答した学生が37%と、他と比べて多い。また、750万円未満とする学生は、夜間は68%、昼間は62%であり、夜間は70%の理工学部夜間と概ね同程度であり、医学部、歯学部、薬学部の40%台との差異が認められる。また、工学部夜間では、保護者からの援助が全くないと回答した学生が15%であり、理工学部夜間、総合科学部(新)に次ぐ多さとなっている。アルバイトに関しては、1週間に3日以上従事する割合は、前回調査より昼間・夜間共に増加し、1週間の従事時間は、昼間は増加し、夜間は減少している。昼間・夜間共にアルバイトに従事する割合は、医学部、歯学部、薬学部よりも多い傾向にある。こうしたことを反映してか、アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生は、昼間学生は20%で、他学部と比べて最も高い傾向にある。勉学とアルバイトに対する適切な助言や授業料免除制度についても周知徹底していく必要がある。また、大学としては、こうした経済的不均衡を考慮しながら、学内での奨学金の採用方法等について検討していく必要があるだろう。

「健康状態」について工学部学生では、喫煙・飲酒の頻度や程度において他学部と大きな差異は認められなかった。「食事」については、値段が高いことに不満を感じている学生が多いことが確認出来る(昼間45%、夜間40%)。

「学生生活上の問題点」について、大学生生活の意義として勉学や研究が最も高い(昼間36%、夜間34%)ものの、勉学と資格が直接結びついている医学部、歯学部や薬学部と比べ低い結果となっている。工学部でも修学した知識が就職後に必要になるが、直接的では無く実感出来にくいことが原因と考えられる。実学を意識した授業等の工夫により、勉学意欲も向上させる努力が必要であろう。工学部では、「志望する学部・学科があったから入学してきた」とする学生が少ないことを前提とし、「勉学や研究」への動機・意欲を向上させるための取り組みも必要であろう。

「勉学」、「就職や進路」、「交友・異性関係」など、多くの学生が何らかの悩みを持っている。工学部で

は“学びの相談室”を設置し、学生相談部門（学生相談室）等との橋渡しを行なっているが、学生相談部門（学生相談室）等の利用は少なく、友人が主な相談相手となっている。また、1/4程度の男子、1/10程度の女子は、悩みを「誰にも相談しない」としている。この程度は前回調査時と変化は少ない。教員に相談するのは男子女子とも数%に留まっている。教員側からも、学生に積極的に働きかけ、学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要があるだろう。

悪徳商法やいたずら電話等も5%弱で被害を受けているようである。女性ではストーカーやセクハラは昼間・夜間で3%弱の被害が見られる。学生相談部門（学生相談室）には女性職員の相談員もおり、相談可能であることを周知すべきである。カルトの勧誘も工学部全体で5～7%が確認出来る。新入時にカルト予防の教育を行っているが、高学年においても啓蒙予防策を講じる必要がある。

工学部学生の入学動機は、「国立大学だから」という回答が多い。満足度は他学部と比べてもそれほど低くはないが、単位修得数や授業への出席状況は、他学部よりも低くなっており、これらの傾向は前回の調査と大きな変化は無いが、夜間学生の単位修得状況は低くなっている。授業に「不満足」もしくは「やや不満足」な夜間学生は16%、昼間学生は10%であるが、その理由として「内容がつまらない」「教え方に工夫が足りない」との回答が多い。

「課外活動」について、工学部夜間の学生のサークル加入率は、他学部に比べてかなり低い。その理由としては、「勉学の妨げになる」や「魅力的なサークルがない」が高く、時間管理のタイトな夜間学生の特性が反映していると思われる。

また、工学部学生は学生行事への参加率（昼間31%、夜間19%）は他学科に比べ最下位であり、多少増加するものの、大学祭の参加に限っても同様に最下位（昼間38%、夜間29%）である。

「進路・就職」について、就職先を考える上での情報は、インターネットを通じて得ると回答した学生が最も多く、次いで、「会社等説明会」であった。多くは技術職を希望する学生が特に多く（昼間51%、夜間54%）、公務員（昼間15%、夜間14%）が続く。大学が行う就職セミナーや就職支援センターの利用は、「時間があれば参加する」（昼間53%、夜間52%）が大多数で、「参加する」のは（昼間18%、夜間18%）と少数である。参加者からは良いセミナーとの評価が多聞されることから、広報の充実が望まれる。一方で、工学部では各学科で就職担当教員が配置されているため、きめ細やかな対応が行えているものと思われる。

9-6 理工学部

理工学部の主たる前身となる工学部との比較もいれ、理工学部学生の動向を検討する。なお、本項では、学部名を書かずに昼間、夜間と記載している場合は理工学部の当該コースである。

「住居・通学」について、理工学部学生の1ヶ月家賃は、他学部に比べて4万円未満とする学生の割合が昼間66%、夜間68%と多い。工学部と比較すると、工学部の昼間は64%、夜間は74%であるため、工学部昼間とほぼ同様な傾向となっている。これを反映して、住居満足度も理工学部昼間および夜間の学生と工学部昼間の学生は同程度である。

「収入・支出」について、夜間では、年収が500万円未満と回答した学生が44%と、昨年度最も多かった工学部夜間よりも多く、他と比べても非常に多い。また、750万円未満とする学生は、夜間は70%と工学部の昼間、夜間と同程度であった。一方、昼間では56%と低く、総合科学部（新）と同程度であった。50%以下の医学部、歯学部、薬学部との差異が認められる。また、夜間では、保護者からの援助が全くないと回答した学生が31%であり、他学部と比較しても著しく多い。アルバイトに関しては、1週間に3日以上従事する割合は、昼間41%が夜間34%と比べて高い一方、1週間の従事時間が15時間以上従事する割合は、夜間38%が昼間31%より高く逆の傾向となっている。これらの傾向が工学

部と同程度であるが、医学部、歯学部、薬学部よりもはるかに多い傾向に有る。しかしながら、アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生は、夜間学生で19%、昼間学生で16%と、工学部昼間、夜間はもとより、医学部、歯学部、薬学部とも同程度であった。生活上仕方の無い部分も有ると思われるが、勉学とアルバイトに対する適切な助言や授業料免除制度についても周知徹底していく必要がある。また、大学としては、こうした経済的不均衡を考慮しながら、学内での奨学金の採用方法等について検討していく必要があるだろう。前回調査、工学部では夜間主学生においてアルバイトの比率が高い一方で受け取る収入が低いことが指摘されたが、今回調査では理工学部、さらには工学部についても、そのような傾向はない。

「健康状態」について理工学部学生では、喫煙・飲酒の頻度や程度において他学部と大きな差異は認められなかった。「食事」について、常三島地区では、他学科同様に昼食時の混雑に不満を感じている学生が多い（昼間48%、夜間34%）。前回の工学部の割合（昼間53%、夜間44%）より、昼間、夜間とも下がってきており、生協の第一食堂「きらら」が開店した一定の効果も見られる。

「学生生活上の問題点」について、大学生生活の意義として勉学や研究が最も高い（昼間34%、夜間41%）が、特に昼間は、勉学と資格が直接結びついている医学部医学科（45%）、歯学部（44%）や薬学部（43%）に比べ低い結果となっており、工学部の昼間（36%）、夜間（34%）と同程度である。理工学部は、工学部と同様に、修学した知識が就職後に必要になるが、直接的では無く実感出来にくいことが原因と考えられる。実学を意識した授業等の工夫により、勉学意欲も向上させる努力が必要であろう。理工学部では、「希望した学部・学科があったから入学してきた」とする学生が、医学部（48%）、歯学部（38%）、薬学部（57%）と比較して、工学部と同様に非常に少ない（昼間17%、夜間25%）ことを前提とし、「勉学や研究」への動機・意欲を向上させるための取り組みも必要であろう。

「勉学」、「就職や進路」、「交友・異性関係」など、多くの学生が何らかの悩みを持っている。理工学部では「履修相談室（学びの相談室）」を設置し、「保健管理・総合相談センター学生相談部門（学生相談室）」等との連携を行なっているが、学生相談部門（学生相談室）等の利用は少なく、友人が主な相談相手となっている。また、21%（夜間）および27%（昼間）の男子、22%（昼間）および33%（夜間）の女子は、悩みを「誰にも相談しない」としている。教員に相談するのは男子女子とも数%に留まっている。教員側からも、学生に積極的に働きかけ、学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要があるだろう。

悪徳商法やいたずら電話等も2%～3%で被害を受けているようである。女性ではストーカーやセクハラも昼間で3%弱の被害が見られる。学生相談部門（学生相談室）には女性職員の相談員もおり、相談可能であることを周知すべきである。カルトの勧誘も理工学部で4%～5%確認出来る。上級学年がいる工学部（5%～7%）と比較すると少ない。新入時にカルト予防の教育を行っているが、高学年においても啓蒙予防策を講じる必要がある。

先にも触れたが、理工学部学生の入学動機は、「国立大学だから」という回答が多い。満足度は、昼間は他学部と比べても遜色ないが、夜間は明らかに低い。単位修得数において、全部取得できたとする割合は、昼間53%、夜間47%と、医学部（86%）、歯学部（79%）、薬学部（78%）と比較すると明らかに低いが、工学部よりは高い。一方、授業への出席状況において、全部出席しているとする割合は、昼間（37%）、夜間（39%）とも医学部（35%）、歯学部（42%）、薬学部（39%）、工学部昼間（36%）と同程度で、工学部夜間（25%）より高い。授業に「不満足」もしくは「やや不満足」な昼間学生は15%、夜間学生は13%あり、工学部と大差はない（昼間10%、夜間16%）。その理由として、工学部と同様に「内容がつまらない」「教え方に工夫が足りない」との回答が多い。

「課外活動」について、理工学部夜間の学生のサークル加入率は、工学部夜間の学生と同様に他学部と比べてかなり低い。理工学部夜間の学生からは、「個人の自由が束縛される恐れがある」（19%）や「ア

アルバイトをしているので」(14%)が他学部と比較して高く、大学に入って間もない理工学部夜間学生の時間管理のタイトな特性が反映していると思われる。

また、理工学部学生は学生行事への参加率(昼間37%、夜間22%)は工学部よりわずかに高いが、他学部と比較すると概して低い。大学祭の参加(昼間47%、夜間34%)においても、同様に工学部より高い。

「進路・就職」について、理工学部学生が本誌執筆現在で最高学年が2年次であるため、他学部との直接的な比較は控える。就職先を考える上での情報は、インターネットを通じて得ると回答した学生が最も多く(昼間25%、夜間28%)、次いで、昼間は「先輩・知人」(23%)、夜間は「教員」(16%)であった。技術職を希望する理工学部学生は多いが(昼間30%、夜間31%)、公務員(昼間24%、夜間31%)が、工学部(昼間15%、夜間14%)と比較して著しく高いことは興味深い。大学が行う就職セミナーの利用は、「時間があれば参加する」(昼間55%、夜間58%)のが大多数で、「参加する」のは(昼間9%、夜間7%)と少数である。参加者からは良いセミナーとの評価が多聞されることから、広報の充実が望まれる。また、キャリア支援室を利用したことのない理工学部学生は、昼間87%、夜間83%と工学部に比較して著しく低い(昼間夜間とも55%)、理工学部学生が「進路・就職」に対して工学部学生と比較して差し迫った状況でないことが反映されている。

9-7 生物資源産業学部

生物資源産業学部は平成28年に新設された。1学年の定員は100名である。そのため、今回の調査は、1年次と2年次の学生を対象に行われ、就職や大学院進学を意識する3年次、4年次の学生は含まれていない。また、本学部は、他の学部と比べ、徳島県出身の学生比率(50%)が高く、さらに男女の比率がほぼ1:1であることを留意して、調査結果を分析する必要がある。学生生活実態調査も今回が初めての調査であり、過去の調査結果と比較することはできない。

「住居・通学」については、他学部と比べると、総合科学部(新)と同じように自宅(家族と同居)から通学している学生が49%で約半数である。家族と別居してアパート・マンションから通学している学生は32%であり、他学部と比べ少ない。1年次、2年次どちらも約半数が徳島県出身であることが影響していると考えられる。自宅外通学者の家賃については、3~5万円が約80%で、他学部と大差は見られない。また、88%の学生が現在の住居に満足し、不満足と答えた学生は10%である。通学方法については、バス・JRを利用する学生の比率が他学部と比べ、高く23%である。徳島市、周辺の自宅から通学する学生が多いことが原因と思われる。通学時間が長い学生の比率が高いのも、大学周辺のアパートではなく、自宅から通学する学生が多いことが原因であろう。

「家庭の年収」については、工学部夜間と理工学部夜間を除く他学部と大差はない。ただ、約4分の1の学生の家庭は、年収1000万円以上であり、その比率は歯学部、医学部に次いで高い。また、授業料免除を受けている学生の比率も低い。自宅外通学者の1ヶ月の平均収入額は、他学部学生とほぼ同じである。自宅外通学者の保護者からの援助額は、理工学部とほぼ同じで、3~5万円が多い。自宅外通学者の1ヶ月の平均食費が3万円以下の学生は88%で、全学部の中で最も高く、自炊している学生の比率が高いと考えられるが、今後食事の内容(自炊、弁当、外食等)を調査する必要がある。現在の経済状況については、23%の学生がやや苦しい、7%の学生が大変苦しいで、他学部と大差はない。アルバイトについては、50%の学生が週3日以上行っており、他学部と比べ、やや高い。しかし、アルバイトで勉学に支障があると答えた学生は4%であり、全学部の中で最も低い。

「健康状態」については、他学部とほとんど同じで、問題はないと考える。「食事」については、昼食を学内の食堂でとる学生の比率が73%で、学部の中で最も高い。

「学生生活上の問題」については、大きな問題はない。「大学生活で何を第一においた生活をしていますか」に対する回答としては、勉強や研究と答えた学生の比率は、45%で医学部、歯学部、薬学部とほぼ同じ比率である。ただし、特に重点もなく程々に、ただ何となくと答えた学生の比率の合計が25%あり、学生への指導など必要かもしれない。本学部は、学習する内容が非常に多様であること、免許資格は取れないこと、卒業生の就職実績がないことが原因と考えるが、就職や進路に対する悩み、不安を持っている学生の比率が高い。今後、キャリア教育、クラス担任による助言等強化する必要がある。迷惑行為を受けた学生の比率は非常に低い。他の学部と同様、親しい教員や友人がいないと答えた学生の比率が3%であり、特に孤立した学生は留年や休学する可能性が高く、クラス担任との面談や指導をしっかりと行いたい。

「所属学部の満足度」については、学部に満足している、ほぼ満足していると答えた学生の比率は、51%で、学部の中で最も低い。やや不満足、不満足と答えた学生は20%で、最も高い。さらに、受講している授業に満足していますかという問いに対しては、満足している、ほぼ満足していると答えた学生の比率は、計50%で、学部の中で最も低い。図書館の利用に関する質問では、利用している頻度が最も高く、授業・カリキュラムに対する満足度の低さは、学部専用の建物がないために生物資源産業学部学生の専用スペースがないことと関係があるとも考えられる。

「課外活動」は、70%の学生が文科系、体育系のサークルに加入しており、男女共サークル活動を楽しんでいると思われる。ただ、サークルに加入していない理由についての質問では、通学に時間がかかるので時間的余裕がないと答えた学生の比率が高く、自宅が離れている学生が多いことが原因と考えられる。

「進路・就職」については、特に問題はない。希望職種は、公務員、技術・研究職、総合職など非常に幅広い。

以上の調査結果より、本学部の問題は、「修学状況」の調査において、学部並びに受講している授業への満足度が、他学部に比べて低い事が挙げられる。原因として、本学部の今回調査対象である1,2年次学生は、教養科目と学部共通科目の履修が主である事が考えられる。本学部は2年次から、学生の希望により3つの履修コース（製薬・化学系の応用生命コース、食品系の食料科学コース、農林水産、畜産系の生物生産システムコース）に所属し、コース専門科目の学習を行う。また、技術を生かしたビジネス展開ができるように経済経営、アグリビジネス、フードビジネス関連の必修科目も多い。特に本学部は、一次産業、育種、食品加工、機能食品、創薬、バイオ医薬など学習分野が非常に幅広く、3年次と4年次に専門教育を強化するカリキュラムになっているために、2年次までは、学生は自分の進路に応じた専門教育が不十分であり、不安を感じているのではと思われる。次回の全学年の調査結果に期待したい。さらに、図書館の利用目的の中で、授業などの間の時間調整と答えた学生が多い。原因としては、必修科目が午前中の1～2時限と午後の7～8時限に分散した時間割になっているケースが多いことが原因と思われる。学生への聞き取り調査では、このような必修科目が分散した時間割や、実習（石井、鳴門）の時間調整も、学部への不満になっている。共通講義棟の100名の学部生が利用できる講義室は多くなく、これも不規則な時間割の原因でもある。特に大きな問題は、実習室の問題である。本学部では、1年次から実習を行うが、100名の学生が同時に実験できる実習室がなく、現在は複数に分かれて、工学部生物工学科や総合科学部環境共生コースの実習室を利用している。生物工学科の実習室は、そもそも60名の学生スペースで、100名の学生には対応できない。このような学生の不満を解消するためには、生物資源産業学部専用棟の建設、中でも、学生専用スペースの確保と実習室の整備を早急に検討する必要がある。

第10章 総括と提言

第28回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員（5,902人）を対象として実施し、3,779人から回答を得た。回収率は64.0%で、前回調査の59.1%より上がったものの、前々回調査の69.4%には及ばなかった。実態の正確な把握には高い回収率が必要なので、今後この回収率をあげる工夫が求められる。

調査項目は、「基本的事項」、「住居・通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「学生生活上の問題点」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目であった。過去の調査との継続性を考慮した上で、「進路・就職」に新たな設問を加え、今回の総設問数は80問となった。また今回は従来の学部に加えて、社会総合科学科（1学科）からなる学部として再スタートした総合科学部（新）、総合科学部（旧）の理系学科と工学部から作られた理工学部、新設された生物資源産業学部の新しい学部を含む調査となった。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的な立場から学生生活支援をおこなうために、以下の総括と提言をまとめた。

1. 住居・通学について

全体の80%以上が30分未満の通学時間となっており、大学の近くに住居があり、通学している学生が多い。問題は、前回調査と同じく、10%の学生が通学中に何らかの交通事故に遭っていることである。被害者になる場合も重大だが、加害者になる場合もある。平成27年6月1日の道路交通法改正により、自転車に対する規制は厳格化されているが、自転車通学者が72%に達していることを考えると、交通安全に関する指導を今後さらに強化する必要があるだろう。

2. 経済状況について

学部間の違いはあるが、家庭の収入が250万円未満に満たない家庭が7%で、これに対応するように「生活が大変苦しい」という学生が9%、「生活がやや苦しい」という学生が24%に上る。この割合は、前々回、前回調査とほぼ同じである。「授業料免除制度を知らなかった」の割合は、年収250万円未満の家庭では8%、年収250～500万円未満の家庭では11%、また「授業料免除は知っているが申請していない」との回答は、それぞれ35%、51%となっている。今後も情報の周知徹底を図っていくとともに、授業料免除の制度を活用しない理由について調査し、申請しやすい環境や体制を整えるように取り組む必要があるだろう。

生活費や学資のためにアルバイトをしている学生の比率は41%であり、前回調査の43%とほぼ同じである。これまでの調査ではアルバイトのトラブルは少ないものの、近年問題になっているブラックバイトなど、学生からの情報収集を含め、被害を未然に防ぐように働きかける必要があるだろう。

3. 健康状態について

例年と同様であるが、4時間未満の過度の睡眠不足の学生が男子4%女子3%、さらに何らかの気になる症状を抱えている学生が男子33%女子46%にのぼっている。これらの症状への対処や生活習慣等の生活面の指導を含めた対処法の事例や解決の手伝いをする仕組みが、保健管理・総合相談センター保健管理部門等の大学側の仕組みとしてあることを十分に知らせることが大事であると思われる。また、健康診断も含めて、自発的に大学側の仕組みを利用するような周知も重要である。

喫煙する学生は年々減少する傾向にあるが、これらの学生に対する積極的な禁煙指導や治療など、なんらかの対策は必要であろう。また、キャンパス内の禁煙区域は広がっており、構内全域における分煙の徹底やマナー向上、非喫煙者への配慮をさらに目指すべきであろう。

4. 食事について

朝食をほとんど取らない学生が23%いるという状況は、前々回、前回調査とほとんど同じである。これについては生協食堂からの協力もあるのだが、なかなか改善しない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。住居別では、間借り（下宿）、アパート・マンション（家族と別居）、学生寮学生の朝食率がそれぞれ38%、40%、51%と、自宅学生に比べて大きく下回っている。勉強効率の低下、健康への影響が懸念されるため、一人暮らしの学生に対する健康指導を推進していく必要がある。

常三島第一食堂の改修によって座席数の大幅な増加が図られたものの、昼食時の混雑解消とまでには至っていない。恒常的な昼食時の混雑の緩和については、自主学习スペースの活用、昼食時間内における時間差での利用等工夫できる部分もあると思われる。

5. 学生生活上の問題点について

大学生活の意義として、第一に「勉強や研究」におく学生が最も多いことは望ましい傾向と言える。しかし一方では、「ただ何となく」というネガティブな回答も依然として6%ほど存在し、これらの学生に対するケアも重要である。

悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が、男子の14～32%、女子の8～33%相変わらず存在している。その中には相談すること自体によって何らかの解決法が見つかるものも存在するはずであるが、他者への悩み相談をすることへの抵抗感があるかも知れない。担任教員やゼミの指導教員などは、学生とのコミュニケーションを通じて、悩みを持ちながら相談できずにいる学生を見つけ、相談先や相談方法について伝えていくことを心がける必要があるだろう。

また、保健管理・総合相談センター総合相談部門（学生相談室）があることを知らない学生が40%に達し、前回調査の23%より増加した。総合相談部門での相談が必要な学生に対して、相談方法も含め、十分に情報が行きわたるように周知する必要がある。

何らかの迷惑行為を受けたことがある学生は15%であり、前回調査と同じであった。成人後間もない学生や未成年が様々なトラブルに巻き込まれないように、対処法をしっかりと伝えておく必要がある。また「クーリング・オフ制度」を知らない学生がいなくなるように、オリエンテーションでの周知が今後必要である。

アカハラについては全体では1%の比率であるが、今回の調査では歯学部男子で10%、工学部夜間女子で8%がアカハラの被害にあったと答えている。大学におけるハラスメント行為を根絶すべく、学生・教職員等の構成員全てが十分な意識共有のもと、大学として真摯に取り組み続けて行く必要がある。

6. 修学状況について

出席状況のあまり芳しくない学生が10%程度いるのが、依然として問題である。授業の欠席理由について「勉学の意欲がわからない」「授業に魅力がない」とする回答が同率で34%と最も多く、「授業が理解できない」が12%と続いており、前回調査とほぼ同じである。ただし、授業に本当に出ていない学生はこの調査に対する回答をしていないことが考えられ、調査票を提出しなかった学生（36.0%）の動向が懸念される。

欠席理由の「授業に魅力がない」「勉学の意欲がわからない」については、一つには教員の授業工夫は求められるであろう。しかしながら、専門性を高めていく上での基礎勉強の必要性について学生に認識させ、欠席しないような指導を粘り強く行っていく必要があると考える。

カンニングをしたことがあるという学生は4%であり、前回調査と同じであった。今後も、どのような小さな不正行為もしてはならないという高い倫理意識を持たせると同時に、試験を実施する側もカンニングさせない態勢をきちんと整えておく必要がある。

7. 課外活動について

サークル加入率は全体で67%を占めており、前回調査の68%とほぼ同じであった。大変望ましい状況と言える。学生が自主的な活動を行うことにより、社会人として必要な様々な資質を自主的に身につけ、鍛練する場となっただきたい。29%の学生が課外活動を行っていないが、課外活動以外の学園祭等の学生行事やボランティア活動、さらには勉学生活を通じて、しっかりとした勉強や研究の上に、社会における必要な資質を自主的に学んでいただきたい。

新入生歓迎行事や大学祭については「必要だ」と考える学生が全体で69%であり、良好な割合であると考えられるものの、前回調査の74%からは減少した。また「どちらでもいい」「なくてもいい」とする学生が全体で約28%と前回調査の25%から微増しており、学生の興味が多様化していることに伴う傾向であると考えられる。

8. 進路・就職について

進路情報の主な入手先は「インターネット」「先輩・知人」「指導教員」となっており、キャリア支援室は4%にとどまっている。また、今回の調査で新たな設問として加えた「就職・進学相談相手」では、家族等31%、知人・先輩30%、教員21%と続いており、何らかの相談の後に、インターネットによる情報収集を行っていることが考えられる。一方「相談相手はいない」の回答が7%あり、さらなる学生支援の充実が求められる。キャリア支援室の活用方法を含め、学生への周知を今後も図っていく必要があるだろう。

学生生活における大きな悩みの一つに進路や就職の不安があり、人生のキャリアをどのように設計するかについても、きめ細かいサポートが必要である。

学生支援室としては、今回の調査結果が徳島大学における今後の学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ と が き

序章にあるように、この調査の目的は「本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善および修学支援に資する基礎資料を得ること」です。第1回から21回までは抽出した3割の学生を対象としていましたが、平成16年の第22回以降は学部生全員を対象とする調査となりました。今回調査の回収率は64.0%であり、本学学部生の過半数を超える学生の皆さんにご協力いただき、詳細なデータを得ることができました。

今回の調査では、設問を一つ加えることにより、「進路・就職」に関する新たな指標を得ることができました。また、総合科学部（新）、理工学部、生物資源産業学部という、平成28年4月スタートの新学部を含む調査となりました。在籍学生の学年が異なる等のことから、単純には比較・検討できませんが、今後の指導や支援に活かすことができる詳細な傾向を把握できると考えております。本報告書を手にとっていただいている方々におかれましては、是非ご活用いただくとともに、本報告書を徳島大学に関わる全ての方にお勧めいただきたく思います。

大学全入時代を迎えた現在、学生の多様化が見て取れます。その多様な個性を尊重し、社会に貢献できる人材を育成していく上では、学生と教職員間の密なコミュニケーションが不可欠です。本報告書に記載されているデータを読むことによって、本学学部生の実状を知り、今後の学生支援に役立てていただくことを心より願っております。

最後に、本調査の実施にあたり、貴重なデータを提供していただきました本学学生の皆さんにお礼を申し上げたいと思います。また、徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員および協力者の方々におかれましては、厳しいスケジュールの中、本報告書を作成していただき、感謝申し上げます。そして、本報告書の作成を支えていただきました学生支援課の事務職員の皆さまにお礼申し上げます。

本報告書が徳島大学学生のために更に活用され、充実した学生生活を送るための一助となれば幸いです。

平成30年3月

徳島大学総合教育センター
学生支援部門学生生活支援室長

上 岡 義 典



平成 30 年 3 月

徳島大学



徳島大学は、学校教育法第 109 条第 2 項の
規定による「大学機関別認証評価」を受け、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

(平成 26 年 3 月 26 日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- ・認定期間：7 年間 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日)